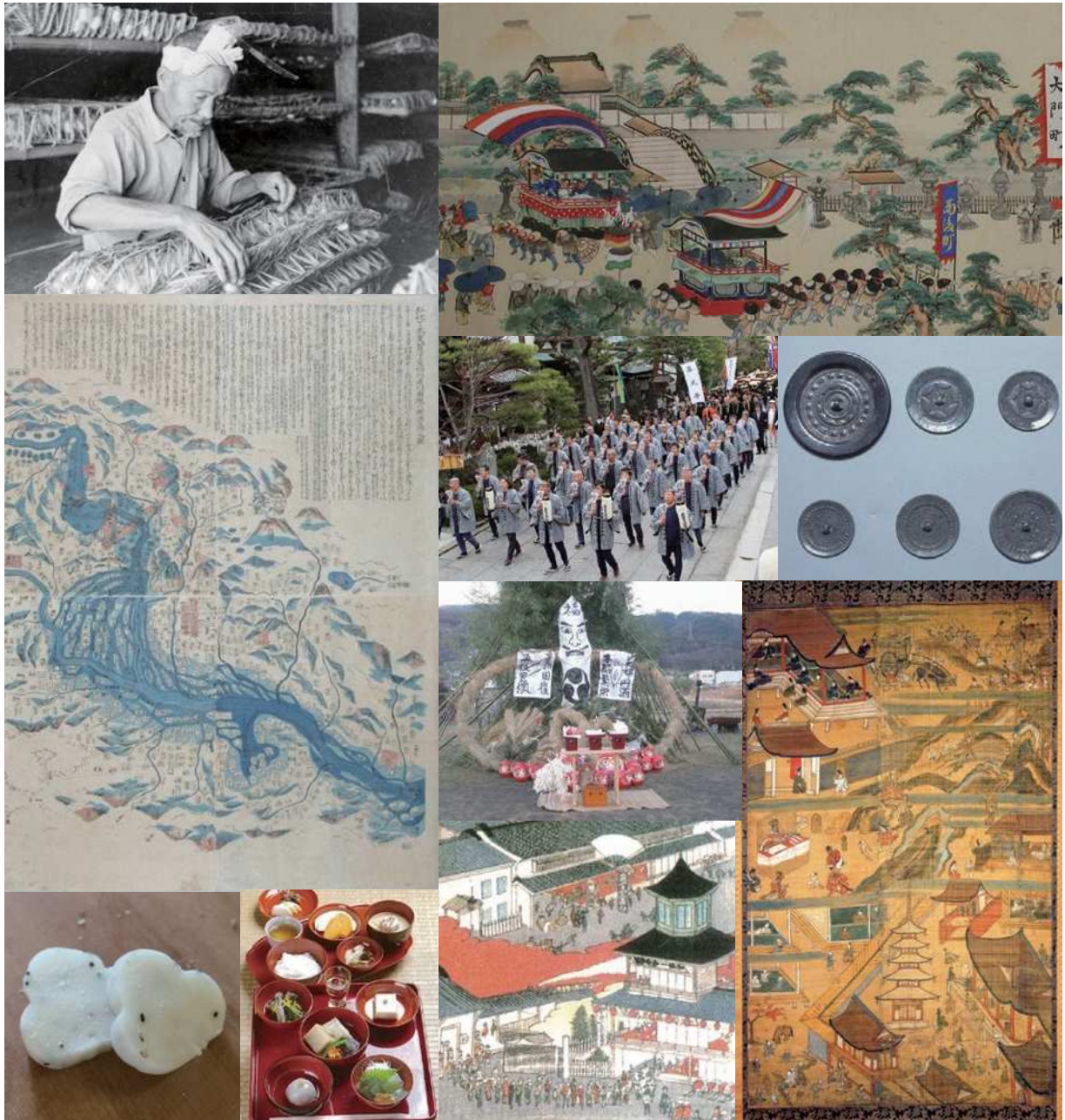


長野市文化財保存活用地域計画(案)



目 次 (案)

序 章	はじめに	
1	計画作成の背景と目的	1
2	目指す将来像	2
3	計画の位置づけ（関連計画）	3
4	計画期間	4
5	計画作成の体制・経過	4
6	計画の対象及び用語の定義	6
第1章	長野市の概要	
1	自然的・地理的環境	7
2	社会的状況	11
3	歴史的背景	17
第2章	長野市の文化財	
1	文化財に関するこれまでの調査	29
2	地域計画の作成に伴う調査	31
3	長野市の文化財の概要	37
第3章	長野市の歴史文化の特性	
1	歴史文化の特性の整理の経緯	60
2	長野市の歴史文化の特性	62
第4章	文化財の保存・活用の方針と措置	
1	文化財調査における現状と課題	67
2	文化財の保存における現状と課題	71
3	文化財の活用における現状と課題	72
4	文化財の継承における現状と課題	73
5	目指すべき姿を実現するための方針	74
6	文化財の保存と活用に関わる措置	75
第5章	関連文化財群	
1	関連文化財群の考え方	89
2	長野市の関連文化財群	89
第6章	文化財の防災・防犯対策	
1	これまでの主な災害	151
2	防災・防犯対策	154
第7章	文化財の保存活用に向けた推進体制	
1	進捗管理と評価の方法	158
2	推進体制	158
附 章	指定等文化財の一覧	161
	課題・方針・措置対照表	折込

序章 はじめに

1 計画作成の背景と目的

長野市は、山梨県・埼玉県・長野県にまたがる甲武信ヶ岳から発し日本海へと流れる日本一長い千曲川と、北アルプスの檜ヶ岳を源とする犀川が合流する長野盆地に位置する。この二大河川によって肥沃な土壌が運ばれる平地と、それを取り囲む山々からなる本市は、多様な自然環境に応じた暮らしの中で、多様な文化をはぐくんできた。

「遠くとも一度は参れ善光寺」と言われ、全国から参詣者を集める善光寺とその門前町や、古来より山岳信仰の地として修行者、参詣者を集め、近年ではパワースポットとして注目される戸隠山と戸隠神社、戦国大名上杉謙信と武田信玄が戦いを繰り広げた川中島古戦場、川中島の戦いで武田方の拠点として築かれた海津城（松代城）から始まり、江戸時代真田十万石の城下町として栄えた松代は、それぞれ地域の文化財を活かした魅力ある地域づくりにより、国内外から多くの観光客を迎え、その数は年間1千万人にもものぼる。

しかしながら、少子高齢化や社会構造の変化による地域コミュニティの弱体化、地震や水害、火災などの災害、新型コロナウイルスの感染拡大など、文化財を取り巻く状況は厳しいものとなっている。市指定の無形の民俗文化財の中には、地域コミュニティの弱体化によって祭りの維持が困難となり、指定解除となったものさえある。さらに、未指定の文化財については、その価値が認識されないまま失われることも懸念される。また、文化財の喪失は地域のアイデンティティや誇りの喪失にもつながっていく。令和元(2019)年東日本台風による千曲川沿いの水害は記憶に新しい。

このように、文化財を取り巻く状況は厳しいが、その中であって地域の文化財を掘り起こし、地域の魅力作りに繋げようと活動している団体も市内各所に存在している。本計画は、このような団体と連携しながら、地域の文化財を積極的に見出し、その魅力を多くの市民と共有し、文化財を活かした賑わいのある地域づくりにつなげることで、文化財が後代へ継承されるよう保存活用の取り組みを進めることを目的として作成するものである。

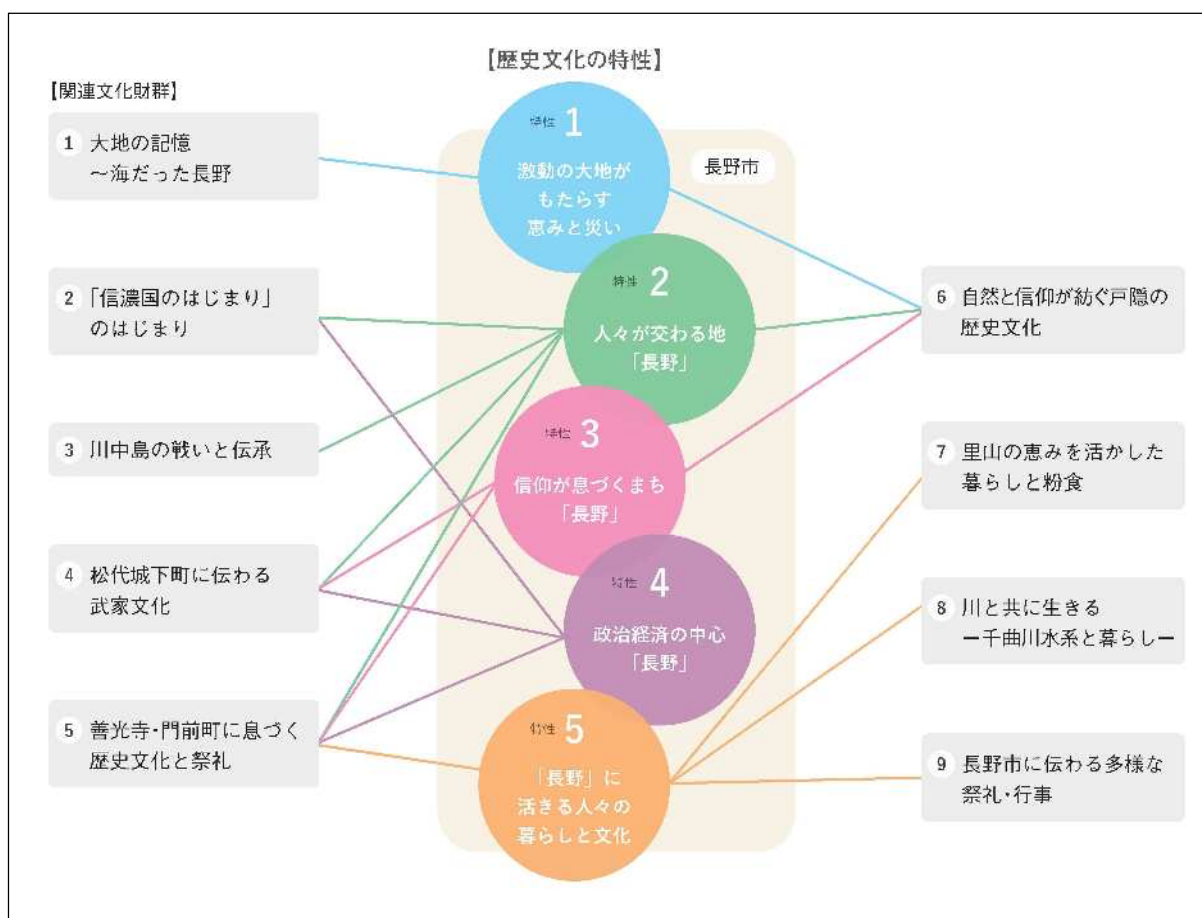
2 目指す将来像

「長野らしさ」を伝える文化財を活かした歴史文化都市

本市は、大地のダイナミックな活動により形成された長野盆地とそれを取り囲む多数の山岳の上に成り立ち、2,000m以上もある標高差の中で生み出される多様な自然環境の中に置かれている。また社会的には、善光寺の門前町をはじめ、松代、戸隠といった成り立ちや歴史、性格の異なる地域がつながりながら発展してきた。歴史的背景や性格が異なる地域性や、起伏にとんだ地形に合わせて営まれてきた生活の積み重ねは、多様な文化を生み出し、それが「長野らしさ」を形成している。

文化財は本市の多様な歴史と文化を表し、それを後世へ伝えるための大切なモノやコトである。本計画は市内に残るこのような文化財の価値と魅力を一人でも多くの市民と共有し、大切に使いながら将来に継承していく取組を行うことで、市民にも来訪者にも魅力のある「長野らしさ」を伝える文化財を活かした歴史文化都市を目指すものである。

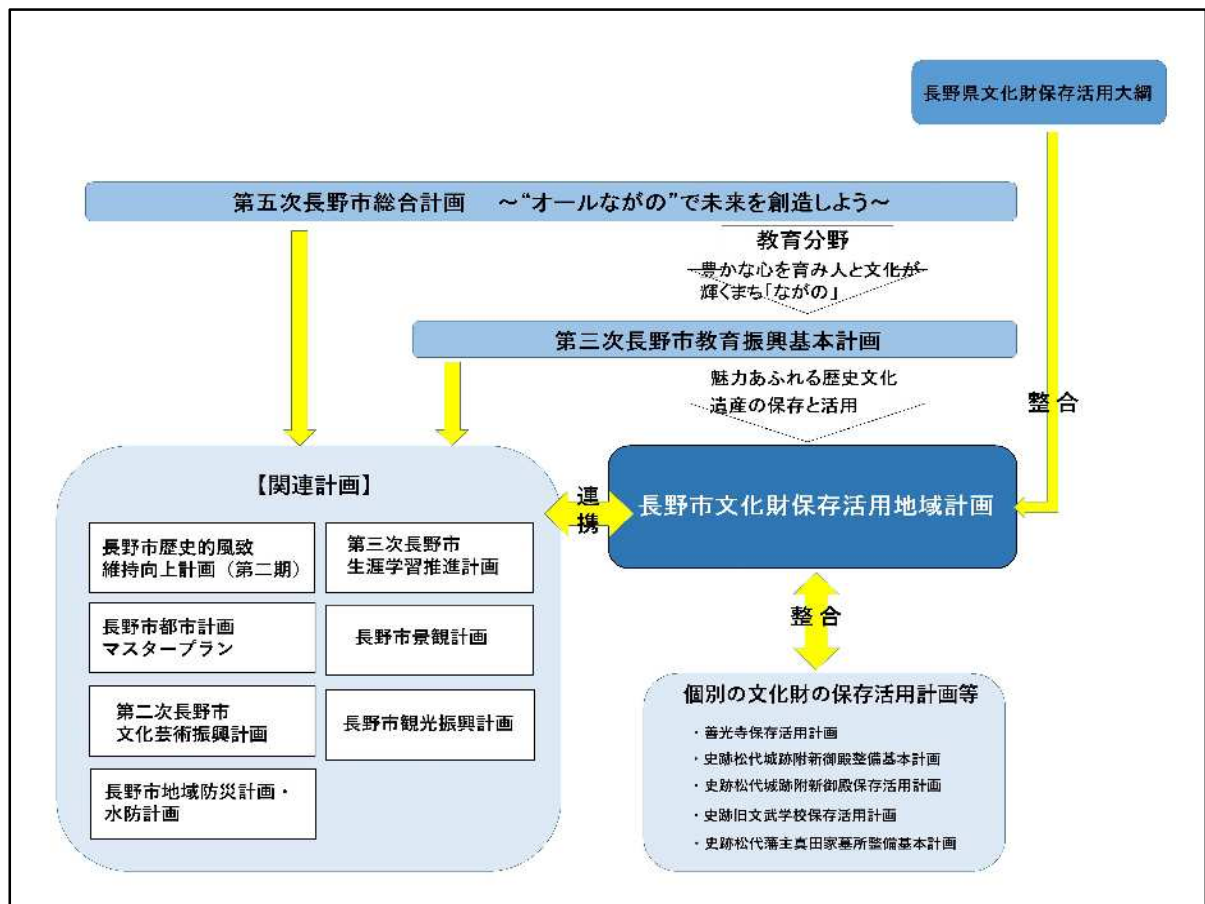
本計画で提示する「長野らしさ」のイメージ図(詳細は第3章、第5章に記載)



3 計画の位置づけ（関連計画）

本計画は、文化財保護法第 183 条の 3 に基づき「市町村の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画」として作成したものである。また、本市の上位計画である「第五次長野市総合計画」の教育分野の政策「魅力あふれる文化の創造と継承」および、「第五次長野市総合計画」の教育分野の計画である「第三次長野市教育振興基本計画」の基本施策「魅力あふれる歴史文化遺産の保存と活用」の中に位置づけ、文化芸術、生涯学習、まちづくり、景観、観光など、本市の諸計画と連携を図るものである。

また、「長野市歴史的風致維持向上計画」とは、文化財保護法第 183 条の 3 第 4 項に基づき調和を保つものである。



4 計画期間

本計画の計画期間は、令和6(2024)年度から令和13(2031)年度までの8年間とする。

計画期間は、本市の最上位計画となる「第五次長野市総合計画」(平成29年度ー令和8年度)の改定時期を見通し、次期総合計画との整合を図るため、令和6(2024)年度から令和13(2031)年度までの8年計画とし、次期総合計画策定の際には、総合計画の内容に応じて適宜見直しを図っていく。

なお、見直しにあたって以下に掲げる変更については、文化庁長官の変更の認定を受ける。

- ・ 計画期間の変更
- ・ 市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・ 地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

上記以外の軽微な変更については、変更内容について長野県及び文化庁へ情報提供する。

5 計画作成の体制・経過

本計画の作成にあたっては、長野市文化財保存活用地域計画協議会で調査、審議を行い、長野市地方文化財保護審議会から意見を聴取した。また、パブリックコメント等による市民からの意見を踏まえた。

図 計画作成の体制

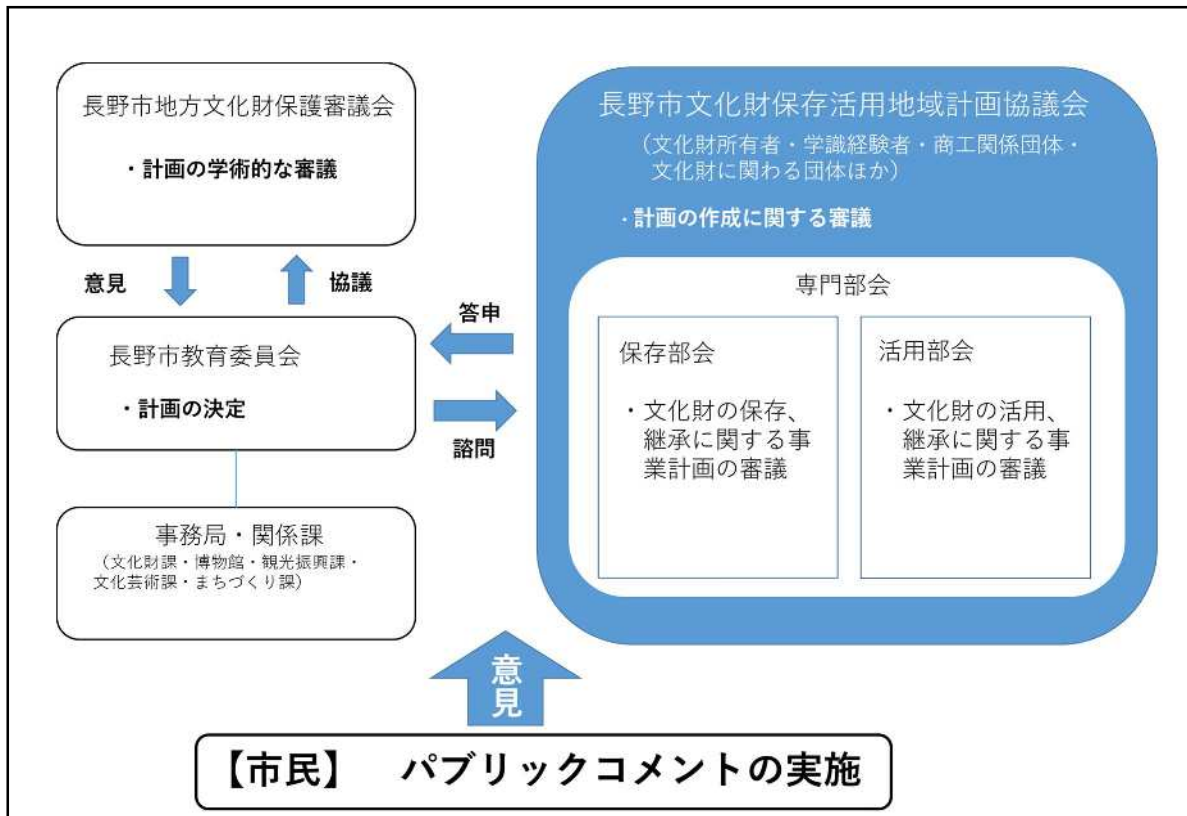


表 長野市文化財保存活用地域計画策定の経過

長野市文化財保存活用地域計画策定の経過と予定		
開催日	会議名称	概要
令和4年2月2日	第1回 文化財保存活用地域計画協議会	★諮問 ・計画の目的、計画の位置づけについて ・計画作成の体制、スケジュールについて ➡意見聴取、審議
令和4年3月	令和3年度第2回 地方文化財保護審議会	・計画の全体概要について ➡新型コロナウイルス感染防止のため、書面による意見聴取
令和4年6月9日	第1回保存部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)	・歴史文化の特徴・関連文化財群について ・保存・活用に向けた課題、方針と現状の行政側の取り組みについて ➡概要説明、意見聴取
令和4年6月14日	第1回活用部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)	
令和4年7月26日	第2回保存・活用合同部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)	・歴史文化の特徴・関連文化財群について ➡ワークショップ形式で意見聴取
令和4年8月19日	令和4年度第1回 地方文化財保護審議会	・歴史文化の特徴・関連文化財群について ➡意見聴取、審議
令和4年8月31日	第2回 文化財保存活用地域計画協議会	・歴史文化の特徴について ・保存・活用の課題整理とそれに対応した4つの基本方針について ➡意見聴取、審議
令和4年11月1日	第3回保存部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)	・保存・活用に関わる措置、取り組みについて ➡ワークショップ形式で意見聴取)
令和4年11月7日	第3回活用部会(長野市文化財保存活用地域計画協議会部会)	
令和5年2月2日	第3回 文化財保存活用地域計画協議会	・保存・活用に関わる措置、取り組みについて ・関連文化財群について ・計画素案について(序章・第1章・第2章・第3章) ➡意見聴取、審議
令和5年2月7日	令和4年度第2回 地方文化財保護審議会	・保存・活用に関わる措置、取り組みについて ・関連文化財群について ・計画素案について(序章・第1章・第2章・第3章) ➡意見聴取、審議
令和5年6月5日	第4回 文化財保存活用地域計画協議会	・進捗管理と評価の方法、推進体制について ・計画素案について(第4章・第5章・第6章) ➡意見聴取、審議
令和5年9月19日	令和5年度第1回 地方文化財保護審議会	・進捗管理と評価の方法、推進体制について ・計画素案について(第4章・第5章・第6章) ➡意見聴取、審議

令和5年10月2日	第5回 文化財保存活用地域計画協議会	・計画素案の決定 →中間答申
令和5年10月～11月	文化財活用イベント&シンポジウム開催	
令和5年12月	パブリックコメント実施	
令和6年2月	令和5年度第2回 地方文化財保護審議会	・パブリックコメントを反映した計画案について →意見聴取、審議
令和6年2月	第6回 文化財保存活用地域計画協議会	・パブリックコメントを反映した計画案について →意見聴取、審議 ★ 計画案の決定、答申

6 計画の対象及び用語の定義

本計画では、指定・未指定に関わらず、市内に所在する次世代に継承すべき全ての文化財を対象とする。本計画で用いる用語のうち、「文化財」と「文化財の周辺環境」については、以下のように定義した上で使用する。

文化財

本計画でいう「文化財」とは、文化財保護法第2条に規定されるもので、有形文化財（建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料）・無形文化財（演劇、音楽、工芸技術等）・民俗文化財（衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、家屋、その他の物件）・記念物（貝塚・古墳、都城跡、城跡、旧宅、庭園、^{きょうりょう}橋梁、溪谷、海浜、山岳その他の名勝地並びに動物、植物、地質鉱物）・文化的景観・伝統的建造物群を指す。また、文化財保護法で保護の対象とされている埋蔵文化財・保存技術も「文化財」に含めている。

「文化財」の中には、国、県、市が指定、選択、選定、登録することにより行政による保護措置が講じられている指定等文化財と、地域の特徴をあらわしているものであっても行政による保護措置が講じられてこなかった未指定文化財があるが、本計画での「文化財」は、指定・未指定全てを包括したものである。

文化財の周辺環境

本計画でいう「文化財の周辺環境」とは、対象の文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等、対象となる文化財を取り巻き、相互に影響を与える事柄を指す。

・第1章 長野市の概要

1 自然的・地理的環境

(1)位置

長野市は、日本のほぼ中央にある長野県の北部に位置する。東西 36.5km、南北 41.7km、面積は 834.85 km²。標高の最高地点は、新潟県境に位置する高妻山^{たかつまやま}の 2352.8m、最低地点は市の北東部に位置する千曲川下流端^{ちくまがわ}の 327.4m で、標高差は 2025.4m である。

(2)地勢

長野市は、中央の長野盆地とその東西にある山地からなる。北西部は標高 2,000m を超える急峻な戸隠連峰^{きゅうしゆん とがくしれんぽう}、標高 1,200m 以下の地すべりの多い比較的なだらかな山地があり、その山地を刻む裾花川^{すそはながわ}や土尻川^{どじりがわ}が東へ流れ、犀川^{さいがわ}に合流する。犀川は、市の西側からほぼ東に向かって山地の中を蛇行しながら流れ、盆地内に流入後は大規模な扇状地を形成し、やがて千曲川に合流する。千曲川は市内を南西から北東方向に流れる。三つの川が集合する盆地は善光寺平^{ぜんこうじだいら}と呼ばれ、河川が運んだ土砂が平地をつくる。

(3)地質

長野市は、地形的に中央の長野盆地とその東西にある西部山地と東部山地に大別される。

この一帯は北部フォッサマグナ地域に含まれ、その海だった場所に堆積した新第三紀層が山地を構成している。西部山地の北には第四紀火山である飯縄山^{いづなやま}が位置し、その山体や山麓は火山噴出物で構成される。長野盆地の周辺にある皆神山^{みなかみやま}や髻山^{もどりやま}なども第四紀に噴火した小規模火山である。中央部にある長野盆地は、第四紀の中ごろから長野盆地西縁断層の活動が活発化して落ち込んだ部分で、そこに千曲川や犀川・裾花川等が運んだ河川性ないしは湖沼性の堆積物が、深いところでは 1,000m 以上も堆積している。

東部山地は、西部山地より古い約 2,000 万年前から 1,000 万年前の地層から構成されている。海底火山の噴出物や深い海に堆積した泥岩層などからなる。約 1,000 万年前に、地下からマグマが入り込み、硬い岩石(石英閃緑岩類^{せきえいせんりよくがんるい})ができた。それらは、現在の温泉の熱源ともなっている。東部山地の硬い地層や岩石は、大室古墳群^{おおむろこふんぐん}の石室や



長野市の位置図

まつしろじょうの石垣に使われ、まつしろだいほんえいの立地条件ともなった。この山地の北部には、あづまやさんからしがこうげんにかけての第四紀火山が噴出した。

西部山地は、約 1,000 万年前から 200 万年前にかけて海底に堆積した泥・砂・礫などの地層や海底火山の噴出物である溶岩や凝灰角礫岩類が分布する。西部山地は、現在も隆起を続ける地域で、硬い地層である溶岩や凝灰角礫岩類でできた戸隠連峰や虫倉山系、富士ノ塔山から三登山にかけては、険しい山地をつくる。これらの海成層からは、日本の石油産業の発祥の地ともなった浅川産の石油や、海生の貝類をはじめ各種の化石を産出する。また、雪の多い戸隠連峰から流下する裾花川は水量も多く、この地域が隆起を続けていることもあって浸食が進み、地層が連続して露出している。地層の積み重なりや化石の産出状況、各種の堆積構造、風化・浸食でできた地形を学ぶことができる。

長野盆地の西縁部には活断層帯があり、西部山地の隆起と長野盆地の沈降をもたらしている。この活断層は善光寺地震の震源ともなった。長野盆地西縁部の丘陵には、断層の動きで長野盆地が湖となったことを示す豊野層も分布する。断層の動きによって隆起した台地に河川が流入し、浸食作用により形成された段丘崖は、その後犀川や裾花川が運ぶ土砂によって高低差が埋まり、扇状地となった。この扇状地の扇央部に善光寺が立地し、その南側には門前町が栄え、中心市街地に発展した。長野盆地の沈降は今も続いており、河川が流れ込み氾濫原を形成している。この河川の運んだ土砂の自然堤防の部分が「島」と呼ばれる微高地になっており、集落が形成された。

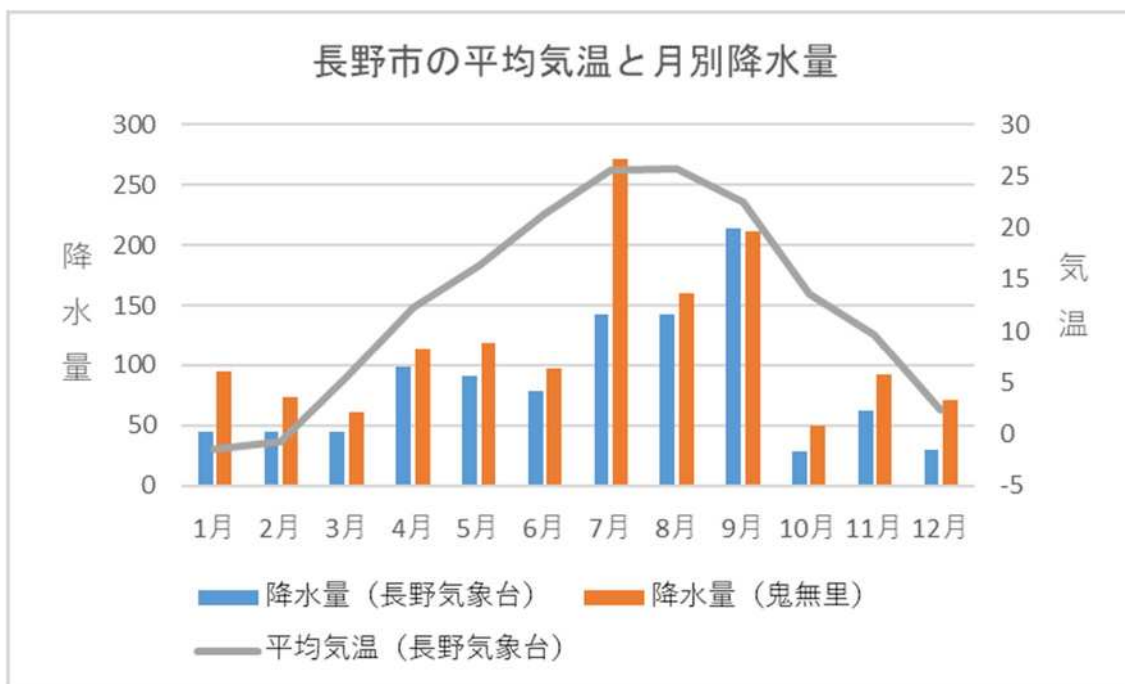


長野市地形図

(4) 気候

本市は周囲を山地に囲まれる盆地地形であると同時に西部山地を構成する戸隠連峰や飯縄山などが日本海からの北西の季節風を遮るため、内陸性気候の特徴が顕著にみられる。気温は年間の寒暖差が大きく、夏期の最高気温は8月で31℃まで上がり、冬期の最低気温は1月で-4℃以下まで下がる。日較差も年間を通して大きく、特に4月是一日の寒暖の差が12℃を超える。雨は夏季に多いものの、年間を通して降水量が少ないのが特徴で、2022年を例にとると長野地方気象台での年間降水量は1,023mmで、日本の平均降水量(1,661mm：1991年から2020年の平年値)をかなり下回る。

一方で市の北西部、戸隠・鬼無里地区の新潟県境付近では降雪が多く、日本海側気候を示す。高妻山をはじめとする高山が連なり、夏季の6月から9月も降水量が多く、鬼無里地区では年間降水量は1,415mm(2022年)に達する。



(5) 自然地理

長野市は、市域が広大であるために、地域ごとに異なる自然がみられ、全体として高い多様性をもつ自然となっている。地形的には「山地」、「中山間地・扇状地」、「平地・河原(盆地平坦部)」に分けられる。市内の自然の特徴は以下のようなになる。

山地：飯縄山をはじめとし、西岳から戸隠山、高妻山、乙妻山^{おとつまやま}に至る戸隠連峰、さらに堂津岳^{どうつだけ}から中西山^{なかにしやま}に至るまでの北安曇郡^{きたあづみぐん}との境となる山々とそれらに囲まれた裾花川源流域。これらの山々には、飯縄山や高妻山への登山者のほかは、ほとんど人が入らない。市内でもっとも標高が高く、降雪も多い地域で急峻な地形をなす。多雪地域に適応したトガクシソウなど「トガクシ」が種名につく植物がみられ、多くの新種が確認されてきた。

しかし、急峻な地形のため十分な調査が行われてきたとは言えず、今後も新たな発見の可能性がある。広大な自然が残る地域で、貴重な自然遺産と考えられ、妙高戸隠連山国立公園にも指定されている。

中山間地から扇状地：市域において最も広い面積を占め、長い年月にわたって人手が加わって成立してきた地域となっている。人間の活動が、適度な攪乱かくらんとなって多様性の高い自然を形成してきた。コナラやカスミザクラなどを主とした落葉広葉樹林やアカマツ林など人手の加わった二次林が分布し、そこに水田や畑地、草地、集落などがモザイク状に入り組んでいる。さらに、地質・地形的な特徴や河川が分布境界となって、市内の各地域で動植物の違いがみられる。里山地域は、地すべり地で生じる湧水や緩斜面を利用し、棚田がつくられてきた。また、降水量が少ないこともあって各地でため池が築造されてきた。

平地・河原(盆地平坦部)：千曲川は、長野盆地に入ると河川勾配が緩やかとなり蛇行する。瀬・淵・ワンド・たまりなど多様な環境があり、そこに特有な動植物が生息する。犀川は西部山地から長野盆地に入ると大きな扇状地を形成し、砂礫がつくる河原となっている。安茂里地区におけるコムラサキの集団ねぐらやコアジサシなどの礫河原に営巣する鳥類にとって、重要な生息地域となっている。また、水辺環境として、かつての千曲川が蛇行していた跡(河跡湖)の松代地区の金井池かないけ、冬季にカモ類などが渡ってくる吉田地区の辰巳池たつみけなどのため池、さらに長野市街地を東流する、ホタルの生息する八幡川などの水辺環境があり、いずれも市街地のオアシスとして貴重な存在になっている。

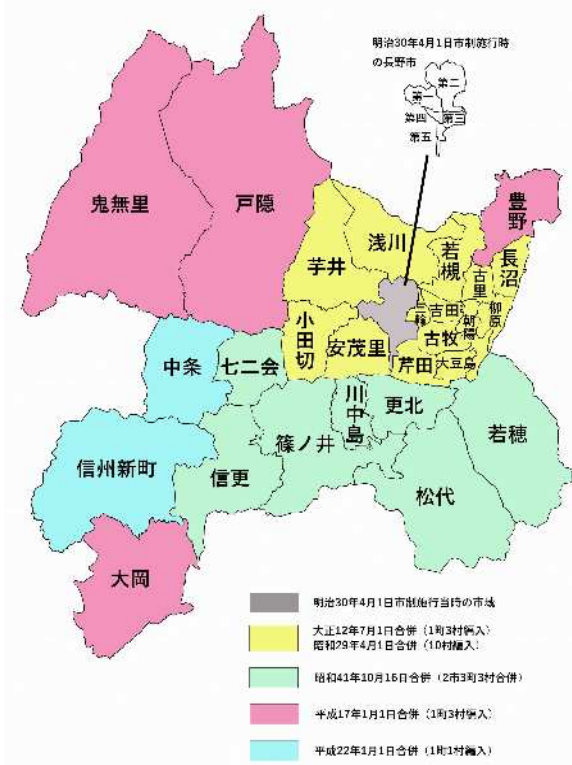
2 社会的状況

(1) 町村合併の歴史

明治7(1874)年、善光寺と門前町の範囲に限られていた長野村は市街化に伴い、長野町と改称する。翌年北隣の箱清水村と合併しその範囲を広げた。明治22(1889)年に町村制が施行されると、長野町は近隣の南長野町、西長野町、鶴賀町、茂菅村と合併し、新しい長野町となった。この時に合併した5町村の範囲がほぼ現在の第一地区から第五地区にあたる。(第一地区は西長野町・茂菅村・長野町の一部、第二地区は長野町・箱清水村・三輪村の一部、第三地区は長野町の一部・鶴賀町・三輪村の一部、第四地区は南長野町、第五地区は南長野町の一部と芹田村の一部に相当する。)その後、明治30(1897)年には市制を施行し長野市が成立した。

長野市はその後、大正12(1923)年に近隣の三輪村、芹田村、吉田町、古牧村の1町3村を合併編入、昭和29(1954)年には古里村、長沼村、柳原村、朝陽村、大豆島村、安茂里村、小田切村、芋井村、浅川村、若槻村の周辺10村を編入合併し市域を大きく広げた。さらに昭和41(1966)年に長野市と篠ノ井市、松代町、川中島町、若穂町、更北村、信更村、七二会村の2市3町3村が合併し、新長野市が誕生した。

平成に入り国が打ち出した「平成の市町村合併」により、平成17(2005)年に豊野町、戸隠村、鬼無里村、大岡村の1町3村が、平成22(2010)年に信州新町と中条村が長野市に編入合併し、現在の長野市となった。市域の行政区は合併の際の市町村が単位となっており、現在32地区となっている。



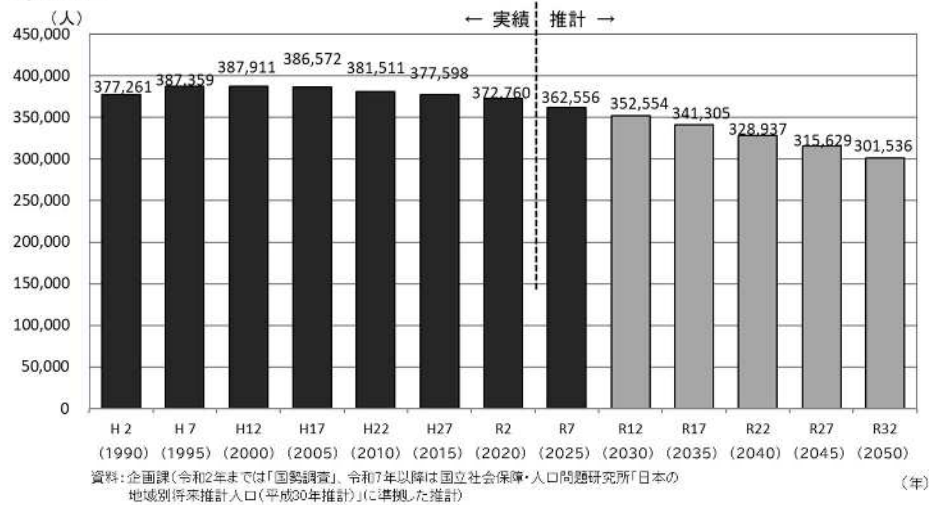
行政区域の広がり

(2) 人口動態

ア 人口

長野市の人口のピークは、平成 12(2000)年の 387,911 人で、それ以降は減少に転じている。今後も人口が徐々に減少していくとともに、平成 17(2005)年、平成 22(2010)年に合併した市町村を含めた周辺地域の人口減少と、その受け皿となる長野市街地への人口流入が続いていくと予想される。また県外（特に東京方面）への人口移動が傾向として見られる。

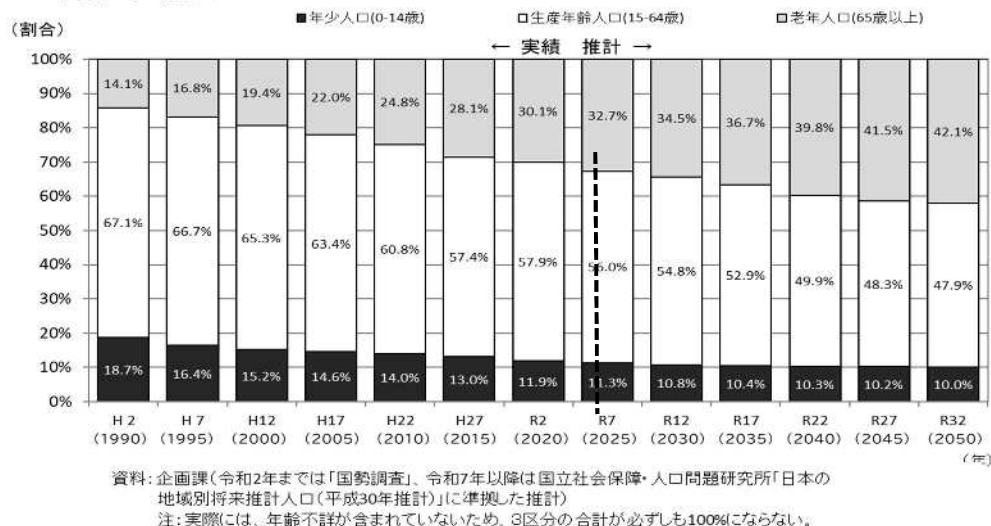
■ 総人口



イ 年齢区分別人口

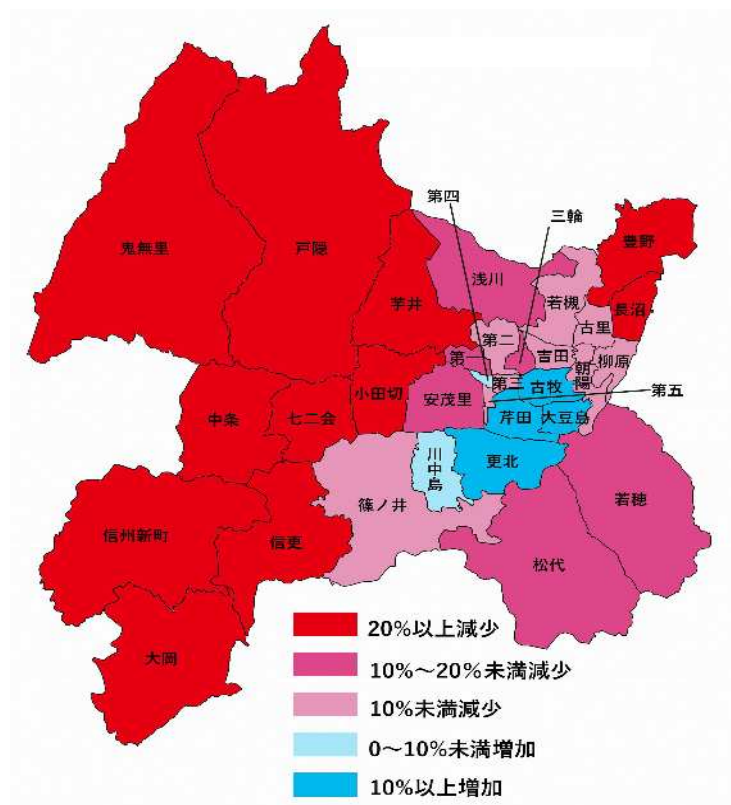
年齢構成をみると、年少人口、生産年齢人口の割合が減少する一方、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行している。平成 22(2010)年の老年人口の割合は 24.8%であったが、令和 2(2020)年には 30.1%となり、10 年間で 5.3%増加している。今後もこの傾向は続くと予想される。

■ 年齢3区別人口



ウ 地区別人口

地区別人口では令和5(2023)年4月時点で、篠ノ井の人口が最も多く、以下更北、長野(第一から第五地区)、川中島、芹田、古牧と続き、市域の平坦部に人口が集中している。逆に人口が少ないのは大岡、小田切、鬼無里、中条、芋井、信更といった盆地周辺の中山間地域となっている。町村合併で現在の長野市となった平成22(2010)年から令和5(2023)年までの地区別人口の増減率は、長野も含めてほとんどが減少しているが、特に中山間地域にその傾向が強くみられる。



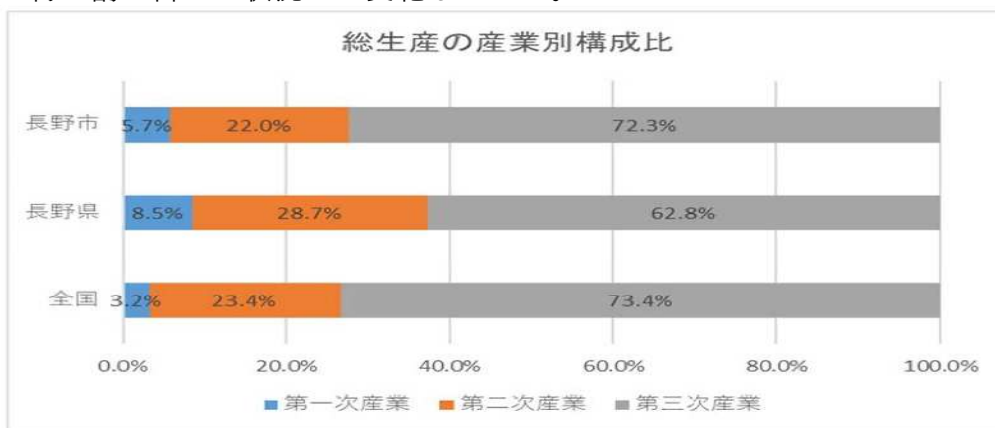
2010年～2023年の人口動態

(3) 産業

ア 産業別の状況

第一次産業の農業に従事する戸数は減少傾向にあるが、そのなかでりんご・もも・ぶどうといった果樹は盛んに生産されている。りんごは全国2位の作付面積を有する長野県のなかで第1位の作付面積を誇る。ももについても全国3位の作付面積を有する長野県のなかで、県内1位の作付面積を誇り、川中島地区の川中島白桃など、地名を付したブランド品として出荷されている。第二次産業としては、出版・印刷業の企業数が多いのが特徴である。これは明治に県都となって以来、官公庁関係の印刷物の需要や、県民の教育への関心から来る

教育関連の印刷物への需要の高まりとともに発展してきたものである。しかし近年ではデジタル化の波で紙離れが進んでいるため状況は厳しくなっている。そのほか食料品、金属製品製造業、電子デバイス・情報通信機器関連などを中心に発展を続けてきたが、国際的な競争力が求められるにつれ、第三次産業が約7割を占める状況へと変化している。



資料：令和2年度国勢調査

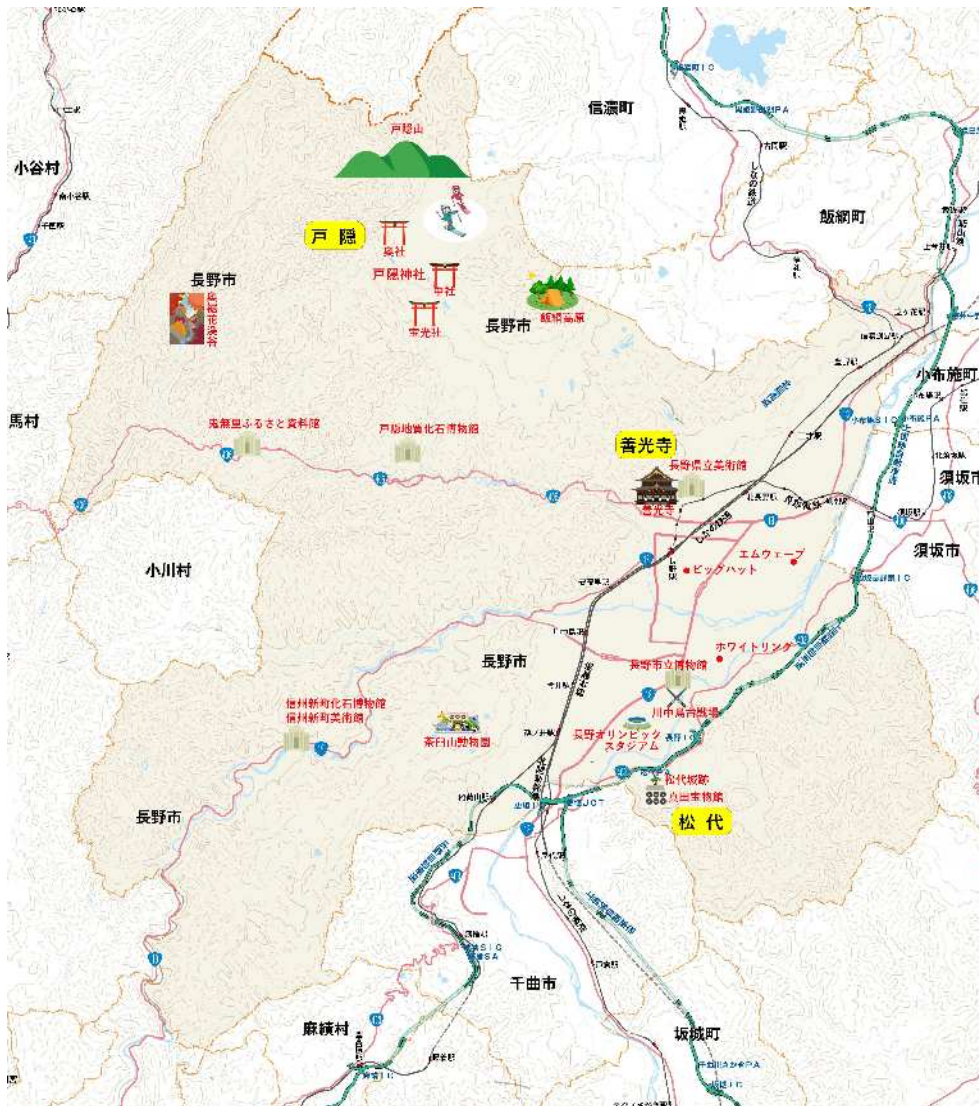
イ 観光

善光寺とその門前町は、古くから信仰の中心として全国の人々に親しまれ、周辺に広がる宿坊・仲見世などが観光の中心としてにぎわいをみせている。とりわけ、数え年で7年に一度開催される善光寺御開帳ぜんこうじごかいちょうの年は、例年に比べて飛躍的に観光客が増加する。真田十方石まんだじゅうまんごくの城下町である松代は、当時の面影を残した歴史的建造物が数多く見られる。これらの地域の観光資源を、住民自らが守り育てようと、「エコール・ド・まつしろ」などの取り組みが始まり、現在も、様々な団体がそれぞれの活動の中で、訪れる観光客をもてなしている。戸隠・鬼無里の西部山地地域は、豊かな自然環境の中に、古くから伝わる様々な歴史・文化・芸能があり、秘められた観光資源が残されている。

令和2(2020)年からは、新型コロナウイルス感染症感染拡大状況により、海外からの渡航や国内の往来に制限が度々かかることがあり、長野県及び長野市の観光地利用者数が落ち込んだが、感染が落ち着きを見せた令和4年以降利用者数は回復傾向にある。



出典：長野県「観光地利用者統計調査」第1章-8



市域の主な観光地

ウ 土地利用

人口減少など社会情勢の変化による中心市街地の空洞化の進行、低・未利用地や空き家の増加などから都市的土地利用（住宅地、工業用地、店舗等）の需要が減少している。

農業の担い手不足による荒廃農地の増加や、木材価格の低迷等に伴う適切施策がされない森林の増加などから、農林業的土地利用の需要も減少している。

エ 交通

長野市は明治4（1871）年以來、長野県の県庁所在地として発展を遂げ、官庁、金融機関、事業所などの都市機能の集積に伴い、活発な人的交流と情報が集中する中核都市として発展してきた。

善光寺門前に位置する長野市の中心市街地を中心に、道路と鉄道が整備されている。道路は長野市から名古屋市へ伸びている国道 19 号と、群馬県高崎市と新潟県上越市を結ぶ国道 18 号が交わる交通の結節点となっている。市内南部松代には、東西に上信越自動車道が走っており、長野 IC と市街地は国道 18 号と主要県道によって接続されている。

鉄道は平成 9 (1997) 年 10 月に J R 東京駅から J R 長野駅間において長野新幹線が開通し、首都圏から訪れる観光客の利便性が向上した。さらに平成 27 (2015) 年に金沢駅まで延伸したことで北陸方面からの観光客の利便性が向上した。また長野新幹線の名称は、金沢延伸により北陸新幹線に改められた。令和 6 (2024) 年 3 月には福井県の敦賀駅まで延伸したことで今後さらなる観光客の入り込みが想定される。在来線としては飯山市につながる J R 飯山線、松本市につながる J R 篠ノ井線、軽井沢町につながるしなの鉄道しなの鉄道線、上越市につながるしなの鉄道北しなの線があり、長野市と山ノ内町を結ぶ長野電鉄長野線がある。

市内のバスは長野電鉄が経営する長電バスと、アルピコ交通が経営するバス（通称川中島バス）が運行している。長電バスは長野駅から浅川や若穂に向かう路線や、長野市に接する須坂市、千曲市、飯綱町へ延びる路線など主に市域の東側に路線を持つ。このうち市域の松代を経由し須坂駅と千曲市の屋代駅を結ぶ路線は、平成 24 (2012) 年に廃線となった長野電鉄屋代線の代替路線である。アルピコ交通バスは、長野駅を起点として戸隠や鬼無里、松代にそれぞれ向かう路線があり、それらを含め、主に市域の西側に路線を持っている。



長野市の主要交通網

3 歴史的背景

(1) 旧石器時代～弥生時代

ア 長野盆地の黎明

長野市域の東部山地・西部山地に10か所の後期旧石器時代の遺跡が知られており、飯綱高原の^{あげやいせき}上ヶ屋遺跡では関東・中部地域、東北・北陸地域、近畿・瀬戸内地域それぞれの技術系譜をひく石器が出土しており、地域交流の様子がうかがえる。

縄文時代に入ると、後氷期の気候変動で豊かな落葉広葉樹林の森ができ、食糧になる堅果類が豊富になった。シカ・イノシシなどの中・小型動物が繁殖し、千曲川とその支流は、海から回帰するシロザケ・サクラマスや淡水魚の宝庫となり、重要な食糧源となった。市域南部の若穂地区保科の^{みやぎいせき}宮崎遺跡からはシカの角製の^{もり}銛やサメの椎骨を利用した耳飾りが出土する。

この頃の平地は河川の流路が頻繁に変わる氾濫原であり常住が難しい場所であったが、千曲川河岸の地下4mからは縄文時代前期の集落が発見されており、縄文人が長野盆地を囲む山地から盆地の中州や自然堤防、扇状地に進出したことが確認できる。

イ 赤い土器のクニ

平地での水田耕作は弥生時代中期後半に本格化し、千曲川の自然堤防上に集落を構え、後背湿地に水田を作る現在につながる原風景が成立した。稲作農耕は社会の仕組みそのものを大きく変えた。ムラ同士の抗争も生まれた。市域東南部の松代地区にある^{まつばらいせき}松原遺跡にみられる^{かんごうしゅうらく}環濠集落は、弥生時代に集団間での抗争があったことを示している。



箱清水式土器（国鉄貨物基地遺跡）

弥生後期の長野市域を特色づける土器に「箱清水式土器」と呼ばれる赤い土器がある。これは、壺・鉢・^{たかつきがたどき}高坏型土器の表面をベンガラで赤く塗った土器で、千曲川・犀川流域に広く分布している。これらの地域では土器だけでなく鉄や銅で作られた^{くしろ}釧（ブレスレッド）や管玉（ネックレス）といった装飾品を用い、単独埋葬といった共通する習俗を持つ文化圏を形成した。この文化圏は箱清水式土器の特徴から「赤い土器のクニ」と呼ばれる。

(2) 古墳時代～平安時代

ア 大型古墳と積石塚古墳

古墳時代の前期末頃には、畿内の大型前方後円墳と同じ造りの大型の前方後円墳が長野でも築造された。その代表的な例は、篠ノ井地区の川柳将軍塚古墳であり、この地域を治める「王」が存在し、大和政権とのつながりを示す緩やかな政治圏が形成されていたことを示唆している。古墳時代中期後半になると、大型前方後円墳をつくった地域王権から独立した中小豪族の古墳が千曲川流域の各地に継続的に複数造られ、古墳群を形成した。千曲川右岸の松代地区では積石塚と合掌型石室の存在を特徴とする総数 500 基余の大室古墳群がある。



川柳将軍塚古墳出土の装飾品



大室 168 号墳（合掌形石室）

イ シナノから信濃国へ

大化の改新(645年～650年)以降の律令制のもと、天武・持統朝に全国を60余の「国」に分ける政策によってシナノは科野国として成立し、中央から国司が派遣され国を治めた。科野国は律令制で定められた行政区五畿七道のうち東山道に区分され、越の蝦夷に備えるための前線に位置していた。東山道はまた、畿内から陸奥国に至る諸国の国府を結ぶ政治的、軍事的な道でもあり、市域にも北陸道へとつながる東山道の支道が設置された。

中央との関わりを示す出来事としては天武朝の頃、科野への遷都計画がたてられ、天武紀13(684)年に三野王が科野に派遣されたことや、持統朝では天候不順が長く続いた持統紀5(691)年に「須波神」(諏訪)と「水内の神」(長野)に勅使を派遣させた記録が残されている。

その後和銅6(713)年の好字令により諸国の国名が縁起の良い二文字に改められ、国名が「信濃」へと変更された。国の下には郡が置かれ、信濃には10の郡が置かれた。これらの郡を治める郡司には、律令制以前国造としてシナノ国を治めていた層が金刺舎人や他田舎人と名乗り、在地支配を担った。10の郡のうち北信濃には水内郡、埴科郡、更級郡、高井郡の4郡が置かれた。現在の長野市域はこれら4郡にまたがっている。

ウ 中世への胎動

8～9世紀は天候不順や自然災害など相続く災害により古代の水田が荒廃し、人々も逃散するなど、律令制下の既存の権力が揺らぐ時期であった。上信越自動車道の建設に伴う広域におよぶ発掘調査でも、現在の善光寺平の水田の下に過去の洪水で埋没した条里水田が見つかり、その痕跡が確認されている。

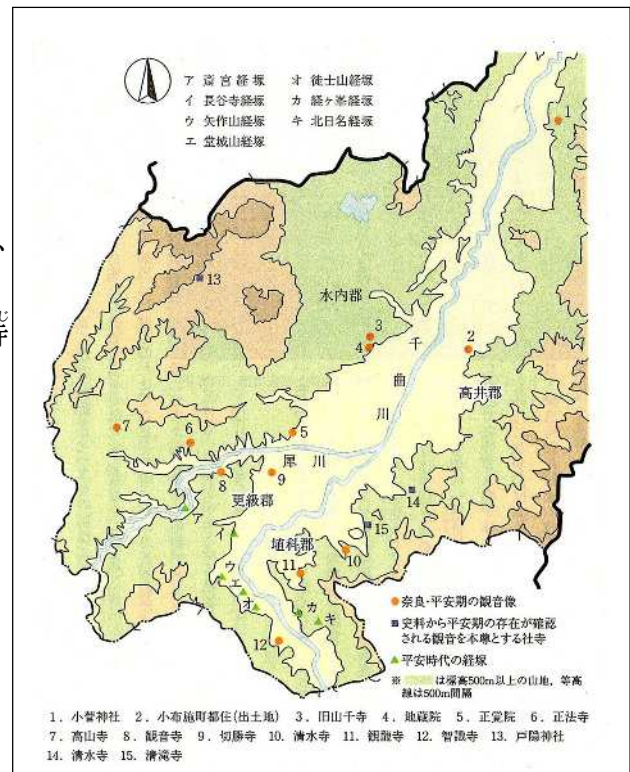


建設中のオリンピック開会式場と南宮遺跡

この時代、既存の権力が揺らぐ一方で富を蓄積させる新興の有力者が現れた。この頃長野盆地で進められた条里水田の再開発などは、台頭してきた富裕者層や郡司を国司の政庁（国衙）が組織して進めた事業であったと考えられている。篠ノ井東福寺・川中島御厨の南宮遺跡からは千軒を超える住居や、溝により区画された集落構造が見つかり、当時勢力を持ちつつあった有力者を中心とする集落であったと考えられる。

エ 古代の長野盆地の社寺

10世紀頃になると全国的に摂関家藤原氏へ開発した土地を寄進しその土地の支配権を認めてもらう寄進地系荘園が増加する。市域でも千田荘、英多荘、芋河荘、太田荘などが成立した。現在、芹田地区稲葉の観音寺地蔵院、安茂里の正覚院、千曲市の観龍寺、智識寺などには平安時代の観音像が残されている。これらは当時市域に存在していた荘園の開発に伴いその中心をなした人々によって勧進されたものと想定され、全国的な観音信仰の広がりのなかで長野盆地においてもその影響を受けたことがうかがえる。10世紀後半以降は末法思想の影響で豊野町の鷲寺や篠ノ井の長谷寺などで経塚が作られるなど、北信濃一帯に観音信仰や末法思想が広がっていった。



北信濃の古代観音像・経塚及び寺社分布図（『古
代中世人の祈り』長野市立博物館 1997より）

長野市の代表的な寺社である善光寺と戸隠神社(明治元年まで戸隠山顕光寺)の名が文献に現れるのは平安時代である。善光寺の名は10世紀に成立した『僧妙達蘇生注記』が初出とされる。戸隠山は平安初期には山岳信仰の霊地として注目され、文献では11世紀初め、歌人の能因法師がまとめた『能因歌枕』に信濃の歌枕の一つとして「とかくし」があげられており、この頃その存在が中央にも認知されていたことがわかる。

オ 武士の成立

平安時代末には荘園の荘官のなかで武力によって勢力を伸ばす者が現れた。市域においても更級郡村上御厨(坂城町)を拠点に、栗田郷(芹田地区)や千田荘に進出してきた村上氏や、高井郡井上郷(須坂市)を拠点に村山郷(柳原地区及び須坂市)に進出してきた井上氏、水内郡永池郷(古牧地区及び朝陽地区)や同郡和田郷(古牧地区)を中心に活動していた和田氏などがその代表であった。そうした時代にあって、藤原氏に代わり、武力によって中央での勢力を伸長したのが平氏である。平氏の繁栄は平清盛によって築かれたが、清盛の晩年になると、その繁栄にも綻びが出始めるようになる。後白河法皇の第二皇子でありながら不遇の身であった以仁王が、治承4(1180)年源氏方の武士に宛てて平家討伐の命令を出すと、それに呼応して挙兵する動きが各地で起きた。木曾にいた源義仲も同年9月、平家追討のために木曾で挙兵し、京を目指して北上した。義仲軍は市域にも進出し、市原合戦(善光寺合戦)で平氏方の笠原頼直を討ち、翌年の養和元(1181)年6月には、越後の城資職を篠ノ井横田の地で破った(横田河原の戦い)。横田河原の戦いでは地元の井上氏や村上氏も義仲軍に従軍した。

(3) 鎌倉時代～戦国時代

ア 善光寺門前町の成立と発展

善光寺は治承3(1179)年に焼失したが、源平合戦に勝利した源頼朝の命によって12年後の建久2(1191)年に再建された。鎌倉幕府の主導による善光寺再建はその後、有力御家人を檀那とした新善光寺の建立や善光寺仏の模造の流行を呼び、鎌倉時代後期には善光寺信仰は全国各地へ広がった。それに伴って善光寺への参詣路も整備された。浄土教の教えを弘めた僧一遍(1234-1289)の生涯を描いた『一遍聖絵』(鎌倉時代後半成立)には、三国伝来の如来信仰の聖地として当時の善光寺や門前の賑わいが余すところなく描かれている。この時代に善光寺に参詣したことが記録からわかる人物には源頼朝をはじめとして一遍、久我雅忠の娘二条、他阿真教などがおり、伝承としては親鸞の名も伝えられている。

イ 戦乱の時代

元弘3(1333)年鎌倉幕府が滅亡すると、市域はたびたび戦場となった。建武2(1335)年に北条高時の遺児、北条時行が諏訪氏を頼って挙兵すると、八幡河原、篠井河原、四宮河原で信濃国守護小笠原貞宗方と戦いこれを退けた。勢いに乗った時

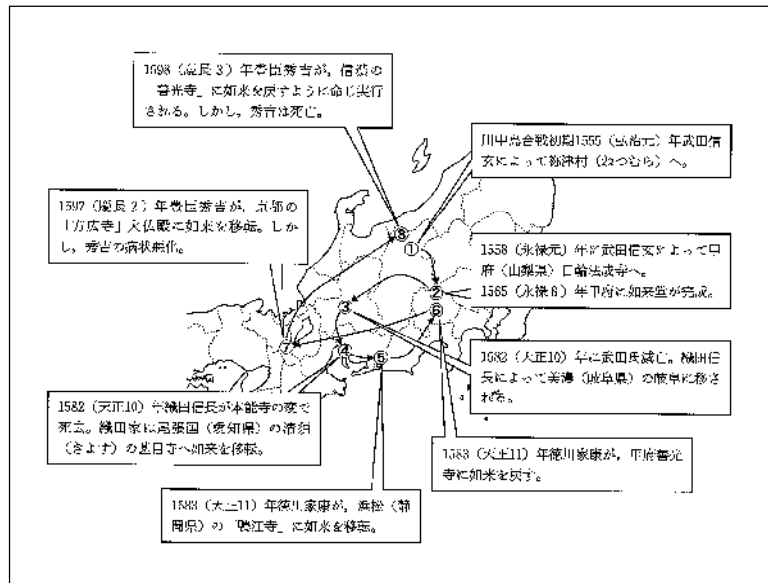


川中島甲越対陣図 (長野市立博物館蔵)

行軍は鎌倉まで進軍し、一時的に鎌倉を支配するが、その後足利尊氏軍により鎌倉を追われた(中先代の乱)。

室町時代には、応永6(1399)年幕府から信濃国守護に任じられ、翌年信濃国に入国した小笠原長秀の領国支配に反発した在地の国人領主らが、一揆を結び反抗し篠ノ井塩崎・二ツ柳周辺を戦場に長秀軍と戦い、これを敗退させた(大塔合戦)。

戦国時代になると北信濃は領地争奪の場となる。特に武田と上杉による川中島の合戦は北信濃一帯を戦場に、複数回にわたって戦いが繰り返された。この合戦により武田・上杉両軍によって善光寺の本尊や仏具が持ち去られ、本尊に従事する衆徒までも連れ去られたため門前町が衰退す



善光寺如来遷座の図

るなど、この地に大きな影響を与えた。善光寺如来は弘治元(1555)年に武田方によって善光寺から移され、以来慶長3(1598)年に豊臣秀吉の命により京都方広寺から善光寺に戻されるまでの43年間、そのときどきの権力者の意向によって流転を余儀なくされた。

なお、川中島の合戦の際、武田方の拠点として松代に造られた海津城は、江戸時代に入ると信濃国で最大の領国を治めた松代藩の中核として発展していく。

(4) 江戸時代

ア 交通運輸

江戸時代になると主要五街道（東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道）に次ぐ脇街道として北国街道が整備された。北国街道は追分宿（軽井沢町）で中山道から分岐し、矢代宿（千曲市）を過ぎて二つに分かれる。一つは、丹波島宿から善光寺宿、牟礼宿（飯綱町）に至るルート、もう一つは、松代城下町を通り、福島宿（須坂市）、長沼宿、牟礼宿に向かうルートであった。長沼宿と松代城を結ぶ後者は松代道とも呼ばれ、戦国時代から江戸時代初期における主要ルートであったが、次第に善光寺町を通るルートが主となり、松代道は犀川の洪水による舟留めの際の迂回路として利用されるようになった。北国街道の発展はそれに接続する大笹街道や三原道、峰街道といった道の発展も促した。また江戸時代後半には千曲川や犀川で舟運が開通し、陸上交通とともに物流の一翼を担った。

一方、江戸時代に「山中」と呼ばれ、麻や和紙の産地となった長野盆地の西部中山間地域では、これらの流通の拠点として早くも慶長12(1607)年に新町（信州新町）に九斎市の開設が、天和3(1683)年に鬼無里に六斎市の開設が許可され、それぞれ物資集散の要所として栄えた。新町は松本と善光寺を結ぶ主要地となり、犀川に架かる久米路橋は松本藩領へと続く主要な道として口留番所が置かれた。さらに幕末には松本～信州新町間に犀川通船が開設され、物流の大動脈となった。鬼無里は、戸隠、高府、安曇野に通ずる道の分岐点に位置していたため、人と物とが頻繁に行き交った。白馬から善光寺へ向かう道沿いに建つ鬼無里土倉の文珠堂には、往時の賑わいを伝えるものとして、幕末から明治にかけてこの道を行き来した人々の落書きが残されている。

イ 真田十万石の城下町松代

江戸時代、長野市域の大半は松代藩領で占められ、残る地に幕府領、善光寺や戸隠山といった寺社、飯山藩、須坂藩、上田藩、塩崎知行所などの所領地が入り混じる形で存在していた。

松代藩の政庁である松代城は、川中島の戦いの際、武田信玄が築いた海津城がそのはじまりとされる。その後、領主の移り変わりと共に、城将・城代などが入れ替わり、それに伴い城下町も整備され、北信濃支配の拠点として重要な役割を担うようになった。



松代城下絵図（長野市立博物館蔵）

元和8(1622)年^{げんな}真田^{さなだのぶゆき}信之が上田から松代へ移封され、松代藩真田家の初代藩主となると、既に形作られつつあった松代城下町に上田から真田家ゆかりの寺社を移して城下に組み込み、町を再編成した。以来、真田家は明治の廃藩まで10代、約250年にわたり、松代藩主をつとめた。真田家は代々学芸を好み、領民を感化した。そうした気風によって幕末から明治初期には、時代をリードした^{さくましようざん}佐久間象山や^{はせがわしやうどう}長谷川昭道ら多才な人物が松代から輩出された。

ウ 善光寺の再建と善光寺町の繁栄

川中島の合戦で、弘治元(1555)年に武田方によって善光寺如来が持ち去られると、善光寺の門前町も衰退した。善光寺に再び善光寺如来が戻されたのは、43年後の慶長3(1598)年である。その後、善光寺は江戸幕府より寺領千石の寄進を受け、次第に復興していくが、本堂が幾度か火災で焼失するなど災難が重なった。^{げんろく}元禄5(1692)年には本格的な本堂再建計画が始まり、資金を調達するため京・^{おおさか}大坂・^{えど}江戸の三都で出開帳を催し、工事に際しては本堂の類焼を避けるため再建地を北へ移し、現在地に新敷地を造成した。しかし元禄13(1700)年の火災により、建築中の本堂も集積した用材とともに^{かいじん}灰燼に帰した。これをうけて江戸幕府は再建を援助すべく、善光寺に全国を回る^{かいこくかいちやう}回国開帳を許可し、松代藩に造営奉行を命じた。5年に及ぶ回国開帳は成功し、^{ほうえい}宝永4(1707)年に現在の本堂が落成した。この回国開帳は善光寺の信仰を全国に広めることにもなった。

回国開帳を契機に参詣者が増大すると、信濃へ入る道は^{ぜんこうじどう}善光寺道と呼ばれ、路傍には善光寺を指し示す道標が建てられた。善光寺の各院坊では信者を宿泊させ世話をするとともに、全国各地に善光寺講が組織され、門前は全国から来る参詣客を迎えることで繁栄をみせた。



善光寺宿駅繁花茶店の図(善光寺道名所図)

全国を巡る回国開帳は元禄14(1701)年から宝永3(1703)年の第1回を契機として、^{えんきやう}延享4(1747)年～^{かんえん}寛延元(1748)年、^{あんえい}安永9(1780)年～^{てんめい}天明2(1782)年、^{かんせい}寛政6(1794)年～寛政10(1798)年の4回行われ、これらの出開帳で得られた資金を基に境内の整備が進められた。

エ 戸隠神社と戸隠信仰

嘉祥^{かしやう} 2 (849)年に^{がくもんぎやうじゆ}学門行者によって開山されたとされる^{けんこうじ}顕光寺（現在の戸隠神社）は、^{ほんいん}本院、^{ちゆういん}中院、^{ほうこういん}宝光院からなる天台宗寺院で、江戸時代以前から多くの修験僧が修行に訪れる山岳信仰の聖地として栄えた。江戸時代に入ると戸隠の地主神である^{くずりゅうごんげん}九頭龍権現が農業神として庶民の信仰を集めた。各院の衆徒は各地に講を組織し参詣者を迎え、善光寺と同様に宿泊と参拝の世話をした。また戸隠の衆徒が各地に出来た講に出向いて戸隠信仰を広めていった。明治時代に入ると^{しんぶつぶんりれい}神仏分離令によって顕光寺の僧は還俗して神職となり現在の^{おくしや}奥社、^{ちゆうしや}中社、^{ほうこうしや}宝光社、^{くずりゅうしや}九頭龍社、^{ひのみこしや}火之御子社の五社からなる神社組織となった。



午王宝印に描かれた九頭竜権現

オ 善光寺木綿と山中麻

江戸時代の市域の代表的な作物に木綿と麻があった。木綿は18世紀に入って市域の平坦部で作られるようになる。主に水田を利用して栽培され、最盛期には水田の3～4割を木綿栽培が占めるような状況であった。木綿は布の原料として、善光寺門前町にたてられた木綿市で取り引きされ、最盛期には善光寺木綿の名で各地に移出された。しかし近代に入り海外との交易が始まるとインドから入ってくる木綿に押され、急速に衰退していった。

麻は、江戸時代「山中」と呼ばれた市域の西部中山間地域で、近世以前から栽培が続けられてきた。衣料や糸などの原料となった麻は、領主にとって重要な収入源として認識されており、江戸時代初期には他領への移出の制限や、領主側による定額での買占めなどが行われた。その後農家側が麻運上を納めることで、自由売買が認められるようになったが他領への売買は依然許可制であった。一般に近世中期以降、木綿衣料の普及により麻生産は減少していくが、山中麻の場合、畳糸や蚊帳地といった商品に加工したものを移出していたので特産化し、その生産は昭和30年代まで続いた。

カ 近世長野の庶民教育と文化

江戸時代の信濃国における寺子屋や私塾の普及率は全国一といわれ、各地の寺子屋では手習い、読み書きにはじまり、商業の盛んな地域では算盤も教えられた。市域には寺子屋師匠を顕彰し供養するため生徒たちによって建てられた筆塚があるが、その数は2,000を超える。

江戸時代後期、経済が発展すると知識人の交流も盛んとなり、俳諧や、謡、挿花などの文化的活動が広まった。特に俳諧は北信濃随一の商都として人と情報^{こほう}の交流の場でもあった善光寺門前町を中心に、在野の俳諧師によって市域中に広まった。吉田出身の茂呂何丸^{もろなにまる}や信濃町柏原村出身の小林一茶^{こばやしいつき}が活躍し、市域を含め北信濃の俳諧師や門人たちと積極的に交流した。長沼には熱心な一茶の門人が多くおり、彼らは長沼十哲^{ながぬまじってつ}と呼ばれた。現在でも市域の神社仏閣には当時奉納された俳額が多く残されている。

キ 善光寺地震

江戸時代末の弘化^{こうか}4 (1847)年3月に北信濃を襲った地震はマグニチュード7.4と推定され、甚大な被害をもたらした。このとき善光寺では御開帳が行われており、全国から多数の参詣客が集まっていた。参詣客も、地震によって倒壊する家屋の下敷きになったり、各所で発生した火災に巻き込まれ、数



地震後世俗語之種 (真田宝物館蔵)

千人の犠牲者が出た。また地震により信更村涌池^{しんこうむらわくいけ}にあった虚空蔵山^{こくぞうざん}が崩れて犀川を堰き止め巨大な湖を作った。この湖は地震発生から20日後に決壊し、長野盆地一帯の人家を押し流す大洪水をひき起こした。その痕跡は各地に作られた洪水による犠牲者供養の石碑に見ることができる。また上松の昌禅寺^{うえまつしやうぜんじ}には、洪水によって押し流された巨大な石塊から作った地蔵菩薩が祀^{まつ}られている。

(5) 明治時代～昭和20年

ア 長野の近代化

明治4 (1871)年6月、高井郡中野町^{たかいぐんなかのまち} (現中野市) にあった中野県庁を長野村の内、善光寺町へ移し「長野県」と改称する太政官布告が発せられ、7月、仮庁舎となった西方寺で執務が開始された。同月、廃藩置県によって松代藩は松代県となるが、11月、佐久郡^{さくぐん}、小県郡^{ちいさかたぐん}、埴科郡、更級郡、高井郡、水内郡にあった7県すべてが長野県に編入された。その後明治9 (1876)年には筑摩県を廃し筑摩郡、安曇郡、諏訪郡、伊那郡を合併し、旧信濃国10郡すべてが長野県となった。この間、善光寺が所在する長野村は、「県都」として市街の近代化が急速に進められた。明治7 (1874)年には長野村が長野町とな



当時の長野停車場 (扇屋引札 長野市立博物館蔵)

翌年8月15日、日本の降伏によって戦争が終結したため、工事は中止されたが、本体の8割方は完成していた。工事の主要な労働力は勤労働員、学徒動員、朝鮮労働者らが担ったとされる。

昭和20(1945)年アメリカ軍による本土爆撃も各地で激しさを増した。長野市は終戦日2日前の8月13日の早朝午前6時50分頃から午後3時50分頃まで6回にわたって機銃掃射や爆撃をうけた。この空襲では長野飛行場、国鉄長野駅機関区などの軍事・公共施設のほか長野飛行場の近くにあった大豆島国民学校まめじまこくみんがっこうも攻撃の対象となった。このときの空襲による死者は47人とされている。

(6)昭和20年～現在

ア 4度の市町村合併

昭和28(1953)年の町村合併促進法により、翌29(1954)年に古里・長沼・柳原・朝陽・大豆島・安茂里・小田切・芋井・浅川・若槻の周辺10か村が長野市に編入合併した。昭和37(1962)年には広域都市の設置を目指して、長野市が近隣市町村に合併を呼びかけ、同41(1966)年に篠ノ井市・松代町・川中島町・若穂町・更北町・信更村・七二会村との大合併が成立した。平成に入って地方分権の推進や行政の効率化を目的として国が打ち出した「平成の大合併」により、平成17(2005)年に豊野町・戸隠村・鬼無里村・大岡村が、平成22(2010)年に信州新町・中条村が長野市に編入合併した。

イ 戦後の自然災害

昭和40(1965)年から松代で微小の地震が日に何度も起きる群発地震が発生、昭和44(1969)年に終息するまで地震総回数は64万8,000回を数えた。昭和60(1985)年には地附山じづきやまの南東斜面で大規模な地すべりが発生し、26人の犠牲者と多くの住宅被害を出した。台風による犀川や千曲川の氾濫、堤防決壊は戦後何度となく起こり、そのたびに農地や家屋が被害に遭った。特に令和元(2019)年には長沼地区や豊野地区を中心にかつて例を見ないほどの多くの被害が出たが、住民の努力と多くのボランティアの尽力で、生活は再建され、地域の復興に向けた取組みが進められている。なお、水損した歴史資料は長野市立博物館の文化財レスキュー活動により一部は所有者に返却されたが、現在でも博物館で、残る資料の安定化作業が続けられている。

ウ 高速道路と長野新幹線の開通

昭和40年代からの自動車普及に伴い、全国各地で自動車道の建設が行われるようになった。長野では昭和48(1973)年に決定した岡谷市おかやしから長野市間の自動車道整備計画により、平成5(1993)年に長野自動車道・上信越自動車道が開通

した。新幹線は北陸新幹線の基本計画がすでに昭和 47(1972)年に決定されていたが、なかなか着工されなかった。しかし、冬季オリンピックが平成 10(1998)年に開催されることが決まり、平成 9(1997)年に長野・東京間を最短 1 時間 19 分で結ぶ長野新幹線が開業した。その後平成 27(2015)年に線路が金沢まで延伸し、北陸新幹線と名称を変更している。



長野自動車道・上信越自動車道開通式

エ 冬季オリンピック・パラリンピックの開催

平成 10(1998)年に開催されたオリンピック冬季競技大会・パラリンピック冬季競技大会は、長野市を中心に 5 市町村（パラリンピックは 4 市町村）が会場となった。長野市ではオリンピック・パラリンピックの開催により競技施設が充実するとともに、各国から来る外国人との交流も盛んになった。特にこのときに始められた各国の選手と長野市内の小学校の児童が交流する「一校一国運動」は、後のオリンピック開催国にも引き継がれ、長野冬季オリンピック・パラリンピック最大のレガシーとなっている。

このような国際的なイベント開催を経た長野市では平成 17(2005)年にはスペシャルオリンピックス冬季大会が開催されるなど、国際会議観光都市として、様々なコンベンションが誘致・開催されている。

第2章 長野市の文化財

1 文化財に関するこれまでの調査

これまでに本市域で実施された行政や大学等研究機関による文化財調査の主なものは下表のとおりである。

文化財調査・調査報告書名	実施・刊行時期	実施主体	概要
「長野県民俗調査10 松代町の民家」	1970年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民家緊急調査」の一環として実施。武家屋敷9棟、町家3棟、城絵図等を調査。
「裾花溪谷の民俗－裾花川ダム水没地区民俗資料緊急調査」	1971年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗資料緊急調査」の一環として実施。
「戸隠－総合学術調査報告」	1971年	戸隠総合学術調査実行委員会	1963年から3か年にわたって戸隠山の歴史・美術・建築・考古・民俗・地理・地質・動物・植物各分野を対象にした総合的な学術調査を実施し、1971年に調査成果を取りまとめた報告書を刊行。
長野市石造文化財調査	1977年～1982年	長野市教育委員会	「郷土を知る会」に委託し、悉皆調査を実施。「長野市の石造文化財」第一集～第五集にまとめ、刊行。
「北国街道－歴史の道調査報告書III」	1980年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
「善光寺道－歴史の道調査報告書IV」	1981年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
長野県近世社寺建築緊急調査	1981年度	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近世社寺建築緊急調査」の一環として実施。長野市域（長野市・豊野町・信州新町・戸隠村・鬼無里村・中条村・大岡村）の近世社寺52ヶ所の把握。そのうち14社寺の詳細調査。
「庭園都市松代 伝統的建造物群保存対策調査報告書」	1982年	長野市教育委員会・東京大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向けた地域調査を実施。
「長野県民俗文化財分布調査報告書」	1984年度	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗文化財分布調査」の一環として実施。
「長野県の民謡－民謡緊急調査報告書」	1984年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民謡緊急調査」の一環として実施。
「裾花川通り大町道－歴史の道調査報告書XIV」	1985年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
「土尻川通り大町道－歴史の道調査報告書XV」	1985年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
「長野市松代三町水路活性化についての調査報告書」	1985年	信州大学工学部	松代町の水路網・水源地の調査。
「戸隠道－歴史の道調査報告書XVI」	1986年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
「中条村の石造文化財」	1988年	中条村教育委員会	旧村時代に実施した中条地区の石造物悉皆調査の報告書。
「保科道－歴史の道調査報告書XXVIII」	1989年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
「長野市屋台会館建設に関する基礎調査報告書」	1989年	長野市商工部観光課	1987年12月から翌年の1月までの間に実施された長野市の屋台に関する実態調査をまとめたもの。
長野県近世社寺建築第二次調査	1990年	長野県教育委員会	長野市域の15社寺を調査。
「長野県の諸職－長野県諸職関係民俗文化財調査報告書」	1990年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。

文化財調査・調査報告書名	実施・刊行時期	実施主体	概要
「千曲川－歴史の道調査報告書XXXⅠ」	1991年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。
「犀川－歴史の道調査報告書XXXⅡ」	1992年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。
「鬼無里の石仏」	1994年	鬼無里村教育委員会	旧村時代に実施した鬼無里地区の石造物悉皆調査の報告書。
「むしくら－虫倉山系総合調査研究報告－」	1994年	虫倉山系総合調査研究会	1987年～1994年にかけて、長野市・旧戸隠村・旧鬼無里村・旧中条村・小川村が共同で、虫倉山に関わる人文・自然分野の総合調査を実施し、報告書を刊行。
「長野県の民俗芸能－長野県民俗芸能緊急調査報告書」	1995年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗芸能緊急調査」の一環として実施。市域では松代地区の大門踊り、安茂里地区の犀川神社太々神楽、戸隠地区戸隠神社の太々神楽が詳細調査の対象となっている。
伝統的祭り・行事・民俗芸能等の調査	1999年度	長野市教育委員会文化課	旧長野市域で行われている民俗芸能等の実態把握を目的に地域公民館へアンケート調査を実施。伝統的祭り・行事・民俗芸能、合わせて267の事例を把握。獅子舞については50の事例を把握。
「戸隠村の石造文化財」	2004年度	戸隠村教育委員会	旧村時代に実施した戸隠地区の石造物悉皆調査の報告書。
善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査	2004年度～2008年度	長野市教育委員会文化財課・信州大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け善光寺本堂を含め本坊、宿坊群、仲見世、門前商家、周辺寺院の悉皆的建造物調査を実施。
「信州新町の仏さま」	2007年	信州新町教育委員会	旧町時代に実施した信州新町地区にある仏像の悉皆調査報告書
「長野県の近代化遺産」	2009年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近代化遺産（建造物等）総合調査」の一環として実施。市域では善光寺門前の醸造や善光寺門前の商家、長野県庁舎、松代大本堂跡などが取り上げられている。
「中条村の神さま仏さま」	2009年	中条村教育委員会	旧村時代に実施した中条地区にある仏像の悉皆調査報告書
「大岡の石仏：大岡地区石造物調査報告書」	2011年	長野市立博物館	旧大岡村の石造物悉皆調査。
長野市戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査	2014・2015年度	長野市教育委員会文化財課・信州大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け戸隠神社を中心に形成された門前町の悉皆的建造物調査を実施。
「松代城下町庭園調査報告書」	2015年	長野市教育委員会文化財課・信州大学農学部	松代地区の庭園・水路網の調査。
「長野県の近代和風」	2018年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近代和風建築総合調査」の一環として実施。
地域のお祭り調査	2018年度	長野市文化スポーツ振興部文化芸術課	長野市域内で結成されている神楽保存会256団体（うち13団体は活動中止中）を把握。

※このほかに埋蔵文化財調査が169件ある

2 地域計画の作成に伴う調査

本計画の作成に伴い、既往資料調査・現地調査・アンケート調査を実施した。

(1) 既往資料調査

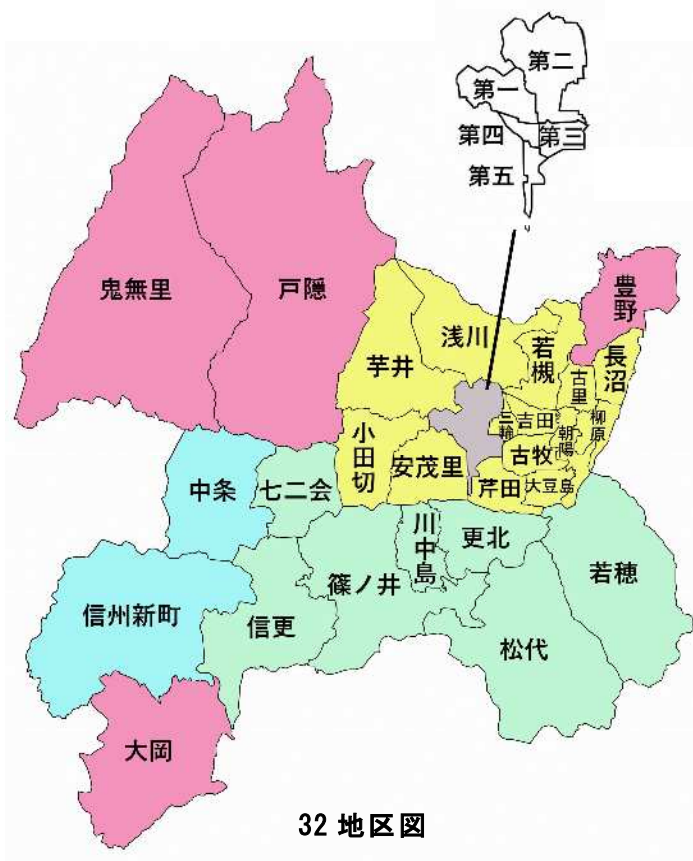
ア 先に挙げた文化財調査の報告書を含めた長野市域に関わる郡史・地域誌、住民自治協議会や自治会などが発行した自治会誌(史)、郷土雑誌等に掲載された歴史学・民俗学・考古学及び建築・街並み・民話・自然・災害等の調査研究成果といった文献を収集した。(計 2,024 件)

イ 国県市指定文化財、遺跡全件一覧表、地域伝統芸能一覧(文化芸術課作成)、地域のお祭り(文化芸術課作成)のほか、上記アの文献から抽出される文化財のリストを統合して 32 地区別に分けた(リスト化した文化財 4,635 件、地区別種別件数は下表参照)。ただし、未指定の文化財については所在の確認までには至っていないものが多いため、計画作成後に確認調査を進めていく必要がある。

長野市 32 地区文化財リスト (地区別種別件数)

地区	有形文化財									民俗文化財			記念物				伝統的建造物群	地区別合計	
	建造物	美術工芸品							無形文化財	有形の民俗文化財	無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物			地質鉱物
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	歴史資料			考古資料	民俗風俗習慣							
第一	10			1			129	9			5	10	6						170
第二	24	34	9	10	1		198	2	1	1	10	8	5	2		1			306
第三	1						53				5	1	1						61
第四	5		2	1			37	4	1		3	1	1						55
第五	2		1	1			7	5			2		3						21
芹田	8		4				66		2			20	8						108
古牧	24	5	5		3		5	2			43	9	5		13				114
三輪	1						47					2	4	1					55
吉田	3	2					9	1				11	6	2		1			35
古里	22						15					7	7	7		1			59
柳原	8						17				1	5	4						35
浅川	2						7					18	7	4				1	39
大豆島	10						19			1			4	4					38
朝陽	1						18	1				9	8						37
若槻	64		13				27	3			1		9	18		1			136
長沼	26	3	2		2	2	24					3	7	6	2	3			80
安茂里	15	3	28	2	1		119	20	6			16	6	4					220

地区	有形文化財									民俗文化財				記念物					伝統的建造物群	地区別合計
	建造物	美術工芸品							無形文化財	有形の民俗文化財	無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物			
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	歴史資料			考古資料	風俗習慣						民俗芸能		
小田切	51		6				42		1			2		8	18		5	133		
芋井	7		16				19	2				27	7	2		9		89		
篠ノ井	57	1	8			1	114	22	12			24	29	8		2		278		
松代	180	21	20	12	4	1	129	28	1	3	1	23	12	24	8	3	2	472		
若穂	107	4	57	2	1		120	15	4		3	29	24	4		2	1	374		
川中島	26		4		1		87	2			1	21	20	3				165		
更北	49	7	6	1			150	1	1		1	19	14	5		2		256		
七二会	18		3				112					4	9	1		4		151		
信更	66		6		5		30	1				50	2	1				161		
豊野			3	1	1		94	1	3	2	7		8	6	1	5		133		
戸隠	39		8	2	2		1	4		1		6	22	13	1	9	1	112		
鬼無里	36	3	8	6			107	6				1	10	4	1	13	2	208		
大岡	38		3			1	85	4				4	5	1	1	3		145		
信州新町	5		223						1			5	3	1	1		4	243		
中条	5	1	128									6	3		2		1	146		
計	910	84	563	39	21	5	1887	133	33	8	40	364	268	131	23	93	6	26	1	4635



(2) 現地調査(令和3年度～5年度)

地域計画作成後の文化財把握調査を見据え、モデルケースとして市立博物館を中心に善光寺(第二地区)周辺地域における仏教美術及び祭礼調査を実施した。調査結果については計画作成後、市立博物館の展示あるいは報告書等で公開する予定である。

ア 仏教美術調査

善光寺の周辺には数多くの寺院が存在するが、仏教美術に関してはこれまで悉皆調査が行われてこなかった。そのため市立博物館を中心に、外部からの有識者の協力を得ながら3年間で悉皆的な調査を実施した。調査対象とした寺院は善光寺大勸進(第二地区)を中心に、善光寺にゆかりがある往生寺(第一地区)・仏導寺(芹田地区)・無常院(安茂里地区)・正覚院(安茂里地区)・長谷寺(篠ノ井地区)・常行寺(川中島地区)・今里阿弥陀堂(川中島地区)・観音寺(第五地区)等で、平安から鎌倉期制作の仏像が新たに複数確認されるなどの成果が見られた。

イ ながの祇園祭調査

現在、毎年7月に行われているながの祇園祭は、善光寺周辺の町を中心として行われ、「善光寺祇園祭」、「弥栄神社御祭礼」等と呼ばれてきた屋台の巡行を伴う祭礼であり、通称「御祭礼」と呼ばれている。江戸時代より続く祭礼であるが、戦後に一時途絶え、その後「ながの祇園祭」として復活した。

「御祭礼」についてはこれまでも研究調査が行われているが、祭り総体を捉えた本格的な調査はされてこなかった。本調査では調査成果の活用により善光寺周辺地域の活性化や研究の発展に寄与することを目的とし、祭礼の中断から「ながの祇園祭」として復活した経緯や、現在の御祭礼の状況について重点的に調査をおこなった。

(3) アンケート調査

ア まちづくりアンケート調査

まちづくりアンケートは、市政に対する市民ニーズ、市が実施する事業に対する考え方、意見、優先度などを調査し、今後の施策の基礎資料とするため毎年実施しているものであるが、このアンケートで令和3(2021)年に「長野市における文化財の保存と活用をめぐる状況について」の設問を設定し、文化財に対する市民の意識調査を実施した。

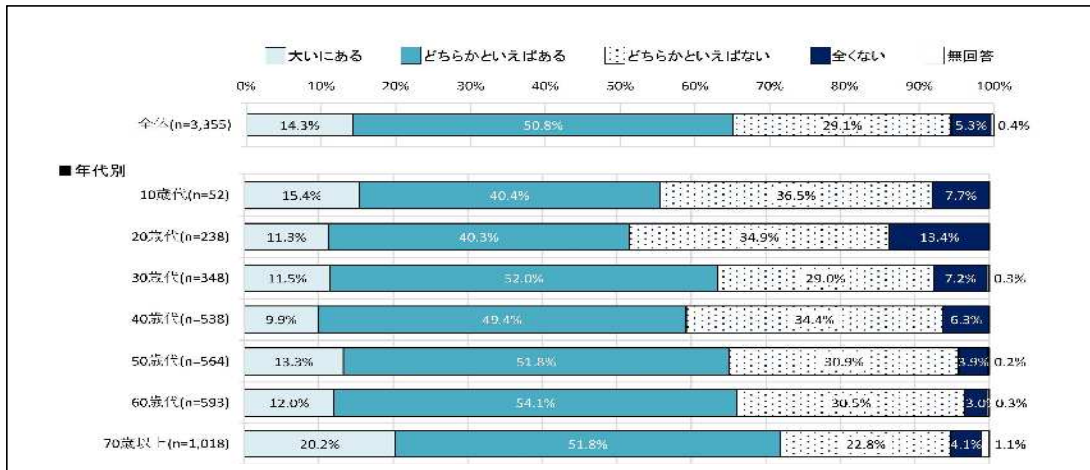
アンケートは市内在住の18歳以上の男女で、住民基本台帳から無作為に抽出した5,000人を対象に行い、3,355人から回答を得た。

上記の設問について以下の五つの質問事項を設定した。回答方法はいずれも選択肢を選ぶ方式とした。

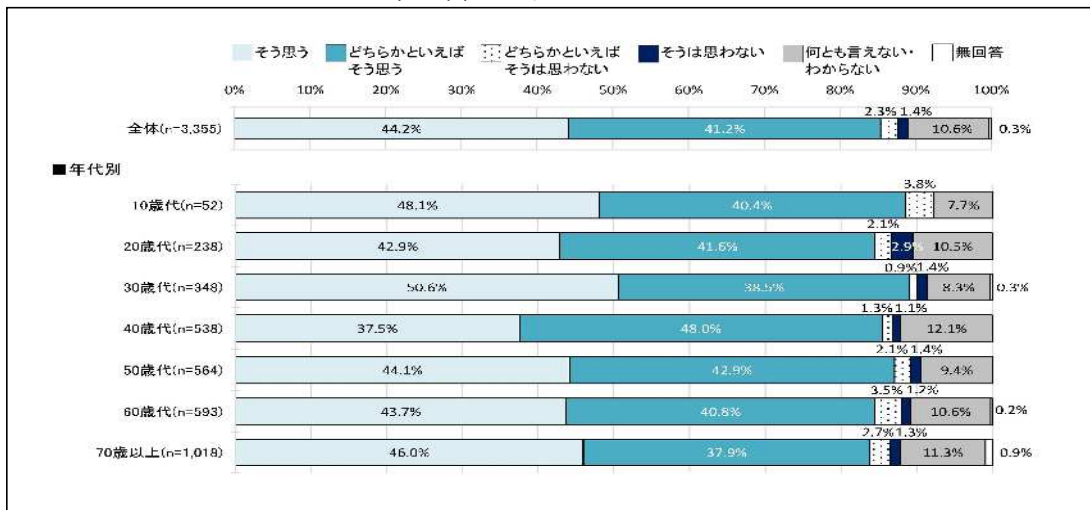
1. あなたは、長野市の歴史や文化について関心がありますか
2. あなたは、長野市の歴史や文化を保存・活用することは、重要だと思いますか
3. あなたは、長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があると思いますか
4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で、あなたが、協力できそうなことは何ですか
5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施したほうが良いと思うことは何ですか

アンケート結果は次の通りである。

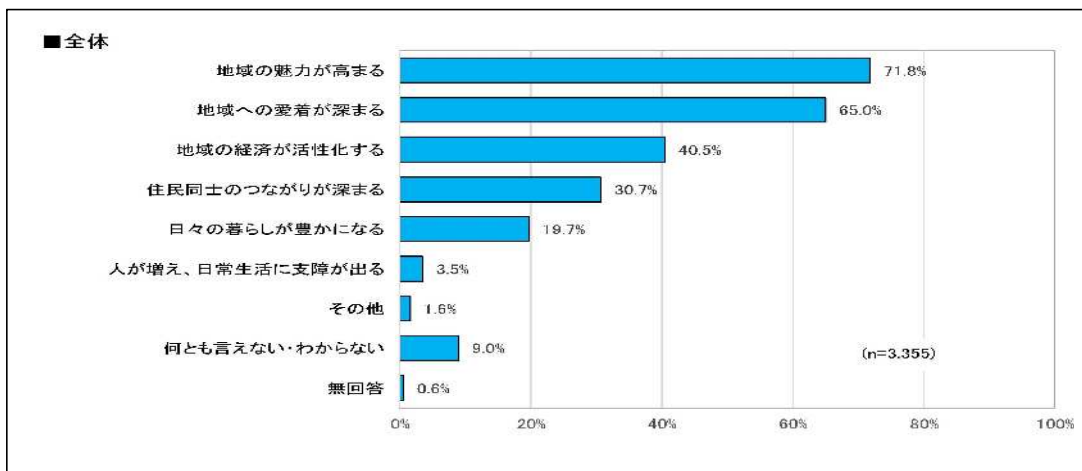
1. 長野市の歴史や文化について関心があるか聞いたところ、関心がある人は回答者の3人に2人の割合にのぼった。ただ年代別にみると 20 歳代では半数近くが「関心がない」と回答した。



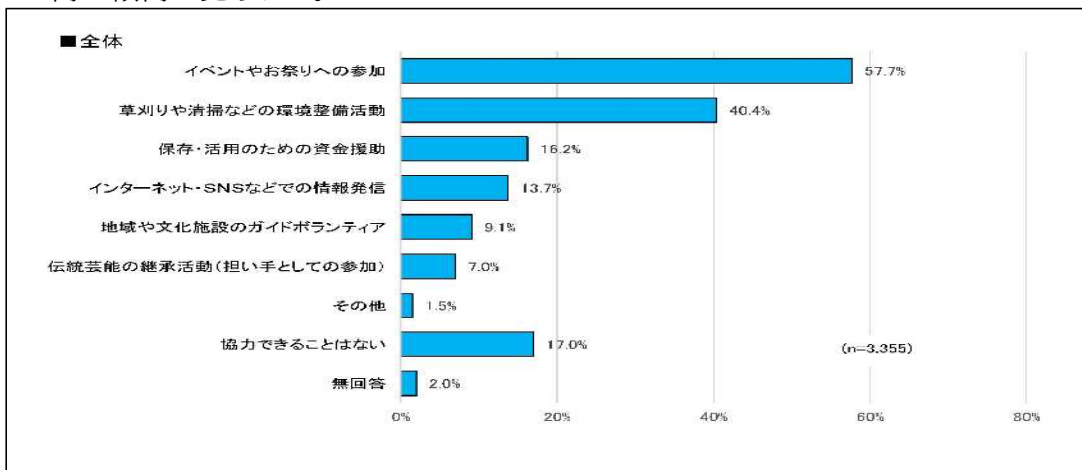
2. 長野市の歴史や文化を保存・活用することが重要であるか聞いたところ、重要であると思っている人は 85.4%と大半を占めた。



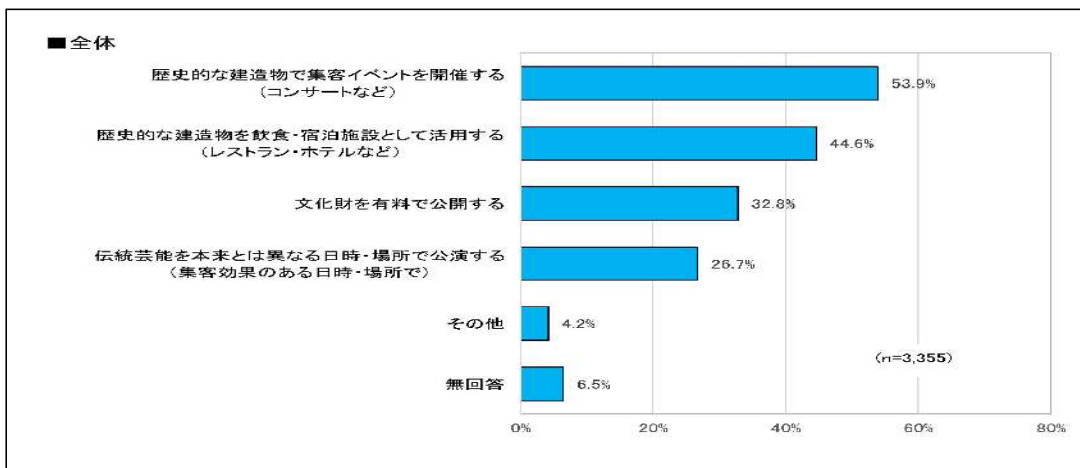
3. 長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があるか、三つ以内で挙げてもらったところ以下のような順になった。



4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で協力できそうなことは何か、複数回答で聞いたところ、以下のような順になった。年代別では、10歳代で「イベントやお祭りへの参加」が高く、10歳代から30歳代の若年層では「インターネット・SNSなどでの情報発信」が高い傾向が見られた。



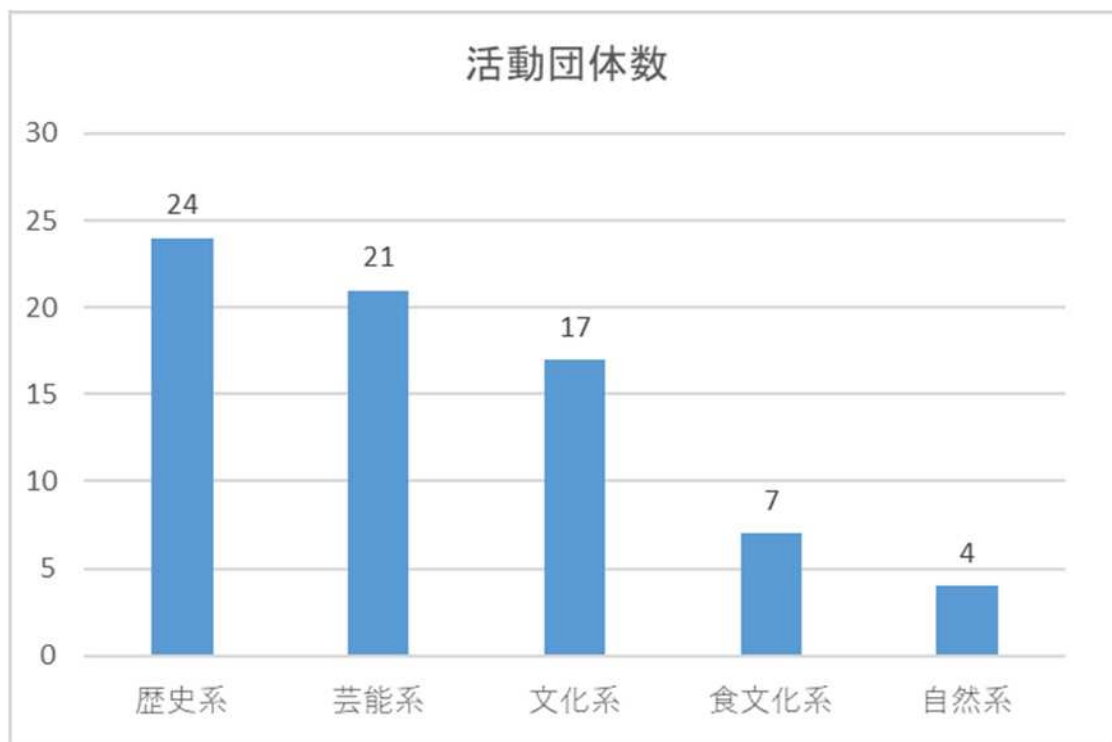
5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施した方が良くと思うことは何か、二つ以内の複数回答で聞いたところ以下のような順となった。



全般的に長野市の歴史文化に関心があり、その保存・活用が重要であると考えている人が大半にのぼること、そのなかで歴史文化を活用することが地域の活性化につながると考えている人が多いことが分かった。また回答者の半数が歴史文化の保存・活用にあたって何らかの形で協力ができると考えていることが分かった。

イ 市立公民館・交流センターアンケート調査

地域計画作成後の文化財保存活用にあたって、様々な場面で連携が想定される文化財に関わる活動団体の把握のため、市立公民館・市交流センター29館にアンケートを実施し、各館で把握している活動団体の名称と人数についての情報提供を依頼した。その結果、古文書解読や史跡調査等を行っている歴史系の団体が24、甚句や太鼓などを実演している芸能系の団体が21、俳句や美術系の活動を行っている文化系団体が17、郷土料理の保存活動をしている食文化系の団体が7、天然記念物の保護活動や山城のトレッキングコース整備等の活動を行っている自然系の団体が4の合計77団体を把握することができた。



3 長野市の文化財の概要

(1)文化財保護法等による指定等文化財

市域に所在する文化財のうち、文化財保護法及び長野県文化財保護条例、長野市文化財保護条例に基づき、指定・選択・選定・登録を受けている文化財は、令和6年1月1日時点で 542 件を数える。このほかに重要美術品が6件ある。

類型		国指定・選定	国選択	県指定	市指定等、() は名勝・天然記念物	市選択	国登録	県登録	市登録	合計	
有形文化財	建造物	8		11	65		136	0	0	220	
	美術工芸品	絵画	2		2	8		0	0	0	12
		彫刻	15		8	27		0	0	0	50
		工芸品	3		7	15		0	0	0	25
		書跡・典籍	2		2	2		0	0	0	6
		古文書	0		0	10		0	0	0	10
		考古資料	0		1	12		0	0	0	13
		歴史資料	1		0	3		0	0	0	4
無形文化財	0	0	0	7	0	0	0	0	7		
民俗文化	有形の民俗文化財	0		1	14		0	0	0	15	
	無形の民俗文化財	0	1	4	9	8	0	0	0	22	
記念物	遺跡	6		5	46		0	0	0	57	
	名勝地	0		1	4 (1)		8	0	0	13(1)	
	動物、植物、地質鉱物	1		16	69		0	0	0	86	
文化的景観	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
伝統的建造物群	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
合計	39	1	58	291 (1)	8	144	0	0	541		

その他	国	県	市
文化財の保存技術	0	0	1
重要美術品	6		

合計548件

※埋蔵文化財包蔵地 1,112件

令和5年4月1日現在

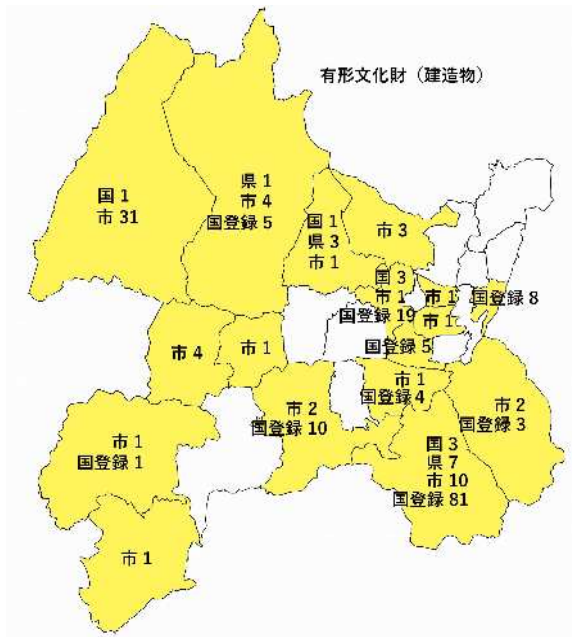
ア 有形文化財（建造物）

指定されている建造物の地区別分布は右図のようになる。松代地区、鬼無里地区、第一地区から第五地区に多い。

国宝は1件で第二地区の善光寺本堂が指定されている。重要文化財は7件。このうち第二地区の善光寺三門と善光寺経蔵は善光寺本堂と同じ境内に建つ江戸時代中期の建物である。松代地区の真田信之霊屋と真田信重霊屋は松代真田家初代藩主とその三男の位牌を祀った建物で、旧横田家住宅は松代藩士の武家屋敷である。このほか鬼無里地区の白髯神社本殿と芋井地区の葛山落合神社本殿が重要文化財となっている。

県宝は11件のうち7件が松代地区に集中している。このうち皆神山の熊野出速雄神社本殿は中世の熊野系修験を伝える貴重な建築遺構である。また大英寺本堂は真田信之夫人小松姫の霊屋、林正寺本堂は真田家二代藩主信政の霊屋、長国寺開山堂は真田家三代藩主幸道の霊屋を利用したものであり、長国寺境内の四代藩主真田信弘霊屋と合わせ真田家の霊屋群が指定されている。このほか旧前島家住宅は現存する松代藩武家屋敷のなかで最も古い年代に属する建物であり、開善寺経蔵は真田家の祈願寺の建物である。次に数が多いのが芋井地区の3件だが、うち明治8(1875)年に建てられた旧長野県師範学校教師館と、明治37(1908)年に建てられた旧ダニエル・ノルマン邸はもと第四地区にあったものを、昭和46(1971)年に芋井地区に移設したものである。残る1件の葛山落合神社境内諏訪社社殿は室町時代後期に建てられた神社建築物として指定されている。戸隠地区にある南方神社本殿も室町時代後期の建造物として県宝に指定されている。

市指定は65件で、このうち最古のものは篠ノ井地区にある平安時代の石造多層塔



国宝 善光寺本堂



重文 真田信之霊屋

で、次いで松代地区の石幢（笠仏）が鎌倉時代のものとされる。また南北朝から室町時代にかけて造立された石造宝篋印塔が3件（若穂川田、七二会、第二地区）指定されている。

木造では江戸時代以前の建造物として、浅川地区の諏訪神社本殿が様式から室町時代頃のものとしてされる。

江戸時代のものとしては、社寺（古牧地区守田のじんじゃほんでん、鬼無里地区しょうがんにじきょうどう・観音堂・鎮守堂など）、武家住宅の表門（松代地区旧白井家表門など）、鐘楼（旧松代藩鐘楼など）、武家住宅（松代地区旧樋口家住宅）、霊屋（松代地区だいほうじ大鋒寺真田信之霊屋）、石造物（吉田地区の中越のこうしんとう庚申塔など）など、明治以降のものでは神社建築（鬼無里地区のあらくらやまじんじゃほんでん、大岡地区のしおがまじんじゃ塩竈神社など）が多くを占め、そのほかに学校建築（更北地区のきくしんがっこう旧作新学校本館）と商家（松代地区のかねぼこけ旧金箱家住宅）が指定されている。

国の登録有形文化財 136 件は江戸時代後半から明治時代のものが大部分を占める。地区では松代地区に 81 件（寺社、店舗、個人住宅など）、第一から第五地区に 19 件（旅館、店舗など）と、この両地区に集中している。



市指定 石造多層塔



市指定 旧作新学校本館

イ 有形文化財（美術工芸品）

美術工芸品は国指定では重要文化財が 23 件、重要美術品が 6 件、県宝が 20 件、市指定が 77 件となっている。

【絵画】重要文化財が 2 件、県宝が 2 件、市指定が 8 件で、地区別分布は右図になる。

重要文化財では第二地区善光寺大本願所蔵の絹本著色阿弥陀聖衆来迎図（鎌倉末～室町初期）が県下に伝存する浄土教来迎図の中では最古のものである。また、若穂地区清水寺の絹本著色両界曼荼羅図（鎌倉時代）が県下における曼荼羅の最佳品として指定されている。



県宝では、善光寺大勧進が所蔵する絹本著色釈迦三尊像が県内では遺例が少ない鎌倉時代に遡る仏画である。また、善光寺淵之坊に室町時代制作とされる絹本著色善光寺如来絵伝3幅は、数少ない中世の善光寺如来に関わる絵伝であるとともに、絵解き図として実際に善光寺信仰流布に利用されていたことがうかがえる貴重な文化財である。

市指定では、絵解きに利用されたとみられる長沼地区西巖寺の絹本著色鬼女紅葉狩の図（江戸時代）と蓮如上人絵伝4幅（江戸時代）や、吉田地区善敬寺の絹本著色親鸞聖人絵伝4幅（江戸時代）など8件を数える。

【彫刻】重要文化財が15件、県宝が8件、市指定が27件で地区別分布は次頁の図になる。

重要文化財のうち若槻地区の銅造観音菩薩立像は白鳳時代のもので市内の仏像の中で最も古いものである。若穂地区の清水寺にある木造聖観音立像ほか4件6軀の木造仏は、清水寺が大正5（1916）年の火事で焼失した後、再建時に奈良県から迎えた仏像で、いずれも平安時代から鎌倉時代初頭の作である。このほか、松代地区清水寺の木造千手観音菩薩立像ほか2軀、七二会地区の木造観音立像、信更地区観音寺の木造十一面観音立像が平安時代の木造仏である。また善光寺の金銅阿弥陀如来及両脇侍立像3軀は、江戸時代に江戸、京都、大坂をはじめ全国に出開帳をした際の開帳仏であり、現在も善光寺御開帳の際には前立本尊として公開されている。

県宝では、中条地区正法寺の木造聖観音菩薩立像ほか2軀、安茂里地区正覚院の木造伝観音菩薩立像など平安時代から鎌倉時代にかけての仏像8件（12軀）が市内に所在している。

市指定では、平安時代の作で川中島地区唯一の指定文化財である切勝寺の聖観音菩薩立像や、同じく平安時代の作である第二地区世尊院の木造毘沙門天像のほか、明治初頭の廃仏毀釈によって戸隠山奥院の仁王堂から寛慶寺（第二地区）に移され



県宝 善光寺如来絵伝



重文 銅造観音菩薩立像

た木造金剛力士像などがある。

【工芸品】重要文化財が3件、県宝が7件、市指定が15件となる。

重要文化財としては奈良時代から平安時代初期のものとされる戸隠神社の牙笏、平安時代のものとされる若穂地区清水寺の鉄鍬形（長野市立博物館寄託）などがある。

県宝となっている松代地区玉依比売命神社所蔵の児玉石は、毎年1月7日に神社で行われる児玉石神事の際に用いられる。神事では神社所蔵の玉石類の数を数え上げ、その増減で年の吉凶を占うが、この玉石類のうち591顆が指定されている。

市指定のうち鬼無里地区にある4基の山車と2基の神楽は、現在の新潟県糸魚川市市振出身の宮大工北村喜代松によって幕末から明治時代初期にかけて製作されたもので、いずれにも精緻な彫刻が施されている。

【書跡・典籍】重要文化財2件、県宝2件、市指定2件を数える。このうち重要文化財の紙本墨書法華経残闕（平安時代末期－鎌倉時代）、県宝の戸隠山顕光寺流記（室町時代）はいずれも戸隠神社所蔵のもので、古くから戸隠山が信仰対象の山であったことを示す文化財である。

県宝ではほかに松代地区真田宝物館所蔵の真田家文書が真田家初代 幸綱（幸隆）以来真田家に代々伝来した文書として指定されている。市指定には同じく真田宝物館所蔵の佐久間象山筆桜の賦と豊野地区鷲寺諏訪神社所蔵の鷲寺諏訪社奉納俳額（長野市立博物館寄託）がある。

【古文書】古文書は市指定のみで10件を数える。更北地区に残る豊臣秀吉による太閤検地の検地帳（文禄四年中氷飽村下氷飽村御検地帳）などがある。

【考古資料】県宝1件、市指定12件を数える。県宝の伝川柳将軍塚古墳出土品は、篠ノ井地区の川柳将軍塚古墳から江戸時代に発掘された鏡・勾玉・管玉などで、篠ノ井地区上石川の布制神社に伝わったものである（長野市立博物館寄託）。市指定では川柳将軍塚古墳の陪塚から発見された埴輪田筒棺や、豊野地区の南曾峯古墳から

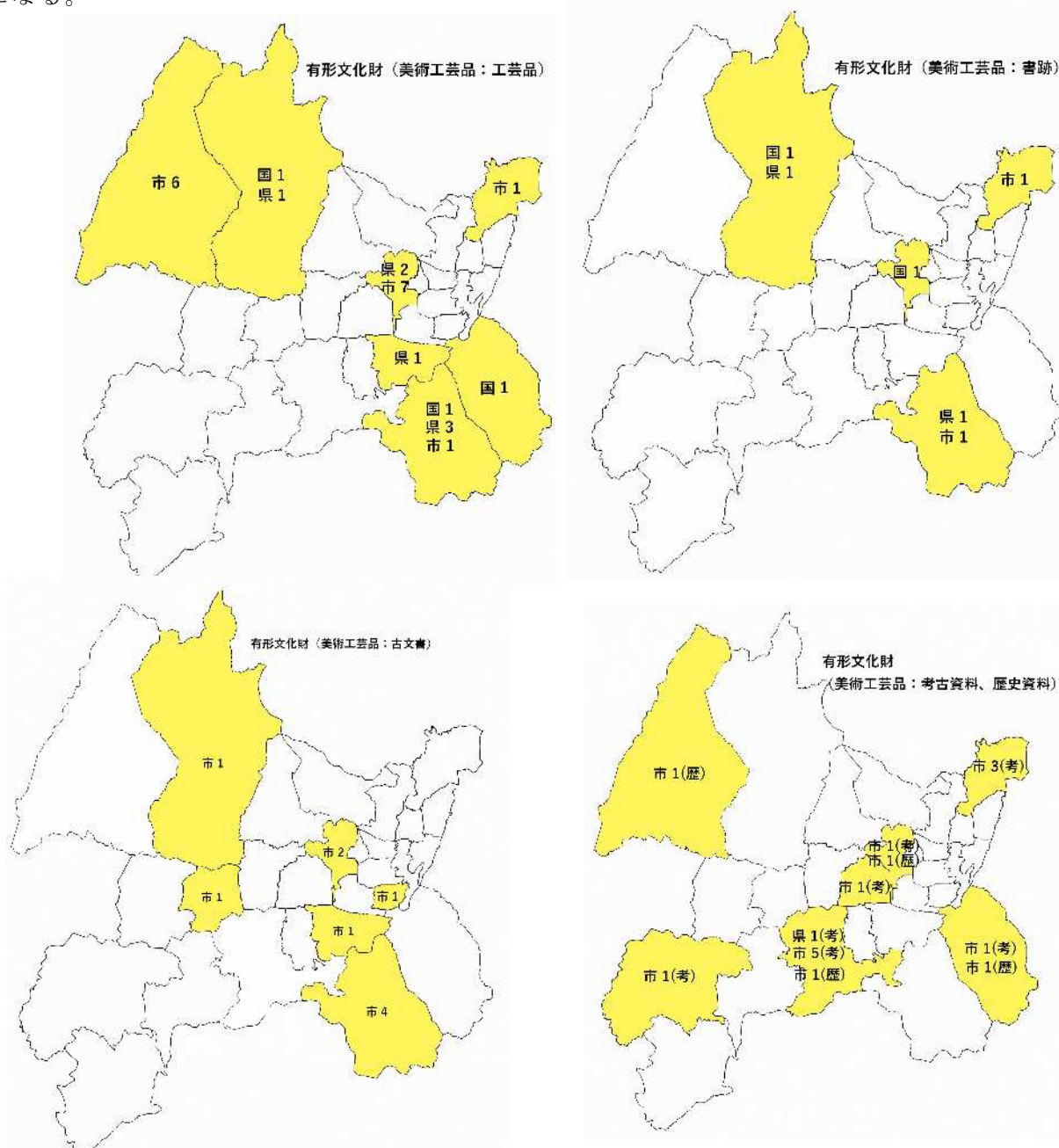


重文 鉄鍬形

出土した直刀^{ちよくとう}などがある。

【歴史資料】重要文化財1件と市指定3件を数える。重要文化財の善光寺造営図は、室町時代^{きょうろく}享禄4(1531)年の善光寺再建にかかわる門その他付属建物の設計図であり、作図年代がわかる設計図としては現存最古のものである。市指定には鬼無里地区^{しょうがんじ}の松巖寺観音堂算額や篠ノ井地区^{うたび}の高札板などがある。

なお、美術工芸品のうち絵画・彫刻以外の指定文化財の地区別分布は下図のようになる。



ウ 無形文化財

無形文化財は市の指定7件を数える。

このうち善光寺木遣り^{ぜんこうじきや}は、江戸時代の善光寺再建の際に、江戸棟梁^{とうりょう}によって伝えられたものとされ、現在でも建築行事等で唄い継がれている。また八橋流^{やっはしりゅう}箏曲^{そうきょく}は江戸時代初期に八橋検校^{やっはしけんぎょう}が創始した琴の流派で、八橋検校に直接学んだ真田家2代藩主側室のお伏^{おふせ}によって松代に伝えられたものである。このほか松代地区^{まつしろ}の大門踊り^{おおもんおど}や戸隠地区^{とがく}の宣澄踊り^{せんじょうおど}などが指定されている。



エ 民俗文化財

【有形の民俗文化財】県宝1件、市指定14件を数える。

県指定の小正月関係資料コレクションは、市内外の小正月行事で用いられる道具を長野市立博物館が収集したものである。

市指定には真田宝物館が所蔵する江戸時代の松代焼コレクションや第四地区の妻科^{つましな}と吉田地区の中越に残る庚申講人別帳及び用具一式（長野市立博物館寄託）、善光寺の祇園祭^{えいごう}で曳航されていた第一地区西町上組^{かみぐみ}の山車（長野市立博物館寄託）、善光寺の正月行事用具などがある。善光寺の正月行事用具は、善光寺で年末年始にかけて行われる堂童子行事^{どうどうじぎょうじ}で使用される一連の道具である。



市指定 善光寺木遣り



市指定 山車

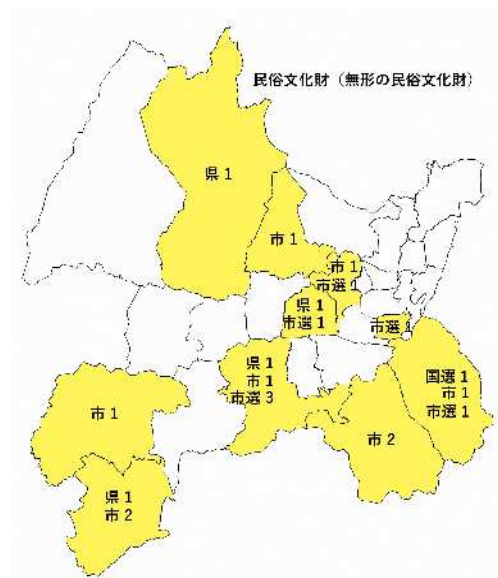


【無形の民俗文化財】国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）1件、県指定4件、市指定9件、市の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（市選択）8件の計22件を数える。

国選択の若穂地区高岡たかおかのあずき小豆焼き行事は、正月15日集落の集会所で、囲炉裏の火で熱したカワラケに小豆を載せ、小豆の動きで年の吉凶を占う予祝行事で、道祖神信仰どうそじんしんこうと関わって行われる。

県指定となっている大岡地区あしのじりのあしのじり芦ノ尻の道祖神祭りみちのそじんまつりと、篠ノ井地区のはせおよこし長谷及び越のドンドヤキも道祖神信仰に基づく小正月行事である。県指定ではこのほか戸隠神社とがくしんじやだい太神楽や犀川神社さいがわじんじやの杜煙火がある。犀川神社の杜煙火は、安茂里地区犀川神社の秋祭りの際に、境内で行われる壮大な仕掛け花火である。

市指定及び選択では、市内各所で行われる獅子神楽のうち、安茂里地区の犀川神社太神楽や若穂地区の赤野田神社太神楽など代表的なものが8件選ばれている。このほか年中行事として松代地区玉依比売命神社たまよりひめのみことじんじやの御田祭・児玉石神事・御判神事や、篠ノ井地区のひがしよこた いぬいし東横田といぬいし犬石で行われる虫送り行事などがある。玉依比売命神社の行事は正月6日・7日にわたって行われる一連の予祝行事で、東横田と犬石の虫送りは7月末から8月初頭に行われる稲の害虫除けの呪い行事である。



国選択 高岡の小豆焼き行事



県指定 芦ノ尻の道祖神祭り

オ 記念物

【遺跡】国指定6件、県指定5件、市指定46件を数える。

国指定の史跡は、篠ノ井地区にある川柳將軍塚古墳、姫塚古墳（古墳時代前期）1件、松代地区のはにしなこふんぐん埴科古墳群とぐちしやうぐんづかこふん土口將軍塚古墳（古墳時代中期）1件、松代地区大室古墳群おおむろこふんぐん（古墳時代中期から後期）1件などの古墳のほか、松代地区にある松代城跡まつしろじやうあと

つけたりしんごてんあと 附 新御殿跡、松代藩主真田家墓所、旧文武学校といった松代藩ゆかりの史跡3件である。

県指定のうち、松代地区にある菅間王塚古墳と桑根井空塚の2件は合掌形石室を有する古墳、戸隠地区の戸隠神社奥社・中社・宝光社からなる戸隠神社信仰遺跡は戸隠山の信仰の歴史を伝える場所として指定されている。このほか戦国時代に武田信玄が馬場信房に築かせた信州新町地区の牧之島城跡や、松代地区に残る佐久間象山宅跡が県指定になっている。

市指定は、縄文時代の集落遺跡である中条地区の宮遺跡、古墳時代の祭祀遺跡である古里地区の駒沢祭祀遺跡のほか、古墳（篠ノ井地区の中郷神社前方後円墳、松代地区の竹原笹塚古墳など）、山城（豊野地区の大倉城跡、芋井地区の葛山城跡など）、宗教施設跡（豊野地区の神護寺跡、戸隠地区の奈良尾弘法遺跡など）、善光寺参道（敷石）などがある。

【名勝地】県指定が1件、市指定が4件（うち1件は名勝・天然記念物）、国登録が8件となっている。

県指定は鬼無里地区の奥裾花峡谷で、市指定は信州新町地区の久米路峡など3件に加え、名勝と天然記念物を包括した大岡地区樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落がある。



市指定 樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落



国史跡 松代城跡附新御殿跡



国の登録記念物は8件で、全て松代地区の泉水路^{せんすいり}を構成する武家住宅などの庭園（旧山寺常山氏庭園^{やまでらじょうざんしえていえん}など）である。

【動物・植物・地質鉱物】国指定1件、県指定16件、市指定が69件を数える。

国指定は、芋井地区の素桜神社^{すざくらじんじや}の神代ザクラ。県指定は樹木（戸隠神社奥社社叢^{じんたい}など）のほか、市域の大地の形成を物語る化石類（戸隠川下のシンシュウゾウ化石、信州新町地区菅沼^{すがぬま}の絶滅セイウチ化石など）や、地質標本（若穂地区大柳^{おおやなぎ}及び井上^{まくら}の枕状溶岩^{じょうようがん}、鬼無里地区深谷沢^{ふかやさわ}の蜂の巣状風岩^{まぐら}）などがある。

市指定には、戸隠地区のカワシンジュガイ、松代地区皆神山のクロサンショウウオの産卵池、明徳寺^{めいとくじ}のヒキガエル産卵池といった動物、芋井地区の葛山落合神社社叢、吉田地区の吉田のイチョウ、戸隠地区戸隠中社の三本杉などの樹木、鬼無里地区奥裾花のケスタ地形、漣痕^{れんこん}（リップルマーク）といった地質関係のものなどがある。

カ 伝統的建造物群

戸隠地区の中社及び宝光社地区には、戸隠信仰のもとに多くの参詣者を受け入れるために大規模化した宿坊や、門前町を形成した民家などの伝統的建造物が江戸時代以前からの町割りのもとに群として残されており、長野市戸隠伝統的建造物群保存地区（国選定重要伝統的建造物群保存地区）として歴史的町並みの保護を図っている。

キ 文化財の保存技術

市選定保存技術になっている桐原牧神社^{きりはらまきじんじや}の藁馬づくりは、吉田地区桐原牧神社で春祭りの際に奉納・頒布される藁馬の製作技



国天然記念物 素桜神社の神代ザクラ



長野市戸隠伝統的建造物群保存地区

術で、現在も地元の保存会が記録の作成や
伝承者の育成などを行い、技術の保存に努
めている。

ク その他（重要美術品）

重要美術品は絵画2件、彫刻1件、工芸品
2件、書跡1件の計6件を数える。善光寺の
境内にあり、ぬれ仏の名で親しまれている
銅造地蔵菩薩坐像や、同じく善光寺境内に
建つ鐘楼の銅鐘、北野美術館（若穂地区）
所蔵の圓山應舉筆絹本著色中壽老左右鴛鴦
図などがある。



市選定 桐原牧神社の藁馬

ケ 埋蔵文化財

市域の埋蔵文化財包蔵地1,112か所を地区別にまとめたのが下表になる。

周知の埋蔵文化財包蔵地件数一覧

	古墳	城館跡	集落跡	生産地	墳墓	社寺跡	祭祀跡	散布地	その他	計
第一	1	1	3							5
第二	21	3	5			1		1		31
第三・第四			1							1
第四		1	1					1		3
第一・第二・第三・第四			1							1
芹田		6	5					2		13
占牧	1	5	4					3		13
占牧・芹田								1		1
三輪		2	6					3		11
古山		6	12					4		22
古平	3	1	4				1	5	1	15
桐原		2	4					3		9
浅川	7	3	4					14		28
朝陽		2	3					1		6
桐原・朝陽								1		1
若槻	12	8	18	3				29	1	71
浅川・若槻・吉田・三輪・第二								1		1
長沼		3								3
安茂埜	34	9	3		1			10		57
小口切	2	5						8		15
芋井		4		1			1	16		22
篠ノ井	56	21	19	2		1		28		127
松代	98	16	8	5	2	1	1	25		156
若穂	66	12	9	1	1			30		119
川中島		4			1			3		8
更北		4	3					3		10
更北・川中島			1							1
七二会		9	1					11		21
信史	14	8	1	9				38		70
豊野	30	4	4	6	6	6		48	1	105
戸隠		17				2	1	20	1	41
岩無里		1						14	1	16
大岡	1	2	1					19		23
信州新町	3	16	6		3			33		61
中条		3	1		3			18		25
計	349	178	128	27	17	11	4	393	5	1112

地区別に見ると、包蔵地数が 100 件以上のところが松代・篠ノ井・若穂・豊野地区で、これらの地区は、多くの指定文化財が所在する地区でもある。また、遺跡の種類別にみると古墳が群を抜いて多く、以下、城館跡、集落跡と続く。

(2) 未指定文化財

ア 文化財保護法以外の法律等で指定されている文化財

未指定文化財のなかには以下のように、文化財保護法や文化財保護条例以外の法令等により保存の対象とされているものもある。

【歴史的風致形成建造物】

長野市歴史的風致維持向上計画で定められた重点区域における歴史的風致の維持及び向上を図る上で重要な建造物として指定されているもの。指定された 7 件のうち第 3 号から第 6 号までは、平成 26 (2014) 年に重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物群を構成する建造物になったため、平成 29 (2017) 年に指定解除になっている。現在の 3 件はいずれも、文化財保護法及び文化財保護条例により指定・登録されている。

番号	名称	所在地	所有者	備考
第 1 号	大英寺本堂・表門	松代地区	大英寺	県宝
第 2 号	松巖寺観音堂	鬼無里地区	松巖寺	市指定有形文化財
第 3 号	宿坊神原主屋	戸隠地区	個人	H29 年指定解除
第 4 号	武井旅館主屋	戸隠地区	個人	H29 年指定解除
第 5 号	横倉旅館主屋・門	戸隠地区	個人	H29 年指定解除
第 6 号	久山館石垣	戸隠地区	個人	H29 年指定解除
第 7 号	常德院 門	第二地区	個人	国登録有形文化財

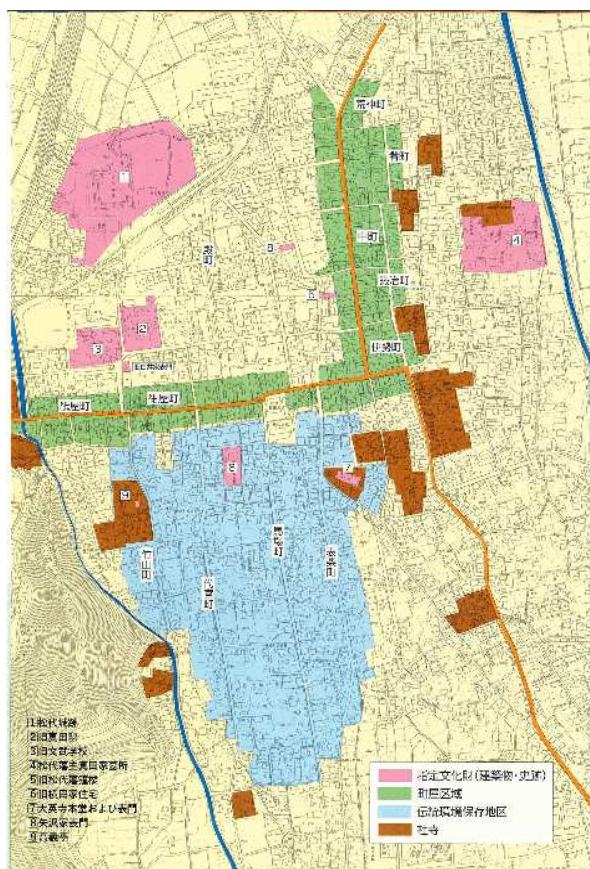
【景観重要建造物】

特色のある景観形成を特に推進する地区の景観形成上、維持・保全する価値があり、その地域のシンボリックな景観を生み出している建造物として、景観法に基づき、長野市景観審議会の審議を経て指定されているもの。長野市には 7 件の建造物が指定されている。

	名称	所在地	備考
1	藤屋旅館	第二地区	国登録有形文化財
2	中澤時計本店	第二地区	国登録有形文化財
3	八田邸	松代地区	国登録有形文化財
4	西澤邸	若穂地区	
5	北村邸	若穂地区	国登録有形文化財
6	宿坊極意	戸隠地区	国登録有形文化財
7	越志旅館	戸隠地区	国登録有形文化財

【長野市伝統環境保存区域内における伝統環境を構成している建造物等及びこれと一体をなす環境を保存するために特に必要と思われる物件】

長野市伝統環境保存条例（以下、伝統環境保存条例）に基づき定められた長野市伝統環境保存計画により設定された保存区域内で伝統環境を構成している建造物、庭園、水路。長野市松代地区の表柴町・代官町・馬場町・竹山町が保存区域に設定されており、その区域内の江戸時代から明治時代に建てられた建造物、庭園、及び水路が指定を受けている。



伝統環境保存区域の範囲

【伝統的工芸品】

日常生活の中で古くから使われてきた品で、今もなお伝統的な原材料を使い、伝統的な技術・技法により手工業的に製造されている工芸品であり、国（経済産業大臣）指定と長野県（知事）指定の二種類がある。市内では信州竹細工、松代焼、信州手描友禅、信州組子細工の4件が長野県の指定を受けている。

このうち信州竹細工として山ノ内町の須賀川、伊那市美篁とともに指定を受けている戸隠の竹細工は、戸隠の山野に自生するチシマザサ（通称根曲がり竹）を材料に作られるもので、その起源は不明ながら、山ノ内町の須賀川に、慶安年間(1648 - 1652)頃戸隠から須賀川に移住してきた徳武某ら3人によって竹細工が伝えられたとの記録が残されていることから、少なくともそれ以前から戸隠で作られていたことは確かである。根曲がり竹は茎が細くしなやかなため、細かな細工がしやすく丈夫なのが特徴で、農作業の道具としての箕や籠はもとより、明治時代に入り養蚕が盛んになると蚕籠、現在では蕎麦ざるといったように、それぞれの時代の需要に合うように製品の形を変えながら作られ続けている。

イ 既往調査等から抽出した未指定文化財

既往資料調査の中で、抽出した未指定の文化財数は4,087件となる。下に地区別種類別数を示した。

地区別種類別未指定文化財数

地区	有形文化財										無形文化財	民俗文化財			記念物					伝統的建造物群	地区別合計
	建造物	美術工芸品								有形の民俗文化財		無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物				
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	歴史資料	考古資料									民俗習慣	民俗芸能		
第一	2					129	9					4	9	6							159
第二	9	28	2	2		196	1	1				9	8	5	1						262
第三	1					53						5	1								60
第四	5		2			37	4					2	1	1							52
第五	2					7	5					2		3							19
芹田	3		4			66		2					20	8							103
古牧	23	4	5		3	5	2					43	9	4		13					111
三輪	1					47							2	4	1						55
吉田	2					9	1					10	6	2							30
古里	22					15						7	7	6							57
柳原						17							5	4							26
浅川						7							18	7	2				1		35
大豆島	10					18								3	4						35
朝陽	1					18	1						9	8							37
若槻	61		13			27	3							9	16						129
長沼	26	1	2		2	24							3	7	6	2	3				78
安茂里	15	3	26		2	1	119	20	5				15	5	4						215
小田切	51		6			42		1					2			8	15		5		130
芋井	2		16			19	2						27	6	1						73
篠ノ井	44		5			1	114	21	6				20	28							239
松代	79	20	12	7	2	1	125	27	1	1			22	11	10						318
若穂	102	2	50		1		120	15	3				2	27	22	3			1		348
川中島	26		3		1		87	2					1	21	20	3					164
更北	44	7	5				149	1	1				19	14	5		1				246
七二会	17		2				111						4	9	1						144
信更	66		4		5		30	1					50	2							158
豊野							94	1						8							103
戸隠	28		7					4					6	21							66
鬼無里	4	3	6				107	5					1	10	4						140
大岡	37		1			1	85	4					2	4	1						135
信州新町	3		223											4							230
中条	1	1	122											6							130
計	687	69	516	12	14	5	1877	129	20	1		25	352	257	74	10	32	1	6	0	4087

【有形文化財（建造物）】

市域には、松代地区に松代城下町、第二地区に善光寺門前町、戸隠地区に戸隠神社の宿坊群といった、歴史的建造物が多く残されている町や、北国街道や松代道沿いの丹波島宿^{たんぱしまじゆく}や善光寺宿、川田宿^{かわだじゆく}、長沼宿^{かじろじゆく}、神代宿などの旧宿場町に当時の面影を残す町並みが残されている。



麻煮の釜屋（信州新町）

町並みを形成する建物以外では、信州新町地区にある麻煮の釜屋^{おに かまや}などは、かつて盛んだった麻生産の様子を伝える貴重な建造物といえる。

建造物のうち石造物については、昭和50年代に郷土を知る会によって平成合併前の旧長野市域の所在調査が実施され、平成に入り合併した豊野町、鬼無里村、戸隠村、中条村、信州新町については旧町村時代に悉皆調査が行われている。また大岡村については、合併後に長野市立博物館で悉皆調査を行った。

市域の石造物の中で特徴的なものに、徳本行者^{とくほんぎょうじや}の六字名号塔がある。独特の書体で「南無阿弥陀仏」^{なむあみだぶつ}と刻まれ、脇に「徳本」の名が刻まれた石碑のことだが、これは近世の念仏行者徳本(1758-1818)が念仏行の布教に用いた六字名号札を石碑に刻んだもので、その数は市域で96基にのぼる。そのほとんどが、徳本行者が念仏教化のために市域を訪れた文化13(1816)年の年号を刻んでおり、徳本行者の巡錫^{じゆんしやく}がこの地に与えた影響の大きさを物語っている。



徳本名号塔（更北 法蔵寺）

【有形文化財（美術工芸品～絵画）】

第二地区善光寺大勧進には14世紀から15世紀の作とされる絹本著色文殊菩薩像^{けんぽんちやくしよくもんじゆぼさつぞう}や五代力菩薩像^{ごだいりきぼさつぞう}、日枝山王曼陀羅図^{ひえさんのうまんだらず}など貴重な絵画資料が所蔵されている。このほか市域の社寺を中心に仏画等が多く残されていると想定されるが、悉皆調査等が行われていないため、現在のところその全容は不明である。

【有形文化財（美術工芸品～彫刻）】

市域には古社寺が多く存在し、そこに祀られている神仏像にも古いものがみられるが、昭和9(1934)年に更埴教育会こうしよくきょううかいの主催で日本美術史家の源豊宗みなもととよむねを招いて実施した仏像調査以降、市域全体を対象とした調査が行われていないため、その全容は把握できていない。また、



長谷川政七作 弘法大師（鬼無里）

時代は下るが、近世に第四地区の新田町近辺で善光寺仏師を名乗り活動していた、長谷川姓の仏師の手による仏像が各所に残されている。このほか、鬼無里・中条地区にまたがる虫倉山を拠点に山岳修行をしていた木食聖もくじきひじりの一派が修行の一環として作った仏像が、虫倉山周辺地域の社寺や家庭に残されている。これらは、木片などから作られた素朴な仏像で、主な製作者であった木食山居もくじきさんきよの名前から山居仏さんきよぶつと呼ばれ親しまれている。

【有形文化財（美術工芸品～工芸品）】

松代地区にその数が多いのは、松代藩主真田家の大名道具を所蔵する真田宝物館があるためで、能装束や蹴鞠道具といった文化財が残されている。善光寺のある第二地区には大勧進に刺繍阿弥陀三尊来迎図(16世紀)が所蔵されている。繡仏の阿弥陀来迎図は、鎌倉～室町時代頃に庶民の間に広がった浄土信仰の隆盛に合わせて多くつくられたが、現存するものは少なく、県内では唯一のものである。

【有形文化財（美術工芸品～書跡・典籍）】

書跡としては佐久間象山筆の蚊里田八幡宮幟旗、勝海舟筆の南高田伊勢神社幟旗、化政期に活躍した小布施町出身の文化人、高井鴻山筆の川中島養蚕神社幟旗など著名人が揮毫した幟旗が市域各神社に残されている。



蚊里田八幡宮七反幟

典籍としては、親鸞聖人絵伝や鬼女紅葉狩の図（いずれも市指定文化財）も所蔵する長沼地区の西巖寺に、源氏物語五十四帖や一条兼良書住吉物語が

残されている。また、古牧地区の光蓮寺には、永享11(1439)年に当時の住職が京都本願寺に参詣した際に授かった蓮如上人御染筆の奥書のある聖教が残されている。

【有形文化財（美術工芸品～古文書）】

古文書は過去の『長野県史』や『長野市誌』、また市域の旧町村史等の文献から抽出したところ、1,877件にのぼった。しかし過去の文献に掲載されている古文書は、それが属する古文書群の中から選定されたものである場合が多く、母体となる古文書群を含めれば、実際の所在数は相当の数にのぼると思われる。抽出した古文書の時代は近世のものがほとんどである。数の多い文書群としては第二地区の大勸進と大本願に所蔵されている善光寺関係の文書群などがある。これらの古文書は現在、長野市立博物館や長野市公文書館といった公的機関に寄贈・寄託されているものが多いが、個人所有のものもある。個人所有のものについては、現在所在の確認が取れていないものがほとんどであり、災害等で人知れず滅失してしまう危険も高いため、公的機関への寄贈・寄託を働きかけていく必要がある。

また、過去の文献からは見いだせなかったが、戸隠地区にある戸隠神社とその宿坊群には戸隠神社の歴史を物語る多くの古文書が残されている。これまではほとんど調査されてこなかった戸隠の文書群だが、現在、地元所有者と研究者による調査と整理が始められたところであり、今後戸隠の詳細な歴史が明らかになっていくと思われる。

【有形文化財（美術工芸品～考古資料）】

飯綱高原の上ヶ屋遺跡（芋井地区）からは、後期旧石器時代（ナイフ形石器文化期）の関東・中部地域（茂呂系）、東北・北陸地域（杉久保系）、近畿・瀬戸内地域（国府系）、それぞれの技術系譜をひく石器が出土した。縄文時代では、旭町遺跡（第一地区）出土のタカラガイ形土製品や宮崎遺跡（若穂地区）出土のサメ椎骨製耳飾など、内陸部と海浜部との交流を示す資料が出土している。弥生時代後期後半では、赤色塗彩された箱清水式土器（通称「赤い土器」）が長野盆地を中心に千曲川流域に広く分布して文化圏をなす。同時期の環濠集落である水内坐一元神社遺跡（柳原地区）からは、棘状装飾と赤色塗彩が施された木盾が出土している。また、浅川端遺跡（吉田地区）からは、三世紀代に日本列島に渡来したと考えられる馬形帯鉤が出土し、注目される。古墳時代では、長野盆地における古墳出現期に遡るとされる和田東山3号墳（若穂地区）の発掘調査により、未盗掘の竪穴式石室から内行花文鏡、大刀、鉄剣、鉄槍、鉄鏃、鉄斧などの副葬品が出土した。松ノ山窯跡（信更地区）からは県内最古級である6世紀初頭の須恵器窯が見つかり、須恵器や窯道具などが出土している。平安時代では古代斗女郷の中心と目される南宮遺跡（篠ノ井地区）から、瑞花双鳳八稜鏡や「宗清」銘の陶印、石帯（巡方、丸軛）、緑釉陶器など有力者の存在を示す遺物が多数出土した。中世では、有力国人・栗田氏の館跡とされる栗田城跡（芹田地区）から、善光寺式阿弥陀仏の小銅仏が出土している。

【有形文化財（美術工芸品～歴史資料）】

歴史資料としては、長野市立博物館の市内絵馬所在調査（平成19年～平成21年）により、市域に近世～戦前にかけての絵馬が約200点所在していることが分かっている。その中にはかくれだきふどう（芋井地区）の養蚕作業図絵馬や、各地にみられる裁縫絵馬など当時の生業・生活の様子が窺えるものや、つましなじんじや（第四地区）の御柱祭行列図絵馬やがわじんじや（安茂里地区）の山王神社祭礼図絵馬など当時の祭礼の様子を伝えるものなどがある。またほおりじんじや（松代地区）のまの神図絵馬は、近世後期に魔除け疫病除けの利益で信仰を得た山梨岡神社の御神体を描いたもので、まの神の信仰が市域にも伝わっていたことを示す貴重な文化財である。



まの神図絵馬（松代 祝神社）

【無形文化財（伝統工芸）】

市域の伝統工芸には、根曲がり竹を使った戸隠地区の竹細工、松代地区の光沢のある青緑色が特徴の松代焼のほか、手描き友禅や組子細工などがあり、いずれも県の伝統的工芸品に指定されている。



戸隠竹細工



松代焼

【民俗文化財（有形の民俗文化財）】

市域の有形の民俗文化財としては、善光寺門前町（第一地区から第五地区）の各町で所蔵している祭り屋台がある。これらの屋台は、上西之門町（第二地区）にある弥栄神社^{やさかじんじや}で7月に行われる祇園祭のときに曳き出される。文政年間(1818－1831)につくられた「善光寺祭礼図巻」^{ぜんこうじさいれいずまき}（真田宝物館蔵）には、各町の屋台が善光寺門前を巡行する様子が描かれているが、その頃の屋台は弘化^{こうか}4（1847）年の善光寺地震により西町上組の屋台を残し、全て焼失あるいは損壊してしまった。現在の屋台は弘化の地震以降のものであり、その多くは幕末から明治、大正にかけて新造されている。新造された屋台は、ちょうどその頃各地の社寺彫刻を手掛けていた妻科村（第四地区）の宮大工山崎儀作^{やまざきぎさく}の手になるものが多く、柱や天井に多数の彫刻が施されている。

地区	町名	屋台の種類	製作年	製作者	保存状況
第一	桜枝町	本屋台	明治28年	山崎儀作	解体保存
	西町上	本屋台	寛政5年	—	組立展示
	西之門町	踊り屋台	明治26年	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
第二	元善町	本屋台	江戸末～明治初期	山崎儀作	解体保存
		踊り屋台	大正8年	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
	岩石町	踊り屋台	—	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
	東町	本屋台	明治5年	山崎儀作	組立展示
	大門町上	踊り屋台	大正3年頃	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
大門町南	本屋台	安政6年	山崎儀作	解体保存	
第三	問御所町	本屋台	明治5年	山崎儀作	組立展示
	権堂町	二階建て	大正5年	和田三郎次	解体保存
	南千歳町	本屋台	昭和5年	—	解体保存
	上千歳町	踊り屋台	昭和初期	—	解体保存
	緑町	本屋台	明治初期	北村喜代松一門	組立展示
第四	西後町	本屋台	明治5年	山崎儀作	組立展示
	新田町	踊り屋台	大正13年	—	解体保存
		本屋台	平成30年	—	組立展示
第五	南石堂町	踊り屋台	昭和12年	—	解体保存
	北石堂町	本屋台	昭和11年	—	解体保存

（「長野市歴史的風致維持向上計画」掲載の表を基に作成）

【民俗文化財（無形の民俗文化財）】

1. 風俗習慣

文献から市域社寺の祭礼や年中行事、講行事を拾い上げた結果、352 件にもものぼったが、現在も継続して行われているかは不明であり、今後把握作業が必要である。ここでは現在でも行われている風俗習慣に関わる文化財を紹介する。

（食文化）近世以降、市域の平地部では米と麦の二毛作が、山間部でも麦や蕎麦の栽培が行われていたため、「うどん」・「そば」・「おやき」といった粉食が発達した。作り方も麺を短めに平たくして、もろもろの野菜と一緒に煮込む「おぶっこ」や、あらかじめ野菜等を入れて煮た煮汁の中に、投げ籠に入れたそうめんを浸し、一杯分のわん碗の中に煮汁と合わせて入れて食す「おとうじ」などバラエティーに富む。「おやき」は、小麦粉を水で練った生地あんに餡となる具材を載せて包んで蒸す、あるいは焼いたもので、餡の具材にはこの地で獲れる丸茄子や野沢菜、切り干し大根が使われることが多い。かつては米食の間を埋める代用食として各家庭で日常的に作られていたが、現在では県を代表する郷土食として広く知られるようになった。

市域の西部中山間地を含むにしやまちほう西山地方と呼ばれる地域では、冠婚葬祭の際に「えご」と呼ばれる食べ物が出される。「えご」はエゴグサと呼ばれる海藻の煮凝りのことで、ようかん羊羹状に固めた後、刺身状にして出される。これを酢味噌などにつけて食す。「えご」の味は無味に近く、磯の風味が強い。隣県の新潟では日常食として食べられるのに対しハレの料理として食べられることや、煮凝りの際にあえて濾さずに磯の風味を強く出した方が好まれるなどといったところは、山国ならではの習慣といえる。

季節の風物詩として春先に食べられるのが根曲がり竹のタケノコである。根曲がり竹とは厳寒地に自生するチシマザサの若竹のことで、積雪が多く厳しい寒さの戸隠地区に多くみられる。市域では根曲がり竹のタケノコの時期になると、缶詰の鯖の水煮と一緒に味噌汁にして食す。そのため、この時期はスーパーなどで鯖の水煮缶が山高く積まれる光景がみられる。

（北信流）市域を中心に北信濃にしかみられない風習として北信流があげられる。北信流とは、酒宴の途中、年配者の発言によって酒宴の主催者と主賓が宴席の中心に進み、相対して杯を酌み交わすというもので、杯を酌み交わす間、さかな肴と称して謡が謡われるのが特徴である。北信流が行われると用事のある参加者は退席ができるとして、酒宴の中締めの意味もある。北信流で重要なのが肴と称する謡である。北



えご

信流は、明治以降にこの地域に広まったものだが、当時は肴を出すよう突然振られても良いように、謡の一つ二つは覚えているのが当たり前とされ、農家の男性は^{たしな}嗜みとして冬の農閑期などを利用し謡曲の師匠について謡を習った。このような風習が市域を中心に広まったのは、近世松代藩の武士階級に広まっていた謡が近代に入って民衆に広まったことによる。その範囲は松代藩領をこえて北信濃一帯にわたったため、北信濃の別称である「北信」の名を冠して北信流と呼ばれる。



北信流

2. 民俗芸能

(獅子舞) 民俗芸能については、平成 30(2018)年に文化芸術課が全市を対象にアンケート形式で「地域のお祭り調査」を実施しており、特に獅子舞については各地の現状が把握されている。獅子舞は全市にわたって保存会等により継承されており、その数は 256 にものぼる。地区によっては小さな組単位で獅子舞を継承しているところもある。

(絵解き) このほか市域を特徴づける芸能に絵解きがある。絵解きは、仏画を用いて社寺の縁起や仏教説話などを説明する文芸の一つである。市域では、県宝の善光寺如来絵伝を所蔵しその絵解きを行う第二地区の淵之坊や、第一地区の^{おうじょうじ}往生寺、第五地区の^{さいこうじ}西光寺など善光寺近辺の寺院で絵解きが行われている。



西光寺の絵解き

往生寺と西光寺では、両寺とも^{かるかや}刈萱親子の伝承が伝わるところから、往生寺では「刈萱親子御絵伝」(2幅)、西光寺では「^{かるかやどうしんいしどうまる}刈萱道心石童丸御親子御絵伝」(2幅)を用いて刈萱道心と石童丸親子の物語を口演している。西光寺では「六道地獄図」(6幅)の絵解きも行っている。このほか、現代ではほとんど見られなくなった絵解きを掘り起こし広めるため、地元の郷土史研究団体(長野郷土史研究会)によって、善光寺如来絵伝や^{ねはんず}涅槃図などの絵解きも行われている。

【記念物(遺跡)】

市域には 1,000 を超える遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)がある。旧石器時代の遺跡の多くは山間地に分布し、飯綱高原の上ヶ屋遺跡(芋井地区)では発掘調査が行われている。縄文時代では草創期から早期の遺跡が山間部に分布するのに対し、前期後半以降は沖積地や千曲川自然堤防上へ集落が展開する。主な遺跡として、早期の^{なべくぼ}鍋久保遺跡(大岡地区)、前期後半の^{かみあきの}上浅野遺跡(豊野地区)、^{まつのきだ}松ノ木田遺跡(浅

川地区)、中期の檀田遺跡(若槻地区)、旭町遺跡(第一地区)、前期後半から後期の松原遺跡(松代地区)、中期後半から晩期の宮遺跡(中条地区)、宮崎遺跡(若穂地区)などがある。弥生時代は千曲川の後背湿地を利用した水稲がはじまり、自然堤防上に大規模な集落が展開する。後期になると環濠集落や周溝墓がつくられる。代表的な遺跡として、千曲川自然堤防上の塩崎遺跡群(篠ノ井地



宮遺跡

区)、篠ノ井遺跡群(篠ノ井地区)、松原遺跡(松代地区)、榎田遺跡(若穂地区)、水内坐一元神社遺跡(柳原地区)などがあり、扇状地上の遺跡としては箱清水遺跡(第二地区)、東町遺跡(第二地区)、吉田高校グラウンド遺跡(吉田地区)などがある。古墳時代になると、一定の規範の下に有力者の墓である古墳が築かれる。4世紀から5世紀中頃にかけては、地域を統べる首長墓として川柳將軍塚古墳(篠ノ井地区)、土口將軍塚古墳(松代地区)、和田東山3号墳(若穂地区)、三才前方後円墳(古里地区)といった90~50m規模の前方後円墳が盆地を見下ろす尾根上に築かれるが、5世紀後半になると前方後円墳は築造されなくなり、大室古墳群(松代地区)や吉古墳群(若槻地区)のように中型から小型の円墳を中心とした群集墳が造られる。特に、大室古墳群を中心とする千曲川右岸一帯には、積石塚や合掌形石室といった特殊な古墳が集中する。奈良・平安時代以降では、盆地内の微高地を選び、多くの集落が営まれる。中でも、オリンピックスタジアム建設にあたり調査された南宮遺跡(篠ノ井地区)では、千軒を超える住居址とともに陶印や八稜鏡など貴重な遺物が出土し、古代斗女郷の中心的集落と目される。中世には在地の国人層によって居館や山城が多く築かれる。山城は長野盆地一帯で200近く確認されており、旭山城、葛山城、大峰城、髻山城、若槻山城、尼巖城、清瀧城、寺尾城など、川中島の戦いに関わるものも多い。

【記念物(名勝地)】

名勝地として小田切地区の小田切八景は、明治44(1911)年に地元住民が滋賀県の近江八景にちなみ、地元の名勝地を八つ選定したもので、両郡橋、三竈神社、富士の塔などがあげられている。このほか長沼地区で選定した長沼十二景と呼ぶ12か所の名勝地などがある。

【記念物(動物・植物・地質鉱物)】

動物では若穂地区の穴水不動に生息するクロサンショウウオ、植物では市域の神社の御神木(多くがケヤキ)や、小田切地区にあるヒカゲツツジ、ヤマシャクヤク、スズランといった植物の群生地などがある。また、地質鉱物では、明治4(1871)年

に日本で最初の商業生産が行われた浅川地区の油井（石油井戸）や、江戸時代の紀行文に地獄の火として紹介された小田切地区の天然ガス、昭和まで白土の名で精米の搗き粉や磨き粉として利用されていた小田切・安茂里地区の裾花凝灰岩など、人々の暮らしと結びついたものが見られる。



浅川の石油井戸



安茂里の裾花凝灰岩

第3章 長野市の歴史文化の特性

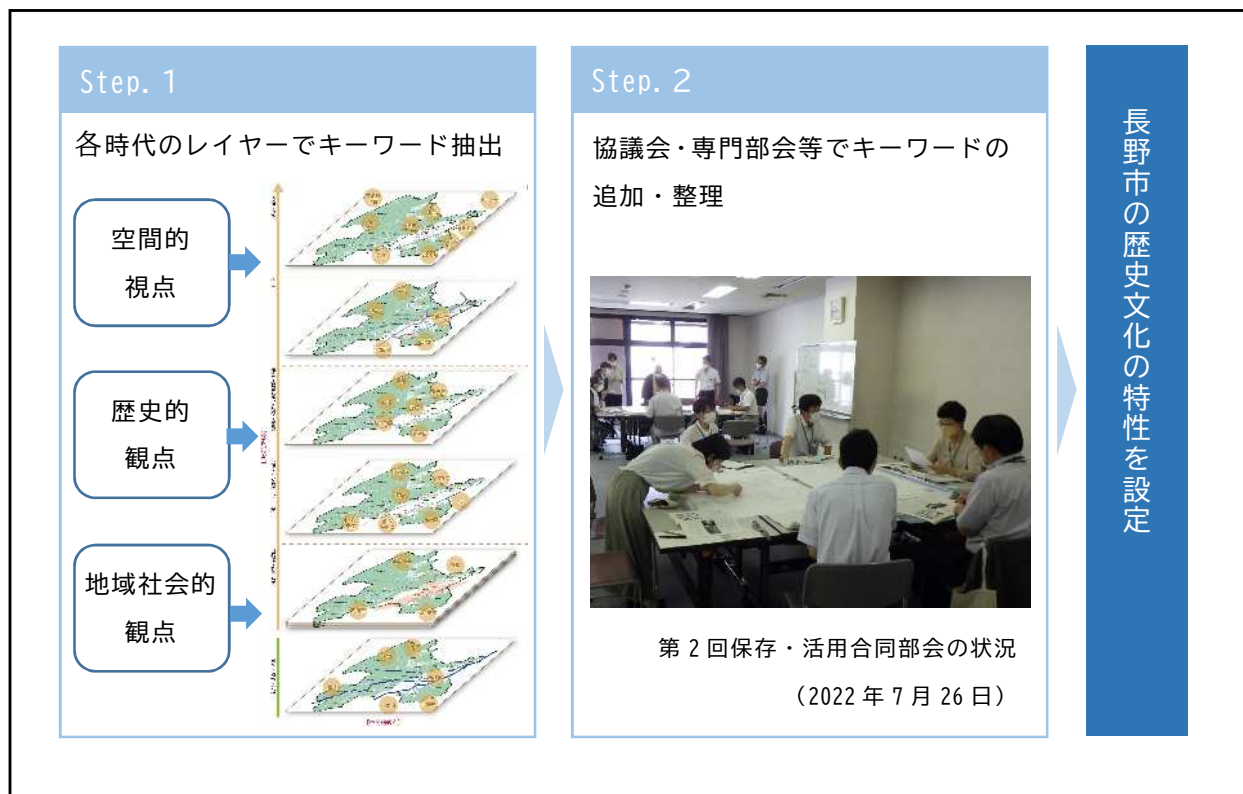
1 歴史文化の特性の整理の経緯

(1) 歴史文化の定義と特性

「歴史文化」とは、文化財とその周辺環境（文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等）とが一体となったものを意味する。よって「長野市の歴史文化の特性」とは、長野市の歴史や文化にまつわる地域的な特色や、長野らしさをかたち作る文化財と、その周辺環境のことを示す。長野市の多様な文化財の価値や魅力を理解し保存・活用を考える上で、文化財を生んだ長野市の歴史文化の特性を踏まえることは重要である。

(2) 歴史文化の特性の整理の方法

歴史文化の特性の抽出にあたっては、空間的視点（自然環境や地形）や歴史的観点（時代区分）、地域社会的観点（出来事やテーマ）から想定される長野市のキーワードを出し合い、保存活用地域計画協議会での検討を重ねて、キーワードを抽出した。それらのキーワードを地質学的特性、交流拠点としての特性、人々の信仰としての特性、政治・経済的な特性、生活文化の特性という視点からまとめ直し、五つの歴史文化の特性を抽出した。



◎長野市の歴史文化の特性として抽出されたキーワード

		地質的特性	交流拠点	人々の信仰	政治・経済	生活文化
	自然	海だった長野/ 地すべり/地下 資源/地殻変動	千曲川/犀川	山岳/湧水地	複合扇状地/ 千曲川/犀川	複合扇状地/ 千曲川/犀川/ 西山
時代区分	原始	地下資源/自然 堤防/後背 湿地/扇状地	環濠集落	周溝墓	赤い土器のクニ	採集/農耕
	古代	シナノの呼称由来	東山道	飯縄山/善光 寺縁起/戸隠 山/水神信仰/ 修験/荘園/末 法思想	前方後円墳/ 大室古墳群	荘園
	中世	山城	大塔合戦/横 田河原合戦/ 中先代の乱/山 城/川中島合 戦	善光寺聖/善 光寺如来の流 転	善光寺門前	環濠居館
	近世	戌の満水/善光 寺地震/鉾山 開発	北国街道/渡し 場/善光寺道/ 通船/講/宿坊 /門前町	戸隠信仰/戸 隠講/宿坊群/ 戸隠修験/里 修験/皆神修 験/作仏聖/出 開帳	善光寺本堂再 建/門前町/城 下町松代/真 田家の大名道 具/麻/山中紙 /漆/養蚕	都市祭礼/二 毛作/粉食/用 水/善光寺門 前の防火対策/ 木綿/麻/和紙
	近代・現代	石油/松代群 発地震	土木遺産/高 速道路/冬季オ リンピック・パ ラリンピック	神仏分離/善 光寺講と宿坊/ 絵解き	県庁/鉄道/近 代建築物/善 光寺御開帳/ 商品作物/製 糸業/養蚕/竹 細工	祭屋台/獅子 神楽/煙火大 会/漁撈/内務 省堤防

歴史文化の
特性 1

歴史文化の
特性 2

歴史文化の
特性 3

歴史文化の
特性 4

歴史文化の
特性 5

◎歴史文化の特性一覧

歴史文化の 特性 1	大地の激動がもたらした恵みと災い
歴史文化の 特性 2	人々が交わる地「長野」
歴史文化の 特性 3	信仰が息づくまち「長野」
歴史文化の 特性 4	政治経済の中心「長野」
歴史文化の 特性 5	「長野」に生きる人々の暮らしと文化

2 長野市の歴史文化の特性

歴史文化の特性1 大地の激動がもたらした恵みと災い

長野市は北部フォッサマグナ地域に位置し、かつて海底だった場所である。その後の激しい地殻変動*1を受け、現在は長野盆地と東西の山地からなっている。市域の最高峰、高妻山（標高 2353m）も海底だった場所*2が隆起してできた山である。周辺の地殻変動は現在も続き、特に長野盆地を形成した西縁断層は変動量が 2,000m を超える活動度の高い活断層であり、善光寺地震の震源ともなった。こうした断層の動きにより盆地が沈降し、千曲川や犀川等の河川が市内で合流し、シナノの呼称由来ともされる級坂を形成する扇状地や氾濫原、自然堤防や後背湿地など多様な自然環境を作った。また山地が隆起することで起こる地すべり*3の跡は平坦で養分も多いので農地や集落が形成されてきた。こうした自然環境の多様性が素地となり、山地や盆地ではそれぞれの特性を生かした農耕や生活が営まれ、多様な生活文化を育成した。

また、地下資源*4として油田や天然ガス・亜炭などのエネルギー源、石材として利用される火山岩類、さらに、湧水や地下水、温泉などの恵みを私たちにもたらしている。一方で、長野盆地の成り立ちは災害とも深くかかわっている。戌の満水、善光寺地震、松代群発地震、盆地西縁部や西山地区の地すべり、令和元年東日本台風による水害など、市域には私たちとその祖先たちが災害と戦いながら生き抜いてきた痕跡が数多く残されている。

キーワードと主要トピックス

- *1 地殻変動…活断層、長野盆地西縁断層、善光寺地震、盆地の沈降、山地の隆起
- *2 海底だった場所…シンシュウセミクジラ（信州新町）、セイウチ（中条・信州新町）ダイカイギュウ（戸隠・中条）、ホホジロザメ（戸隠）、シナノホタテ、ナガノホタテ、シガラミサルボウなどの貝化石（戸隠・鬼無里・中条・信州新町など）
- *3 地すべり…茶白山の地すべり、地附山の地すべり、地すべり地をいかした集落、芋井・鬼無里・七二会・中条などの棚田
- *4 地下資源…浅川油田、石油井戸跡、善光寺参道敷石（郷路山産）、柴石（松代）、髻石（髻山）、松代など各地の温泉



セイウチ化石



郷路山の石切場

歴史文化の特性2 人々が交わる地「長野」

長野市は長野県と新潟県との境界に当たる位置にあり、古くから内陸の山間地と日本海側をつなぐ交通の要衝^{ようしゅう}だった。様々な人々が交わる市域では、時代の節目ごとに数々の合戦^{くわくせん}*1 が繰り広げられてきた。特に戦国時代に甲斐国（山梨県）の武田信玄^{たけだ しんげん}と越後国（新潟県）の上杉謙信^{うえすぎけんしん}が激突した川中島の戦い^{かわなかしまのたたかい}*2 は、約 500 年が経過した現在でも人々のロマンを掻き立てている。

江戸時代には千曲川と犀川が合流する長野盆地に北国街道^{ほくこくかいどう}*3 が整備され、北信濃の大動脈となった。また、山地でも生活の道としての往来^{わらい}*4 が数多く整備され、新町（信州新町）や鬼無里^{おにむり}*5 などを拠点に人や物が集まり、盆地と信濃国西部の各地域との経済を結んでいた。こうした様々な道によって市域では他地域との交流が生まれ、経済が活発となり、多様な文化が集積される場となっていった。

近年では上信越自動車道や北陸新幹線も整備され、平成 10(1998)年に開催されたオリンピック・パラリンピック冬季競技大会では世界中から多くの人々が市域を訪れた。

古来より多くの人々を迎え入れてきた長野市は、交流を軸として生み出されてきた多彩な歴史文化を現在に伝えている。

キーワードと主要トピックス

*1 合戦…環濠集落、横田河原の戦い、中先代の乱、大塔合戦、山城

*2 川中島の戦い…古戦場、関連史跡

*3 北国街道…街道沿いの街並み（宿場町）、渡し場、脇往還、谷街道、峯街道

*4 往来…松代往来、戸隠往来、高府往来、早川道など

*5 新町・鬼無里…鬼無里の祭礼屋台（山車）、町家など



横田城跡



稲積の一里塚



鬼無里の屋台

歴史文化の特性3 信仰が息づくまち「長野」

三国伝来とされる生身の阿弥陀如来を本尊とする善光寺*1は、中世以降、仏教では救済に条件が付され、戒律の関係から寺院への入山も制限されることのあった女性を積極的に受け入れるなど、社会の様々な人々と結縁する開かれた霊場として、多くの人々の信仰を集め、その門前も早くから町として発展してきた。現在でも善光寺は、全国から参詣者が絶えず訪れる一大霊場であり、その門前町も賑わいを見せている。市域は善光寺を筆頭に、中世から近世にかけて修験の聖地であり、水を司る神として近世には全国に名が知られていた戸隠山顕光寺（戸隠神社*2）や、近世に川中島四郡の本山派修験年行事職として地域の里修験者を統括していた皆神山和合院など、複数の宗教的拠点が存在する信仰のまちである。

近世には、里修験や聖と呼ばれる宗教者たちが地域の人々の信仰を支えていた。江戸時代に災害や飢饉に苦しむ人々を救済するため、虫倉山を拠点に念仏を勧め、仏像を作ることで人々の平穏を祈った作仏聖*3たちの作品は今でも村々に伝えられている。

明治時代初期には神仏分離令に伴う廃仏毀釈*4によりこうした信仰拠点や宗教者たちは大きく動揺するが、その苦難の時期を克服した現在でも、「長野」の人々の祈りの歴史文化は、現在の暮らしの中に息づいている。

キーワードと主要トピックス

- *1 善光寺…善光寺信仰（本堂ほか建造物群、宿坊、講、持郡制、常夜灯、出開帳・居開帳、善光寺縁起、絵解き、正月行事）、
- *2 戸隠神社…戸隠信仰（戸隠山、五社ほか建造物群、宿坊、講、古道、水神信仰、戸隠修験、柱松神事、杉並木）、飯縄信仰（飯縄権現、石仏）
- *3 作仏聖…木喰山居、善光寺大幸
- *4 神仏分離令に伴う廃仏毀釈…戸隠神社、皆神神社、寛慶寺仁王像、蓮華院仏像



善光寺本堂



正覚院の観音菩薩



善光寺大幸作の仏像

歴史文化の特性4 政治経済の中心「長野」の誕生

古代より交通の要衝であった市域には、古墳時代には前方後円墳などヤマト政権との結びつき*1を示す文化財が存在し、この頃には政治的なまとまりが生まれていたことをうかがわせる。

長野盆地の中心部、善光寺の周辺には後町（後庁）という古代の官庁跡*2を示す地名が残っている。古くから門前町*3として多くの人々が集まる地域であったため、政治の拠点も置かれたのであろう。また、川中島の戦いを契機に築城された海津城*4（のちの松代城）は、近世になると信濃国で最大の石高を誇る大名真田家の居城となり、城のある松代は城下町*5として発展した。

明治時代に入ると長野村の内、善光寺町に県庁が置かれ、また長野県で最初の市制が施行されると、県都にふさわしく様々な近代インフラ*6が整備されていった。中央通りには洋風の近代建築物*7の商家などが相次いで建てられ、現在につながる市街地としての景観が形成された。

現在私たちが暮らすまちの風景からは、「長野県長野市」の誕生へと至るまちづくりの歴史文化を見ることができる。

キーワードと主要トピックス

- *1 ヤマト政権との結びつき…川柳將軍塚古墳、出土遺物など
- *2 官庁跡…地名、出土遺物など
- *3 門前町…宿坊群、町屋、弥栄神社、善光寺三鎮守など
- *4 海津城…松代城、新御殿など
- *5 城下町…武家屋敷、泉水路、大名道具
- *6 近代インフラ…鉄道・道路整備、電気・ガス・水道整備など
- *7 近代建築物…藤屋旅館など参道沿いの建物、停車場、公官庁舎



埴輪円筒棺
(川柳將軍塚古墳出土)



松代城跡



開業当時の長野停車場



旧長野県庁舎

歴史文化の特性5 「長野」に生きる人々の暮らしと文化

市域では、山地*1・盆地*2 で多様な生活文化が生まれ、地域間の交流がなされてきた。山地・盆地の生産生業・商品流通を背景として郷土色豊かな食文化*3 が発展し、またかつては山地で生産される作物が商品作物として盆地の町場の生活を支えていた。おやきに代表される粉食こなしよくは今も親しまれている。また、千曲川水系*4 の河川が流れ込み、かつては河川や用水を利用した漁撈ぎょらうが行われ、通船つうせんが行き交い、川とともに生活が営まれてきた。

多様な生活文化を背景にして、各地では多様な年中行事・祭礼・芸能*5 が行われてきた。現在でも道祖神どうそじんの祭、獅子舞ししうまい、御柱祭おんむらさきなどが盛んに行われ、神社や地域の祭事にあわせて花火の打ち上げも見る事ができる。善光寺門前をはじめとするかつての町場には屋台が残り、祭礼で巡行する姿も見られる。

キーワードと主要トピックス

- *1 山地…麻生産、麦作、養蚕、風穴ふうけつ、山中紙さんちゅうし、竹細工
- *2 盆地…木綿、養蚕、製糸、二毛作、堰
- *3 食文化…おやき、せんべい、おぶっこ、えご
- *4 千曲川水系…千曲川、犀川、つけば、漁撈、通船、荷上場にあげば、用水、地割慣行ちわりかんこう
- *5 年中行事・祭礼・芸能…道祖神祭、獅子舞、煙火えんか、御柱祭、祇園祭と屋台、地蔵盆



犀川神社の太神楽



篠ノ井越の人形道祖神



ながの祇園祭



松代の御柱祭



おに 麻煮の釜屋かまや

第4章 文化財の保存・活用の方針と措置

本計画は市内に残る文化財の価値と魅力を一人でも多くの市民と共有し、大切に使いながら将来に継承していく活動を行うことで、市民にも来訪者にも魅力のある、「長野らしさ」を伝える文化財を活かした歴史文化都市を目指すものである。これを実現するために次のような四つの基本方針を設定した。

基本方針1 文化財を掘り起こす(調査)

地域で守り伝えてられてきた多様な文化財を、市民と共に掘り起こし、価値づけをすることで、魅力ある長野の歴史文化の特徴を、広く共有していく

基本方針2 掘り起こした文化財を保存する(保存)

経年劣化や災害等による文化財の滅失・損傷を防ぎ、確実に保存していくため、日常の維持管理と計画的な修理を行う。

基本方針3 歴史文化の魅力を伝え活用する(活用)

市内の多様な文化財の魅力を市民や来訪者(観光客等)の誰もが知ることができ、その本質的価値を理解し、日常的に活用していくことで、文化財の保存と活用の好循環を生み出していく。

基本方針4 文化財が継承される仕組みを作る(継承)

社会環境の変化による文化財の担い手不足や、保存に関わる専門人材の不足、保存に必要な資金・資材の不足に対して、市民・行政・民間団体等が一体となって次世代に継承していく仕組みを構築する。

この4つの基本方針に沿って計画を進めるにあたり、現在の現状と課題を以下に記す。

1 文化財調査における現状と課題

(1) 把握^{はあく}調査

現状) 未指定文化財を含めた文化財については、第2章で示した通り、各分野や地域によって調査が進められてきた。今回の計画作成にあわせて実施した把握状況は表のとおりである。地区によっては地元の文化活動団体等により各種調査や刊行物作成が行われている。

課題) 地区単位で文化財の調査や刊行物作成が行われていることは承知しているが、活動実績のデータ集積までには至っていない。そのため、表において「未調査」あるいは「調査不足」となっている箇所であっても、すでに把握調査が完了していることも想定され、その確認をして行く必要がある。ただその数は膨大なため、地域

の研究団体等と連携しながら、計画的に進めていく必要がある。

以下、文化財の種別毎に調査状況を記載する。

地区	有形文化財								無形文化財	民俗文化財			記念物				
	建造物	美術工芸品						有形の民俗文化財		無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質・鉱物	
		絵画	彫刻	工芸品	書跡・典籍	古文書	考古資料			歴史資料	風俗習慣						民俗芸能
第一	△			×	×	△	×	△	×	□	△	△	×	×	×	×	×
第二	○	□	□	□	×	□	○	△	×	□	△	△	△	×	×	×	×
第三	△	×	×	×	×	△	×	×	×	□	△	×	×	×	×	×	×
第四	△	×	△	×	×	△	×	△	×	□	△	△	×	×	×	×	×
第五	△	×	×	×	×	△	×	△	×	□	×	△	×	×	×	×	×
芹田	△	×	△	×	×	△	○	×	×	×	△	△	×	×	×	×	—
古牧	△	△	△	×	△	△	×	△	×	×	△	△	△	×	△	×	—
三輪	△	×	×	×	×	△	×	×	×	×	△	△	△	×	×	×	—
吉田	△	×	×	×	×	△	×	△	×	×	△	△	△	×	×	×	—
古里	△	×	×	×	×	△	×	×	×	×	△	△	△	×	×	×	—
柳原	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	△	△	×	×	×	×	—
浅川	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	△	△	△	×	×	×	○
大豆島	△	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	△	△	×	×	×	—
朝陽	△	×	×	×	×	△	×	△	×	×	△	△	×	×	×	×	—
若槻	△	×	△	×	×	△	×	△	×	×	×	△	△	×	×	×	—
長沼	△	△	△	×	△	△	×	×	×	×	△	△	△	△	△	×	×
安茂里	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×	△	△	△	×	×	×	○
小田切	△	×	△	×	×	△	△	×	×	×	△	×	×	△	△	×	○
芋井	△	□	□	×	×	△	×	△	×	×	△	△	△	×	×	×	○
篠ノ井	△	△	△	×	△	△	○	△	×	×	△	△	×	×	×	×	○
松代	○	□	□	□	□	□	△	□	○	×	△	△	△	×	×	×	○
若穂	△	△	△	△	×	△	○	△	×	△	△	△	△	×	△	△	○
川中島	△	×	△	×	△	△	×	△	×	△	△	△	△	×	×	×	—
更北	△	△	△	×	×	△	○	△	×	×	△	△	△	×	△	×	—
七二会	△	×	△	×	×	△	×	×	×	×	△	△	△	×	△	×	×
信更	△	×	△	×	△	△	×	△	×	×	△	△	×	×	×	×	○
豊野	×	×	×	×	×	△	×	△	×	×	×	△	×	×	△	×	○
戸隠	○	×	×	×	×	□	×	△	×	×	△	△	×	×	□	□	○

地区	有形文化財								無形文化財	民俗文化財			記念物				
	建造物	美術工芸品								有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物	
		絵画	彫刻	工芸品	書跡・典籍	古文書	考古資料	歴史資料									風俗習慣
鬼無里	△	□	□	×	×	△	×	△	×	×	△	△	△	×	□	□	○
大岡	△	×	×	×	×	△	×	△	×	×	△	△	△	×	△	×	○
信州新町	△	×	□	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	△	×	○
中条	△	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	△	×	○

- 過去の文献や調査で把握されている。また現況においてもほぼ確認している。
 - △ 過去の文献や調査である程度把握されているが、未調査の部分や現況確認ができていない部分が多い。
 - ×
 - 調査未実施
 - 調査の対象外
 - 近年把握調査が行われた。あるいは現在現状把握調査が進められている。
- 注記 民俗芸能が○→文化芸術課で平成30年に地域のお祭り調査を実施しているため
 第二地区の□→長野市立博物館による善光寺周辺の仏教美術調査・祭礼調査
 松代地区の□→真田宝物館による調査
 信州新町・中条地区の□→旧町村時代に仏像の悉皆調査を実施済み
 鬼無里・芋井地区の□→お堂の什物調査

ア 有形文化財（建造物）

現状）過去に実施された調査により、江戸時代前半期までの建造物については、一定程度把握が進んでおり、指定等文化財になっている。江戸時代後半期以降の建造物については、善光寺周辺、戸隠中社・宝光社周辺、松代城下町など、区域を限定した調査は実施している。特に松代地区では、住民自治協議会が信州大学と連携して国登録有形文化財を目指した継続的な調査を実施しており、地域と専門機関が連携して調査を進める先行事例といえる。

課題）善光寺・戸隠・松代地域以外の地域では、建造物についての把握調査が必要である。

イ 有形文化財（美術工芸品【絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍】）

現状）現在長野市立博物館を中心に、善光寺及び周辺の関連寺院を対象にした仏教美術調査を行っているほか、松代地区では真田宝物館を中心に継続的な調査が行われている。また、芋井地区と鬼無里地区では地区の歴史研究団体に市立博物館と文化財課が協力する形で、地区内に所在するお堂の什物^{じゅうぶつ}について、絵画・彫刻・工芸

品 等も含めて悉皆調査を継続して行っている。

課題) 上記以外の地区についても把握調査を行っていくためには地元の研究団体等との連携が必要となる。

ウ 有形文化財（美術工芸品【古文書】）

現状) 古文書は過去に編纂された旧町村誌等からの拾い出しによってほぼ全ての地区に存在が確認された。そのなかで善光寺が所在する第二地区については市立博物館によって、松代地区においては真田宝物館によって、地区内社寺の古文書調査が進められている。

課題) 指定文化財及び上記の文化財を除けば、その多くは現在の所在確認がなされていない。また、文献に掲載された古文書は古文書群の中の一部を取り上げていることが多いため、掲載された古文書だけでなくそれが属する古文書群を把握する必要がある。さらに現在多数の古文書を収蔵している公的機関が行っている古文書の整理及び、展示や公開等の活用を今後も継続して行っていくことが求められる。

エ 有形文化財（美術工芸品【考古資料】）

現状) 近年の発掘調査による出土品については埋蔵文化財センターによって把握されている。

課題) 旧町村誌等に記載されている未指定の考古資料については十分な現状把握ができていない。

オ 有形文化財（美術工芸品【歴史資料】）

現状) 善光寺及び周辺の関連寺院（第二地区）及び松代地区においては、それぞれ市立博物館と真田宝物館によって現在も把握調査が進められている。

課題) 上記以外の地区については把握調査がなされていない。

カ 無形文化財

現状) 市内の地区単位で見ると、地域の歴史研究団体による文化財調査の中で無形文化財も把握されているところが見られる。

課題) 無形文化財を対象とした全市的な把握調査はこれまで行われていない。

キ 民俗文化財（有形の民俗文化財）

現状) 市内の地区単位で見ると、第一から第五地区に所在する祇園祭ぎおんまつりの屋台調査など地域によって把握調査が行われているところも見られる。

課題) 全市的な把握調査はこれまで行われていない。

ク 民俗文化財（無形の民俗文化財）

現状) 民俗芸能については、2018年に文化芸術課が全市を対象にアンケート形式による「地域のお祭り調査」を実施しており、特に獅子舞については現状が把握されている。風俗習慣については年中行事等が、旧町村誌等の記載の拾い出しによってほぼ全ての地区で確認される。

課題) 民俗芸能については獅子舞以外のものについては現状把握がされていない。

風俗習慣で把握された年中行事等には、現在では実施されていないものも多く含まれており、行事の実施状況等の把握調査が必要である

ケ 記念物（遺跡）

現状） 遺跡のうち、国・県・市指定となっている史跡については、文化財課で把握している。また未指定のうち山城については研究者による悉皆調査が行われている。

課題） その他の遺跡については現況について未確認のものがある。また悉皆的な把握としては調査が不足している。

コ 記念物（名勝地）

現状） 過去に国の調査が実施されており（2011、2012「名勝に関する総合調査」、一通り把握されている。

課題） 過去の調査地のそれぞれの現況についての確認が不十分であり、調査確認の必要がある。

サ 記念物（動物・植物・地質鉱物）

現状） 戸隠地質化石博物館（長野市立博物館分館）の調査により、戸隠周辺地区については動物・植物・地質鉱物いずれもほぼ把握されている。

課題） 上記以外の地区については調査不足であり、調査対象文化財の有無についても不明なところが多い。

（2）詳細調査

現状） 市内の指定等文化財については、指定等から時間が経過しているものが多く、その価値や実態について、不明な点が多い。

課題） 新たに把握された未指定文化財の価値を判断するためにも、把握調査と並行して、今日の研究水準に照らして指定等文化財を価値づける再確認調査が必要である。

2 文化財の保存における現状と課題

（1）行政で所管する文化財の保存管理

現状） 文化財の保存に関しては、市が保有・保管する^{ぼうだい}膨大な文化財、資料の特性に即して博物館等施設を拠点に収蔵・展示・調査研究にあたっている。

課題） 今後もそうした機能と運営体制を維持し、これらの施設において文化財の適切な保存・公開環境の確保が求められるが、収蔵品の増加や施設の老朽化により、博物館等の収蔵施設における適正な環境維持が困難な状況になっている。

また市所有建造物の防災対策についても、国の指針に準拠する防災対策の実施には至っていない。日常的な維持管理の状況の確認や改善、防災に対する意識の啓発や設備の更新、新設など、実際に災害に際して動ける設備と対策が不足している。

（2）民間所有文化財の保存管理

現状） 個人や団体に保存管理を行っている文化財については、少子高齢化が加速し、

文化財の担い手が減少する中であって、経年変化の状況把握、清掃活動、定期的な保存修理など、次世代に引き継ぐための日常的な維持管理の継続が困難になっている。また、歴史的建造物等の文化財については、火災・地震等による滅失の危険性が常に伴うため、防災対策が必要とされるが、指定等文化財であっても、対策は十分ではなく、未指定文化財においてはなおさらである。また無形文化財や無形の民俗文化財のなかには、人口減少や高齢化といった社会状況や災害などにより、継続が危ぶまれているものが多い。

課題) 文化財の所有者や所有団体が属する地域全体で、文化財の日常的な維持管理の担い手の拡大に取り組むとともに、文化財の保存・活用にノウハウをもつ専門家や、文化財保護に関心を持つ地域外の人たちとの連携などを検討していく必要がある。また無形文化財や無形の民俗文化財については、できるだけ記録作成を行い、維持が困難となった場合においても、その内容について後世へ伝えられるような備えをしておく必要がある。

文化財の防災対策については地域での体制づくりが求められる。また建造物保存のためには、一定期間ごとの修理修復が不可欠であるが、修復には多額の費用がかかること、文化財を修復する専門的な職人が不足していることも大きな課題の一つである。

3 文化財の活用における現状と課題

(1) 文化財を学ぶ機会

現状) 本市の博物館等や史跡には、市内外の多くの小中学生が社会科見学に訪れているが、それ以上深く文化財にふれたり学んだりする機会は少ない。また、公民館や小中学校への出前講座は、要請に応じて実施している一方、教育委員会主催の講演・講座は少ない。

課題) 市有施設や市の所蔵文化財に関する情報を積極的に発信していないため、市民にとって文化財を学ぶ機会が不足する現状がある。また、学校教育においては、子どもたちが文化財にふれる機会を増やすために地域の文化財を教材化するなど、学校と連携を図っていく必要がある。

(2) 文化財に関する情報発信

現状) 市内では、地域差はあるが地域団体によって文化財に関わる活動が数多く実施されている。また、博物館等では、調査研究に基づく展示や公開が行われているが、現状では、広報活動が弱く、それらの情報が広く市民に周知されていない。

課題) 活動団体の存続に関する問題もあるが、これまで以上に関係団体と交流・連携し取組や、長野市の歴史文化の魅力を分かりやすく伝えるために、文化財活用に関する情報発信を強化・工夫する必要がある。

（３）文化財を生かした文化観光

現状）松代や善光寺周辺では、文化財を生かしたイベントが数多く行われているが、そのほかの地域においてはまだ少ない。

課題）個々の文化財をつなげるようなストーリー作りや、観光客が魅力に感じるコンテンツの作成を、観光事業者と連携しながら進めていく必要がある。

（４）文化財を軸としたまちづくり

現状）本市には善光寺周辺、戸隠、松代という、文化財が数多く集中している地域がある。善光寺周辺は宿坊群と門前町に加えて北国街道の宿場として、戸隠は山岳修験の地に展開された宿坊群・門前町として、松代は近世城下町としてそれぞれ発展しており、異なる歴史的背景と地理的環境によりそれぞれ特徴的な歴史文化を有している。

善光寺周辺では国宝善光寺本堂をはじめとする境内の文化財保存修理や防災対策が行われるとともに、宿坊群や門前町では街なみ環境整備事業による道路美装化や無電柱化が進められている。

戸隠では中社地区及び宝光社地区の宿坊群・門前町が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、所有者が行う建造物等の修理・修景事業への助成や街なみ環境整備事業による道路美装化により歴史的町並みの向上が図られている。また、まちづくり協議会と連携した防災や茅刈りに関するワークショップの実施や、戸隠神社と住民団体が中心となった県天然記念物戸隠神社おくしやしゃそう奥社社叢保存活用計画策定事業など、文化財所有者・住民団体・行政の協働による取り組みが展開をみせている。

松代では真田宝物館を中心とした継続的な調査研究・公開活用がなされているとともに、ボランティアやNPO等の活動も活発に展開されている。近年では、史跡松代城跡第2期整備を契機として松代地区住民自治協議会による文化財を核とするまちづくりの取組が進められている。

課題）これらの地域では、指定等文化財の保存・活用については一定の成果が上っている一方、持続可能な観光推進や事業展開については課題が山積している。各地区の歴史的特性を生かしたまちづくりの将来像を、関係する皆で検討し再構築する必要がある。

4 文化財の継承における現状と課題

（１）文化財の担い手

現状）民俗芸能については、獅子舞フェスティバルや伝統芸能こどもフェスティバルといった発表機会を提供することで、活動団体の継承への意思形成や担い手育成に役立っている。伝統技術については戸隠で竹細工の歴史民俗的な調査が竹細工組合と行政の連携で行われており、竹細工技術の価値の再確認や後継者育成などにつながっている。

課題) 上記の分野においては担い手育成のための事業が実施されているが、ほかの分野においても、それぞれの文化財の特性に応じた担い手育成が必要となってくる。また所有者だけでなく周りの人々や地域で文化財を担っていくという意識の醸成を図ることも必要である。

(2) 文化財の継承に必要な資金や人材

現状) 指定文化財については建造物の修理や、文化財の保存のための活動に補助が出されている。また無形の民俗文化財の分野では指定・未指定に関わらず、活動を行う団体に対してその活動や用具の修理等に対して補助が出されている。

課題) 多くの場合未指定文化財については補助の対象外となっている。また指定文化財であっても資金的な面から、全てに補助を出すことは難しい。特に建造物の保存においては、一定期間ごとの修理修復が不可欠であるが、修復には多額の費用がかかることや文化財を修復する専門的な職人が不足していることも課題であり、行政による補助以外の資金調達や、職人確保のための方策が必要である。

5 目指すべき姿を実現するための方針

以上のような文化財をめぐる現状を踏まえ課題を解決し、本計画が目指すべき姿を実現するため、13の具体的な方針を次のように設定した。

基本方針1	方針1-1 文化財を総合的に把握する
	「長野らしさ」を明らかにするため、文化財の総合的な調査を推進する。
基本方針2	方針1-2 文化財を研究し価値づける
	調査によって掘り起こした文化財を、長野市の歴史文化の特徴に照らして価値づける。
基本方針2	方針2-1 文化財を適切に維持管理する
	文化財の日常的な維持管理を適切に行うとともに、その保存状況を定期的に確認し、文化財の価値の減失を未然に防ぐ。
	方針2-2 文化財を適切に修理する
基本方針2	文化財の経年劣化に対して適切な修理を行い、文化財の価値の減減を防ぐ。やむを得ず減失してしまう文化財や、減失の危険性がある無形（民俗）文化財については記録作成を行い保存する。
	方針2-3 災害や盗難等に備える
基本方針2	災害や盗難等に備え、防災・防犯設備の整備や訓練の実施、防災マニュアルの整備を行う。

基本方針 3	方針3-1 文化財を学ぶ機会を充実させる
	文化財について市民が学び、携わることができる機会を提供する。
	方針3-2 文化財についての情報発信の充実
	博物館等での展示公開、発掘調査現場での見学会、インターネットを活用したオンライン公開などさまざまな方法で文化財についての情報を発信する。
	方針3-3 持続可能な文化観光を推進する
基本方針 4	観光事業者と連携し、関連文化財群を基本として地域の歴史や文化を活かした持続性のある文化観光を推進する。
	方針3-4 文化財を活かした歴史まちづくりを推進する
	文化財を活かして地域の魅力を高めるための歴史まちづくりを推進する。
基本方針 4	方針3-5 文化施設の持続可能な活用マネジメント
	歴史文化を伝える場として、文化施設のより一層の活用を図る。
	方針4-1 文化財の担い手育成
	歴史文化を次世代に引き継ぐため、地域一体となって後継者の育成を図る。地域における伝統芸能の伝承事業への支援を行う。
	方針4-2 文化財の継承に必要な資金・資材調達の仕組みを作る
文化財を継承していくために必要な資金や資材を調達するための仕組みを構築する。	
基本方針 4	方針4-3 文化財の継承に必要な専門人材との連携を強化する
	文化財の継承に必要な専門的スキルをもつ団体等との連携を強化する。

6 文化財の保存と活用に関わる措置

上記の13の方針のもとに、計画期間中に行う具体的行動を、あわせて72の措置として以下のように設定した。

基本方針1 文化財を掘り起こす(調査)

方針1-1 文化財を総合的に把握する

○ 文化財の総合把握調査

分野やテーマ、あるいは地域ごとの悉皆調査を市内の文化活動団体と連携を図りながら計画的に行うことで、市内に所在する文化財を総合的に把握する



仏教美術調査

1	市内仏教美術調査		
内容	市内社寺に所蔵されている仏教美術品の悉皆調査を行う。		
主体	行政、専門家・有識者	実施期間	R6～R13
2	近世社寺の調査【新規】		
内容	市内近世社寺の建物についての調査を行う。		
主体	行政、専門家・有識者	実施期間	R10～R13
3	埋蔵文化財分布調査の実施		
内容	埋蔵文化財の分布調査を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
4	戸隠竹細工調査		
内容	県の伝統工芸品に指定されている戸隠竹細工の歴史民俗的調査を行う。		
主体	行政、所有者、専門家・有識者	実施期間	R6～R9

○ 文化財総合データベースの整備

文化財に関する情報のデジタル化を進め、データベースとして集積、公開することにより、市民との継続的な情報の共有化を図る。

5	文化財総合データベースの整備		
内容	文化財の総合データベースに、把握調査で得られた文化財情報を順次登録していく。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

○ 文化財情報の把握・分析

定期的なアンケートを通じ、文化財に関するニーズや現状を分析することで、効果的な事業の展開につなげていく。

6	来訪者アンケート		
内容	博物館、真田宝物館等文化施設で来訪者へのアンケートを実施する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
7	文化活動団体把握アンケート【新規】		
内容	文化活動団体を対象とした定期的なアンケートを実施する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
8	文化財所有者意識調査		
内容	文化財所有者管理者研修会でアンケートを行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

方針1-2 文化財を研究し価値づける

○ 基礎研究とそれに基づく文化財の収集

文化財の基礎研究を継続的に行い、長野市の歴史文化を理解するために必要な文化財について、博物館等において適切に収集する。

9	博物館・宝物館等での展示研究事業		
内容	文化財の調査研究に基づき、特別展・企画展を実施する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
10	関連資料の収集、整理		
内容	松代文化財ボランティアの会や博物館友の会と協働して、収蔵資料の整理及び目録化を行う。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

○ 専門的な研究の実施

重要な文化財については外部の有識者と連携して、より専門的な研究を行い、学術的価値等を明らかにする。

11	ながの祇園祭祭礼調査		
内容	ながの祇園祭の歴史民俗的調査を専門家や外部研究機関と連携して実施する。		
主体	行政、専門家・有識者	実施期間	R6～R9

基本方針2 掘り起こした文化財を保存する(保存)

方針2-1 文化財を適切に維持管理する

○ 文化財の適切な管理

文化財の所有者・管理者に対する研修会等を通じて、文化財の適切な維持管理の徹底を図るとともに、定期的なパトロールを行い、保存状況等を確認する。また、指定等文化財の適切な保存と活用を図るため、保存活用計画の作成を促進する。



善光寺保存活用計画書

12	文化財所有者管理者研修会		
内容	文化財の所有者管理者を対象とした研修会を毎年開催する。		
主体	行政、所有者	実施期間	R6～R13
13	文化財パトロール		
内容	長野市文化財保護協会と連携して文化財パトロールを実施する。		
主体	行政、所有者、住民・関係団体	実施期間	R6～R13
14	保存活用計画の作成		
内容	指定文化財の保存活用計画を作成する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

○ 文化財収蔵施設の適正化

文化財を継続して適切に保存できるように、収蔵施設の整備を行う。

15	真田宝物館施設整備【新規】		
内容	真田宝物館展示室及び収蔵施設の整備を行う。		
主体	行政	実施期間	R10～R13
16	博物館収蔵施設再編に向けての検討【新規】		
内容	適正な収蔵環境が維持できるよう、市内各所に散在する博物館の収蔵施設の再編成と施設の整備を検討する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R10～R13

○ 文化財保存団体との連携

文化財の保存や郷土史研究に関わる団体、個人との連携を推進する。

17	各団体をまとめる窓口設置の検討【新規】		
内容	各自独自で活動している団体の横のつながりを図るために窓口の設置を検討する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R10～R13
18	郷土史研究者等との連携【新規】		
内容	郷土史研究者等との連携を進める。		
主体	行政、専門家・有識者	実施期間	R6～R13

方針2-2 文化財を適切に修理する

○ 指定等文化財の保存整備

指定等文化財の修理や保存のための整備を計画的に実施する。

19	国史跡大室古墳群の保存整備事業		
内容	大室古墳群の保存整備を進める。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
20	国史跡松代城跡の保存整備事業		
内容	松代城跡の保存整備を進める。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
21	指定等文化財修理補助事業		
内容	指定等文化財修理事業に補助金を交付する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
22	国登録文化財への支援の検討【新規】		
内容	国登録文化財への支援を検討する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

○ 文化財の記録保存

無形（民俗）文化財や滅失が危惧される文化財を記録として保存する。

23	文化財の記録保存調査		
内容	滅失が危惧される文化財の記録保存調査を行う。		
主体	行政、専門家・有識者	実施期間	R6～R13
24	無形文化財、無形の民俗文化財の映像記録化及び公開【新規】		
内容	無形文化財や無形の民俗文化財の映像記録作成を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

25	埋蔵文化財緊急発掘調査		
内容	埋蔵文化財緊急発掘調査を実施する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

方針2-3 災害や盗難等に備える

○ 防災・防犯意識の啓発

指定等文化財の防災・防犯に関する計画マニュアル作成、訓練の定例実施などにより、防災・防犯意識の啓発を図る。

26	地域の文化財防災マニュアル作成		
内容	戸隠重要伝統的建造物群保存地区の防災マニュアルを作成する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R9
27	文化財防災訓練の実施		
内容	文化財防火デーほか定期的な防災訓練の実施を促す。		
主体	行政、所有者	実施期間	R6～R13

○ 防災・防犯設備の整備

防災や防犯上のリスクを想定し、それらを防ぐための設備を整備する。

28	善光寺の防災設備整備		
内容	善光寺の防災設備の整備を支援する。		
主体	行政、所有者、住民・関係団体	実施期間	R6～R9
29	旧横田家住宅の防災設備整備		
内容	旧横田家住宅の防災設備を整備する。		
主体	行政	実施期間	R6～R9
30	戸隠重要伝統的建造物群保存地区の防災対策		
内容	戸隠重伝建地区の防災対策を行う。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R9

○ 文化財レスキューの整備

指定等文化財の防災・防犯に関する計画やマニュアル作成、訓練の定例実施などにより、防災・防犯意識の啓発を図る。

31	被災文化財保全活動の支援		
内容	長野市立博物館での被災文化財保全活動の協力支援を行う。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13
32	災害時文化財レスキューの体制の構築【新規】		
内容	長野県文化財レスキューネットやヘリテージマネージャー協議会等と連携した協力体制を構築する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R9

基本方針3 歴史文化の魅力を伝え活用する(活用)

方針3-1 文化財を学ぶ機会を充実させる

○ 生涯学習と連携促進

公民館講座への講師派遣や出前講座などを通じて、地域の歴史や文化を再発見する機会を充実させる。

33	学芸員出前講座		
内容	公民館や各団体へ、学芸員を講師として派遣する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
34	出張展示		
内容	公民館や図書館等へのお出張展示を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

○ 学校教育との連携推進

小中学校において、地域の歴史や文化について子どもたちが学ぶ機会を充実させる。

35	小中学校教育との連携推進事業		
内容	学校への講師派遣や、博物館施設等での社会科見学受入れ、教材としての資料貸出などを行う。		
主体	行政、住民・関係団体（学校）	実施期間	R6～R13
36	教員と連携した文化財に関する教材開発【新規】		
内容	教員と連携して授業に使う文化財教材を開発する。		

主体	行政、住民・関係団体（学校）	実施期間	R6～R13
37	地域と教員の連携支援【新規】		
内容	地域と教員を結ぶコーディネーターの設置を検討する。		
主体	行政、住民・関係団体（学校）	実施期間	R10～R13

○ 普及啓発活動の支援

文化財の保護や普及啓発につながる市民主体の活動を支援する。

38	博物館等文化施設のボランティア、友の会活動の支援		
内容	博物館友の会及び、松代文化財ボランティアの会の活動の支援を行う。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13
39	文化財保護行政に寄与する団体に対する補助		
内容	長野市文化財保護協会、松代文化財ボランティアの会など、文化財保護行政に寄与する団体に対して、補助金を交付する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

方針3-2 文化財についての情報発信の充実

○ デジタル化した文化財を活用した情報発信

文化財のデジタルデータを総合したポータルサイトの構築や、SNSを通じた文化財情報の積極的な発信を行う。

40	文化財総合ポータルサイトコンテンツ整備事業		
内容	文化財総合ポータルサイトを開設し、コンテンツを充実させる。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

○ 情報発信の拡充

博物館等展示施設、刊行物、説明板の設置等さまざまな場面で積極的に情報発信を行う。

41	地域計画の周知、計画の進捗状況の発信【新規】		
内容	文化財総合ポータルサイト上などで地域計画の概要、事業の進捗状況を発信し、地域計画の周知と計画への参加を促す。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
42	説明板等の設置、改修		
内容	指定等文化財所在地に標柱・説明板等を整備するとともに、QRコードを活用して多角的な情報発信を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

43	博物館等での文化財調査の結果の展示【新規】		
内容	地域に根差したテーマに基づき、博物館・宝物館等での展示公開及び公民館等での出張展示を実施する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
44	多言語解説拡充整備		
内容	博物館・宝物館等での多言語解説を拡充させる。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
45	展示図録等の刊行		
内容	博物館・宝物館等で一般向け刊行物を発行する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
46	地域の文化活動団体刊行物の情報提供【新規】		
内容	地域の文化活動団体がまとめた刊行物情報を把握し、広く広報する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

方針3-3 持続可能な文化観光を推進する

○ ガイド人材育成支援

文化財に通じた観光のプロガイド育成を支援し、来訪者への案内を充実させるとともに、観光ニーズの調査も実施する。

47	文化財ガイド人材の育成及びプロガイド養成の検討【新規】		
内容	長野市ガイド協会と連携し、文化財のガイドを担う人材の育成支援を行う。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R10～R13
6	(再掲)来訪者アンケート		
内容	博物館、真田宝物館等文化施設で来訪者へのアンケートを実施する。		
主体	行政	行政	行政

○ 文化観光コンテンツの開発支援

歴史・文化・アクティビティ等の地域資源を活用し、観光客に訴求する体験型観光コンテンツの開発を支援する。

48	文化財を活用した体験型観光コンテンツの開発支援		
内容	民間が実施しているガイド協会案内と精進料理ツアー、山城ツアー、古戦場クイズ、真田邸でお弁当などのコンテンツを支援する。		
主体	行政、所有者、住民・関係団体、事業者	実施期間	R6～R13

49	市内文化財周遊促進のための観光ルートやガイドマップ作成支援【新規】		
内容	ジオサイト（市内の特異な地形・地質等が観察できるポイント）の周遊コース等を観光協会と連携して設定する。		
主体	行政、事業者	実施期間	R10～R13
50	鬼無里観光協会と連携した鬼無里地区の周遊促進		
内容	鬼無里地区のフットパスコース、e バイクコースに鬼無里ふるさと資料館を取り入れる。		
主体	行政、事業者	実施期間	R6～R13

○ 文化財の磨き上げ

市民や観光客が、文化財の魅力を体感できるよう文化財の付加価値を高めて、観光資源としての磨き上げを図る。

51	歴史文化や景観、伝統工芸の保存に寄与する活動の観光コンテンツ化		
内容	茅刈り体験など、文化財の保存に必要な材料調達の活動を体験型の観光コンテンツとして取り込む。		
主体	行政、住民・関係団体、事業者	実施期間	R6～R13
52	民間の文化財活用活動支援		
内容	絵解きの口演や歴史的建造物を舞台とした公演といったコンテンツの開発を支援する。		
主体	行政、所有者、住民・関係団体、事業者	実施期間	R6～R13

方針3-4 文化財を活かした歴史まちづくりを推進する

○ 文化財を軸としたまちづくりの推進

地域の魅力である文化財を核とした都市再整備を推進し、地域らしさを活用したまちづくりを行う。

53	地域団体等と連携した文化財を軸としたまちづくり【新規】		
内容	文化財に関わるさまざまな立場の人たちが話し合う場を設定し、そこから生まれたさまざまな事業の支援を通して地域を活性化させる。		
主体	行政、住民・関係団体、専門家・有識者、事業者	実施期間	R10～R13
54	文化財を核にしたまちづくりの推進		
内容	サービス提供施設として、松代城跡（国史跡）や寺町商家（市指定）など文化財の整備を推進する。		
主体	行政、所有者、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

○ 歴史的まちなみ景観整備

歴史的建造物の修理や周辺建物の修景、道路の無電柱化や美装化など、地域の魅力を高めるための事業を実施する。

55	伝統環境保存事業		
内容	伝統環境保存区域内の景観に資する建築物の修理・修景工事に対し補助を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
56	景観重要建造物修理助成事業		
内容	景観法に基づく景観重要建造物の保存修理に要する経費に対し、助成を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
57	歴史的風致形成建造物修理助成事業		
内容	歴史的風致維持向上計画で設定した重点区域にある、歴史的風形成建造物の保存修理に要する経費に対し助成を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
58	無電柱化、道路美装化による歴史的景観整備		
内容	歴史的景観整備のため無電柱化、道路美装化を行う。		
主体	行政	実施期間	R6～R13

方針3-5 文化施設の持続可能な活用マネジメント

○ 施設の連携による活性化

市内文化施設について、教育機関としての機能と観光施設としての機能を両立させ、各施設や地域と連携を深めることで、より質の高いサービスを提供する。

59	真田宝物館建替えの検討		
内容	松代の文化拠点となっている真田宝物館のリニューアルを検討する。		
主体	行政、住民・関係団体、事業者	実施期間	R6～R13
60	戸隠地質化石博物館とそば博物館との連携の検討【新規】		
内容	教育委員会所管の化石博物館と観光振興課所管のそば博物館との連携を検討する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13
61	博物館再編事業【新規】		
内容	市内各所にある長野市立博物館の分館・附属施設の再編について検討する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

基本方針4 文化財が継承される仕組みを作る(継承)

方針4-1 文化財の担い手育成

○ 伝統芸能の継承支援

伝統芸能や伝統文化を次世代に継承するため、後継者や指導者の育成を支援する。また、次世代の担い手となる子どもたちを含め、多くの市民が伝統芸能に触れられる機会を提供する。



ながの獅子舞フェスティバル

62	団体の活動や用具の修理等に関する補助		
内容	伝統芸能団体の活動や用具の修理等に対し補助金を交付する。		
主体	行政	実施期間	R6～R13
63	伝統芸能の発表機会の提供		
内容	伝統芸能こどもフェスティバルや、ながの獅子舞フェスティバルを開催する。		
主体	行政、活動団体	実施期間	R6～R13

○ 伝統芸能の継承支援

伝統的な職人の技術を有し、技術の保存、継承、業界の振興発展に寄与する人材の育成について支援を行う。

64	伝統工芸継承支援		
内容	戸隠竹細工の工芸継承を支援する		
主体	行政	実施期間	R6～R9

○ 文化財に携わる人材の確保

今後も増加する多種多様な文化財を保存活用していく人材の確保に努める。

65	文化財の担い手についての把握調査【新規】		
内容	文化財に関わるいろいろな立場の人たち（所有者・参加者・来訪者等）を定量的に把握するための調査を実施する		
主体	行政	実施期間	R6～R13
66	文化財の担い手となる市民、団体の育成		
内容	教員向けの地域の歴史や文化財の研修等、文化財の担い手となる市民、団体を育成する。		

主体	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	実施期間	R6～R13
67	文化財に携わる職人の活動支援の検討【新規】		
内容	文化財を支える職人に焦点を当てた SNS 等による情報発信などを検討する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

方針4-2 文化財の継承に必要な資金、資材調達の仕組みを作る

○ 文化財保護のための資金調達

ふるさと納税など様々な制度を活用し、文化財保護のための安定的な資金調達を図る。

68	ふるさと納税寄付金による資金調達		
内容	ふるさと納税活用による史跡整備、竹細工調査事業など、その魅力で資金調達ができるほどに文化財の磨き上げを行う。		
主体	行政、所有者	実施期間	R6～R13

○ 文化財修理のための支援

文化財修理に関わる技術者との連携や、修理に必要な原材料の確保支援を通して、文化財修理事業の継続的な実施を図る。

69	文化財修理に関わる技術者の把握と連携【新規】		
内容	文化財修理に関わる技術者を把握し、連携を図っていく。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R10～R13
70	文化財修理に必要な原材料の確保支援		
内容	屋根材調達のため、戸隠茅場整備事業を実施する。		
主体	行政、住民・関係団体	実施期間	R6～R13

方針4-3 文化財の継承に必要な専門人材との連携を強化する

○ 文化財保存活用支援団体との連携推進

専門的なスキルを有する団体を積極的に支援団体として指定し、官民一体となった文化財の保存・活用を図っていく。

71	文化財の保存活用に関わる団体との連携強化		
内容	文化財保護協会、ヘリテージマネージャー協議会、信州資料ネット等との連携をこれまで以上に進めていく。		
主体	行政、住民・関係団体、専門家・有識者、事業者	実施期間	R6～R13

72	歴史的建造物の活用ノウハウを有した企業との連携【新規】		
内容	歴史的建築物の活用ノウハウを有した民間企業と連携を進める。		
主体	行政、事業者	実施期間	R6～R13

第5章 関連文化財群

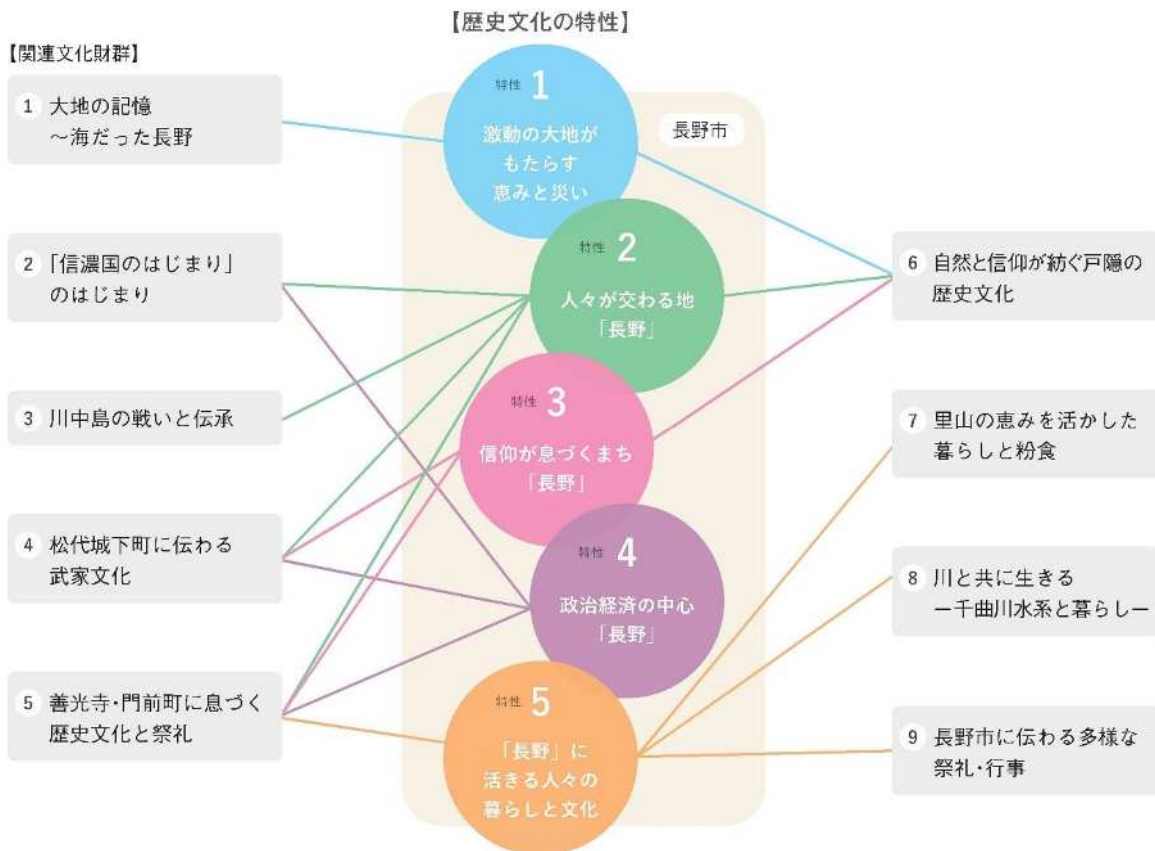
1 関連文化財群の考え方

関連文化財群とは、「地域の多種多様な文化財を歴史文化の特性に基づいて一定のまとまりとして捉えたものである。まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となる。」（「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」文化庁 令和5（2023）年3月最終変更）とされている。

広域で多様な文化財を有する本市の歴史文化の特性を把握するためには、指定・未指定にとらわれず、共通の背景や文脈を持つ文化財をストーリーでまとめることで、俯瞰的な視点で歴史文化の特性をとらえることが可能になる。加えてストーリーをふまえた総合的な保存・活用に取り組むことで、市民や来訪者等に対して、歴史文化の理解促進や地域毎の魅力向上が期待される。

2 長野市の関連文化財群

前項の設定方針をふまえ、第3章でまとめた本市の五つの歴史文化の特性を基に、長野らしさを表す九つの関連文化財群を設定した。



1) 関連文化財群1 大地の記憶 海だった長野

ア 激しい地殻変動が作り出した特徴的な景観

長野市の周囲の山地はフォッサマグナ地域の海底に堆積した厚い地層できている。これらの地層からは貝類や魚類、海生哺乳類などの化石が発見されており、海だったことがわかる。

これらの中には、大規模噴火の際に堆積した地層も見られる。河東山地では、約1,600万年前の海底で噴出した緑色凝灰岩類（グリーンタフ）が見られる。若穂の玄武岩質枕状溶岩が県天然記念物に指定されている。長野市西部では約700万年前



大柳の枕状溶岩

の流紋岩質の海底噴火でできた裾花凝灰岩層が盆地西縁部に露出する。500万年前にも安山岩質の海底火山の噴火があり、戸隠山や虫倉山、久米路峡などをつくる凝灰角礫岩類が堆積した。これらは、長野市が海底で何度も大規模な火山噴火をしてきたことを示す証拠である。これらの岩石は長野市内の各地域において石材として古くから利用されてきた。

堆積岩類が分布する地域も広く、犀川や裾花川沿いでは堆積岩類が褶曲して傾斜した地層が観察される。中でも鬼無里の奥裾花峡谷では、日影向斜軸部の観察や、リップルマーク、ポットホール、ハチノス状風化岩など地層堆積の現象、大地の隆起と水による浸食が生み出した各種の地質現象が見られ、県の名勝となっている。これらの海成の堆積岩類は、その後の隆起で褶曲しており、豪雨時や融雪期に地すべりによる被害をもたらす一方で、周囲に比べてなだらかな地形となり、農業も行いやすいために古くからの人が住みやすい場所でもあった。

約200万年前から長野の海は新潟県方面に退き、長野県北部は隆起を始め山地となっていく。約80万年前から、長野盆地周辺の山地で火山活動が激しくなり、斑尾、志賀高原、草津白根、四阿などの第四紀火山群が噴火した。飯縄山もその一つで、約40万年前から噴火を繰り返し成層火山として成長し、なだらかな山麓をつくり高原のリゾート地やスキー場として利用されている。松代の皆神山（35万年前）、若槻の髻山（25万年前）も溶岩ドームである。また、標高の高い多雪地域では氷河期に侵食が進み、地層が硬い部分では急峻な地形となり、戸隠山のように特徴的な景観をつくった。特徴的な山容をもつ飯縄山、戸隠山、皆神山などは山岳信仰の対象ともなった。

長野盆地西縁断層の動きによる盆地の沈降は、犀川や裾花川の扇状地を形成する原動力となっているとともに、近世以降における最大の被害地震として弘化4（1847）年の善光寺地震を起こした。長野盆地西縁に位置する善光寺や川中島などの観光地もこうした扇状地の上にある。また、犀川の扇状地は千曲川を東側へ移動させ、松代城が現在の場所に立地する背景ともなっている。また、扇状地は水が浸透しやすいので、鐘鑄堰をはじめとする旧流路を利用した用水路が各地で発達した。

イ 市内で見つかる海の生き物などの化石

長野市の西部山地では、約 1,000 万年から 200 万年前の海成層が表面に露出している。その地層からは、海洋生物の化石が多く見つかかり、古くは江戸時代中期に平賀源内が著した『ぶつるいひんしつ物類品隲』にも登場する。これらの化石から、長野が海だった時代の古環境を知ることができる。



シンシュウセミクジラ化石

信州新町周辺（長野市西南部）では 500 万年前ころの地層が分布し、セイウチやシンシュウセミクジラ（セミクジラ属の最古の種類）の化石等が発見されている。貝化石からは上部浅海帯から下部浅海帯（大陸棚より浅い）の古環境であったことがわかっている。

中条から戸隠地区にかけては、400 万年前から 250 万年前ころの地層が分布し、クジラやカイギュウなどの海生哺乳類化石のほかに、カキやホタテなど貝化石が産することから、長野市西部に海岸線が存在したことがわかる。中条や戸隠、鬼無里等で見つかったミエゾウ（シンシュウゾウ）は、中国大陸を起源とする世界最大級のステゴドンゾウの一種である。この化石は、当時の日本がかつて大陸と陸続きであったことを示している。

ウ 関連文化財群設定のねらい

本計画期間では長野市の大地の生い立ちを特徴づける地質現象並びに古生物に関連する文化財群について取り上げ、長野盆地と周辺の山間地の地質的特徴についての普及啓発、またそれを示す記念物等文化財の保護に向けた取組を進めていく。

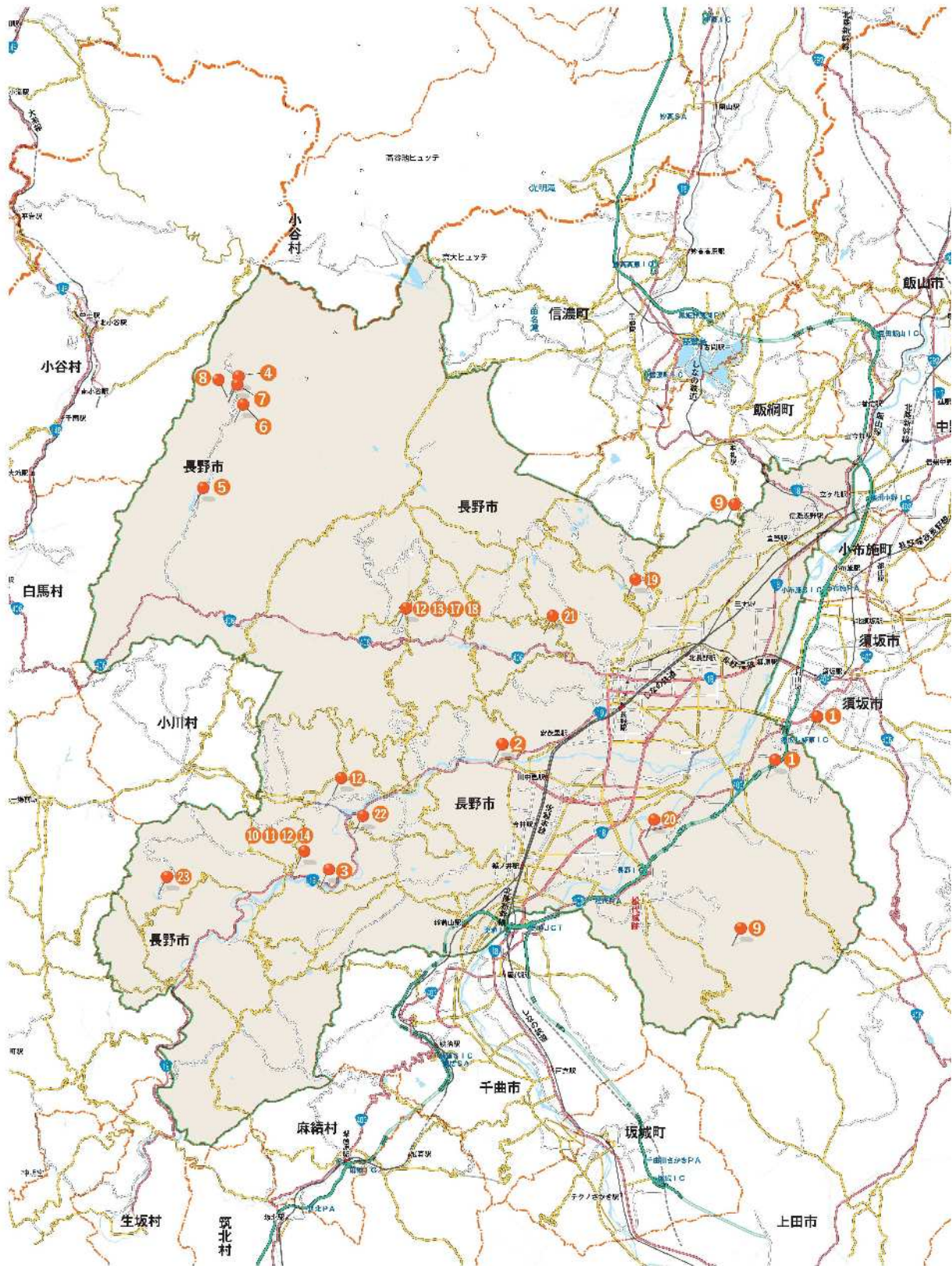
構成文化財一覧

番号	名称	概要	指定等状況
1	大柳及び井上の枕状溶岩	フォッサマグナ地域に噴火した玄武岩質溶岩。海底に噴火したもので、枕状に積み重なったもの。約 1600 万年前のもの。	県指定天然記念物
2	裾花凝灰岩	約 700 万年前の海底噴火でできた流紋岩質の凝灰岩類。長野盆地西縁断層によって隆起したため、盆地西縁に分布する。	未指定
3	久米路峡	犀川流域に分布する硬い火砕岩類が露出しており狭窄部となっている。そのため、古来より橋が架けられてきた。	市指定天然記念物

4	奥裾花のケスタ地形	硬い地層と柔らかい地層が重なり、硬い地層面が差別浸食を受けて、地形面をつくった地形。	市指定天然記念物
5	奥裾花峡谷	裾花川が侵食して作った渓谷で。全長約5 km、比高100 mの絶壁が続き、約300 万年前の地層が観察できる。	県指定名勝
6	日影向斜の向斜軸	奥裾花渓谷の地層の傾斜が左右で異なる向斜構造（褶曲構造の谷型の部分）を観察することができる。	市指定天然記念物
7	<small>れんこん</small> 漣痕（リップルマーク）	水の流れによって堆積岩の表面に形成される波形模様。千畳敷岩の表面で観察できる	市指定天然記念物
8	<small>せんじょうじきいわ</small> 千畳敷岩	日影層の硬い砂岩の表面が広く露出している。かつての海底面である。	市指定天然記念物
9	皆神山・髻山（溶岩ドーム）	約30 万年前に、粘性の高い溶岩が地下から押し出されてできた火山地形。	未指定
10	菅沼の絶滅セイウチ化石	鮮新世に広く分布したオントケトウスという絶滅セイウチの仲間。	県指定天然記念物
11	<small>やまほかり</small> 山穂刈のクジラ化石	ヒゲクジラの仲間で、新種のシンシュウセミクジラ。体長は約12m。	県指定天然記念物
12	貝類化石（シガラミサルボウなど）	シナノホタテやヤマザキホタテ、シガラミサルボウなど絶滅種を含む寒流系の貝化石群集。約400 万～300 万年前のもの	未指定
13	ダイカイギュウ化石	絶滅したジュゴン一種。コンブ食で体長9 mにも及んだ種類。戸隠・中条で産出。	未指定
14	裏沢の絶滅セイウチ化石	鮮新世(約530～260 万年前)に広く分布したオントケトウスという絶滅セイウチの仲間。	県指定天然記念物
15	戸隠積沢の化石群	シナノホタテやヤマザキホタテ、シガラミサルボウなど絶滅種を含む寒流系の貝化石群集。約400 万～300 万年前のもの。	市指定天然記念物
16	アズメ沢の化石群	10 数枚の化石層が見られ、ホタテガイ類・イガイ類などを多く含む。	市指定天然記念物

17	ホホジロザメ化石	大型の肉食性板鰓類で、戸隠で歯の化石が産出。暖流の流入を示すもの。	未指定
18	戸隠川下のミエゾウ化石	中国大陸を起源とする世界最大級のステゴドン(ゾウ)の一種。左右4本の歯が残る下顎化石。約300万年前のもの。中条でも頭骨の一部が産出。	県指定天然記念物
19	浅川の ^{ゆせい} 油井	約1000万年前の海底に堆積した泥岩層に石油が貯留され、善光寺地震の際に噴出量が増え、明治時代から採掘された商業油田の始まり。油井とポンプが現地保存されている。	未指定
20	柴石石切り場	安山岩質の火砕流堆積部物で、加工がしやすく、柴石として採石されている。	未指定
21	^{むじなごうろやま} 貉郷路山石切り場	安山岩の貫入岩体。20数万年前のもので、周囲より硬いので岩山となっており、柱状節理が発達する。	未指定
22	岩倉山の崩壊地と涌池	善光寺地震で、岩倉山が崩壊し犀川をせき止め、天然ダムを形成した。涌池もその際にできた凹地に水が湧出したもの、	未指定
23	柳久保池	善光寺地震の際、大きな地すべりが谷をせき止めてできた池。	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・構成文化財の多くは、戸隠や信州新町など西山地域に位置している。また現地で保存されているものと博物館で収蔵されているものがある。そのどちらも長野市の大地の歴史や過去の環境を知る上で重要な資料であるが人の目に触れる機会が少ないため、その価値は地域の住民にさえあまり知られていない。

方針)

- ・構成文化財の価値を知る人を育て、その人が活動する場を設ける。そのような人材育成がひいては、これら構成文化財の保存や新たな魅力の発掘につながる。
- ・フィールドに出て現地保存されている資料やその景観を見ることと、博物館に展示されている資料を見ることは相補的な関係にあるため、双方をつないで地域の自然の魅力を高める取組を行う。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取組主体	実施期間
博物館ボランティアを育成する	博物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
野外観察会ガイドを育成（研修会・見学会の実施）する【新】	博物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
教職員への研修を行う	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
学校の社会見学や体験学習の受入れを継続して行う	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
収蔵品や露頭などを活用したグッズ開発を行う【新】	博物館	行政、住民・関係団体、事業者	R6～R9
長野市の地質紹介コンテンツ（動画やVR・ARなど）を作成する	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
市域に点在する構成文化財（露頭・景観や収蔵品など）をつないだ魅力発信事業（webやガイドブック作成）を行う【新】	博物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R10～R13
野外観察会を実施する	博物館	行政	R6～R13
露頭などの調査を行う	博物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
収蔵品の調査研究による資料の再評価と整理を行う【新】	博物館	行政	R6～R13
収蔵品データベースを充実（資料情報の登録）させる	博物館	行政	R6～R13
収蔵品データベースのアクセシビリティを向上（オープンデータ化の検討と推進）させる【新】	博物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
博物館収蔵品のレプリカを作成する	博物館	行政	R6～R13
メディアを活用した情報発信を行う	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13

(2) 関連文化財群2 「信濃の国のはじまり」のはじまり

ア 箱清水式土器文化圏の成立と展開－文化圏「赤い土器のクニ」の成立と展開－

弥生時代に伝わった稲作は、石川条里遺跡（篠ノ井）、川田条里遺跡（若穂）など現在まで続く水田の原風景を形づくり、「箱清水式」と呼ばれる赤く塗った土器に象徴される独自の文化圏を出現させた。

朱塗りの器（壺・鉢・高杯）と櫛描文の器（甕）から構成される箱清水式土器は千曲川流域の広い範囲で用いられ、共通の器を使用する「広域生活圏」を示している。さらに、鉄や銅で造られた釧（ブレスレット）、管玉（ネックレス）、鹿角製の拵を備える短剣、丸い墓への単独埋葬（円形周溝墓）などの習俗も共通し、共通の器による「生活圏」とどまらない一大「文化圏」を成している。

一方、篠ノ井遺跡群や小島柳原遺跡群ではムラの周りに溝を巡らす「環濠集落」が確認され、集落間の格差や区画意識・排他性など権力の集中する基盤が現れ、社会的階層分化が進んだ、政治性を帯びた社会圏ともなっている。

このように、箱清水式土器の広がり示された圏域はさまざまな性格を兼ね備えていて、『魏志倭人伝』に記された「邪馬台国」時代の長野市域には「赤い土器のクニ」と称すべきクニが誕生していたことを物語っている。



箱清水式土器（国鉄貨物基地遺跡）

イ 「王」の登場－政治圏「シナノのクニ」の成立と展開－

弥生時代以降、後背湿地に広がった水田を臨む山上には、川柳將軍塚古墳・姫塚古墳（篠ノ井）、土口將軍塚古墳（松代）、和田東山古墳群（若穂）、大室18号墳（松代・若穂）と前方後円墳が累代的・継続的に築造されている。

さらに、これらの前方後円墳には規模の格差があるうえ、大星山古墳群（若穂）、篠ノ井・高畑古墳群（篠ノ井）のような小型の円墳群も加わり、古墳時代前期（三世紀後半から四世紀）には



伝川柳將軍塚古墳出土遺物 左：鏡 中：琴柱形石製品と玉類 右：埴輪円筒棺

いくつかの集団による勢力圏が重層的に重複する政治・文化圏へ変移している。

なかでも、川柳将軍塚古墳（古墳時代前期後半）は、全長 93m と県内第 2 位の隔絶した規模の前方後円墳であるばかりでなく、お膝元の石川条里遺跡（高速道地点）では手工業生産の集中的生産が行われているなど、比類なき絶対的存在としての「王」の誕生を物語っている。

このように、弥生時代後期に誕生した「赤い土器のクニ」は倭王権（ヤマト王権）との繋がりを背景に、「王」を擁する「シナノのクニ」へと大きく変貌を遂げた。

ウ 馬事文化の到来と積石塚古墳文化—経済圏「シナノのクニ」の特徴—

「王」の存在を示す大型前方後円墳は土口将軍塚古墳（松代、五世紀中葉）を最後に長野市域で築造されなくなる。その後、長野市域では大室古墳群（松代）に代表される石を積み上げて墳丘を構築する「積石塚古墳」が多数みられるようになり、「王」の時代とは大きく様相が変わる。

この劇的な変化が生じたちょうどそのころ、朝鮮半島を通じて乗馬から飼育に至るまで馬に関わる文化総体（馬事文化）が日本列島に導入される。長野市域にも榎田遺跡（若穂）で生産された木製馬具などが示すように導入直後に、「シナノ」の中心となった下伊那地域と時期を違えず馬事文化がもたらされている。馬の利用は道路の整備や拡充を促進し、古くから使われていた「ウミのミチ」に加えて、「ヤマのミチ」の整備・

利用が本格化する。その結果、下伊那地域が倭王権（ヤマト王権）に対する窓口となり、長野市域を含む「シナノ」各地を統括する新しい政治・経済圏を成立させた。善光寺平で新たに展開する積石塚古墳文化は、馬をはじめとした各種手工業生産の担い手集団に関わっている可能性が高い。

ここに至って、北の善光寺平から南の伊那谷を含む令制信濃国の領域が明確となる。長野市域は積石塚古墳という南の下伊那地域とは異なる古墳文化の展開をみせて、経済圏の中核のひとつを、下伊那地域とはまったく異なった役割を負って担っていくこととなる。



積石塚古墳（大室 168 号墳）



木製馬具（壺鈴、榎田遺跡）『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』37（1999年）より転載

エ 関連文化財群設定のねらい

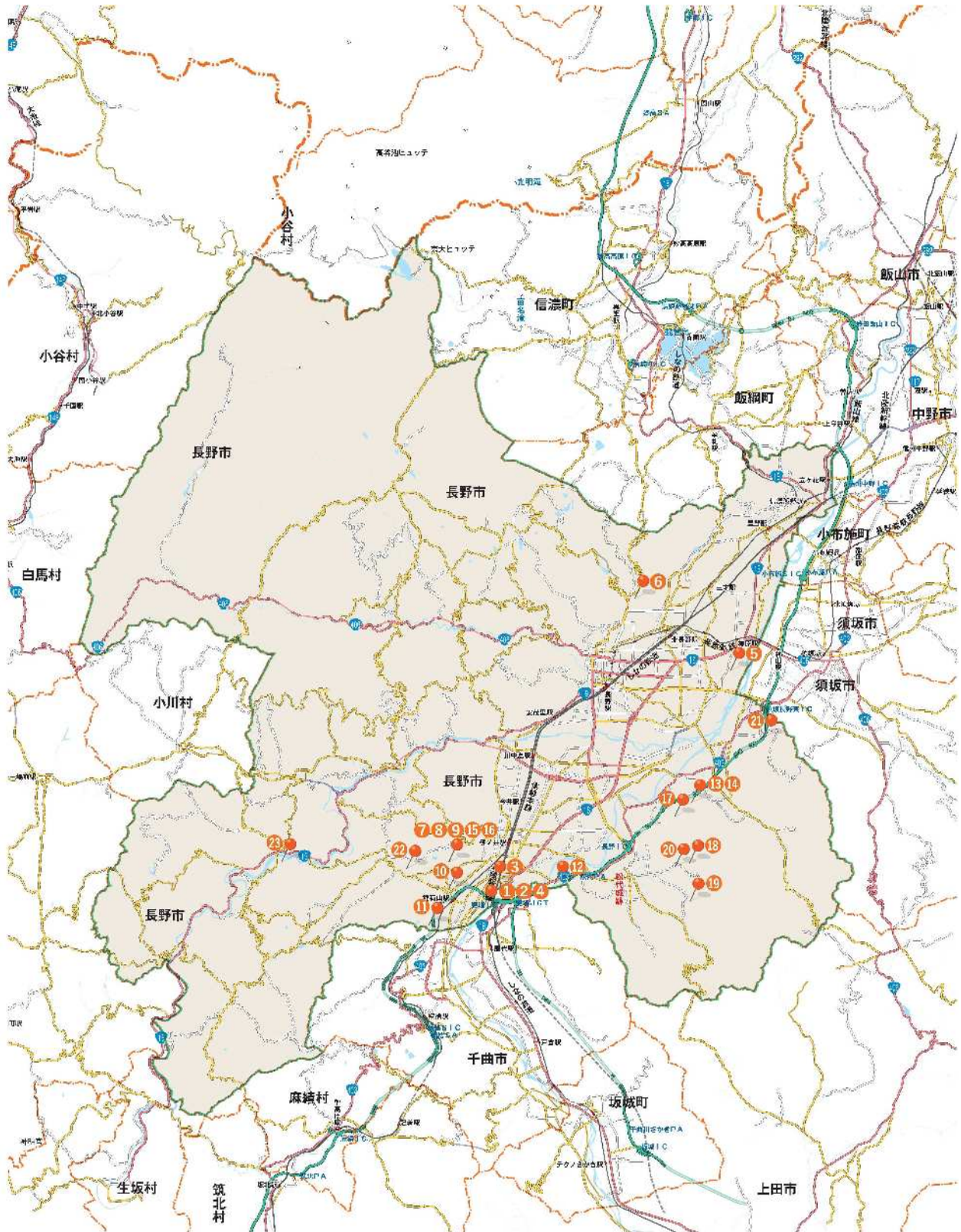
長野市域を中心とする善光寺平一帯には弥生時代から古墳時代かけての、「信濃国」成立へ向けた政治・経済圏の形成過程を知る上で重要な史跡や考古資料が集積しており、それらの調査や保存活用、情報発信を継続的に行うため、関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	指定区分
1	銅銚及び石製模造銚	篠ノ井塩崎の松節遺跡から出土した弥生時代の青銅製と石製の銚、赤い土器のクニの祭りの道具。	市指定有形文化財
2	伊勢宮遺跡出土遺物	篠ノ井塩崎の伊勢宮遺跡から採集された遺物群。弥生時代石器群と遠賀川系土器・東海系条痕文土器を含み、稲作の伝来を伝える資料。	市指定有形文化財
3	篠ノ井遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡(赤い土器のクニ、シナノのクニの中核的集落)	未指定
4	塩崎遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡(赤い土器のクニ、シナノのクニの中核的集落)	未指定
5	小島柳原遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡(赤い土器のクニの中核的集落)	未指定
6	檀田遺跡出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡(赤い土器のクニの中核的集落)	未指定
7	川柳将軍塚古墳・姫塚古墳	古墳時代前期後半に築造された全長 93mの前方後円墳、シナノの王墓	国指定史跡
8	伝川柳将軍塚古墳出土品	川柳将軍塚古墳の出土品	県宝
9	埴輪円筒棺	川柳将軍塚古墳の墳丘裾部から発掘された従属的埋葬棺	市指定有形文化財
10	中郷神社前方後円墳	篠ノ井塩崎地区に所在する全長 53mの前方後円墳	市指定史跡
11	越将軍塚古墳	篠ノ井塩崎地区に所在する直径 33mの大型円墳	市指定史跡
12	土口将軍塚古墳	古墳時代中期中葉に築造された全長 68mの前方後円墳、シナノの王墓	国指定史跡
13	和田東山古墳群	川田条里に面した尾根に上に築造された、前方後円墳 3 基、円墳 2 基から構成される古墳群	未指定
14	素環頭太刀及び内反太刀	若穂保科の片山古墳(積石塚古墳)から出土した二種の大刀で、長野盆地の初期積石塚古墳の副葬品	市指定有形文化財
15	飯綱社古墳出土品 附 布制神社御神宝之図	長野盆地最古の馬具を含む飯綱社古墳の出土品	市指定有形文化財
16	飯綱社古墳	古墳時代中期中葉に築造された、篠ノ井塩崎地区に所在する一辺 15m程度の方墳	未指定

17	大室古墳群	総数 500 余基の東日本を代表する大古墳群。400 基余りの積石塚古墳を含み、積石塚古墳群としては日本最大。	国指定史跡
18	菅間王塚古墳	古墳時代中期後半から後期前半に築造された、長野県最大規模の積石塚古墳	県指定史跡
19	桑根井空塚古墳	合掌形石室を埋葬施設とする古墳時代後期の積石塚古墳	県指定史跡
20	竹原笹塚古墳	合掌形石室を埋葬施設とする古墳時代後期の積石塚古墳	市指定史跡
21	榎田遺跡	古墳時代の集落遺跡で、出土した木製壺鐙は地方事例としては最古級	未指定
22	大塚古墳	信更地区に所在する前方後方墳	市指定史跡
23	武富佐古墳	信州新町に所在する、古墳時代中期中葉の円墳	市指定史跡

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・埋蔵文化財の把握は開発事業に因っている部分が多く、開発事業がほとんどない山間部などでは範囲把握が十分でない。
- ・調査された遺跡や出土した考古資料について、半世紀近く史跡や有形文化財（考古資料）の市指定案件がないなど、記録保存に伴う発掘調査事業完了後、遺跡や出土品を歴史資料としてさらに活用するための調査・研究体制が整っていない。
- ・指定文化財の古墳等を維持管理する地元団体が高齢化し、日常管理が難しくなっている。
- ・遺跡の調査記録、出土品などを収蔵するスペースが限界に達しているため、新たなスペースを確保する必要がある。
- ・山間部に所在する史跡は大型バスなどの進入が困難な場合が多く、団体による利活用を促進するためのインフラの整備を進める必要がある。
- ・外部の専門人材等との連携を深めていく必要がある。

方針)

- ・開発事業によらない埋蔵文化財の分布調査が行えるような仕組みづくりを検討する。
- ・既存資料も含めて、遺跡や出土品を考古資料としてさらに活用するための調査・研究体制の確立を目指す。
- ・文化財保存のための担い手の人材育成に加え、保存会に代わる新たな仕組みづくりを検討していく。
- ・文化財の保存施設の充実や史跡へのアクセスの向上に取り組む。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	担当	取組主体	実施期間
埋蔵文化財分布調査	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
市内遺跡確認調査事業	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R9
積石塚古墳文化に関わる資料の収集・整理・研究	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
遺跡・考古資料から指定史跡・有形文化財となる候補の選定	埋蔵文化財センター・文化財課	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
大室古墳群管理事業	埋蔵文化財センター	行政、所有者、専門家・有識者	R6～R13
史跡大室古墳群保存管理計画の策定【新】	埋蔵文化財センター	行政、所有者、専門家・有識者	R10～R13
文化財保護への支援（補助金等）	文化財課	行政、所有者	R6～R13
地域の文化財の担い手育成	埋蔵文化財センター	行政、所有者、住民・関係団体	R6～R13
収蔵スペースの確保（空き施設の有効活用・新規建設等）	埋蔵文化財センター 博物館	行政	R6～R13
博物館収蔵庫改修・特別収蔵庫の設置【新】	埋蔵文化財センター 博物館	行政	R10～R13
史跡大室古墳群保存整備事業	埋蔵文化財センター	行政、所有者	R6～R13

関連文化財群に関する普及啓発	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体	R6～R13
学習教材としての提供（社会見学のパッケージ、教材研究等）【新】	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体	R6～R9
博物館常設展示の更新・拡充、及び企画展の開催	埋蔵文化財センター・博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
ガイドマップの作成とガイド人材の育成	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体、 専門家・有識者	R6～R13
大室古墳群アクセス道路の整備	文化財課	行政、住民・関係団体	R6～R9
大室古墳群まつりの開催	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体	R6～R13
史跡大室古墳群整備専門家会議	埋蔵文化財センター	行政、住民・関係団体、 専門家・有識者	R6～R13

(3)関連文化財群3 川中島の戦いと伝承

ア 川中島の戦い以前の信濃武士

土地の私有化が進み、律令制が崩れてきた平安時代後半には、地方豪族の多くは土地を貴族や寺社に寄進し、その見返りとして支配権を認めてもらうことで自らの勢力を拡大した。平安時代から鎌倉時代にかけて、険峻な山々に囲まれ、大小さまざまな河川が流れる長野市域では、そうした地理的要因を背景に多くの荘園や公領が成立し、それぞれの領主によって山城や居館が築かれるなど、比較的小規模な武士集団が分立する状況となっていた。

平安時代末期の治承4(1180)年には、信濃源氏の棟梁として、源(木曾)義仲が平氏を追討するために兵を挙げ、中信から東北信に進出した。これに対して平氏は、城資職が越後国から数万騎を率いて信濃に入った。養和元(1181)年に篠ノ井横田で合戦が行われ、義仲軍が奇襲攻撃によって勝利を収めたとされる。市指定史跡「横田城跡」は平安時代末ごろに築かれた城館で、義仲が利用したともいわれている。現在でも堀や土塁が残り、「馬出し」など往時を偲ばせる地名も伝えられている。源平の戦いにおいて、信濃の武士は源氏方として活躍し、その後の鎌倉時代には有力な御家人となって幕府との結びつきを強めていった。

鎌倉時代を通じて信濃国は幕府財政を支える根拠地のひとつであり、幕府執権である北条氏の領国であった。信濃武士の多くは次第にその被官人として組み込まれていき、勢力を伸張していった。しかし後醍醐天皇が討幕のために挙兵すると、信濃の有力御家人のひとりであった小笠原氏は新田義貞らとともに鎌倉へ攻め込み、鎌倉幕府を滅亡させた。その功で小笠原氏は信濃守護に任命された。しかし、信濃国内における北条氏の勢力は根強く、鎌倉幕府の執権であった北条高時の遺児・時行が諏訪地域で挙兵すると、信濃武士の多くはそれに与して小笠原氏と争った。この中先代の乱はすぐに鎮圧されたものの、その後の南北朝の動乱では信濃国内の武士は南朝方・北朝方に二分され、互いに争うこととなった。



様々な合戦で拠点となった横田城跡

京都に成立した室町幕府にとって、信濃国は関東支配のための足掛かりとして重要な地域であった。そのため、小笠原氏の守護補任以降、その職は中央の政治状況によってたびたび交代させられた。至徳元(1384)年には、足利氏一門の斯波氏が守護に任命されたが、解任された小笠原氏はこれまで対立していたほかの信濃武士と手を組み、斯波氏に対抗した。

その後、小笠原長秀の代になると再び守護職を取り戻し、善光寺を拠点に領国経営を始めた。すると今度はかねてより対立していた信濃の武士が一揆を結んでその支配に対抗した。長秀は篠ノ井横田に陣を構え彼らを討伐しようとするものの、一揆勢は佐久や大町からも続々と軍勢が集まり、不利な形勢となった長秀は塩崎へ逃れ籠城した。しかし、最終的には降伏し、京都へと逃れることになった。

その後、小笠原長秀の代になると再び守護職を取り戻し、善光寺を拠点に領国経営を始めた。すると今度はかねてより対立していた信濃の武士が一揆を結んでその支配に対抗した。長秀は篠ノ井横田に陣を構え彼らを討伐しようとするものの、一揆勢は佐久や大町からも続々と軍勢が集まり、不利な形勢となった長秀は塩崎へ逃れ籠城した。しかし、最終的には降伏し、京都へと逃れることになった。

その後も信濃国内では様々な騒乱が繰り返され、武士はその度に離合集散を繰り返すこととなった。山国という地形もあって、強大な権力が創出されることはなく、「国衆」と呼ばれるよ

うな在地に勢力を持つ武士集団が地域ごとに割拠する状況になっていった。



大塔台戦の舞台となった塩崎城跡



室町時代に記された軍記物「大塔物語」

イ 川中島の戦いとその舞台

たびたび戦乱の舞台となった長野市域であるが、その中でも最も広く知られているのが越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄によって繰り広げられた川中島の戦いである。北信地域の武士と隣国越後との関わりは深く、中野の国衆である高梨氏は越後守護代・長尾氏と姻戚関係を重ね、謙信の父・長尾為景が越後守護・上杉氏に反旗を翻した際には、それを支援するなど結びつきを強めて周辺へ勢力を伸ばしていった。一方、高梨氏と同じく古くから北信地域を拠点とした有力国衆の村上氏や島津氏、栗田氏などは反高梨方として対立した。なかでも特に勢力を誇っていた村上氏は、はじめ武田氏と協力して東信地域にも進出していたものの、その後に対立する。村上義清はそれまで敵対していた高梨政頼と和睦し、信濃守護であった小笠原長時と手を組んで武田氏に対抗した。しかし天文 22(1553)年に義清が葛尾城を捨てて敗走すると、政頼を通じて長尾景虎(のちの上杉謙信)に支援を求めた。

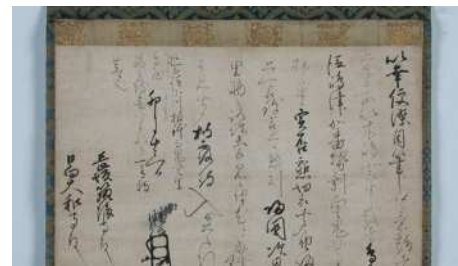
その後、北信地域の国衆を支援する上杉謙信と、信濃支配を進める武田信玄との間で、5回にわたって長野市域で合戦が行われ、信濃の武士はそれぞれの勢力の狭間で生き残りをかけていくことになる。

川中島の戦いの中でも特に激戦となったのが永禄 4(1561)年の八幡原の戦いとされている。江戸時代の軍記物においては謙信と信玄が一騎打ちをしたことで広く知られているが、この戦いでは信玄の弟である信繁や軍師の山本勘助が討ち死にするなど多数の戦死者を出した。現在でも市域には彼らを弔うための寺院や墓所、首塚などが各地に残されている。

川中島の戦いを経て北信地域は次第に武田氏の領国に組み込まれていくことになったが、その支配拠点となったのが、海津城であった。これは、永禄年間(1558-1570)年に信玄が対謙信の前線拠点として築城したとされており、現在でも「柵形虎口」など武田流の築城術の痕跡を見ることが出来る。信玄は、ほかにも長沼城、牧之島城など各地に城を



武田信繁討死を描いた江戸時代の錦絵



信玄が鬼無里方面の警戒を命じた書状

整備し、北信濃支配を進めていった。天正 10(1582)年に織田氏によって武田氏が滅亡し、続いて本能寺の変が起こると、謙信の跡を継いだ景勝が混乱に乗じて越後国から侵入し、これらの城を拠点として支配を行った。かつて武田氏に追われた国衆も復帰を果たし、北信地域の武士の多くは上杉氏のもとで家臣として活動した。その後、豊臣政権のもとで、慶長 3 (1598)年に上杉氏が奥州・会津へ転封になると、北信地域の武士はそれに従い長年暮らした地を離れた。



松代城の桐形虎口



牧之島城の三日月堀

ウ 川中島の戦いのその後

長野市域だけでなく北信地域一帯に大きな影響を残した川中島の戦いは、江戸時代になると軍学書『甲陽軍鑑』とともに全国へと広まっていった。これは武田旧臣とされる軍学者・小幡景憲が甲州流軍学を教授するためのテキストとして使用したもので、同じく武田家臣で海津城代でもあった高坂昌信が、武田家の行く末を案じて語った内容をまとめたものとされる。甲州流軍学は全国の大名家で取り入れられ、それとともに川中島の戦いの「物語」も広まっていった。それらは次第に歌舞伎や人形浄瑠璃などの演劇や浮世絵の題材となり、脚色されながらも多くの人々に親しまれ、様々な作品が生み出されていくことになった。

一方、信玄と謙信が激突した川中島の古戦場は観光地としても人気を博していく。幕末に刊行された「善光寺道名所図会」は善光寺に至る街道筋の名所旧跡をまとめたものだが、そこでも古戦場が周辺の関連する史跡とともに大きく紹介されている。



甲陽軍鑑



善光寺道名所図会での一騎打ちの挿絵

その人気は明治以降も衰えることなく、大正天皇が皇太子時代の明治 35(1902)年に長野へ行啓した際には、宿所である善光寺大勧進から松代の真田邸へ向かう途中、古戦場を見学したいという申し出があり、立ち寄ることになった。現在でもお手植えの松や記念碑が残るほか、見学のために作成された合戦の様子をわかりやすく描いた絵図などが一般にも広まったことで、古戦場の名を高めるひとつの契機にもなった。大正 4 (1915)年には第一次世界大戦が続く中、陸軍第 13 師団が川中島で大規模な軍事演習を実施した。当時の新聞ではそれを川中島の戦いに見立てて大きく報道しており、記念

絵葉書が発行されるなど、多くの市民がその様子を見学した。

450年以上経てもなお、川中島の戦いと信濃の武士をめぐる「物語」は人々の心を惹きつけてやまない。現在でも、ゲームやマンガ、アニメの中で、武田信玄と上杉謙信の一騎打ちなどは、戦国時代を代表するモチーフとして幅広い年代に親しまれており、川中島古戦場史跡公園には全国から多くの人々が訪れている。

エ 関連文化財群設定のねらい

川中島合戦は全国的に名の知られた戦いであり、現在もその合戦跡をたどって本市に足を運ぶ人も多い。しかし、関連する遺跡は市域の広範囲に及んでいるのにもかかわらず、遺跡についての調査不足とその魅力の発信力が弱いため、情報を必要とする人たちのところまで届かない。そのため、全市にわたる川中島合戦関連史跡の調査を行い、その状況を把握した上で、その魅力について積極的な情報発信を目指して関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

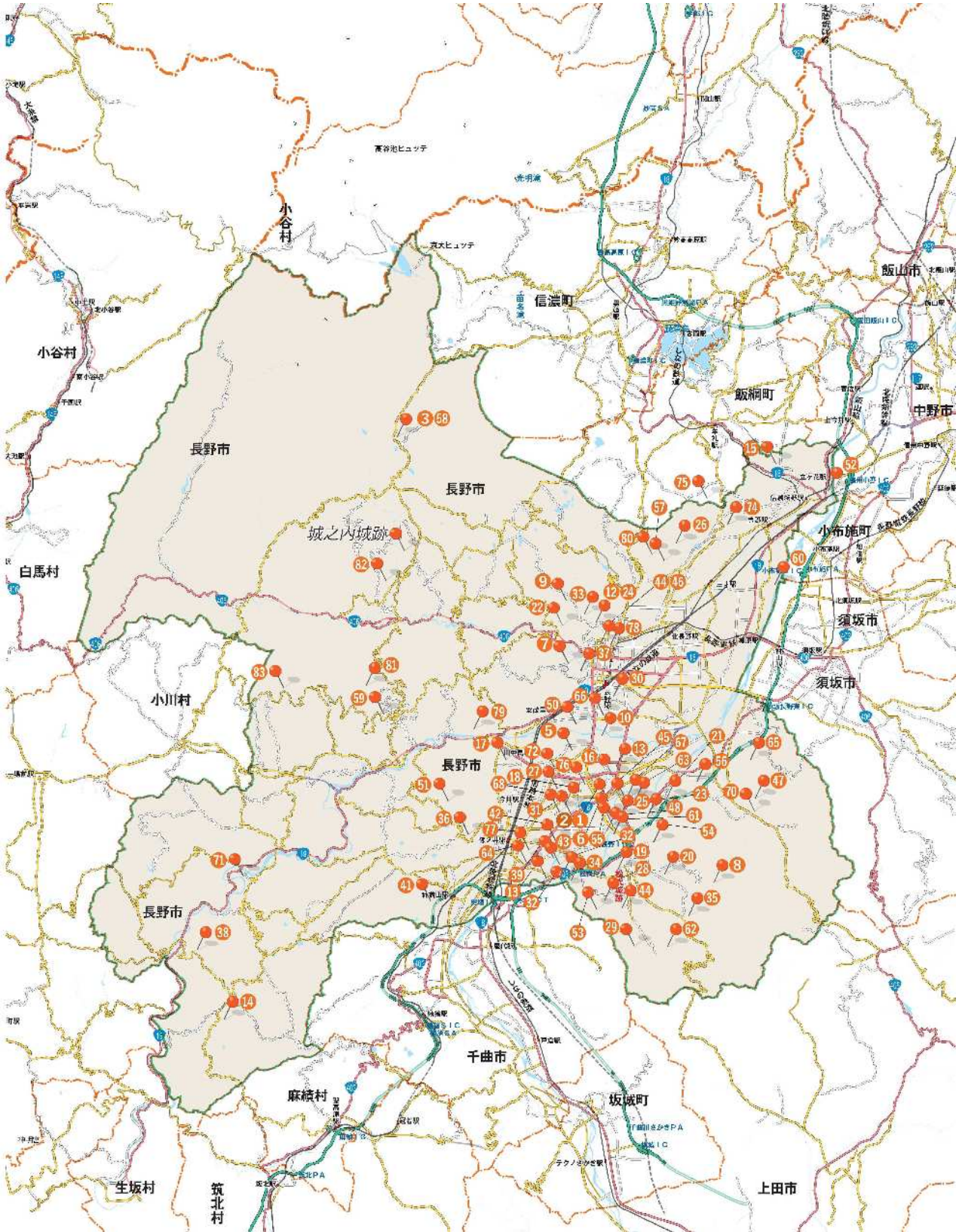
番号	名称	概要	指定等状況
1	武田信玄書状ほか博物館所蔵資料	信玄自筆書状など戦国時代の古文書類	未指定
2	川中島古戦場史跡公園内の遺跡群	一騎打ち像や首塚など公園内に残る遺跡	未指定
3	武田晴信願状	戸隠神社へ奉納した願文	市指定有形文化財
4	近世以降の川中島合戦関係資料	博物館が所蔵する合戦の錦絵、合戦案内図、絵葉書など	未指定
5	青木神社跡	武田軍が勝鬨を挙げたという伝承が残る	未指定
6	赤川神社跡	社前にあった川は将兵の血で赤く染まったといわれる	未指定
7	旭山城跡（武田氏の城）	第2次合戦で謙信が籠る横山城に対峙した城	未指定
8	<small>あまかざりじょうあと</small> 尼巖城跡（東条氏の城）	真田幸隆に攻略され、海津城とともに守りを固めた	未指定
9	飯縄神社	修験道の霊山であり、信玄・謙信によって崇拝された	未指定
10	市村の渡し	第4次合戦で撤退する上杉軍の兵が多数討ち死にしたという	未指定
12	上杉の <small>ごぜんすい</small> 御膳水（霊山寺）	謙信が飲み水に使ったという伝承が残る	未指定
13	戌ヶ瀬（狗ヶ瀬）	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという	未指定
14	大岡城跡（武田氏の城）	上杉軍進攻に備え武田軍によって築かれたという	未指定
15	大倉城跡（長沼島津氏の城）	長沼城を拠点とした島津氏の詰め	市指定史跡

		城	
16	大堀館跡（第2次合戦の武田本陣）	第2次合戦の際、武田軍の本陣が置かれたという	未指定
17	おだぎりするがのかみ 小田切駿河守の墓（円光寺居館跡）	上杉方の武将で、葛山の戦いで討ち死にした	市指定史跡
18	おびなたさどのかみ 大日方佐渡守の墓（昌龍寺）	武田方の武将で、広田砦の守将になったという	未指定
19	海津城跡（松代城跡）	武田氏が北信支配の拠点として築いた城	国指定史跡
20	かがいおんせん 加賀井温泉（信玄の隠し湯）	合戦で負傷した将兵を癒したと伝わる	未指定
21	かすみじょうあと 霞城跡（大室氏の城）	大室氏の城で海津城とともに守りを固めた	未指定
22	かつらやまじょうあと 葛山城跡（落合氏の城）	落合氏の城で武田軍によって落城した	市指定史跡
23	金井山城跡（金井氏の城）	金井氏の城で海津城とともに守りを固めた	未指定
24	川中島合戦勇士の首塚（霊山寺）	武田方の武将の骨が発見されたという首塚	未指定
25	かんすけのみや 勘助宮	武田家軍師・山本勘助が討ち死にした場所とされる	未指定
26	さんせんじ 旧山千寺観音堂	第4次合戦の頃に焼失し武田氏が再興したという	市指定史跡
27	信玄憩いの井戸（境福寺）	信玄や将兵が喉を潤したとされる井戸	未指定
28	清野氏居館跡（古峰神社）	清野氏は上杉氏に属したがその後、武田氏に降った	未指定
29	くろほねじょうあと 鞍骨城跡（清野氏の城）	清野氏が築いた山城	未指定
30	栗田城跡（栗田神社）	善光寺別当を務め武田家臣として活躍した栗田氏の城	未指定
31	くわましげみ 桑山茂見の墓（狐丸塚）	第4次合戦で主君の身代わりで討ち死にしたという	未指定
32	けんしんくらかげ まつ 謙信鞍掛の松（会津比売神社）	謙信が参拝の折に馬の鞍をかけたとの伝承が残る	未指定
33	けんしんものみ いわ 謙信物見の岩	謙信が武田軍の動きをここから観察したと伝わる	未指定
34	謙信槍尻之泉	謙信が槍尻で地面を突いて水を出したと伝わる	未指定
35	こうさかまさのぶ かすがとらつな 高坂昌信（春日虎綱）の墓（明徳寺）	武田四天王のひとりで、海津城の城代を務めた	未指定
36	こうしんあん 耕心庵	信玄が高坂昌信に命じて建立したと伝わる寺院	未指定
37	こしば みじょうあと 小柴見城跡（小柴見氏の城）	小柴見氏の城で、旭山城の出城だったとされる	未指定

38	小松尾城跡（中牧氏の城）	大岡城や牧之島城などをつなぐための城とされる	未指定
39	こもりしだてあと 小森氏館跡	小森氏は諏訪氏の一族で、武田氏に仕えたという	未指定
40	さいじよざん 妻女山	第2次合戦で上杉軍の本陣が設けられたという	未指定
41	塩崎城跡（第5次合戦武田本陣）	第5次合戦で武田軍の本陣が設けられたという	未指定
42	十王堂（東福寺）	第4次合戦の戦死者を弔ったという	未指定
43	十二ヶ瀬	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという	未指定
44	信玄・謙信位牌（善光寺大勧進）	幕末に武田旧臣によって納められた位牌	未指定
45	山本勘助の墓（信州柴阿弥陀堂）	第4次合戦で討ち死にした武田軍師・山本勘助の墓	未指定
46	善光寺	武田・上杉に重要視され、本尊などが持ち去られた	未指定
47	霜台城跡（保科氏の城）	保科氏の城で、街道沿いの要衝にあった	未指定
48	たけだのぶしげ 武田信繁の墓（典厩寺）	第4次合戦で討ち死にした信玄の弟・信繁の墓	未指定
49	竹山城跡（西条氏の城）	西条氏の城で鞍骨城の支城として機能した	未指定
50	たんばじま 丹波島の渡し	第4次合戦の際、上杉軍が渡河撤退したという	未指定
51	茶臼山本陣跡（第4次合戦武田本陣）	第4次合戦ではじめ武田軍の本陣が置かれたという	未指定
52	手子塚城跡（島津氏の城）	長沼を拠点とした島津氏が築いた出城とされる	市指定史跡
53	天城城跡（清野氏の城）	鞍骨城の出城とされる	未指定
54	寺尾城跡（寺尾氏の城）	寺尾氏の城で善光寺と上田方面を結ぶ要衝にある	未指定
55	どうあいぼし 胴合橋	討ち死にした山本勘助の首と体を合わせた場所という	未指定
56	東光寺文書	海津城の守護祈願所であり武田氏の書状が伝わる	市指定有形文化財
57	堂沢出城	若槻山城の出城とされる	未指定
58	戸隠神社	信玄が奉納した願文が伝わる	未指定
59	戸屋城跡（春日氏の城）	上杉方の拠点として鬼無里方面への足掛かりとなった	未指定
60	長沼城跡（島津氏の城）	島津氏の城だったが、武田氏に奪われ拠点となった	未指定
61	猫ヶ瀬	第4次合戦で高坂昌信隊が渡った	未指定

		という	
62	ノロシ山（狼煙山）	武田軍の狼煙台が置かれていたという	未指定
63	馬場ヶ瀬	第4次合戦の際、謙信が追手を逃れて渡ったという	未指定
64	<small>はらのおすみのかみ</small> 原大隅守の墓（地藏寺）	第4次合戦で信玄を救援したという原大隅守の墓	未指定
65	春山城跡（井上氏の城）	謙信が味方の城へ向けて狼煙を上げたと言われる	未指定
66	姫塚	討ち死にした上杉軍を弔うために建てられたという	未指定
67	広瀬（陣ヶ瀬）	第4次合戦の際、武田軍が利用したと言われる	未指定
68	広田城跡（東昌寺）	上杉軍に備えるために武田軍が築いたと言われる	未指定
69	<small>ふの</small> 布野の渡し	第4次合戦の際、上杉軍が利用したと言われる	未指定
70	<small>ほしなしたてあと</small> 保科氏館跡（広徳寺）	広徳寺は保科氏が開基で、館跡に建てられたという	未指定
71	牧之島城跡（香坂氏の城）	武田四天王・馬場信春が入り北信支配の拠点となった	県指定史跡
72	<small>まくはり</small> 幕張の杉	戦場との境界を示すために幕がかけられたという	未指定
73	町田正之の墓（長徳寺）	武田氏のもとで活躍したが、その後帰農したという	未指定
74	三日城跡（上杉氏の城）	謙信が家臣に命じて3日で築いたという城	市指定史跡
75	髻山城跡（上杉氏の城）	越後方面と善光寺を結ぶ要衝にあった城	未指定
76	<small>もろすみびんごのかみ</small> 諸角豊後守の墓	第4次合戦で討ち死にしたという武田家臣の墓	未指定
77	横田城跡	源平合戦、大塔合戦、川中島合戦でも利用されたという	市指定史跡
78	横山城跡（第2次合戦上杉本陣）	第2次合戦で上杉軍が本陣を置いたと言われる城	未指定
79	<small>よしくぼじょうあと</small> 吉窪城跡（小田切氏の城）	小田切氏の城だが、武田軍に攻められ落城したという	未指定
80	<small>わかつきやまじょうあと</small> 若槻山城跡（若槻氏の城）	若槻氏が築城し、戦国期は高梨氏の拠点だったという	市指定史跡
81	<small>はるきのじょうあと</small> 萩野城跡（春日氏の城）	春日氏の詰めの城だったと言われる	市指定史跡
82	<small>ふくたいらじょうあと</small> 福平城跡（溝口氏の城）	木曾義仲家臣・今井兼平が築いたともいわれる	市指定史跡
83	<small>かしわちじょうあと</small> 柏鉢城跡（武田氏の城）	武田氏が北信地域進出の足掛かりとした城	市指定史跡

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・関連文化財群を構成する文化財の総合的な情報発信ができていない。
- ・保存・活用の措置が講じられていない文化財が存在する。
- ・市を代表する観光資源でありながら、十分な活用がされていない。
- ・川中島合戦も含む長野市域の中世については研究蓄積が少ないため、発信する情報が少ない。

方針)

- ・それぞれの文化財をつなぐストーリーを周知させる。
- ・それぞれの文化財を適切に価値づけるため、中世の長野市域についての調査研究を進める。
- ・観光資源としての活用の方策について検討していく
- ・それぞれの文化財の現状に応じて保存・活用の措置を講じていく

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取組主体	実施期間
川中島の戦い関連の文化財把握調査（伝承・史跡・仏像・古文書など）を行う【新】	博物館	行政、所有者、住民・関係団体、 <u>専門家・有識者</u>	R6～R13
市内山城・居館跡の調査を行う【新】	博物館	行政、所有者、住民・関係団体、 <u>専門家・有識者</u>	R10～R13
川中島の戦い関連資料の収集・購入を進める	博物館	行政、所有者、専門家・有識者	R6～R13
中世在地領主層（国衆）の研究を推進する	博物館	行政、住民・関係団体、 <u>専門家・有識者</u>	R6～R13
牧之島城跡の保存整備を進める【新】	文化財課	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R10～R13
教育機関向け学習コンテンツを開発する【新】	博物館	行政、住民・関係団体	R10～R13
川中島関連文化財紹介ホームページを新設する【新】	博物館	行政、所有者、住民・関係団体、 <u>専門家・有識者、事業者</u>	R6～R9
長野市域の中世をテーマとした博物館での企画展を開催する	博物館	行政、所有者、専門家・有識者	R6～R13
古戦場ガイド人材育成を支援する	博物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
川中島合戦文化財ガイドマップを更新する	博物館 観光振興課	行政、住民・関係団体、事業者	R6～R9
川中島合戦文化財周遊コンテンツの作成【新】	博物館 観光振興課	行政、所有者、住民・関係団体、 <u>専門家・有識者、事業者</u>	R10～R13
文化観光拠点としての川中島古戦場公園整備【新】	博物館	行政、所有者、住民・関係団体、 <u>専門家・有識者、事業者</u>	R10～R13
博物館展示設備改修	博物館	行政、専門家・有識者	R10～R13

(4)関連文化財群4 松代城下町に伝わる武家文化

ア 松代藩の成立と真田家の武家文化

城下町の北西に位置する松代城は、甲斐の武田信玄と越後の上杉謙信の戦いである川中島の戦いの際、武田信玄によって築かれた海津城がそのはじまりとされ、城のすぐ北を流れる千曲川を天然の堀とし、要害としての機能を有していた。その後、領主の移り変わりと共に、城将・城代などが入れ替わり、それに伴い城下町も整備され、松代城は北信濃支配の拠点として重要な役割を担うようになっていった。

元和8(1622)年、真田信之が上田(現在の長野県上田市)から松代へ移封し、松代藩真田家の初代藩主となる。真田家入部以前から、ある程度、城下町が形づくられていたため、信之は上田から真田家ゆかりの寺社を松代城下へ組み込み、町を再編していったと考えられる。その後も城下町の整備や領内統治がすすめられていった。

藩の政治は松代城を中心として行われた。藩主は、そのほとんどを江戸で過ごしていたため、広大な松代藩領の統治にあたっては、国元(松代)の藩士らがその役割を担っていたと考えられる。また、松代は街道の宿駅も兼ねており、流通の拠点ともなった。城下町には、城のまわりに侍屋敷、街道沿いには町人町と次第に南へ広がり、松代は真田十万石の城下町として発展していく。

松代藩真田家は初代信之から10代幸民までの約250年間にわたり、松代藩主をつとめた。その真田家伝来の大名道具を収蔵するのが真田宝物館である。大名道具は、甲冑や刀剣といった武家の象徴である武具類をはじめ、屏風・掛軸などの書画、また調度品や婚礼道具など、実に多岐にわたる。約5万点の資料から、真田家の歴史を知るとともに、華やかな武家文化を感じることができる。



真田信之画像(真田宝物館蔵)



松代城下図(真田宝物館蔵)



真田昌幸所用 昇梯子具足
(真田宝物館蔵)



香道具(真田宝物館蔵)

イ 水の利用と庭園文化

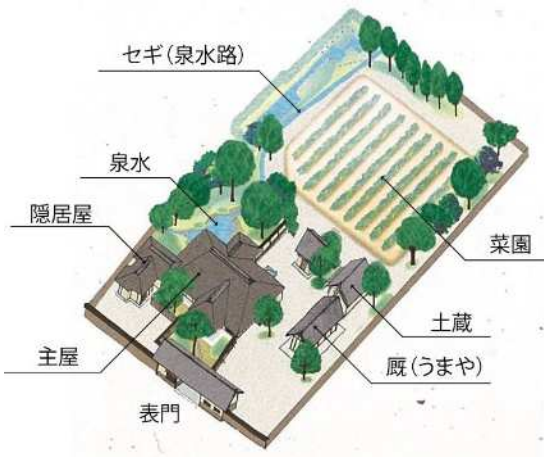
長野盆地の南部に位置する松代は、北を千曲川、残りの三方を山に囲まれた城下町であり、千曲川の後背湿地を利用した広大な水堀で囲まれる松代城を中核に、千曲川の支流となる^{かんだがわ}神田川・^{せきやがわ}関屋川などの小河川による扇状地上に町が形成された。

北下りの緩斜面に営まれた城下町には、河川からの取水や湧水を利用した水路網が発達しており、江戸時代前期には、水路普請と保守管理を主な業務とする「水道奉行」と呼ばれる家中の役職が存在した。松代は、地形的に最北端の松代城や上級武家地が低地に位置することから、水路の水質保全に関する通達が幾度も出されており、明和6(1769)年の家中あて廻状では、水路内へ「^{ちりあくた}塵芥不浄のものを捨てること」、「洗濯物等を浸しておくこと」などを禁じている。

松代の武家屋敷には、周囲の山並みを借景とした庭園があり、中央に泉水（庭池）を配することが一般的であった。泉水は、観賞目的以外にも、防火用水や菜園等への水やり、冬の雪落としなどの生活に密着した水利用がされていた。松代の水路は道路に面する「カワ」と敷地の背割りを流れる「セギ」に分かれるが、セギから分化して各戸の泉水から泉水に流れる特徴的な水路形態「^{せんすいろ}泉水路」が残っている。近年では、これらの特徴的な庭園文化を後世に伝えるため、地域住民を主体とする調査や保全活動が進められている。



周囲の山並みを借景とする新御殿跡（真田邸）の庭園



武家屋敷の構成（旧横田家住宅）



南部武家屋敷地の規則性



武家屋敷の「泉水路」

ウ 城下町の寺社と祭礼

松代は元和8(1622)年に真田信之が上田より移封して以降、明治の廃城までの約250年間、真田氏が城主として地域を治めた。真田家にゆかりのある長國寺、大英寺、大林寺などは、城下町を囲む外郭土塁(御土居)に収まっていない一方、寺町の證蓮寺や御安町の蓮乗寺、龍泉寺などは外郭土塁内に位置し、真田家移封以前の慶長年間には現在地に存在したと伝わる。また西条の清水寺や東条の清滝観音、皆神山の熊野出速雄神社などは、周辺区域に位置するが、松代城の築城以前から存在した寺社であり、仏像や古文書などの歴史資料も残されている。これらの造営時期の異なる多数の寺社建築とそこで営まれる祭礼が、松代地区の重層的な歴史的風致を生み出している。

松代地区の寺社建築の特徴として、真田家ゆかりの靈廟建築が挙げられる。長國寺の真田信之靈屋をはじめとして、西楽寺の真田信重靈屋、大英寺の大蓮院靈屋など複数の靈屋建築が現存している。

また、江戸時代から続く祭礼としては、玉依比売命神社の祇園祭や祝神社の御柱祭など、町衆が中心となる祭礼が上げられる。松代の町人地は、城下町の北国街道松代道沿いに形成され、馬喰町・紙屋町・紺屋町の上三町、伊勢町・中町・荒神町の本町三町、肴町・鍛冶町の脇二町を合わせて町八町と呼ばれた。江戸時代の祇園祭では、町毎に舞台や山車、神楽獅子舞を行っており、最後に松代城の大御門前で「大門踊り」が踊られていた。この踊りは、豊年踊りや雨乞い踊りの要素も含んだ風流踊りで現在まで継承されており、往時の姿は「松代天王祭図巻」にも描かれている。



真田信之靈屋(長國寺)



松代城跡で行われる大門踊り



大門踊り「松代天王祭図巻」(真田宝物館蔵)



「松代天王祭図巻」(真田宝物館蔵)

エ 歴史文化を守り伝える風土

戦国時代に築かれた松代城は、真田家の移封以後、花の丸の造成や千曲川の瀬直しに伴い一部拡張はされたものの、大きな改変をされずに廃城を迎えている。近年、調査に基づき江戸時代後半期の姿に復元された。城郭に隣接する新御殿は、江戸時代後期、参勤交代制度の緩和に伴い建てられた城外御殿であるが、廃城以降も真田氏別邸として利用され、表と奥の空間を残す御殿建築や土蔵群、庭園など御殿の敷地全体が残っている。

また、安政2(1855)年、松代藩の藩校として開校した文武学校は、文学所、教室2棟(東序・西序)、剣術所、柔術所、弓術所、槍術所、腰掛、文庫蔵、番所、表門などからなり、敷地も含めて当時の建物がほぼ現存する全国唯一の藩校であり、地域住民による教育の場や武道の練習の場として現在も機能している。

このほか、重要文化財である旧横田家住宅をはじめ、松代藩士の住まいである武家屋敷や真田家ゆかりの寺社なども町内に点在している。これらの歴史的建造物や、真田宝物館に収蔵されている真田家の伝来品や藩の記録、家臣所有の資料群等により、当時の政治経済や文化、暮らし振りを深く理解することができる。

松代地区では、歴史的建造物や庭園など数多くの歴史文化が残っていることから、継続的な調査やこれらの歴史文化を

テーマとしたまちあるき、歴史的建物内での古武道や茶道、香道等の日本文化体験など、地域住民を主体とする多様な活動が進められている。また、地元で産出される柴石^{しばいし}や松代温泉、温泉水を利用した釉薬^{ゆうやく}による松代焼の復活など、地域で受け継がれてきた文化を守り伝える風土が広く浸透しており、その心意気こそが、地区全体に豊富な文化財が残る要素となっている。



復元された松代城



新御殿(真田邸)



旧文武学校



旧横田家住宅



旧山寺常山邸庭園

オ 関連文化財群設定のねらい

松代城下町には松代藩と関連する歴史資料や史跡、建造物、生活文化、風習が集積しており、未指定を含む文化財についての調査や保存活用、情報発信を総体的かつ継続的に行い、まちづくりや観光振興にもその効果を波及させるため、関連文化財群を設定した。



旧文武学校で行われる剣道の稽古

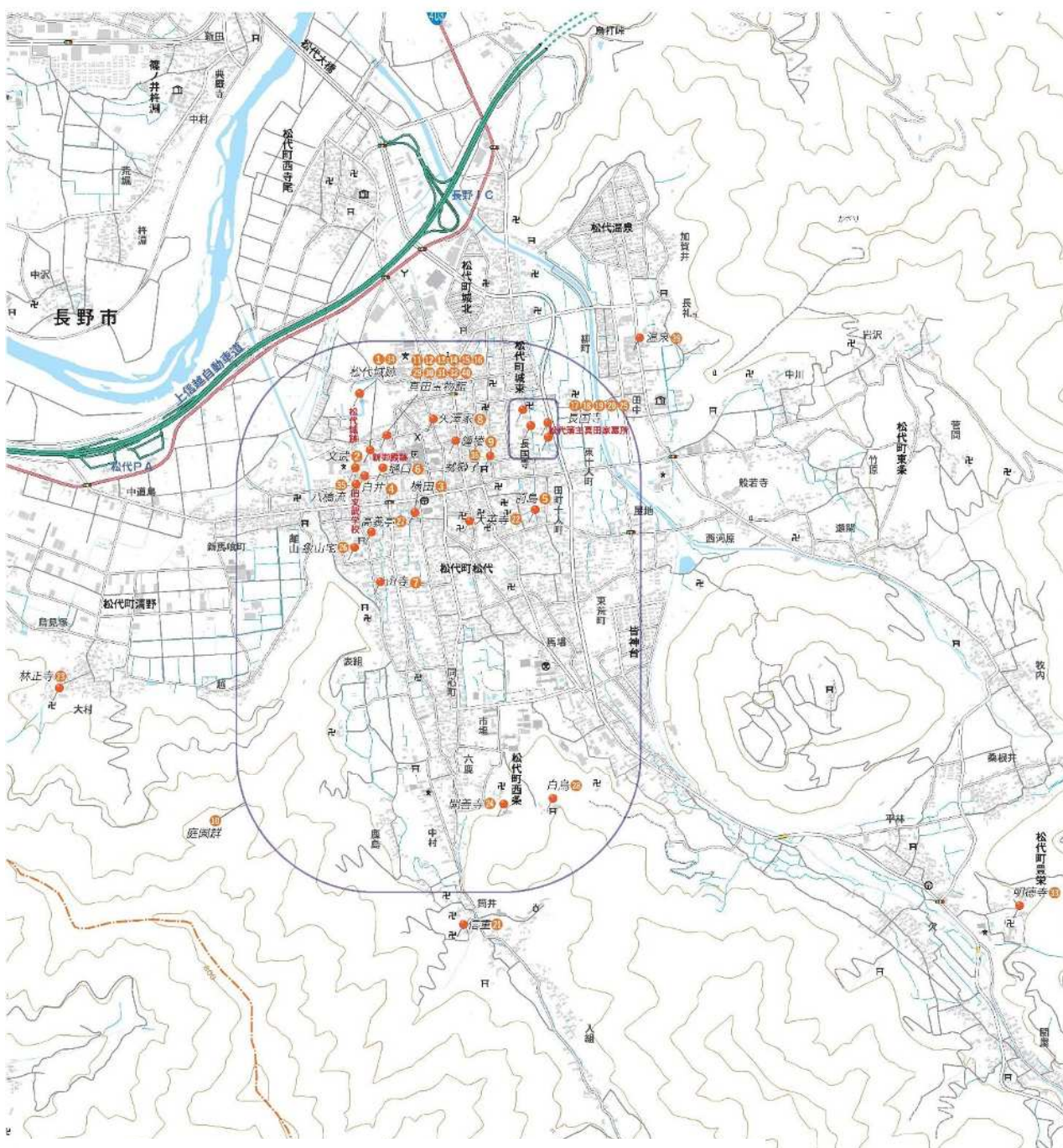
構成文化財一覧

番号	名称	概要	指定区分
1	松代城跡 附 新御殿跡	歴代城主の居城と江戸時代後期に建てられた城外御殿。	国指定史跡
2	旧文武学校	江戸時代後期に建てられた松代藩の藩校。	国指定史跡
3	旧横田家住宅主屋・表門・隠居屋・土蔵2棟	松代藩士・横田家の屋敷。	重要文化財
4	旧白井家表門	松代藩士・白井家の表門。	市指定有形文化財
5	旧前島家住宅	松代藩士・前島家の屋敷。	県宝
6	旧樋口家住宅	松代藩士・樋口家の屋敷。	市指定有形文化財
7	旧山寺家住宅書院・表門・頌徳門	松代藩士・山寺家の住宅書院ほか。	国登録有形文化財
8	矢沢家の表門	松代藩家老・矢沢家の表門。	市指定有形文化財
9	旧松代藩鐘楼	松代藩の鐘楼。現在のものは享和元年（1801）の再建。	市指定有形文化財
10	城下町の庭園群	松代城下にめぐらされた水路網。	国登録・未指定
11	大太刀（青江）	真田昌幸の兄・信綱所用と伝える。備中青江派の作。	重要文化財
12	短刀 銘吉光	真田信之の次男・信政が徳川家康から拝領したと伝える。粟田口吉光の作。	県宝
13	刀 無銘（三原の大刀）	真田昌幸が朝鮮出兵の恩賞として豊臣秀吉から拝領したものと伝える。	県宝
14	真田家文書	松代藩真田家に伝来した文書群。	県宝
15	佐久間象山筆 桜の賦	松代藩士・佐久間象山の墨書。	市指定有形文化財
16	松代焼コレクション	江戸時代後期、松代藩の殖産興業のひとつとして始められた焼き物。	市指定有形民俗文化財
17	真田信之の霊屋（宝殿・表門）	真田家の菩提寺・長國寺にある初代藩主・真田信之の霊屋。	重要文化財
18	真田信弘の霊屋および表門	真田家の菩提寺・長國寺にある四代藩主・真田信弘の霊屋。	県宝
19	長國寺開山堂	もとは三代藩主・真田幸道の霊屋だったが、現在は移築し長國寺の開山堂となっている。	県宝

20	松代藩主真田家墓所	真田家の菩提寺・長國寺にある真田家の墓所。	国指定史跡
21	真田信重靈屋 附前机 1脚・釣灯笼2個	真田信之の三男・信重の菩提寺・西楽寺にある靈屋ほか。	重要文化財
22	大英寺本堂および表門 附板絵著色三十六歌仙 36枚	真田信之の正室・大蓮院の菩提寺・大英寺にある。もとは大蓮院の靈屋だったが、現在は本堂となっている。	県宝
23	林正寺本堂および表門	もとは二代藩主・真田信政の靈屋として長國寺にあったが、昭和になって林正寺に移築したもの。	県宝
24	開善寺経蔵 附棟札 1枚	真田家の祈願寺である開善寺の経蔵と棟札。なかには八角の輪蔵をおく。	県宝
25	恩田木工民親の墓	松代藩家老・恩田木工民親の墓。「日暮硯」は木工の事績を筆録したもの。	市指定史跡
26	佐久間象山宅跡	松代藩士・佐久間象山の居宅跡。象山神社となりに位置する。	県指定史跡
27	高義亭	もと松代藩家老・望月家の下屋敷。佐久間象山が藝居中に住した。	市指定有形文化財
28	白鳥神社の木造神馬	真田家の氏神を祀る白鳥神社にある。八代藩主・真田幸貫寄進。	市指定有形文化財
29	佐久間象山筆 紙本水墨山水図	松代藩主・佐久間象山作の山水図。	市指定有形文化財
30	小山田家文書のうち 真田信繁書状	真田信之の弟で大坂の陣での活躍が知られる真田信繁書状などを含む。	市指定有形文化財
31	海野家文書	松代藩士・海野家に伝来した文書。真田信之書状などを含む。	市指定有形文化財
32	東光寺文書	武田氏の海津城築城後、城の祈願寺であった蓮光寺(のち東光寺)伝来の文書群。	市指定有形文化財
33	明德寺文書	城主らが発給した寺領安堵上や禁制、書状など、明德寺伝来の文書群。	市指定有形文化財
34	大門踊り	松代天王祭の最後、松代城大御門前で踊ったことから、その名がある。	市指定無形文化財
35	八橋流箏曲	江戸時代、八橋検校による箏曲の流派のひとつ。松代藩内で伝えられた。	市指定無形文化財
36	勢獅子	松代天王祭にあたり、伊勢町で出す獅子。	市指定無形民俗文化財
37	松代焼	松代焼は昭和の初期に一度絶えるが、その後、現代松代焼として復興された。	未指定 宝物館所蔵の松代焼コレクションは市指定、現代続く松代焼は未指定
38	松代雅楽	明治時代初めに宮島春松によって松代ではじめられた雅楽。	未指定

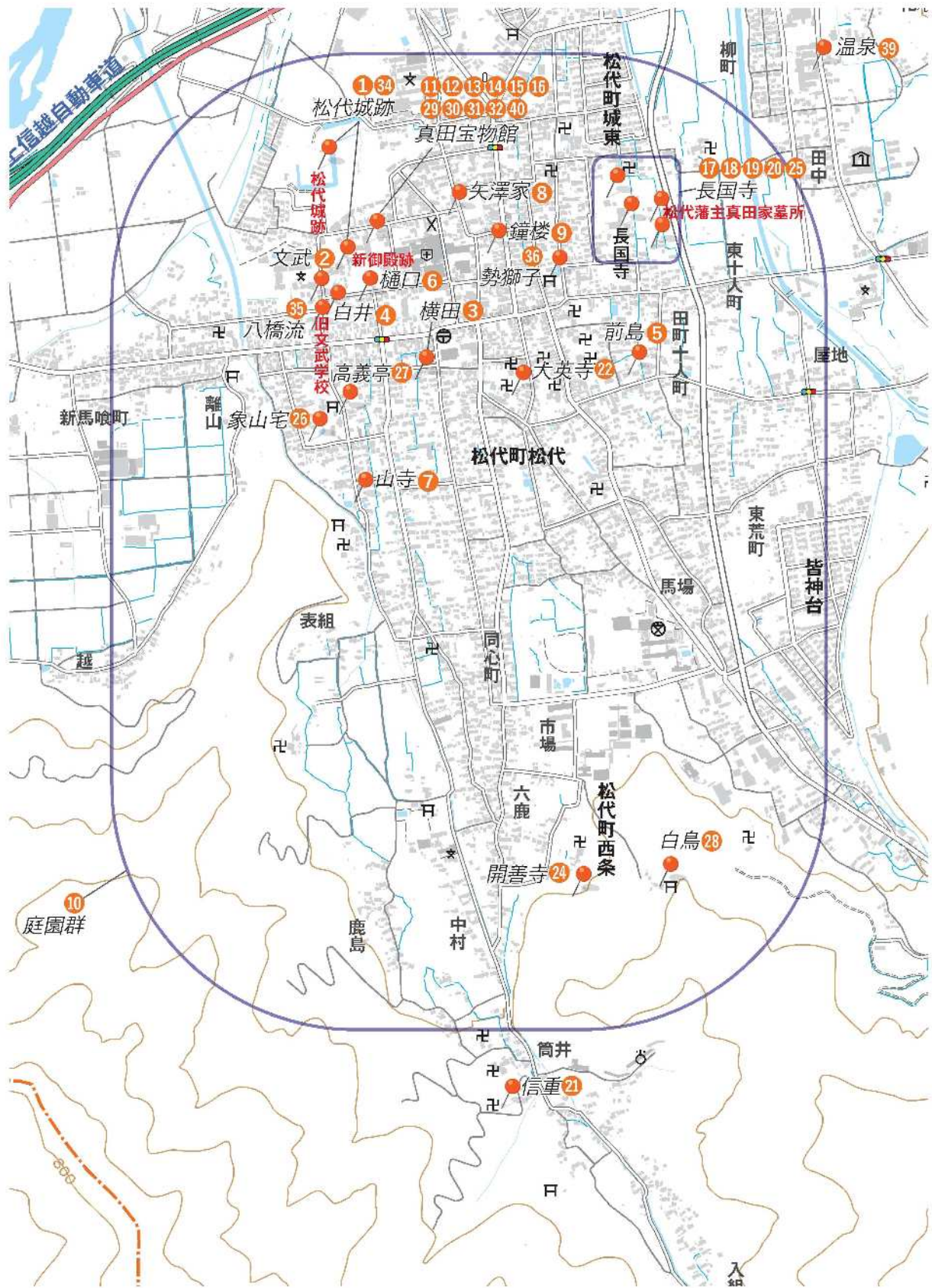
39	松代温泉	松代地域の温泉。茶褐色のにごり湯が特徴。	未指定
40	松代地区の寺社・個人所蔵資料	松代地域の寺社や個人家に伝来する資料。	未指定

構成文化財の位置図



※絵画・彫刻・工芸品等（真田宝物館収蔵資料等）を除く

拡大地図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・市内外に伝わる松代や真田家に関する資料調査及び史跡等の現状把握が進んでいない。
- ・松代に残る文化財を総合的に調査・収蔵・展示・教育普及するための拠点である真田宝物館は施設の老朽化が深刻であり、既存収蔵資料の保存に課題が生じていると共に、収蔵庫スペースの確保すら難しい状況にある。
- ・関連文化財群の計画的な保存整備や防災対策が十分にできていない。
- ・所有者の高齢化、地域コミュニティの変化（世代交代）により、文化財の消失が増加している。
- ・観光事業者が少なく、来訪者に魅力的な情報発信ができていない。関連文化財群を活かした歴史まちづくり、文化観光を、地域と共に推進する必要がある。
- ・地域の歴史への理解を深め、保存・活用を担う次世代の人材育成が必須である。

方針)

- ・真田家に関する資料の把握及び詳細調査を進める。
- ・関連文化財群の拠点施設となる真田宝物館の設備や機能の充実化を図る。
- ・真田宝物館を中心とする文化財群の再整備を検討する。
- ・文化財の担い手を育成する。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取組主体	実施期間
松代藩関係資料の調査・収集を進める	真田宝物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
歴史的建物・庭園・祭礼等の調査を進める	真田宝物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
地域（個人・寺社など）所在資料の調査及び流出した松代藩関係資料の収集・購入を行う	真田宝物館	行政	R6～R13
松代地区の資料の研究及び公開を進める	真田宝物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
登録文化財への登録を推進する	文化財課	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
外部研究機関との共同研究事業を進める	真田宝物館	行政、専門家・有識者	R6～R13
松代城跡保存整備を行う	文化財課	行政	R6～R13
真田宝物館収蔵資料データベースの公開、メディアを使った情報発信を行う	真田宝物館	行政	R6～R13
松代藩や真田家に関する展示・ワークショップ等の教育普及活動を行う	真田宝物館	行政	R6～R13
着地型文化体験コンテンツの開発を支援する	真田宝物館・観光振興課	行政、住民・関係団体	R6～R13
歴史的まちなみの環境整備を行う	まちづくり課	行政	R6～R13
伝統環境保存事業（松代四町）を行う	文化財課	行政、所有者、住民・関係団体	R6～R13
文化財の担い手となる市民・団体を育成する	真田宝物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
継続的な資料修復による技術者及び原料の確保や支援を行う【新】	文化財課・真田宝物館	行政、専門家・有識者	R6～R13

庭園の維持管理体制を検討する【新】	文化財課	行政、所有者、住民・関係団体	R6～R13
ふるさと納税制度により財源を確保する	文化財課	行政	R6～R13
歴史資料の散逸防止を目的とした基金創設を検討する【新】	文化財課・真田宝物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
旧横田家住宅の防災施設整備を行う	文化財課	行政	R6～9
災害時の歴史的建造物・歴史資料等のレスキュー体制を検討する【新】	文化財課	行政・所有者・専門家・有識者	R6～9
歴史的建造物を活用した宿泊施設・商業施設等を促進させる【新】	文化財課・観光振興課	行政、住民・関係団体	R10～R13
真田宝物館展示室及び収蔵施設整備を検討する【新】	真田宝物館	行政、住民・関係団体	R10～R13
ガイド人材の育成を支援する	真田宝物館	行政、住民・関係団体・専門家・有識者、事業者	R10～R13
建造物修理に必要な技術継承と後継者育成を支援する（左官等）【新】	文化財課	行政、住民・関係団体	R10～R13
伝統工芸・芸能の技術継承と後継者育成を支援する【新】	文化財課・観光振興課	行政、所有者、住民・関係団体	R10～R13

(5) 関連文化財群5 善光寺・門前町に息づく歴史文化と祭礼

ア 門前町の立地と歴史

緩やかな南下りの傾斜地に位置する善光寺門前町は、裾花川と湯福川の扇状地上に位置し、縄文時代以降断続的な集落地にあたる。平安時代末期になると、中央の寺院が地方寺院の別当職を掌握する傾向が高まり、善光寺も有力寺院である天台宗寺門派の園城寺（三井寺）の末寺化が進められたことにより、その名前が貴族社会・仏教界で知られるようになったと考えられる。「吾妻鏡」には、源頼朝が国内の御家人に再建を命じており、全国の武士層に善光寺信仰を普及させることとなった。

門前町の発掘調査では、中世の区画と推定される溝状遺構が南北軸・東西軸で検出されており、現在の門前町周辺地割がこの頃から発展していったことが伺える。「一遍聖絵」や「大塔物語」では、善光寺門前の賑わいを伝えており、大工・仏師・絵師・遊女など農村とは異なる門前町が展開し、多くの参詣者を集めた様子が伺える。

中世から近世において、善光寺は火災によって幾度か建造物を焼失している。宝永4（1707）年の本堂再建においては、火災を避けるために、北之門町を城山下に移転させ、新たな境内地を土塁で囲むと共に、湯福川を迂回させるなど大規模な造成が行われた。この造成により、新たな境内地には本堂、三門、経蔵が築造され、堂庭と呼ばれる本堂跡地には、仮設の店舗である仲見世が広がり、その周囲には宿坊群が連綿と連なる現在の町並みの原型ができあがった。その後、江戸時代末の弘化4（1847）年、明治24（1891）年の火災では仁王門や仲見世、宿坊群の多くを焼失しているが、本堂や三門、経蔵は無事であった。現在も善光寺の門前町では、火災対策として構造木材を塗り込めた土蔵や店蔵造りの建造物、防火用水としても利用された水路の畳差し跡¹などが残っており、火災に悩まされた門前町の暮らし振りがうかがえる。



善光寺本堂



発掘で検出された中世の区画溝跡



善光寺門前に残る石組水路



畳差し箇所と歴史を伝える看板

¹ 畳差し：各家の間下屋に水路があり、火災時に畳を差し入れ消火活動に用いたと伝わるもの

イ 善光寺・門前町で営まれる祭礼

近世に入ると全国から善光寺へ参拝する人の数が増え、互いにお金を出し合い、旅行資金を積み立てて善光寺へ代参する善光寺講も全国各地に組織された。このうち明治41(1908)年に滋賀県草津町でつくられた善光寺講が、後に株式会社日本旅行へと発展したことは有名である。現在でも数は少なくなったが、講として参拝に来る人々の姿が見られる。

これらの人々を受け入れてきた宿坊は、各独立した寺院であり、本尊が安置される小御堂^{おみどう}、参拝者の宿泊や住職等の居住空間である庫裡、門、中庭などで構成される。善光寺には、大勧進^{だいかんじん}のもとに天台宗25院(台家^{たいか})と大本願のもとに浄土宗14坊(浄家)の計39件の宿坊があり、それぞれに趣向を凝らした精進料理²を味わうことができる。また、善光寺の寺務運営は、宿坊を営む両宗によって担われている。

善光寺では、お朝事³や堂童子⁴をはじめ、数多くの年中行事が営まれているが、最大の催事が御開帳である。御開帳には他国に出る「出開帳^{でがいちよう}」と善光寺で実施する「居開帳^{いがいちよう}」があり、現本堂の造営に際しては、元禄年間に全国で出開帳を開催し、浄財を集めたとされる。江戸時代、不断念仏行の満行を契機に開催されていた「居開帳」は、全国から多数の参拝者を集めており、弘化4(1847)年の「如来堂御遷座参詣群集之図^{にょらいどうごせんざさんけいぐんしゅうのず}」でもその様子を伺える。現在の御開帳は、観光の資源としての要素も大きくなり、数え年で7年に1度ごとに開催されるようになった。善光寺の御開帳は、秘仏である本尊の代わりに、本尊と同じ

姿の前立本尊^{まえだちほんぞん}(金銅阿弥陀如来及び両脇侍立像)を公開すると共に、前立本尊から伸びる「善の綱」と呼ばれる綱が本堂前の回向柱^{えこうばしら}に繋がれており、参拝者は回向柱に触れることで前立本尊と結縁することができる^{とされる}。回向柱は、松代藩真田家が本堂建立の普請にあたった縁から、現



宿坊の精進料理



善光寺の御開帳(中日庭儀大法要)



「善光寺祭礼図巻」(真田宝物館蔵)

² 精進料理：仏教の戒律により、野菜、大豆製品などを主な材料とし、素材の風味を生かした料理

³ お朝事：毎朝行われる朝の勤行であり、天台宗の貫主、浄土宗の上人がそれぞれ導師となる

⁴ 堂童子：浄家の堂童子役によって行われる善光寺の年越・正月行事

在でも松代地区からの寄進が伝統となっている。

善光寺周辺の寺社では、弥栄神社の御祭礼や諏訪社系の御柱祭など、門前の地域住民によって伝統的な祭礼が営まれている。特に弥栄神社の御祭礼は、門前の各町で保管・所有する屋台を曳き出し、門前町内を巡行する祭礼であり、「善光寺御祭礼絵巻」（真田宝物館所蔵）に描かれた姿を今に伝える。当初は、善光寺周辺の旧善光寺領で行われていたが、明治 21(1888)年に長野駅が善光寺の南方 2 k m 程の位置に開業すると、駅周辺の近代化に伴う商業地の拡大が進み、参加町は徐々に南部へと拡大していった。現在の御祭礼では、善光寺門前から長野駅までの旧参道沿いを中心に屋台が巡行しており、店蔵と擬洋風の建築物が混在する多様な文化を受け入れた門前町を舞台に、江戸時代から続く伝統的な祭礼が行われている。

ウ 関連文化財群設定のねらい

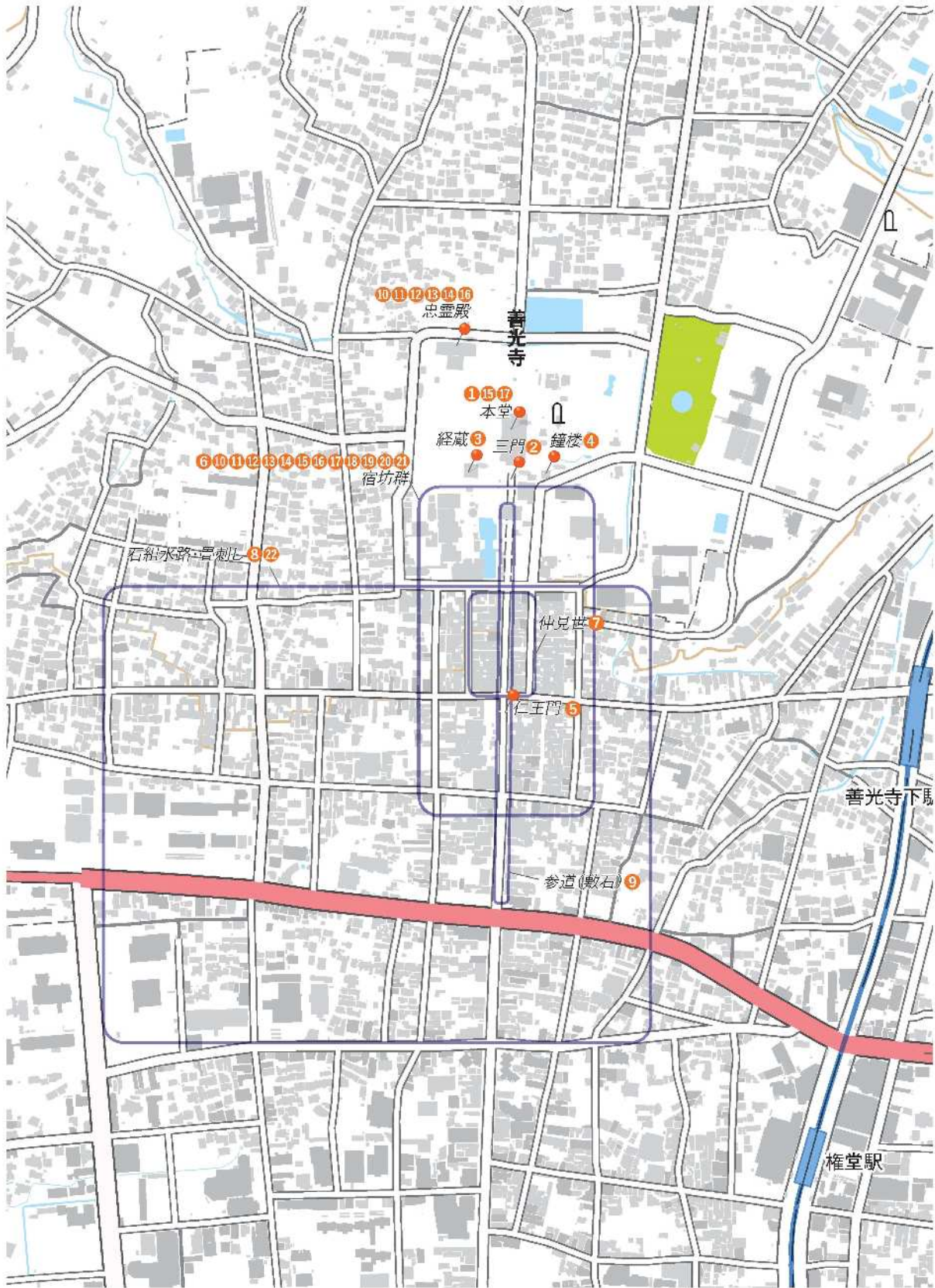
善光寺とその門前町一帯には、善光寺と関連する歴史資料や史跡、建造物、生活文化、風習が集積しており、未指定を含む文化財についての調査や保存・活用、情報発信を総体的かつ継続的に行い、まちづくりや観光振興にもその効果を波及させるため、関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	指定等状況
1	善光寺本堂	東日本最大級の木造建造物で、最奥の瑠璃壇に本尊を祀る内々陣、内陣、外陣の空間からなる	国宝
2	善光寺三門	本堂正面に位置し、南向きに建てられた重厚な二重門	重要文化財
3	善光寺経蔵	本堂南西に、東向きに建てられており、内部に仏教経典を納めた八角輪蔵を有する	重要文化財
4	善光寺鐘楼	本堂南東に位置し、切石積基壇に建つ吹放し形式の鐘楼。梵鐘は重要美術品。	国登録有形文化財
5	善光寺仁王門	本堂正面に伸びる参道上、仲見世と宿坊の間に建つ建造物で、正面に一对の仁王像を安置。	国登録有形文化財
6	善光寺の宿坊群	大勧進を本坊とする天台宗 25 院と、大本願を本坊とする浄土宗 14 防からなる寺院。	国登録・未指定
7	仲見世の歴史的建造物	堂庭に建てられたお土産等の商店群。江戸時代は仮設であったが、明治以降に常設となる。	未指定
8	門前町の歴史的建造物	旧三河屋商店等の江戸期の建物や、藤屋旅館、旧信濃中牛馬合資会社社屋等の近代建造物群	国登録・未指定
9	善光寺参道（敷石）	江戸中橋上楨町の大竹屋平兵衛の寄進により築かれたとされる郷路山産安山岩の敷石	市指定史跡
10	善光寺等所有の仏	金銅阿弥陀如来及両脇侍立像をはじめ、善	重要文化財・県宝・市

	教関係資料	光寺、宿坊等で有する多数の仏教関係資料	指定・未指定
11	善光寺等所有の絵画資料	絹本著色阿弥陀聖衆来迎図をはじめ、大本願、大勸進、宿坊等で所有する絵画資料	重要文化財・県宝・未指定
12	善光寺等所有の古文書・書跡	紙本墨書源氏物語事書をはじめ、大勸進、大本願、宿坊等で所有する古文書・書跡	重要文化財・市指定・未指定
13	善光寺関連の歴史資料（造営図等）	日本最古の設計図である善光寺造営図をはじめ、大勸進等が所蔵する歴史資料	重要文化財・未指定
14	善光寺関連の考古資料	元善町遺跡からは、古代瓦や塑像と推定される土製品、中世の輸入陶磁器や石造物が出土。	未指定
15	善光寺堂童子（正月行事）	浄家の堂童子役によって行われる善光寺の年越・正月行事。	未指定
16	善光寺の正月行事用具	善光寺の正月行事において、頭役（堂童子）を中心とする諸儀礼行事に使用される用具類	市指定有形民俗文化財
17	善光寺御開帳（居開帳）	数え年で七年に一度、本尊と同じ姿をした前立本尊を公開する盛大な行事	未指定
18	善光寺関連遺跡（元善町遺跡等）	湯福川の扇状地に位置する長野遺跡群に含まれる元善町遺跡、善光寺門前町跡など	未指定
19	精進料理	仏教の戒律により、野菜、大豆製品などを主な材料とし、素材の風味を生かした料理	未指定
20	絵解き	善光寺縁起の内容・伝承を、絵巻物を用いて解説する行為	未指定
21	善光寺の年中行事	年越・正月行事の堂童子をはじめ、季節ごとに行われる催事や、毎日行われるお朝事等がある	未指定
22	門前町の石組水路・畳差し	各家の間下屋に水路があり、火災時に畳を差し入れ消火活動に用いたと伝わるもの	未指定
23	ながの祇園祭	西之門町の弥栄神社の祇園祭で、善光寺門前町の屋台が町中を巡行する。戦後いったん途絶えたが平成24(2012)年から「ながの祇園祭御祭礼屋台巡行」の名で復活した	未指定

講成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・所有者・管理者の世代交代により、収蔵資料の管理・現状把握ができていない。
- ・善光寺関連資料の保管建物の経年劣化が進んでおり、資料劣化の可能性が高まっている。
- ・歴史的建造物の調査が不足しており、価値づけや保存活用の対策がとられていない。
- ・善光寺特有の歴史文化に対する調査が不足しており、来訪者に魅力的な情報発信ができていない。

方針)

- ・関連文化財群の適正な管理により、資料劣化の危険性を取り除くとともに、資料を価値づけるための調査を行う。
- ・調査成果を効果的に活用し生かす方法を検討していく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取組主体	実施期間
善光寺関連仏教美術・文書等の現状把握調査を継続的に実施する	博物館	行政、所有者、専門家・有識者	R6～R13
歴史的建造物群・祭礼等の調査を進める	博物館	行政、所有者、専門家・有識者	R6～R13
善光寺本堂の大修理に向けて耐震・防災等を検討する	文化財課	行政、所有者	R6～R13
教育機関と連携した普及啓発を行う	文化財課・博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
古い建物を活用したりリノベーションへの支援を行う	観光振興課	行政、住民・関係団体	R6～R13
門前まちあるきイベントの促進を支援する	まちづくり課	行政、住民・関係団体	R6～R13
歴史的まちなみ景観整備を行う	まちづくり課	行政、住民・関係団体	R6～R13
建造物修理の技術継承と後継者育成の支援を行う	まちづくり課	行政、所有者、住民・関係団体	R6～R13
御開帳による財源確保	文化財課	行政、所有者	R6～R13
文化財の修理に要する基金等を検討する【新】	文化財課	行政、住民・関係団体	R6～R13
善光寺保存活用計画に基づき保存事業を実施する	文化財課	行政、所有者、専門家・有識者	R6～R9
善光寺防災マニュアルに基づく定期的な訓練の実施及び、見直しを行う	文化財課	行政、所有者、住民・関係団体	R6～R9
ガイドマップの更新及びガイド人材の育成を支援する	文化財課・観光振興課	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R9
文化財を活用した観光コンテンツの開発を支援する【新】	文化財課・観光振興課	行政、住民・関係団体、事業者	R6～R9
伝統的建造物の保存活用・防災のための建築基準法適用除外の検討を行う【新】	文化財課	行政、所有者、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R9
善光寺忠霊殿や大勸進収蔵庫等の修理を検討する【新】	文化財課	行政、所有者、住民・関係団体	R10～R13

(6)関連文化財群6 自然と信仰が紡ぐ戸隠の歴史文化

歴史文化 1 歴史文化 2 歴史文化 3

ア 修験道の一大霊場となった戸隠山

標高2,000m級の戸隠山は激しい地殻変動によって約200万年前に海底から隆起をはじめた山で、サメの歯や貝類などの化石が産出する。凝灰角礫岩と砂岩、礫岩の互層からなる山体は風食によって刃先のような稜線、切り立つ断崖、大小の洞窟といった独特の山容をつくりだしており、平安時代に修験道が盛んになると、修行のため修験者が分け入るようになった。⁵



険しい山並みの戸隠山

平安時代末頃には、戸隠は修験道の一大霊場として都でも知られる存在となり、その隆盛ぶりは比叡山や高野山に比肩するほどであった。また、鎌倉時代に古事記や日本書紀に登場する天岩戸を戸隠山とする伝承が広がると、本地垂迹説のもと、天岩戸神話と関わりの深い神々が仏教と習合して祀られるようになった。



戸隠山の切り立った稜線を行く登山者

イ 戸隠講の拡がりや宿坊群・門前町の発展

戦国時代、戸隠山顕光寺は武田信玄と上杉謙信による川中島の戦いに巻き込まれ、衆徒⁶は一時戸隠を離れたが、文禄3(1594)年に上杉景勝の支援によって戸隠へ戻った。江戸時代初めには徳川家康から千石の朱印地が寄進され、顕光寺は信濃を代表する天台宗寺院となり、社殿や社叢、境内、門前の整備が進んだ。また、江戸時代の安定した治世を背景に、水神として信仰された九頭龍権現を母体とする戸隠信仰が広く庶民に浸透し、「戸隠講」が信濃、越後を中心に、北陸、関東の各地につくられた。

⁵ 修験者たちがサメの歯の化石を「鬼の爪」や「龍の牙」などと想像したことが、後の戸隠信仰や鬼女伝説を生み出し、人々を惹きつける素地の一つになったとも考えられる。

⁶ 戸隠山顕光寺に奉仕した僧のこと。それぞれが坊(寺)を構え、その住職を務めた。戸隠山顕光寺には奥院(本院)、中院、宝光院の三院があり、衆徒はいずれかの院に属した。

戸隠講は、顕光寺に仕えた各衆徒がそれぞれ檀那場として代々管理し、衆徒は講回りにあわせて祈祷札や種兆（その年の天候・作柄予想）、抜け止め（洪水除け）の木杭、薬丹などを配った。また、講員たちが戸隠へ参拝に訪れた際には、衆徒の院坊に宿泊し、加持祈祷を受けた。そのため、衆徒の院坊は「宿坊」としての役割を担うようになり、中院、宝光院には宿坊群と門前町が発展した。

明治になると政府の神仏分離政策により顕光寺は廃されて戸隠神社となり、戸隠講も一時禁止された。しかし、農業と深く結びついた戸隠講は明治13年に再興が認可され、農業振興政策とあいまって近世以上に隆盛した。

現在、戸隠中社と宝光社の集落には伝統的な宿坊や民家が多く残るが、それらを維持することができたのも、戸隠講をはじめとする信仰が存続したためと考えられる。



戸隠山と宿坊群・門前町（宝光社地区）



戸隠の宿坊（旧徳善院・極意家）

ウ 信仰とともにつられてきた戸隠の歴史文化

信仰を背景に成立、発展してきた戸隠には、伝統的な祭礼、食文化、工芸品など、自然と人々の営みが複合した歴史文化が随所に見られる。

戸隠では数え年で7年に一度（丑年と未年）、戸隠神社式年大祭⁷が催行される。1か月あまりの期間中、集落一帯には紙垂の付いた注連縄が張られ、様々な神事が執り行われるとともに、戸隠神社太々神楽や宣澄踊りなどが奉納される。式年大祭のハイライトは渡御の儀と還御の儀で、宝光社祭神を奉戴した神輿（鳳輦）行列が宿坊などの伝統的建造物が建ち並ぶなかに華やかに進み、戸隠信仰のもとに成立、発展をした戸隠特有の歴史を見ることができる。



茅葺き屋根の宿坊と戸隠神社式年大祭の神輿行列



修験道の歴史を伝える柱松神事

⁷ 式年大祭の原型は江戸時代の御開帳にあるとされ、宝光社境内には文化元(1804)年製作の神輿が保存、展示されている。

戸隠への参拝者が歩いた「戸隠道」の終着点が戸隠神社奥社である。戸隠神社奥社参道を進み、随神門をくぐると、200本を超えるスギの巨樹からなる並木が目に飛び込んでくる。この杉並木は400年ほど前に整備が始まった江戸時代までは参道脇に院坊が建ち並び、その遺構が奥社院坊跡として保存されている。幾代もの人々によって守り伝えられてきた杉並木に沿って多くの参拝者が行き交う光景は、戸隠の信仰の奥深さを象徴している。



戸隠神社奥社参道の杉並木と随神門

標高の高い戸隠では米の栽培が難しく、代わりに蕎麦が古くから食されてきた。現在は多くのそば屋が店を構え、戸隠特有のそば切りである「戸隠そば」を誰しも気軽に楽しむことができるが、江戸時代まではそば餅やそばがきとして食すことが一般的で、手間のかかるそば切りは祭礼や賓客を饗応する席で振舞われた特別なハレの料理であった。そばを折り曲げ丸めるように盛る「ぼっち盛り」も、もとはハレの料理として一口ずつ上品に食すことができるよう工夫されたことに由来すると考えられる。



農業用温水ため池である鏡池

蕎麦をはじめとする農作物は、比較的標高の低い宝光社地区や豊岡地区で主に栽培され、宿坊や門前での消費を支えた。厳しい環境下で農業生産力を高めるため、江戸時代には灌漑用水や獣害除けのシシ土手が設けられ、戦後には農業用の温水ため池として鏡池や小鳥ヶ池などが整備された。戸隠連峰を背景に蕎麦の花が一面に咲き誇る豊岡地区の風景や、水面に戸隠山が映りこむ幻想的な鏡池の景観は、戸隠の食と農の歴史が作りだした景観といえる。



蕎麦の花が咲き誇る戸隠の農村風景

戸隠の伝統的工芸品に戸隠竹細工がある。標高が高く、農作物が十分に収穫できなかった中社地区では、江戸時代から根曲り竹（チシマザサ）を刈り取ることが特別に許され、年貢として納めていたとされる。箕やビク、パイスケといった生活道具のほか、製糸業が隆盛した時期には蚕籠が盛んにつくられ、中社地区の住民の生活を支えた。購買者の多くは、農家を中心とする戸隠講の講員であった。現在はざるや椀籠、コーヒードリッパーなどが土産物として人気で、30名ほどの職人が根曲り竹の伐採から編み上げまですべて手作業で生産している。戸隠そばに欠かせない「そば箕」や



第5章-42

そば箕にぼっち盛りで盛られた戸隠そば

新そばの提供を伝える「蕎麦玉」も戸隠竹細工によるもので、営みと結びついた貴重な文化財である。

エ 関連文化財群設定のねらい

戸隠には、戸隠信仰に関わる歴史資料や遺跡、建造物、生活文化、風習が集積するとともに、戸隠信仰を生み出す背景となった自然環境が良好に保全されており、未指定を含む文化財やそれを取り巻く環境についての調査や保存活用、情報発信を総体的かつ継続的に行い、まちづくりや観光振興にもその効果を波及させるため、関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

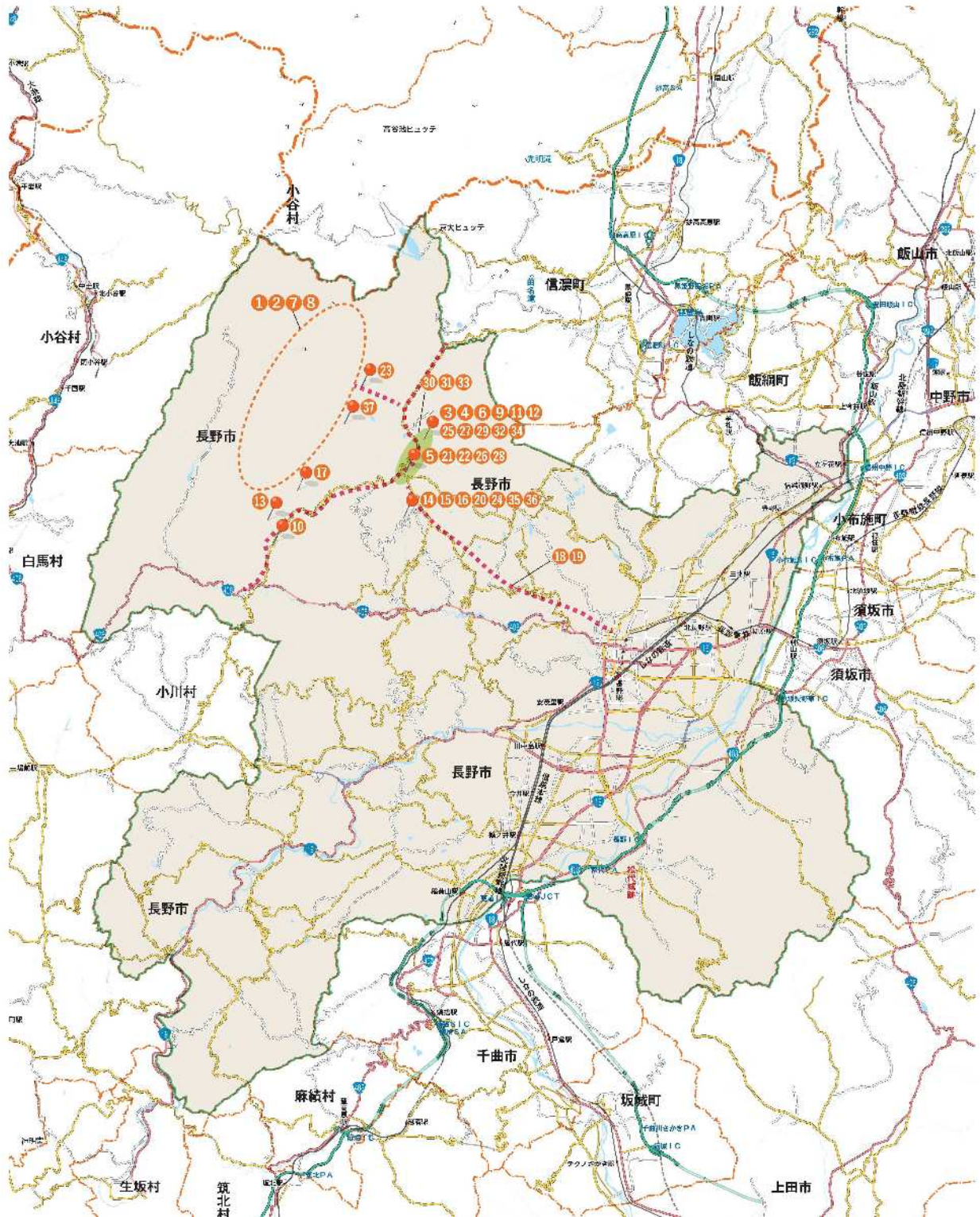
番号	名称	概要	指定等状況
1	戸隠連峰（戸隠表山・裏山）	大きくは、表山（西岳・戸隠山）と裏山（高妻山・乙妻山）に分かれ、あわせて両界山と呼称されて戸隠信仰の中核を成した。	未指定（妙高戸隠連山国立公園）
2	戸隠一帯から産出する化石群	戸隠では 400～200 万年前の 160 種類以上の貝類やサメの歯の化石が発見されており、「戸隠積沢の化石群」が市天然記念物に指定されている。	市指定天然記念物（一部）
3	牙笏	アフリカゾウの象牙を素材としたもので、正倉院に収められた 3 枚を含め、類例は全国で 5 例のみ。奈良時代ものと考えられている。	重要文化財
4	紙本墨書法華経残闕	法華経を写経した巻物で 4 巻が残る。聖徳太子筆と口伝されるが、一説には平安末期の能書家として知られる藤原定信によるものとされる。	重要文化財
5	銅製不動明王御正躰	御正躰は懸仏とも呼ばれ、神仏同体思想のもと神社祭神の本地仏を銅板に表し祀ったもの。平安時代末のものと考えられる。	県宝
6	戸隠山顕光寺流記并序	長祿 2 年（1458）に編纂されたとされる戸隠山顕光寺の縁起などに関する文書。現存するものは室町時代中期に法林坊定与が書き写したものである。戸隠信仰の草創期や古代信濃への天台密教の普及の歴史を紐解く上で貴重な資料。	県宝
7	戸隠神社信仰遺跡	戸隠神社奥社・中社・宝光社のほか、戦国期に一時避難した筏が峯（小川村）の三院跡も史跡に指定されている。	県指定史跡
8	戸隠三十三窟跡	戸隠で修験者が修行の場として使用した洞窟や岩屋で、「西窟」からは平安時代末頃の銅製花瓶・六器が出土した。江戸時代の絵図史料	未指定

		にもその存在が描かれている。	
9	武田晴信願状	永禄元年(1558)に武田晴信(信玄)が越後勢の敗北と信濃の支配を願って戸隠山中院に奉納したもの。この翌年、戸隠衆徒は上杉より侵攻を受け、一時離山を余儀なくされた。	市指定有形文化財
10	戸隠志垣鬼の塚五輪塔	鬼女紅葉の墓と伝えられる五輪塔。戸隠山に住まった女の鬼(紅葉)を朝廷から派遣された平維茂が退治するという伝説が戸隠、鬼無里に残されており、その旧跡の一つ。	市指定有形文化財
11	中社の納経供養塔	回国修行者が頭光寺に納めた法華経の散逸を防ぐため造られた石塔で、高さ3.9mに及ぶ。もとは中院境内にあったが、廃仏毀釈により現在地に移され、津島社が勧請された。	市指定有形文化財
12	宣澄踊り	天台、真言両派の法論の末に暗殺されたとされる大先達宣澄阿闍梨を慰めるため、毎年8月16日に宣澄社前で酒を酌み交わしながら踊る。修験道に深く関連した踊りとされる。	市指定無形文化財
13	戸隠福平の宣澄祠	大先達宣澄阿闍梨の出身地に建立された石祠。文明13年(1481)の銘がある。	市指定史跡
14	二条の城之内城跡	栗田氏館とも呼ばれる。中世においては戸隠山別当を歴任し、江戸時代では神職として火ノ御子社に仕えた栗田氏が万治元年(1658)に築いたとされる。	市指定史跡
15	戸隠原の大頭庵跡	第54代戸隠山別当、慧含の隠居所として宝暦年間に豊岡の人々が建てたと伝わる。史跡内に庵の由来を記した碑文があり、その内容から戸隠豊岡地区における農地開発と別当との関係性がうかがえる。	市指定史跡
16	戸隠尾上の慈俟後の石・一実道士の碑	第52代戸隠山別当、乗因の里坊跡と伝わる場所に、乗因が信念とした「慈悲・儉約・自後」から三字を刻んだ自然石と「戸隠別当阿智祝部一実道士」の碑が残る。別当が関わった農地、用水の開発史がうかがえる。	市指定史跡
17	戸隠奈良尾弘法遺跡	弘法大師が祀られている奥の院を中心とした洞窟群からなる修験遺跡。天台宗との法論に破れた真言系修験者の隠れ行場との伝承もある。	市指定記念物
18	戸隠道	修験者が霊場・戸隠山へ向かう道として開かれ、やがて複数の道筋が整備されたと考えられる。主な分岐点には道標が置かれ、一ノ鳥居からは丁石も設置されている。山間の流通路としても大きな役割を果たした。	未指定(歴史の道百選)
19	町石(丁石)	戸隠参拝の道筋に一町(60間、約109m)ごとに建てられた道標。一ノ鳥居から宝光院へ	市指定史跡

		43 町、中院へ 53 町、中院から奥院へ 30 町が江戸時代に整備された。	
20	諸沢橋供養塔	戸隠豊岡地区から火ノ御子社へ向かう立道沿いの諸沢橋落成の際に安全を祈願して嘉永 7 年(1854)に建てられた。	市指定史跡
21	一ノ午王橋供養塔	一ノ鳥居から祓沢を経て中院へ向かう途中、男鹿沢を渡る石橋（一ノ午王橋）の安全を祈願した供養塔で、文化 7 年(1810)に建てられた。	市指定史跡
22	熊の石塔	一ノ午王橋供養塔の向かい側に建てられた石塔。戸隠における熊野信仰の存在を伝える宝篋印塔との考えもある。	未指定
23	戸隠神社奥社社叢	戸隠信仰の歴史とともに自然と人為が融合して形成された。随神門から先、院坊跡が連続する参道沿いには見事な杉並木がみられる。	県指定天然記念物
24	豊岡のカツラ	カツラとしては県内最大級。親鸞聖人が戸隠参詣の折に鬼女紅葉旧跡を訪ねて荒倉山へ登った際に杖としていた桂の枝が大樹になったとの伝承が残る。	県指定天然記念物
25	戸隠中社の三本杉	戸隠神社中社大鳥居がある広庭を囲うようにほぼ正三角形に植えられた 3 本のスギの巨木で、樹齢は 800 年ともいわれる。若狭国の漁師、「八尾比丘」の伝説が残る。	市指定天然記念物
26	西行ザクラ	火ノ御子社境内にあるオオヤマザクラ。西行法師が戸隠へ訪れた際に戸隠の子供たちに頓智をかけ、逆にやり込められたとの伝承がある。	未指定（環境物件）
27	旧徳善院本堂・庫裏（極意家神殿・宿坊）	極意家は江戸時代まで徳善院と称した宿坊で、文化 12 年(1815)に建築された茅葺屋根の旧本堂・庫裏が現存する。戸隠の宿坊建築のなかで二棟型と呼ばれる形式の一典型。	国登録有形文化財（伝統的建造物）
28	越志家住宅主屋（旧廣善院客殿）・土蔵	越志家は江戸時代まで廣善院と称した宿坊で、寛政 6 年(1794)に建てられた茅葺屋根の旧客殿が現存する。	国登録有形文化財（伝統的建造物）
29	戸隠神社太々神楽	江戸時代から伝わる神楽で、天岩戸神話にちなんだ岩戸開きの舞など 10 座の舞からなる。	県指定無形民俗文化財
30	長野市戸隠伝統的建造物群保存地区	戸隠信仰を背景に中院・宝光院につくられた宿坊群とその門前町。雪深い風土を反映した軒の深い大きな茅葺屋根をもつ建物が特徴。	国選定重要伝統的建造物群保存地区
31	戸隠神社式年大祭	数えて 7 年に一度、丑年と未年に執り行われる。宝光社祭神が中社へ渡御し、中社祭神と共に奥社祭神へ 7 年間の御神業を奉告する神事。その原型は江戸時代の出開帳にあるとされる。	未指定

32	柱松神事 <small>はしらまつしんじ</small>	根曲り竹や雑木で作られた3本の柱松に火をつけ、世情を占う神事。その歴史は鎌倉時代まで遡るとされる。江戸時代末に一度途絶えたが、平成15年の式年大祭を機に復活した。	未指定
33	戸隠そば	江戸時代、戸隠へ訪れた賓客や戸隠講の人々をもてなすために振舞われたそば切りが発祥。そば切りの技は戸隠山頭光寺 <small>かんえいじ</small> の本寺であった上野寛永寺から伝わったとされる。	未指定（県選抜味の文化財）
34	戸隠竹細工	根曲り竹（チシマザサ）を使用して、材料の採取・加工・仕上げまで一貫して一人の職人が手掛ける。江戸時代から代々受け継がれた技術により製作される。	未指定（県伝統的工芸品）
35	農業用温水ため池群 （鏡池・小鳥が池等）	戸隠の冷たい水を稲作に適した水温まで温めるために戦後造られた人造池。鏡池からは約2km離れた宝光社泡原の水田に、小鳥が池からは約1.5km離れた中社立道の水田に利用される。	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・戸隠山関連文書群など、未指定文化財の把握、調査が進んでいない。
- ・戸隠の歴史や文化を伝える文化財を収蔵・展示するための施設が不足している。
- ・文化財を巡るための案内標識や、ガイド等の体制が整っていない。
- ・関連文化財群の計画的な保存整備や防災対策が十分にできていない。
- ・関連文化財群を活かした歴史まちづくり、文化観光を推進する必要がある。
- ・外部の専門人材等との連携を深めていく必要がある。

方針)

- ・未指定文化財の把握、調査を進める。
- ・戸隠の歴史と文化を伝える文化財を収蔵・展示する施設の整備を検討する。
- ・文化財の保存整備や防災対策を計画的に実施する。
- ・歴史まちづくりの推進にむけて、住民や地域団体との協働を進める。
- ・文化観光の推進にむけて、案内標識の設置やガイドの育成・体制づくりを進める。
- ・外部の専門人材等との連携を積極的に進める。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取組主体	実施期間
戸隠竹細工調査を実施する	文化財課・博物館 戸隠支所	行政、 <u>住民・関係団体</u> 、 専門家・有識者	R6～R9
戸隠神社奥社社叢水路等を整備する	文化財課	行政、 <u>所有者</u>	R6～R9
伝統的建造物群防災対策事業を実施する	文化財課	行政、所有者、住民・ <u>関係団体</u>	R6～R9
観光パンフレットの作成とガイド人材の育成を支援する	文化財課・ 観光振興課	行政、 <u>住民・関係団体</u> 、 専門家・有識者	R6～R9
伝統的建造物の保存活用のための建築基準法適用除外を検討する【新】	文化財課	行政、所有者、住民・ <u>関係団体</u> ・ <u>専門家</u> ・ <u>有識者</u>	R6～R9
戸隠山関連文書の把握調査を行う	文化財課	行政、 <u>住民・関係団体</u> 、 専門家・有識者	R6～R13
伝統的建造物群保存地区保存事業を進める	文化財課	行政、所有者、住民・ <u>関係団体</u>	R6～R13
文化観光コンテンツの開発を支援する【新】	文化財課・ 観光振興課	行政、 <u>住民・関係団体</u>	R6～R13
空き家(古民家)を活用した宿泊施設等の整備を支援する	文化財課	行政、 <u>住民・関係団体</u>	R6～R13
歴史的まちなみの環境整備を行う	まちづくり課	行政	R6～R13
戸隠地質化石博物館(文化施設)やそば博物館(観光施設)などとの連携を強化する【新】	博物館・ 観光振興課	行政、 <u>住民・関係団体</u>	R6～R13
中社竹細工組合による竹細工の技術継承と後継者育成事業を支援する	文化財課・ 戸隠支所	行政、所有者、住民・ <u>関係団体</u>	R6～R13
ふるさと納税制度による財源の確保を進める	戸隠支所	行政	R6～R13
茅刈り事業の推進を支援する	文化財課・ まちづくり課	行政、 <u>住民・関係団体</u>	R6～R13

(7) 関連文化財群7 里山の恵みを活かした暮らしと粉食^{こなしよく}

ア 多様な作物・産物と暮らし

長野市では、米だけでなく大麦・小麦・豆・蕎麦・粟^{あわ}・稗^{ひえ}・きびといった様々な作物が作られていた。こうした様々な作物を組み合わせることで、人々の生活を支えていた。

また、山間地では炭焼きなどの山の恵みを活かした産物や藍^{こうぞ}・楮^{こうぞ}・麻などを作り、和紙・麻布・畳糸・蚊帳地などを生産していた。特に西山地域では和紙や麻が主力な作物だった。麻がもたらした富により、鬼無里では祭礼に出る屋台が造られたと考えられており、彫刻を施した屋台や神楽が残されている。

近代の長野県は「養蚕王国」と言われ、長野市でも多くの家が養蚕製糸業に関わっていた。昭和恐慌を機に生糸の価格が暴落するなどして養蚕が下火になった後には、桑畑を果樹園に転換した家が多くあった。そのため、りんごや桃などの果樹栽培が盛んとなり、現在も長野市の主要な産物となるとともに、美しい景観を形成している。



繭かき作業の様子（中条）



鬼無里の屋台

イ 食文化

長野市の自然環境と生産業を背景に、特徴的な食文化が育まれてきた。特に、粉食文化はかつての日常的食事、行事食として根付いていた。

小麦を使った粉食としては、日常的には、だんご汁、ひんのべなどを食べ、来客時などにはおぶっこなどのメンルイ⁸がふるまわれていた。かつてはこうした小麦の粉食を、朝に炊いた米がなくなる夕食に食べるが多かった。また、せんべい、うすやきなど、水で小麦を溶いたものに野菜を入れる、あるいはうすく焼いた生地⁸に具を挟んだ食べ物は、オコビレ（間食・軽食）として食べられていた。



西山地域のおやき

⁸ メンルイは、粉食の内、麺状のものである。麺の幅や厚さ、汁や具を変えると呼び名が変わった。

盆などの行事にはおやきが食べられていた。おやきは基本的に中力粉を水で練ったもので野菜の餡を包み、蒸す・焼くなどしたものであるが、その製法は様々で、長野市内でも様々なタイプのおやきがある。

粉食ではないがエゴグサと呼ばれる海藻を煮凝りにしたエゴも西山地域の特徴的な行事食である。また、米粉を使ったものとしては、小正月のまゆだま、月遅れの涅槃会におけるやしょうまなどがある。これらの儀礼食は現在も行事において作られ、親しまれている。



にらせんべい



おぶっこ・ひんのべ



やしょうま

ウ 関連文化財群設定のねらい

現在の本市を成り立たせてきたかつての主産業と、その変遷を示す文化財（民具）の魅力を高め、その保存と活用を積極的に図ること。また長野市を代表する食文化の振興を図るため今回の関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	指定等状況
1	おやきをはじめとする粉食文化	おやきやおぶっこ、せんべいなどの現代にまで残る粉食	未指定
2	鬼無里の屋台・神楽	江戸末から近代に作られた。祭礼で曳き出される屋台や神楽	市指定有形文化財
3	鬼無里の麻・畳糸作り道具	近世から近代の鬼無里の畳糸生産にかかわる資料群。鬼無里ふるさと資料館蔵	未指定
4	中条の麻作り道具	近世から近代の中条の麻作りにかかわる資料群。中条市民交流センター展示収蔵室蔵	未指定
5	長野盆地の生産生業資料	長野市域で使われた生産生業にかかわる資料群。長野市立博物館及び附属施設蔵	未指定
6	須田紙店資料	長野市東町にあった紙屋の資料	未指定
7	長野市内の景観を描いた絵画群	近世から現代に描かれた絵画作品。真田宝物館及び信州新町美術館の収蔵品等	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・ 中山間地域の収蔵施設には当該地の生産生業資料が、利用されないまま保管されている。
- ・ 市域に伝わる食文化の継承が危ぶまれている。

方針)

- ・ 中山間地域の収蔵施設に残る生産生業資料を、博物館収蔵資料全体の中に位置づけて保存・活用していく。
- ・ 食文化の継承にかかわる団体の活動と連携した取組みを行っていく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取組主体	実施期間
博物館が収蔵する生産生業資料の追調査を行う	博物館	行政、専門家・有識者	R6～R13
生産生業資料のコレクション化のための研究を進める	博物館	行政、専門家・有識者	R6～R13
博物館展示で生産生業資料の公開を進める	博物館	行政	R6～R13
地域や職に関わる団体と連携して食育イベントを実施する	博物館・観光振興課	行政、住民・関係団体	R6～R13
博物館昔体験ボランティアの育成を進める	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
付属施設や博物館の設備整備を行う【新】	博物館	行政	R10～R13

(8)関連文化財群8 川と共に生きる 一千曲川水系と暮らしー

ア 川のめぐみと脅威

長野市は千曲川の中流域にあたり、犀川・裾花川といった大河川が千曲川に流れ込む地形上にある。そのため、河川の氾濫による水害を経験しながらも、氾濫によって豊かな土壌が育てられてきた。盆地を流れる水を活用するために、鐘鑄堰をはじめとする多くの用水網が発達した。

盆地に流れ込む河川は扇状地を形成し、現在は扇状地の水はけの良さや気温差を利用した果樹栽培が盛んである。川の脅威にさらされながらも川のめぐみを活かした暮らしが営まれてきたといえる。

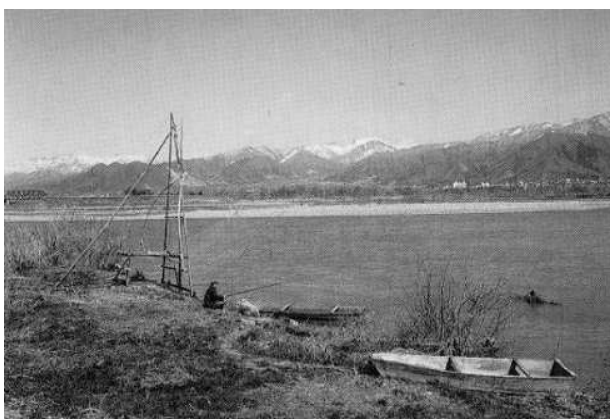


上空から見た千曲川

イ 川のめぐみ ー豊かな土壌と千曲川中流域の漁撈ー

昭和 14(1939)年、飯山市と野沢温泉村の境に水力発電用の西大滝ダムが造られるまではサケやマスが遡上してきたため、大型のアミ、ヤナを使った漁場が設置され、漁撈が行われていた。安茂里・川中島・芹田・大豆島では犀川において、篠ノ井・松代・長沼などでは千曲川においてウケ・アミ・ヤス等を使った漁撈が行われていた。豊野は千曲川に浅川・鳥居川が流れ込む場所にあるため、急流で行われる漁撈と緩流で行われる漁撈の両方が見られた。コイやウグイが多く採られ、篠ノ井や若穂ではつけば漁が行われていた。

大河川だけでなく、小さな河川や用水において小魚を採ることも盛んで、昭和初期までは水田養魚が行われていた。専門の川漁師は少なかったものの、一般的な人々は日常的な漁で魚を取り、貴重なたんぱく源としていた。



ヨツデアミと釣り



筥

現在、長野市内では漁撈はほとんど行われなくなったが、かつて使われていた道具や鮭漁にかかわる古文書などが残り、博物館に収蔵されている。かつての川のめぐみについて考えることができる貴重な資料である。

ウ 水害

河川が多く流れ込んでいる長野市は、度々水害に襲われてきた。特に、寛保2(1742)年の洪水は「戊の満水」と呼ばれ、大きな被害を出した水害として知られている。こうした過去の災害の様相を示す古文書や絵画が残る。

度重なる水害から人々を守るため、治水事業が行われてきた。千曲川・犀川・裾花川ではダムが整備され、河川沿いには堤防が整備されてきた。犀川と千曲川が合流する地点にあたる若穂の牛島では、集落を取り囲むように築かれた輪中堤防の跡を見ることができる。また、被害があった場所では記念碑や供養塔が建てられ、各地に水防を祈願した水神が祀られている。

水害と戦ってきた歴史のなかで防災対策が取られてきたが、水害は防ぎきれず、令和元(2019)年東日本台風においても甚大な水害が発生した。この災害を教訓とした防災活動や、被災文化財の保全活動が現在も行われている。



妙笑寺千曲川洪水水位標（複製）

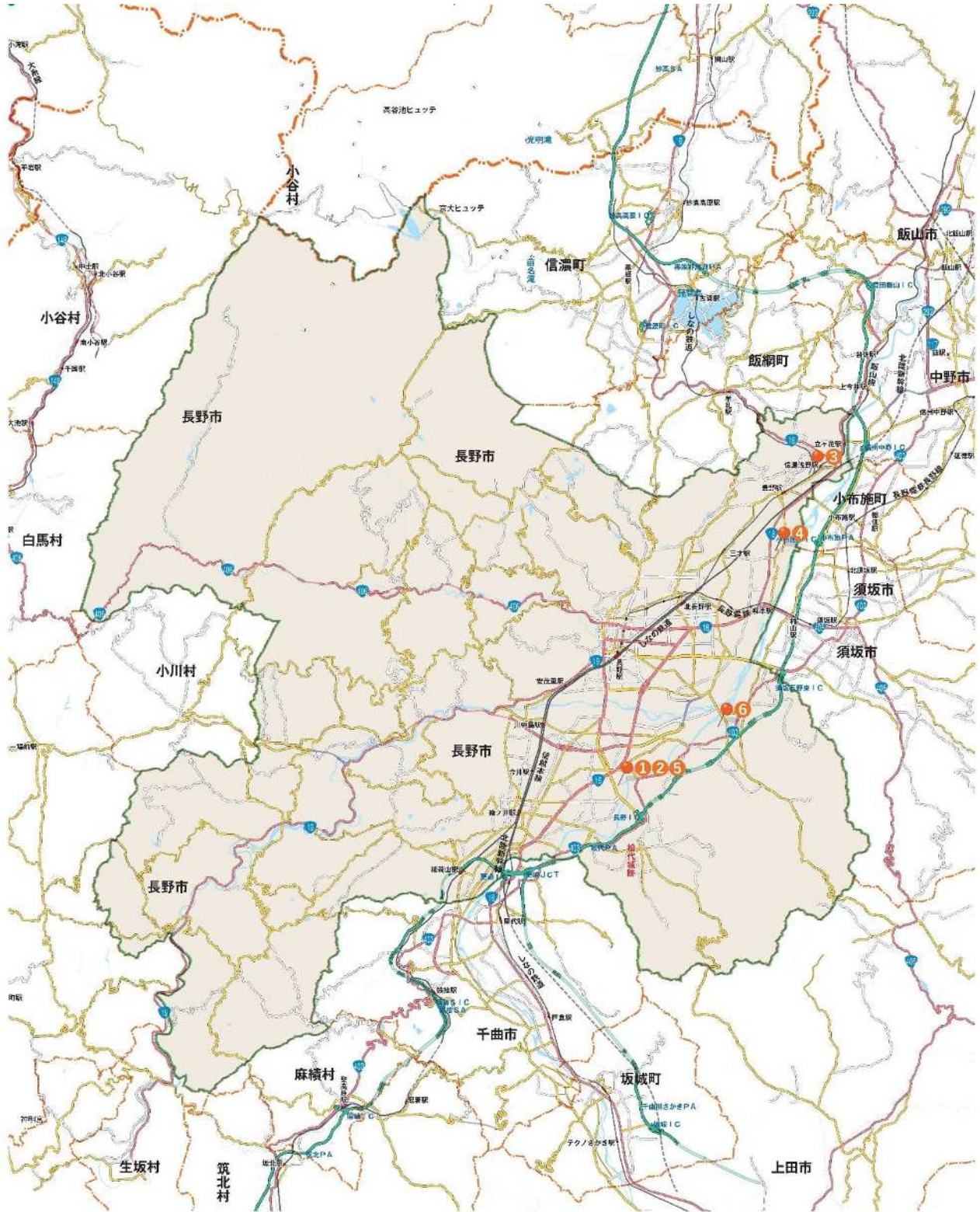
エ 関連文化財群設定のねらい

長野盆地を形成し、長野市の人々の暮らしと深いつながりのある千曲川がもたらしてきた恵みと災いについての普及啓発と、それを物語る文化財の保存や活用に向けた取組を進めていく。

構成文化財一覧

番号	名称	備考	指定等状況
1	千曲川流域の漁具	犀川・千曲川沿いの漁撈にかかわる近現代資料	未指定
2	大豆島区有文書	近世に行われた鮭漁にかかわる古文書	市指定有形文化財
3	果樹栽培関係資料	近現代に行われた果樹栽培にかかわる資料群。長野市立博物館附属施設蔵	未指定
4	妙笑寺千曲川洪水水位標	妙笑寺（長沼）が水害の際に浸水した水の高さを記録したもの。複製が長野市立博物館常設展にて展示されている	未指定
5	令和元年東日本台風被災資料	令和元年東日本台風において被災した資料群。松代・長沼・豊野等の古文書・絵画など	未指定
6	千曲川水系の治水土木遺産	輪中堤防（若穂）・霞堤などをはじめとした、長野市域の治水のための土木遺産	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題

課題)

- ・漁撈は行われなくなってから時間がかなり経過しているため、資料の収集が困難となっている。
- ・現在行っている水害をはじめとした被災文化財の保全を、市民で持続的に行うための環境整備が必要である。

方針)

- ・千曲川水系の漁労文化を後世に伝えるために、これまで収集されてきた資料についての追調査を行う。
- ・収集した資料の劣化を防ぐため収蔵環境が常に適正であるように収蔵設備を整備していく。
- ・市民と協働して被災文化財保全活動を進めていく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取組主体	実施期間
博物館収蔵資料（漁具類）の補足調査を行う	博物館	行政	R6～R13
博物館収蔵漁具の補足的位置づけ資料の受け入れを進める	博物館	行政	R6～R13
博物館の文化財保全ボランティアとの協働による保全活動体制を整備する	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
博物館展示での漁労資料の利活用を進める	博物館	行政	R6～R13
地域の水害教育への協力を行う【新】	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
歴史資料ネットワーク等との連携による資料保全活動を進める	博物館	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
博物館文化財保存ボランティアを育成する	博物館	行政、住民・関係団体	R6～R13
収蔵庫空調等の設備を整備する【新】	博物館	行政	R10～R13

(9)関連文化財群9 長野市に伝わる多様な祭礼・行事

ア 多様な行事・祭り

市域の暮らしが多様なように、この地域で育まれた文化も多様なものがある。暮らしの節目節目で行われる民俗行事や祭りもその例に漏れない。例えば指定を受けている民俗行事や祭りに限っても、獅子神楽や甚句・踊りといった民俗芸能、道祖神信仰と関わって行われる小正月行事、夏を前に行われる虫送り、秋の収穫を祝って行われる煙火大会、かつて人々の楽しみ場として機能していた^{こしんこう}庚申講など多岐にわたっている。そのなかで長野市を特徴づける民俗行事・祭りとして、獅子舞、煙火、御柱祭、そして道祖神と関わって行われる小正月行事を挙げることができる。

イ 獅子舞

市域の民俗芸能のなかで、現在最も盛んに行われているのが獅子舞である。平成7(1995)年に、長野県教育委員会が行った民俗芸能緊急調査の報告では、県内で最も獅子舞の伝承数が多いのが長野市であり、その数は73か所を数える。町村合併後の市域拡大を経た平成30(2018)年に市文化芸術課が行った詳細な調査では、活動している獅子舞の保存団体は256にも上ることが判明した。まさに獅子舞は長野市を代表する民俗芸能といえる。

ウ 長野の空を彩る^{えんか}煙火

毎年11月20日の^{にしのみやじんじや}西宮神社のえびす講に合わせ打ち上げられるえびす講花火に代表されるように、長野市では神社祭礼や地域行事に伴って花火が打ち上げられるところが多い。市域の花火は江戸時代、神社祭礼の奉納煙火から始まった。現在も秋祭りに煙火が奉納される安茂里地区の犀川神社には、文政7(1824)年に煙火を奉納した記録が残されている。また、第一地区新諏訪町の諏訪神社の秋祭りに奉納される^{うりおりはなび}瓜割煙火は天保7(1836)年、疫病除けのため奉納したのが始まりとされている。明治に入り花火製造が許可制となり、多くの神社で奉納煙火が姿を消すなかで、犀川神社の^{もりはなび}杜煙火や諏訪神社の瓜割煙火(いずれも県指定文化財)は、製造許可を得て現在でも氏子が煙火を奉納している。このような素地のもと、明治以降市域には煙火業者が複数生まれ、明治後半から定着したえびす講煙火大会の発展と相まってその技術を磨いていった。現在でも共に大正5(1916)年創業の紅屋青木煙火店と信州煙火工業が打ち上げ花火を製造している。



犀川神社の杜煙火(安茂里地区)

エ ^{おんぼしらいさい}御柱祭

市域には、7年に一度、^{とら}寅と申の年の春もしくは秋に御柱祭を行う諏訪神社が60社以上みられる。これらは、近世後期以降に祭礼風流として御柱祭が各地に広がり、発展したためと考えられ

る。なかでも善光寺町や松代町などには、近世末の御柱祭の様子が描かれた絵馬や巻物が残されており、当時の町場の賑やかな祭礼の様子を伝えている。



まんえん
万延元(1860)年の御柱祭行列図大絵馬
(第二地区 武井神社蔵)

オ 道祖神信仰と関わって行われる小正月行事

道祖神といえば安曇野市が有名だが、長野市でもどんど焼きに付随して、厄除け・縁結びなどを願い、多様な形の道祖神祭りが展開されている。道祖神は集落の守り神として信仰され、江戸時代の旧村単位ごとに祀られている。集落の入り口や中央に「道祖神」と刻まれた文字碑や、男女が仲睦まじく並んでいる姿の石仏が祀られている風景は、この地域ではごく普通の景色である。

盆地の西部中山間地では子どもたちが道祖神を持って各家を回る「セーノカミの勸進^{かんじん}」行事や、道祖神碑の前に松やヌルデの枝で作った人形道祖神を供える行事が行われている。

人形道祖神は東部中山間地でも縁結びを願ってヌルデ製のものが道祖神碑に供えられる。同じ人形道祖神でも篠ノ井地区には巨大な藁人形^{わら}を作ってどんど焼きの時に燃やす長谷及び越のドンドヤキ（県指定無形民俗文化財）がみられ、大岡地区でも道祖神の石碑に各家のしめ飾りを用いて巨大な道祖神の顔を作る^{あしのじり}道祖神祭り（県指定無形民俗文化財）が行われる。

道祖神祭りの対象となる石碑も、神名を刻んだ文字碑、双体道祖神碑、男根の形をした陽石、五輪塔の空輪、繭型石（ノジュール）など、多様性に富んでいる。

伝統行事の多くが姿を消していくなか、どんど焼きに付随した市内の道祖神の行事は多様性に富んだ姿で継承されているが、近年の少子高齢化や新型コロナウイルスの影響で縮小・中止を余儀なくされているところもみられる。



双体道祖神碑（戸隠地区）



セーノカミの勸進（戸隠地区）

カ その他の行事・祭礼

市域では仏教的色彩を残した年中行事が比較的に残されている。8月22日、23日頃に行われる地蔵盆もその一つで、子どもたちが地蔵の前でお数珠回しをしたり、地蔵に化粧を施したりする。このほか春のお彼岸にお数珠回しをした後に藁人形を地区境に建てて魔除けにする大岡のセードーボーや、11月、お数珠回しをした後、子どもたちに団子を投げて配る「団子投げ」など

も特徴的である。

キ 関連文化財群設定のねらい

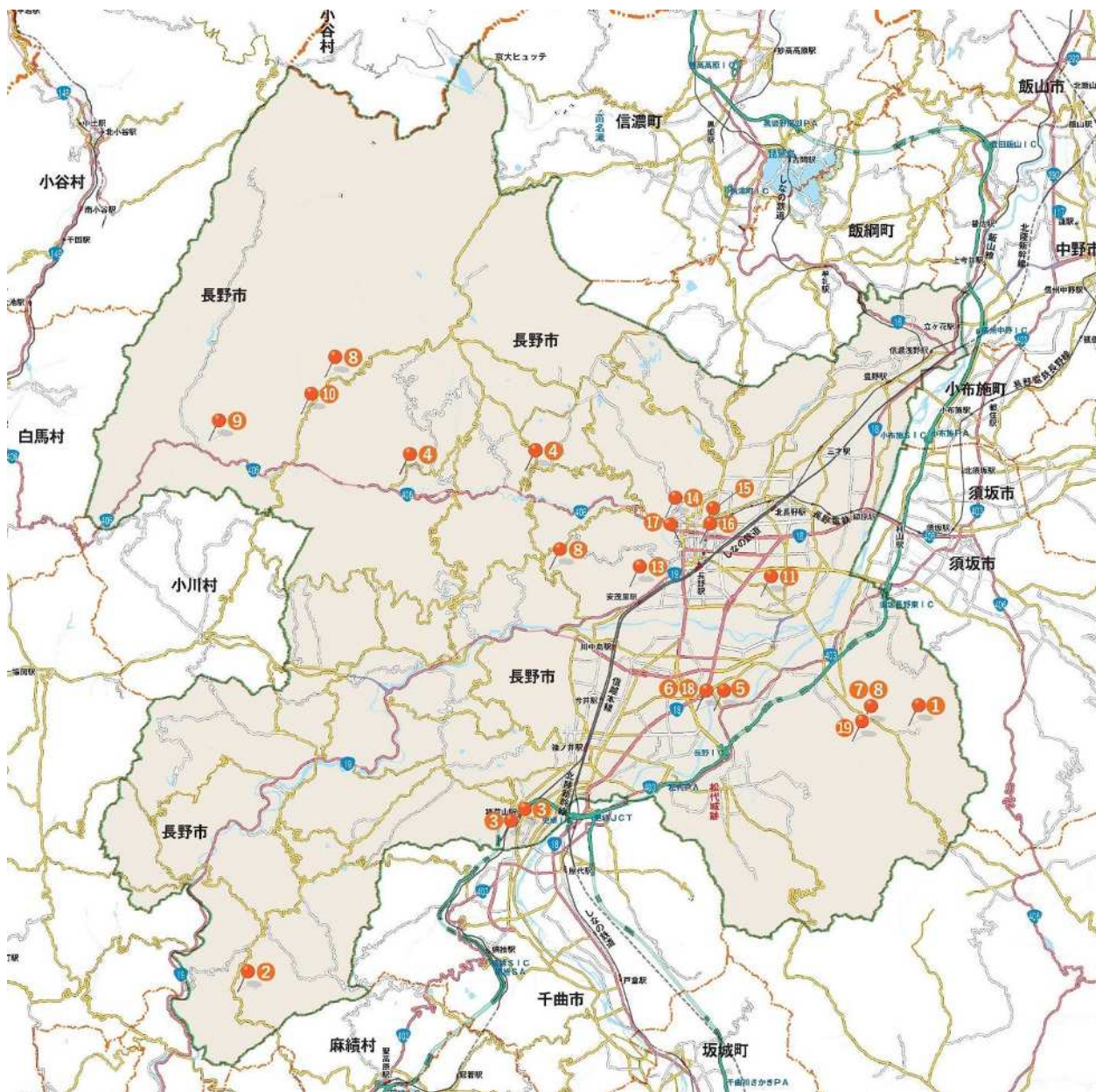
本計画期間では、市域に展開される多様な祭礼・行事のなかから、市域を特徴づける獅子舞や道祖神行事といった民俗文化財が後世まで継承されるよう、その実態を把握するとともに、情報の発信を通じその魅力を多くの人々に伝える取組を進めていく。

構成文化財一覧

番号	名称	概要	指定等
1	高岡の <small>あずきや</small> 小豆焼き行事	若穂地区保科高岡区で正月 15 日に行う年占行事	国選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
2	芦ノ尻の道祖神祭り	大岡地区芦ノ尻組で正月 7 日に行う。集落外から来る災いを防ぐため、しめ縄を使って道祖神碑に巨大な顔を作る	県指定無形民俗文化財
3	長谷及び越のドンドヤキ	篠ノ井地区平、越、東谷集落で行われるドンドヤキ。平ではオンマラサマと呼ぶ藁人形、越ではオスガタと呼ぶ巨大な藁人形、東谷ではヨメ・ムコと呼ぶ男女一対の人形を作り、ドンドヤキで燃やす	県指定無形民俗文化財
4	サイノカミの勧進行事	正月 15 日の早朝、子どもたちが道祖神のご神体を持ち、各家を回る行事。戸隠・芋井地区の集落で行われている	未指定
5	柴のオンベ	松代地区柴集落で行われる小正月の行事。約 2 m の木の枝の先端にテルテルボーズの顔を作って挿し、枝には神札をぶら下げたオンベを数人が持って、各家を祝って廻り、最後はドンドヤキの巻き立てのてっぺんに刺して一緒に燃やす	未指定
6	小正月関係資料コレクション	繭玉やツクリモノ、人形道祖神など、県内で行われていた小正月行事に使用された道具類を博物館が収集したもの	県指定有形民俗文化財
7	保科道祖神碑	若穂地区保科の双体道祖神碑。 <small>てんもん</small> 天文 3 (1534) 年の銘が刻まれている	市指定有形民俗文化財
8	人形道祖神	小田切・若穂・鬼無里・豊野地区などで小正月の時に作られ、道祖神碑に祀られる木製の道祖神人形	未指定
9	繭玉形道祖神碑	鬼無里地区の集落で祀られている繭の形をした道祖神の石碑。土尻川沿いの崖から産出するノジュ	未指定

		ルを道祖神として祀っている	
10	空輪道祖神	鬼無里地区の集落で祀られている道祖神石碑の一種。五輪塔の空輪部分を道祖神として祀っている	未指定
11	風間神社太々神楽獅子舞	大豆島地区風間神社の獅子舞。伊勢代神楽獅子舞の系統で文政5(1822)年より継続される勇壮な雄獅子の舞	市選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
12	獅子神楽	市域では集落の組単位で獅子舞を持っているところが多い	未指定
13	犀川神社の杜煙火	文政7(1824)年、それまで日吉神社と呼ばれていた犀川神社が、現在の神社名への変更が認められたことを記念して始められたとされる	県指定無形民俗文化財
14	瓜割煙火	第一地区新諏訪町の諏訪神社秋祭りに奉納される煙火。天保7(1836)年に疫病が流行した際に疫病除けとして始められたと伝わる	市選択無形民俗文化財
15	えびす講煙火	第二地区岩石町の西宮神社で11月20日に行われるエビス講に合わせ開催される、市内最大規模の煙火大会。現在は11月23日に行われている	未指定
16	御柱祭行列図大絵馬	第二地区東町の武井神社に万延元(1860)年に奉納された絵馬。その年に行われた御柱祭の様子が細かに描かれている	市指定有形文化財
17	御柱祭行列図大絵馬	第四地区妻科神社にある嘉永7(1854)年の御柱祭の様子を描いた絵馬。	未指定
18	文政十三年松代御柱祭行列覚	文政13(1830)年に行われた松代町祝神社の御柱祭の様子を描いた横丁形式の覚帳。	未指定
19	赤野田神社太神楽	若穂地区赤野田神社の獅子舞。伊勢代神楽獅子舞の系統。周辺地域の獅子舞の多くは、赤野田神社太神楽の若衆から伝授されたとの伝承を持っている。	市選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針 (課題)

- ・平成に合併した町村の民俗文化財に関しては、ほとんど調査されていない。
- ・2000年に施行されたハッピーマンデー制度により成人の日が正月15日に固定されなくなった影響で、正月15日に行ってきたどんど焼き及び道祖神の行事が少なからず廃止されたところがみられる。また毎年行事日が変動することにより地域住民の認知が薄れ行事参加の人数も少なくなってきている。
- ・人形道祖神作りの技術の伝承が危ぶまれる。

- ・現在も行われている長野市の多様な道祖神行事について、指定されているもの以外は市内でもほとんど知られていない。
- ・担い手不足による継承難。
- ・諏訪地域に次いで御柱祭が数多く行われている（市域で64か所）ことが知られていない。

方針)

- ・現在把握している関連文化財群の価値づけを行うためにも未調査地区の調査を行い、市域のなかでの位置づけを明確にしていく。
- ・情報発信を強化しそれぞれの文化財の認知度を高めていく。
- ・文化財が継承されるよう、担い手を育成していく。
- ・伝承が危ぶまれている行事や技術については記録映像を取ることで保存していく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措置	主担当	取主体	実施期間
市内道祖神行事案内マップ等を作成する【新】	文化財課・観光振興課	行政、事業者	R6～R9
行事・祭礼把握調査を実施する【新】	文化財課	行政、住民・関係団体、専門家・有識者	R6～R13
無形民俗文化財の映像記録化を進める	文化財課	行政、所有者、専門家・有識者	R6～R13
記録した映像を活用し SNS 等で情報発信をしていく【新】	文化財課	行政	R6～R13
主要な民俗行事・祭りの祭礼日カレンダーの作成し、Web 上で公開する【新】	文化財課	行政、所有者、住民・関係団体	R6～R13
小正月コレクションを積極的に公開する	博物館	行政	R6～R13
伝統芸能団体の活動や用具の修理等に対し支援を行う	文化芸術課	行政、住民・関係団体	R6～R13

第6章 文化財の防災・防犯対策

1 これまでの主な災害

(1) 水 害

ア 戊の満水

寛保2(1742)年の旧暦7月27日から8月1日までの4日間にわたる豪雨によって、千曲川が洪水氾濫を起こし、千曲川流域に大きな被害をもたらした。当時の千曲川は松代城の直下を流れていたため、洪水により松代城も浸水被害を受け、当時の藩主は船での避難を余儀なくされた。以後、城を洪水から防ぐため千曲川の瀬直しが行われた。松代藩内だけで1,220人にもものぼる流死者を出した。

イ 明治29年の水害

明治29(1896)年7月20、21日の豪雨により、千曲川、犀川が増水し、二河川が合流する地点から下流の最低地にかけて堤防が決壊し、大きな洪水被害を出した。最低地にあたる長沼地区では、決壊した千曲川と浅川の濁流によって、家屋が飲み込まれ、一面が海のようになったという。この洪水による長野市域の被害は死者15人、流失・破壊された家屋330軒、浸水家屋8,218軒にもものぼった。

ウ 令和元年東日本台風災害

令和元(2019)年東日本台風により、10月12日千曲川堤防が越水・決壊し、千曲川沿岸の長沼・豊野・古里・篠ノ井・松代・若穂地域が浸水被害に見舞われた。この水害により1,038軒の家屋が全壊し、一部損壊など損害を受けた家屋が3,258軒、浸水家屋が4,281軒にもものぼった。また決壊した洪水の直撃を受けた長沼支所は全壊、豊野支所も浸水によって行政機能がストップした。被災地区の社寺も浸水被害に遭い、仏像、経典などの文化財が多数被災したが、長野市立博物館を中心とする文化財レスキュー活動により救出された。現在も長野市立博物館で救出した文化財の保全活動が継続的に行われている。

(2) 地 震

ア 善光寺地震

弘化4(1847)年の旧暦3月24日に北信濃を襲ったマグニチュード7.4と推定される直下型地震。地震によって倒壊する家屋の下敷きや各所で発生した火災に巻き込まれ、数千人の犠牲者が出たとされる。おりから善光寺では居開帳が行われ、全国から多数の参詣客が集まっていたこともその被害に拍車



地震後世俗語之種（真田宝物館蔵）

をかけ、この時の死者数はおよそ 8,600 人にもものぼったとされる。また地震により信更地区の虚空蔵山が崩れて犀川を堰き止め、巨大なダム湖を作った。このダム湖は地震発生から 20 日後に決壊し、川中島平^{かわなかしま}帯の人家を押し流す大洪水をひき起こした。

イ 長沼地震

昭和 16(1941)年 7 月 15 日に起きた長沼地区を震源とするマグニチュード 6.2 の直下型地震。震源が浅かったため揺れが激しく、長沼を中心に市域北部一帯で家屋倒壊等の被害がみられ、長沼地区では震度 6 を観測した。

ウ 松代群発地震

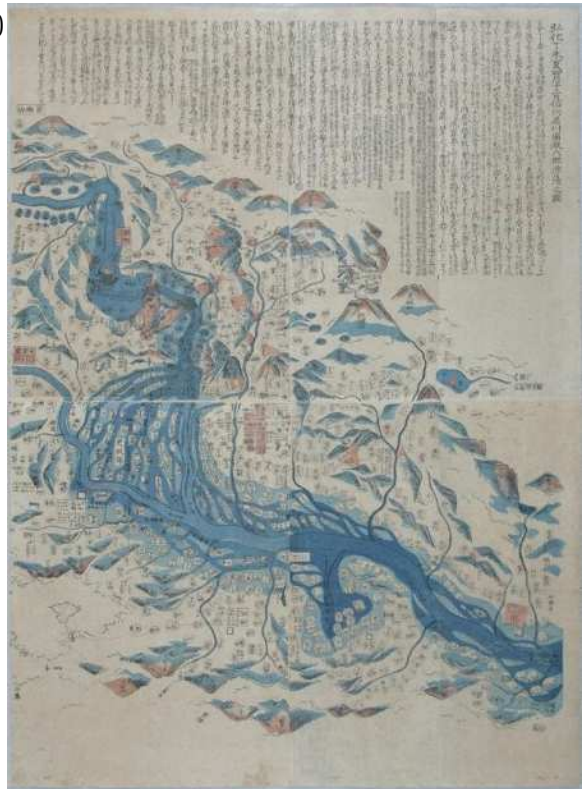
昭和 40(1965)年 8 月 3 日から始まった継続的な地震。はじめは松代地区の皆神山^{みなかみやま}付近を中心とし、順次、篠ノ井、川中島地区や周辺市町村に広がった。最大の地震は昭和 41 年 4 月 5 日に観測したマグニチュード 5.4。有感地震は 6 万回を超え、最大で 1 日に 585 回の有感地震を観測した。地震活動は昭和 45(1970)年まで続き、同年 6 月にその活動が衰えたところから終結宣言が出されたが、現在も無感地震は 1 日に 1 回程度は起きている。死者は出なかったが長期にわたる地震は人々に大きな不安を与えた。また、重要文化財の善光寺三門の下層軸部が破損するなど文化財にも大きな損害を与えた。

エ 神城断層地震

平成 26(2014)年 11 月 22 日に北安曇郡白馬村^{きたあづみぐんはくぼむら}を震源として起きたマグニチュード 6.7 の直下型地震。長野市域では白馬村に接する鬼無里地区で家屋半壊などの被害がみられ、文化財では土倉文珠堂^{つちくらもんじゅどう}で屋根の棟部分が落下し、朝日神社では建物が歪み、倒壊寸前までになった。また松巖寺^{しょうがんじ}の土蔵の壁が一部崩れたため、中にあった古文書類を長野市立博物館が緊急避難的に預かるなど、文化財レスキュー活動が展開された。

(3) 火 災

水害や地震に比べ火災は頻繁に発生しているため、ここでは過去、広範囲に被害を及ぼした火災について取り上げる



弘化丁未夏四月十三日信州犀川崩激六郡漂蕩之図（長野市立博物館蔵）

ア 長國寺火事

明治5(1872)年5月、松代地区長國寺の本堂から出火し、真田家^{たまや}靈屋、^{しやうろう}鐘樓、総門、土蔵を残し焼失した。その後も火勢は衰えず、周辺の寺院、武家屋敷や町屋に燃え広がり、その数は全半焼合わせて200戸以上にのぼった。

イ 松代町の大火

明治24(1891)4月、松代地区^{ひがしじやう}東条の民家から出火した火が、瞬く間に町中に広がり、松代東条、松代町、^{にしじやう}西条の社寺、家屋合わせて700戸が焼失した。

ウ 長野町の大火

明治24(1891)6月、第一地区の^{かみにしのもんちやう}上西之門町から出火した火が周辺の町に燃え広がり265戸が焼失した。この火災によって善光寺仁王門、大本願長野尋常小学校なども焼失している。長野町は前月にも大規模な火災があったばかりであった。

2 防災・防犯対策

(1) 前提となる関連計画

ア 文化庁のガイドライン

文化庁からは、文化財の防災対策として「重要文化財(建造物)耐震診断指針」、「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」、「国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」等が出されている。基本的には国宝・重要文化財の所有者を対象とする耐震対策・防火対策等についての方針が示されているが、地方公共団体が指定した文化財の防災対策においても援用することが望ましい方針となっている。

イ 長野県のガイドライン

長野県では、「長野県文化財防災マニュアル」を作成しており、県指定文化財に関する防災指針や防災チェックリストが掲載されている。また、平成23(2011)年に起きた長野県北部地震、平成26(2014)年に起きた長野県神城断層地震、さらに平成29(2017)年に起こった千曲市にある県宝松田家住宅の火災を受け、令和元(2019)年に「文化財レスキューマニュアル策定に関わる懇談会」を設置し、令和3(2021)年に「文化財レスキューガイドライン」の策定と「文化財レスキューマニュアル」の改訂を行った。これらには文化財レスキューにおける県と市町村の役割や具体的なレスキュー作業の流れが示されている。

ウ 長野市地域防災計画・水防計画

(計画策定：平成29年7月改定 根拠法令：災害対策基本法)

本計画は、災害対策基本法に基づき、地震や洪水などの災害への備えや、市、県、防災関係機関と市民が相互に協力して災害応急活動を行うための基本的な事項を定めたもので、住民の生命、身体と財産を保護するとともに、災害による被害の軽減を図り、社会の秩序を維持することなどを目的としている。このうち、文化財に関しては以下のとおり記載されている。

【震災対策編】第2章 災害予防計画 第25節 建築物災害予防計画

第4 文化財

計画名 [計画主体]	計画内容	担当部課
建造物の保護対策 [市]	<p>各文化財の防災を中心とした保護対策を推進するため、次の事項を実施し、防災思想の普及、防災力の強化等の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○所有者又は管理者に対する、文化財の管理保護についての指導と助言 ○防災施設の設置促進とそれに対する助成 ○防災管理体制及び防災施設の整備並びに自衛消防隊の確立 	教育委員会文化財課 消防局予防課

【震災対策編】第3章 災害応急対策計画 第29節 建築物災害応急活動

第4 文化財の保護

1 災害発生時の措置

文化財の所有者・管理者等は、災害により文化財が被災した場合、直ちにその被害の拡大を防止し、被害状況等を教育部文化財班に通報する。

また、教育部長は被害状況を県（教育委員会）に通報する。

2 文化財の復旧

文化財の所有者・管理者等は、文化財の被害状況を調査し、教育部文化財班に報告する。

また、国、県の文化財については、文化庁、県（教育委員会）の指導のもと、復旧措置をとる。

【風水害対策編】第3章 災害応急対策計画 第30節 建築物災害応急活動

第2 文化財の保護

1 市が実施する対策

教育部文化財班は、災害が発生した場合の所有者又は管理者が実施すべき対策について万全を期すよう指導し、国・県指定文化財に災害が発生した場合は、その災害の原因、被害の概況及び応急措置その他必要事項について県教育委員会に報告する。

2 所有者が実施する対策

(1) 見学者の避難誘導を行うとともに、被害状況の調査を行う。

(2) 文化財の火災による焼失を防ぐための措置をとる。

(3) 災害の原因、被害の概況及び応急措置その他必要事項を調査し、教育部文化財班へ報告し、被害の状況に応じ、被害の拡大防止のための応急修理の措置を文化庁、県教育委員会、教育部文化財班の指導を受けて実施するものとする。

(2) 災害予防

ア 自然災害・火災共通

- ・災害時に備え、文化財の情報を把握（リスト化等）しておく・

イ 自然災害（風水害・地震等）

- ・長野市の防災マップ（長野市行政地図情報）等で確認できる土砂災害警戒区域や山地災害危険地区、浸水想定区域などの防災情報と文化財の分布を重ね合わせた文化財ハザードマップを作成し、被災の危険度が高い文化財をリスト化する。
- ・「長野県文化財防災マニュアル」に準じ、文化財防災チェックリストを作成し、文化財所有者・管理者にセルフチェックを促すことで、文化財所有者・管理者に日頃からの防災意識を高めてもらう。
- ・災害発生時に備え、長野県文化財レスキューネットの構成団体や長野県建築士会、長野市文化財保護協会等の地域の文化財保護団体と災害発生時の対応についてあらかじめ協議し、人員派遣や物資支援等についての協定締結を検討する。

（建造物）

- ・台風・豪雨による被害対策として、敷地の十分な排水機能を検討する。
- ・積雪地帯においては、早期の除雪作業実施及び雪囲い等の対策を検討する。
- ・「重要文化財（建造物）耐震診断指針」を参考に、耐震上の課題を把握し、耐震補強等の対策及び対処方針を検討する。

ウ 火災

- ・文化財の火災予防は、日常的な防火管理が第一であり、定期的な巡視と早期発見、初期消火に必要な防火設備が必要となる。
- ・文化財周辺は常に整理整頓し、火災の要因となりやすい暖房器具や電気配線、たばこ、たき火等の火気の使用に際しては、細心の注意を払うことが必要である。
- ・建造物及び美術工芸品を収蔵する施設については、火災による被害を最小限に抑えられるよう自動火災報知機や消火器具などの消防設備の設置を進めるとともに、消防機関と連携した消防計画の作成、計画に基づく訓練・点検の実施など、を行う必要がある。
- ・定期的な文化財の防災訓練の実施を通じて、文化財所有者・管理者の防災意識の徹底を図るとともに、消防機関への迅速な通報や消防設備の適切な使用方法の習得を促す。

(3) 災害時の対応（自然災害・火災共通）

- ・文化財の被災状況について文化財所有者・管理者から速やかに情報収集する。

- ・所有者・管理者から寄せられた被害状況・応急処置等の情報を県教育委員会に報告すると共に、場合によっては被害拡大防止のための措置について文化庁・県教育委員会より指導を受け復旧する。
- ・文化財建造物が多数被災した場合には、民間団体と連携し、被災した文化財建造物の状況把握に努める。
- ・さらに市域をまたぐような大規模な災害を受けた場合には、全国の文化財防災ネットワークの窓口である国立文化財機構文化財防災センターに支援を要請する。

(4) 災害時の文化財レスキュー

- ・災害時、迅速に文化財（美術工芸品・資料等）を救出するため、平常時に地域の文化活動団体と連携して未指定文化財の所在把握を進める。
- ・「長野県文化財レスキューガイドライン」に則り、必要に応じて県教育委員会に文化財レスキューを要請する。
- ・被災文化財については国立文化財機構文化財防災センター、長野県文化財レスキューネット及びその構成団体の信州資料ネット、長野市文化財保護協会や地域の文化活動団体等が連携して復旧にあたるような体制づくりを進める。
- ・被災した文化財のうち建造物については、国立文化財機構文化財防災センターに文化財ドクターの派遣を依頼し、被災建造物の被害状況記録、復旧にあたっての技術的支援等の助言を求められるような体制づくりを進める。
- ・災害から救出・復旧させた文化財を核に、被災地域のコミュニティ再生や土地の記憶の継承を図っていく。

(5) 防犯対策

- ・防犯対策には所有者管理者の日常的な心掛けと、積極的な事故防止措置が必須とされる。
- ・文化財所有者管理者研修会を通じ、所有者・管理者の防犯意識が高まるよう啓発を行う。
- ・長野市文化財保護協会、長野県教育委員会による定期的な文化財パトロールを行うとともに、所有者・管理者の日常的な巡視によって毀損・盗難等を早期発見できる体制づくりを進める。

(美術工芸品)

- ・毀損・盗難対策として、施設の施錠、定期的巡視を行う。また必要に応じて、夜間の照明設備・警報装置と連動した防犯カメラの設置、出入口扉・窓等の補強を検討する。

第7章 文化財の保存活用に向けた推進体制

1 進捗管理と評価の方法

(1) 進捗管理

本計画の進捗については、地域計画ワーキンググループで毎年度、各措置における取組の進捗状況を取りまとめ、長野市文化財保存活用地域計画協議会（以下、「協議会」という。）に報告する。協議会は報告された進捗状況について協議するほか、計画期間の中間年度（4年度目）及び最終年度（8年度目）に計画実施の効果についての評価を行い、必要な場合は計画の見直しを行う。

(2) 評価

本計画を実施することで得られた効果の測定については、計画の基本方針に沿った六つの視点から評価を行う。

- ア 把握・確認できた文化財
- イ 把握・連携できた地域の文化活動団体
- ウ 文化財の情報発信
- エ 文化財の利活用
- オ 学校教育との連携
- カ 文化財の継承

2 推進体制

本計画に基づく文化財の保存活用の取組は庁内体制の整備、関係行政機関との連携、地域計画協議会、民間団体等との連携の下に推進する。関係機関や民間団体等は計画の取り組み状況に応じて適宜追加等を行い、連携強化を図っていく。

なお、地域の文化財の保存と活用について専門的な知見や実績を有する法人や団体については、協議会に諮った上で文化財保護法第192条の2に定める「文化財保存活用支援団体」に指定し、本計画に基づく文化財の保存活用に必要な業務等の支援や、必要に応じて本計画の変更の提案を受けられることを検討する。

(1) 文化財部局の体制整備

本計画に基づく文化財の保存活用を継続的に推進するにあたっては、本市の文化財に対する十分な知見を有した専門職員の育成とその適正な配置が不可欠である。計画的な施策の展開にあわせ、それを担う人員や組織の体制についても計画的な整備を行う。

(2) 庁内関係部局との連携

文化財を取り巻く多様な課題に対して効果的な施策の展開を図るため、庁内の主な関係課が参画する「地域計画ワーキンググループ」を設置し、それぞれの主管事業の調整と連携を図るとともに、事業効果についての内部評価を行う。

(3) 関係行政機関との連携

文化財に関わる法令や制度についての情報を収集し、必要な手続きを円滑に行うため、文化庁、県教育委員会等の関係行政機関との連携を図る。また、全国史跡整備市町村協議会等を通じて他の自治体との情報共有を図る。

(4) 地域団体との連携

市内、県内において文化財の保護活動を行っている保存団体、郷土史研究会、まちづくり団体、大学等の教育機関、専門性を有する法人等の地域団体と連携し、地域総がかりで文化財の調査や保存、活用、情報発信、継承活動等を推進する。

なお、本計画に基づく文化財の保存活用に必要な業務等の支援や、本計画をより効果的なものとするための提案を受けるべく、地域の文化財の保存と活用について専門的な知見や実績を有する法人や団体については、協議会に諮った上で文化財保護法第192条の2に定める「文化財保存活用支援団体」に指定することを検討する。

推進体制図

長野市	・教育委員会事務局文化財課
	【役 割】 計画に関する主務、文化財の保存・管理・活用
	【職 員】 10名（うち埋蔵文化財の専門職員3名、民俗文化財の専門職員1名）
	・教育委員会事務局文化財課埋蔵文化財センター
	【役 割】 埋蔵文化財の発掘調査・保存・活用
	【職 員】 12名（うち埋蔵文化財の専門職員11名）
	・教育委員会事務局文化財課松代文化施設等管理事務所
	【役 割】 松代地区の文化財の管理運営、真田宝物館所蔵の真田家関係資料の調査・研究・収蔵・公開・普及啓発
	【職 員】 7名（うち美術工芸品の専門職員5名）
	・教育委員会博物館
	【役 割】 文化財の調査・研究・収蔵・公開・普及啓発
	【職 員】 21名（うち美術工芸品の専門職員5名、民俗文化財の専門職員1名、記念物の専門職員8名）
	・文化スポーツ振興部文化芸術課
【役 割】 伝統芸能の継承支援	
・商工観光部観光振興課	
【役 割】 文化財を活用した観光振興	
・都市整備部まちづくり課	
【役 割】 歴史的維持風致維持向上計画との連携・調整	
・地域計画ワーキンググループ	
【役 割】 各事業の進捗管理、内部評価	
【構 成】 文化財課・博物館・文化芸術課・観光振興課・まちづくり課	
協議会	・長野市文化財保存活用地域計画協議会
【役 割】 地域計画の進捗管理・評価、計画の見直しの検討等	
【構 成】 委員15名（学識経験者5名、文化財関係団体2名、観光関係団体2名、文化財所有者1名、市民代表3名、長野県1名、長野市1名）	
地方文化財保護審議会	・長野市地方文化財保護審議会
【役 割】 文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議	
【構 成】 委員7名（歴史3名、建造物・考古・民俗・記念物各1名）	
関係行政機関	・文化庁
	【連携部分】 地域計画に関する助言・指導
	・国立文化財機構文化財防災センター
	【連携部分】 災害時の文化財のレスキュー、地域防災体制の構築
・長野県教育委員会文化財・生涯学習課	
【連携部分】 長野県文化財保存活用大綱との調整	
その他民間団体等	・長野市文化財保護協会
	【連携部分】 文化財パトロールによる現状把握
	・公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー
	【連携部分】 文化財を活用した観光コンテンツの開発・情報発信
	・公益社団法人長野県建築士会
	【連携部分】 文化財（建造物）の調査、災害時の文化財（建造物）のレスキュー、記録保存
	・長野県文化財レスキューネット
【連携部分】 災害時の被災資料（文化財）のレスキュー及び保全	
・長野郷土史研究会ほか市内各地の郷土史研究団体	
【連携部分】 文化財の把握調査・現状把握	

附章 指定等文化財の一覧

◎国指定等文化財

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日		
有形文化財	国宝	建造物	1	善光寺本堂附厨子1基	善光寺	元善町	昭和28年3月31日	
		重要文化財	建造物	2	葛山落合神社本殿附棟札1枚	葛山落合神社	入山	昭和11年9月18日
	建造物		3	善光寺二門	善光寺	元善町	昭和40年5月29日	
	建造物		4	善光寺経蔵	善光寺	元善町	昭和40年5月29日	
	建造物		5	真田信重霊屋 附前机1脚 釣燈籠2個	西楽寺	松代町西条	昭和46年6月22日	
	建造物		6	真田信之霊屋(本殿・表門)	長岡寺	松代町松代	昭和51年5月20日	
	建造物		7	旧横田家仕立工屋 ・表門・隠居屋・土蔵2棟	長野市	松代町松代	昭和61年1月22日	
	建造物		8	白髭神社本殿	白髭神社	鹿無里日影	昭和34年6月27日	
	絵画		9	絹本着色内界山雲籠図	活水寺	北野美術館	大正4年3月26日	
	絵画	10	絹本着色阿弥陀聖衆未迎図	大本願	元善町	平成25年6月19日		
	彫刻	11	金銅阿弥陀如来及び両脇侍立像	善光寺	元善町	明治39年4月14日		
		12	銅造釈迦涅槃像	世善院	元善町	明治39年4月14日		
		13	木造阿弥陀如来坐像	蓮台寺	若穂綿内	大正3年8月25日		
		14	木造聖観音菩薩立像	瀬脇観世音保存会	七二会己瀬脇	大正3年8月25日		
		15	木造伝子安荒神坐像	蓮香寺、三宝寺	篠ノ井山布施村山	大正4年3月26日		
		16	木造聖観音菩薩立像	清水寺	若穂保科	大正12年8月4日		
		17	木造千手観音及び脇侍地藏菩薩像	清水寺	若穂保科	大正12年8月4日		
		18	木造阿弥陀如来立像	清水寺	若穂保科	大正12年8月4日		
		19	木造薬師如来坐像	清水寺	若穂保科	大正12年8月4日		
		20	銅造観音菩薩立像	個人	若槻古字山千寺	昭和12年5月25日		
		21	木造広目天像・多聞天像	清水寺	若穂保科	昭和12年8月25日		
		22	木造十一面観音菩薩立像	観音寺	信更町下平	昭和12年8月25日		
		23	木造千手観音菩薩立像	清水寺	松代町西条	昭和12年8月25日		
		24	木造観音菩薩立像	清水寺	松代町西条	昭和12年8月25日		
		25	木造地藏菩薩立像	清水寺	松代町西条	昭和12年8月25日		
	工芸品	26	鉄鍔形	清水寺	長野市立博物館	大正3年8月25日		
		27	大太刀(青江) 銘備中国住人門延文六年二月日	長野市	真田宝物館	昭和36年2月7日		
		28	牙笏	戸隠神社	戸隠神社中社	昭和41年3月26日		
	民俗文化財	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	書跡	29	紙本墨書源氏物語事書	大勧進	元善町	昭和9年1月30日
			書跡	30	紙本墨書法華経残闕	戸隠神社	戸隠神社中社	昭和9年1月30日
		歴史資料	31	善光寺造営図 享禄4年四月	大勧進	元善町	昭和63年6月6日	
		32	高岡の小豆焼き行事	保科高岡区	若穂保科高岡区	平成8年11月28日		
記念物	史跡	33	旧文武学校	長野市	松代町松代	昭和28年3月31日		
		34	川柳将軍塚古墳、姫塚古墳	湯ノ入神社ほか	篠ノ井石川	昭和52年7月14日		
		35	松代城跡附新御殿跡	長野市	松代町松代	昭和56年4月11日		
		36	松代藩主真田家墓所	長岡寺	松代町松代	昭和62年12月25日		
		37	大空古墳群	長野市他	松代町大空	平成9年7月28日		
	38	塩科古墳群 土門将軍塚古墳	個人	松代町岩野	平成19年2月17日			
天然記念物	39	素桜神社の神代ザクラ	素桜神社	泉平	昭和10年12月24日			
伝統的建造物群	重要伝統的建造物群保存地区	40	長野市戸隠伝統的建造物群保存地区		長野市戸隠字宝光社の全域並びに字中社、字宝光社東、字宝光社西、字堂前林、字向林、字東谷及び字上泡原の各一部	平成29年2月23日		

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
重要美術品	絵画	1	絹本着色中需者左右寛急図 園山隱學筆	北野美術館	若穂錦内	昭和10年12月13日
		2	紙本金地若色四糸歌舞伎祇園社頭図	個人	西尾張部	昭和23年4月27日
	彫刻	3	銅造地藏菩薩坐像	善光寺	元善町	昭和20年8月3日
		4	五鈷杵	大勸進	元善町	昭和18年10月1日
	工芸品	5	銅鑪	善光寺	元善町	昭和18年10月1日
		6	紙本書和漢朗詠集上巻 断簡(伊豫切)(十五夜)	北野美術館	若穂錦内	昭和11年9月12日

◎県指定文化財

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日	
有形文化財	景宁	建造物	1	总山落合神社境内諏訪社社殿	总山落合神社	入山	昭和37年7月12日
			2	南方神社本殿	南方神社	戸隠祖山	昭和37年7月12日
			3	大英寺本堂および表門、 附板絵若色三十六歌仙図36枚	大英寺	松代町松代	昭和41年10月3日
			4	林正寺本堂および表門	林正寺	松代町清野	昭和41年10月3日
			5	真田信弘堂屏および表門	個人	松代町松代	昭和41年10月3日
			6	長国寺開山堂	長国寺	松代町西条	昭和41年10月3日
			7	閉音寺経蔵附棟札1枚	閉音寺	松代町西条	昭和41年10月3日
			8	旧長野県師範学校教諭館	北野建設株式会社	上ヶ屋藤原	昭和46年12月20日
			9	旧ダニエル・ノルマン邸	北野建設株式会社	上ヶ屋藤原	昭和46年12月20日
			10	熊野出速雄神社本殿	熊野出速雄神社	松代町豊栄	平成6年8月15日
			11	旧前島家住宅主屋 附表門、土蔵、三軒(棟札付)、 庭園を含む宅地	長野市	松代町松代	平成18年4月20日
	絵画	12	絹本着色釈迦三尊像	大勸進	元善町	平成7年9月21日	
		13	絹本着色阿彌陀聖衆來迎図	大本願	元善町	平成7年9月21日	
	彫刻	14	木造伝観音菩薩立像	正覚院	安茂里	昭和34年11月9日	
		15	木造金剛力士立像	長勝寺	信更町二水	昭和37年7月12日	
		16	木造薬師如来立像	清水寺	松代町西条	昭和44年10月2日	
		17	木造聖観音立像	正法寺	中条日下野	平成21年10月22日	
		18	木造四天王像(2躯)	正法寺	中条日下野	平成21年10月22日	
		19	木造地藏菩薩立像	長谷寺	篠ノ井垣崎	平成29年3月16日	
		20	木造不動明王立像	不動寺	青木島町大塚	令和2年3月16日	
		21	銅造阿彌陀如来及び両脇侍立像	無常院	安茂里	令和2年9月28日	
		工芸品	22	銘窪出清音若山浦瑞源清磨 製弘化丙午八月日	個人	小島町町	昭和40年1月14日
	23		短刀	長野県	長野県立美術館	昭和41年2月24日	
	24		玉依比売命神社崇玉石	玉依比売命神社	松代町東条	昭和44年10月2日	
	25		銅製不動明王御正鉢	個人	戸隠宝光社	昭和44年10月2日	
	26		短刀	個人	安茂里小市	昭和52年11月17日	
	27		短刀 銘吉光	長野市	真田宝物館	平成3年2月14日	
	28		刀 無銘(三原の人刀)	長野市	真田宝物館	平成3年2月14日	
	古跡	29	真田家文書	長野市	真田宝物館	昭和47年4月27日	
		30	戸隠山顕光寺流記并序	戸隠神社	戸隠神社	平成7年2月16日	
	民俗文化財	有形民俗文化財	31	伝川柳将軍塚古墳出土品	布制神社	長野市立博物館	昭和49年1月17日
32			小正月関係資料コレクション	長野市	長野市立博物館	平成30年9月27日	
無形民俗文化財		33	長谷及び越のドンドヤキ	長谷第3、 越1・2・3・4常会	篠ノ井垣崎	平成7年2月16日	
		34	芦ノ原の道祖神祭り	芦ノ原道祖神祭保 存会	大岡内	平成9年8月14日	
		35	戸隠神社太々神楽	戸隠神社	戸隠	平成27年2月19日	
		36	崖川神社の杜煙火	崖川神社の杜煙火 保存会	安茂里	平成29年3月16日	

種別	内訳	No	名称	所有者（管理者）	所在地	指定年月日	
記念物	史跡	37	佐久間象山宅跡	長野市	松代町松代	昭和35年2月11日	
		38	菅間工塚古墳	個人	松代町東条	昭和40年2月25日	
		39	桑根井空塚	個人	松代町豊栄	昭和40年2月25日	
		40	戸隠神社信仰遺跡	戸隠神社	戸隠中社・奥社・宝光社	昭和54年3月22日	
		41	牧ノ島城跡	長野市ほか	信州新町牧野島	昭和41年3月31日	
	大然記念物	名勝	42	奥裾花峡谷	国（国土交通省）、長野県、長野市	鬼無里奥裾花	平成2年2月19日
			43	真島のクワ	個人	真島町真島	昭和37年9月27日
			44	豊岡のカツラ	本願寺長野別院	戸隠豊岡	昭和37年2月12日
			45	新井のイチイ	新井・別府区	鬼無里新井	昭和37年7月12日
			46	象山のカシワ	長野市	松代町西条	昭和43年3月21日
			47	戸隠神社奥社社叢	戸隠神社	戸隠奥社	昭和48年3月12日
			48	塚本のビャクシン	個人	若穂川田	昭和48年9月13日
			49	深谷沢の蜂の巣状風化岩	鬼無里町区	鬼無里深谷沢	昭和62年8月17日
			50	大柳及び井上の枕状溶岩	個人	若穂総内	平成4年2月20日
			51	戸隠川下のシンシュウゾウ化石	長野市	戸隠地質化石博物館	平成6年2月17日
			52	奥裾花自然園のモリアオガエル繁殖跡	長野市	鬼無里奥裾花	平成12年9月21日
			53	つづじ山のアカシデ	長野市	豊野町川谷	平成15年9月16日
			54	山穂川のクジラ化石	長野市	信州新町化石博物館	昭和54年12月17日
55	裏沢の絶滅セイウチ化石	長野市	信州新町化石博物館	平成19年1月11日			
56	菅沼の絶滅セイウチ化石	長野市	信州新町化石博物館	平成19年1月11日			
57	人口沢のアシカ化石	長野市	信州新町化石博物館	平成19年1月11日			
58	日下野のスギ	人内山神社	中条日下野	昭和37年7月12日			

◎市指定等文化財

種別	内訳	No	名称	所有者（管理者）	所在地	指定年月日
有形文化財	建築物	1	守田酒神社本殿	守田酒神社	高田中村	昭和42年11月1日
		2	欠沢家の表門	長野市	松代町松代	昭和42年11月1日
		3	石造宝篋印塔	善光寺	元善町	昭和42年11月1日
		4	石幢（笠仏）	竹原区	松代町東条	昭和42年11月1日
		5	旧松代落鐘楼	長野市	松代町松代	昭和42年12月20日
		6	源因神社本殿及び棟札	源因神社	松代町豊栄	昭和44年9月10日
		7	石造多層塔	力田区	篠ノ井二ツ柳	昭和44年9月10日
		8	石造宝篋印塔	塚本区	若穂川田	昭和49年7月20日
		9	旧白井家表門	長野市	松代町松代	昭和49年7月20日
		10	正満寺の山門（鐘楼）	正満寺	若穂総内	昭和53年3月25日
		11	中越の庚申塔	中越庚申講中	中越	昭和53年3月25日
		12	高義亭	佐久間象山先生顕彰会	松代町松代	昭和54年3月12日
		13	旧作新学校本館	長野市	稲里町下水鉦	昭和56年8月17日
		14	石造宝篋印塔	大安寺	七二会甲	平成3年12月20日
		15	諏訪神社本殿	諏訪神社	浅川西条	平成5年1月20日
		16	人鋒寺貞田信之霊屋	人鋒寺	松代町柴	平成7年1月20日
		17	有旅の高礼場	篠ノ井有旅御高礼保存会	篠ノ井有旅	平成16年2月20日
		18	北郷朝川原神社	北郷朝川原神社	浅川北郷	平成16年8月18日
		19	古宮神社本殿	古宮神社	戸隠崇岡	平成17年1月1日
		20	戸隠志垣鬼の塚五輪塔	志垣区	戸隠板原	平成17年1月1日
		21	中社の納経供養塔	中社組	戸隠中社	平成17年1月1日
		22	土倉文珠堂	土倉区	鬼無里土倉	平成17年1月1日

種別	内訳	No.	名称	所有者（管理者）	所在地	指定年月日		
有形文化財	建築物	23	松島大口堂	松原区	鬼無里松原	平成17年1月1日		
		24	諏訪神社宝蔵校倉造り	財又区	鬼無里財又	平成17年1月1日		
		25	松巖寺経蔵	松巖寺	鬼無里町	平成17年1月1日		
		26	松巖寺観音堂	松巖寺	鬼無里町	平成17年1月1日		
		27	加茂神社本殿	加茂神社	鬼無里東京	平成17年1月1日		
		28	諏訪神社本殿	諏訪神社	鬼無里財又	平成17年1月1日		
		29	皇大神社本殿	皇大神社	鬼無里押出	平成17年1月1日		
		30	十二神社本殿	十二神社	鬼無里中田	平成17年1月1日		
		31	三嶋神社本殿	三嶋神社	鬼無里一之坂	平成17年1月1日		
		32	皇大神社本殿	皇大神社	鬼無里高橋	平成17年1月1日		
		33	鬼無里神社本殿	鬼無里神社	鬼無里町	平成17年1月1日		
		34	荒倉山神社本殿	荒倉山神社	鬼無里上新倉	平成17年1月1日		
		35	津島神社本殿	津島神社	鬼無里小鬼無里	平成17年1月1日		
		36	天神社本殿	天神社	鬼無里岡	平成17年1月1日		
		37	虫倉神社本殿	虫倉神社	鬼無里日影	平成17年1月1日		
		38	大姥神社本殿	大姥神社	鬼無里日下野親沢	平成17年1月1日		
		39	三社神社本殿	三社神社	鬼無里瀬戸	平成17年1月1日		
		40	朝日社	朝日社	鬼無里土倉	平成17年1月1日		
		41	金刀比羅神社本殿	金刀比羅神社	鬼無里下新倉	平成17年1月1日		
		42	松原神社本殿	松原神社	鬼無里松原	平成17年1月1日		
		43	春日神社本殿	春日神社	鬼無里西京	平成17年1月1日		
		44	皇大神社本殿	皇大神社	鬼無里日影府成	平成17年1月1日		
		45	大姥神社本殿	大姥神社	鬼無里日影裁之峰	平成17年1月1日		
		46	十二神社本殿	十二神社	鬼無里岩下	平成17年1月1日		
		47	日之御子神社本殿	日之御子神社	鬼無里日影	平成17年1月1日		
		48	地藏堂	個人	鬼無里小鬼無里	平成17年1月1日		
		49	正福寺鎮守堂	正福寺	鬼無里日影	平成17年1月1日		
		50	松巖寺鎮守堂	松巖寺	鬼無里町	平成17年1月1日		
		51	諏訪神社本殿	諏訪神社	鬼無里川浦	平成17年1月1日		
		52	飯綱神社	飯綱神社	鬼無里日影七ツ室	平成17年1月1日		
		53	塩沼神社	長岩組	大内内	平成17年1月1日		
		54	旧樋口家住宅（主屋・土蔵・長屋）	長野市	松代町松代	平成20年3月27日		
		55	安養寺境内出土遺物群	安養寺	信州新町上条	平成22年1月1日		
		56	宮殿	正法寺	中条日下野	平成22年1月1日		
		57	諏訪社本殿（西宮）	個人	中条	平成22年1月1日		
		58	早足徳命神社（東宮）	個人	中条	平成22年1月1日		
		59	岩井堂観音堂	性乗寺	中条日下野	平成22年1月1日		
		60	白鳥神社三社本殿・拜殿・絵馬殿	白鳥神社	松代町西条	平成24年4月11日		
		61	寺町商家（旧金箱家住宅）北之蔵・離れ・質蔵・南之蔵・学問所・表門	長野市	松代町松代	平成24年4月11日		
		62	八柳神社社殿（ブランド業師）	八柳神社	浅川一ノ瀬	平成30年3月9日		
		63	戸隠出頭の蔵堂観音堂	出頭区蔵堂観音堂	戸隠劫原	平成30年3月9日		
		64	葛山落合神社社殿	葛山落合神社保存会	入山	令和2年3月6日		
		65	布制神社本殿		篠ノ井布施五明	令和5年3月2日		
			絵画	66	紙本着色親鸞聖人伝絵	康楽寺	篠ノ井辰崎	昭和42年11月1日
				67	佐久間象山筆紙本水墨山水図	個人	松代町松代	昭和47年3月1日
				68	白衣观音坐像図	寛慶寺	東之門町	昭和55年6月2日
				69	絹本着色親鸞聖人絵伝	普敬寺	吉田	平成3年2月28日
				70	紙本着色花鳥の図	普敬寺	吉田	平成3年2月28日
				71	絹本着色蓮如上人絵伝	左蔵寺	長沼人町	平成3年2月28日
				72	紙本着色鬼女紅葉狩の図	左蔵寺	長沼人町	平成3年2月28日

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
有形文化財	彫刻	73	御柱祭行列図大絵馬	武井神社	東町	平成14年9月11日
		74	木造毘沙門大像	世尊院	元善町	昭和42年11月1日
		75	木造伐折羅人将像	大本願	元善町	昭和42年11月1日
		76	木造聖徳太子立像	大本願	元善町	昭和42年11月1日
		77	木造阿弥陀如来立像	西楽寺	松代町西条	昭和42年11月1日
		78	木造岸沙門大像	清水寺	松代町西条	昭和42年11月1日
		79	木造聖観音菩薩立像	切勝寺	川中島町今井	昭和42年11月1日
		80	木造金剛力士像	寛慶寺	東之門町	昭和44年9月10日
		81	木造大日如来坐像	長野市	長野市立博物館	昭和44年9月10日
		82	木造聖観音菩薩立像	地藏院	田子	昭和44年9月10日
		83	銅造観音菩薩立像	個人	若穂保科	昭和49年7月20日
		84	石造地藏菩薩坐像 石造薬師如来坐像	布施高田区	篠ノ井布施高田	昭和53年3月25日
		85	木造劫舎地藏像	西光寺	北石堂町	昭和53年3月25日
		86	白鳥神社の木造神馬	白鳥神社	松代町西条	昭和53年3月25日
		87	木造大日如来坐像 木造阿弥陀如来坐像 木造弥勒菩薩坐像	熊野出逢雄神社	松代町豊栄	平成5年1月20日
		88	木造阿弥陀如来 及び両脇侍立像	世尊院	元善町	平成9年4月1日
		89	大乗院の木造千手観世音菩薩立像	大乗院	豊野町蟹沢	平成17年1月1日
		90	桃源院本堂向拝柱彫刻	桃源院	豊野町南郷	平成17年1月1日
		91	木造毘沙門天像	長秀院	豊野町石	平成17年1月1日
		92	木造地藏菩薩立像延命地藏	地藏菩薩管理委員会	戸隠祖山	平成17年1月1日
		93	木造釈迦如来像	松蔵寺	鬼無里町	平成17年1月1日
		94	山角観音堂の日不見観世音菩薩	個人	鬼無里山角	平成17年1月1日
		95	観ノ山百体観音	個人	大岡中牧	平成17年1月1日
		96	金剛力士像	富蔵寺	大岡甲	平成17年1月1日
		97	木造聖観音立像	廣福寺	中条徳山里	平成22年1月1日
		98	木造地藏菩薩半跏像	大塩部落	中条	平成22年1月1日
	99	木造聖観音立像	個人	中条日下野	平成22年1月1日	
	100	木造百体観音像	個人	中条住良木	平成22年1月1日	
	工芸品	101	木造百万塔	大本願	元善町	昭和42年11月1日
		102	木造百万塔	寛慶寺	東之門町	昭和42年11月1日
		103	木造百万塔	往生寺	往生地	昭和42年11月1日
		104	六角銅製釣燈籠	玉照院	元善町	昭和47年3月1日
		105	木造百万塔	西光寺	北石堂町	昭和53年3月25日
106		五銚鈴	世尊院	元善町	平成3年2月28日	
107		羯磨金剛	世尊院	元善町	平成3年2月28日	
108		漆地彩色装神輿 (玉依比売命神社の神輿)	玉依比売命神社	松代町東条	平成10年8月1日	
109		銅製経筒・珠洲焼壺	懸寺諏訪社氏了	長野市立博物館	平成17年1月1日	
110		神楽	白鷺神社	鬼無里ふるさと資料館	平成17年1月1日	
111		神楽	加茂神社	鬼無里ふるさと資料館	平成17年1月1日	
112	山車	皇大神社	鬼無里ふるさと資料館	平成17年1月1日		
113	山車	鬼無里神社	鬼無里ふるさと資料館	平成17年1月1日		
114	山車	三嶋神社	鬼無里ふるさと資料館	平成17年1月1日		
115	山車	諏訪神社	鬼無里ふるさと資料館	平成17年1月1日		
吉跡	116	佐久間象山筆桜の賦	長野市	貞田宝物館	昭和47年3月1日	
	117	鷲寺諏訪社奉納掛額	鷲寺諏訪社	長野市立博物館	平成17年1月1日	

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
有形文化財	古文書	118	文禄4年中水鉤村下米鉤村御検地帳	個人	長野市立博物館	昭和47年3月1日
		119	永井家文書	個人	箱清水	昭和47年3月1日
		120	大豆島区有文書	大豆島区	長野市立博物館	昭和55年6月2日
		121	東光寺文書	東光寺	松代町東条	昭和55年6月2日
		122	海野家文書	個人	松代町松代	昭和55年6月2日
		123	明徳寺文書	明徳寺	松代町粟栄	昭和56年8月17日
		124	徳川家康書状	大本願	元善町	昭和63年3月31日
		125	武田晴信願状	戸隠神社	戸隠中社	平成17年1月1日
		126	内山家文書	個人	七二会内	平成19年3月15日
	127	小山田家文書のうち貞田信繁書状	個人	松代町松代	平成19年3月15日	
	考古資料	128	銅製獣形鏡	長野市	長野市立博物館	昭和42年11月1日
		129	銅鉢及び石製模造鉢	個人	長野市立博物館	昭和42年11月1日
		130	埴輪円筒棺	川柳将軍塚保存会	長野市立博物館	昭和42年11月1日
		131	子持勾玉	更級横田神社	長野市立博物館	昭和42年11月1日
		132	素環頭太刀及び内反太刀	個人	長野市立博物館	昭和44年9月10日
		133	蹄脚硯	長野市	長野市立博物館	昭和47年3月1日
		134	伊勢宮遺跡出土品	埴崎文化財保存会	埴崎小学校資料室	昭和63年3月31日
		135	飯綱村古墳出土品 附布制神社御神宝之図	布制神社	長野市立博物館	昭和58年3月16日
		136	上浅野遺跡出土有孔浅鉢型土器	長野市	長野市立博物館	平成17年1月1日
		137	北上井下遺跡出土木筭	長野市	長野市立博物館	平成17年1月1日
138	南曾峯古墳出土直刀	長野市	長野市立博物館	平成17年1月1日		
139	斎宮遺跡出土遺物群	水内神社ほか	信州新町水内	平成22年1月1日		
歴史資料	140	白磁マリア観音半跏倚像 銅製螺獨立	個人	松代町松代	昭和58年3月16日	
	141	石旅の高札板	個人	篠ノ井石旅	平成16年8月18日	
	142	松巖寺観音堂算額	松巖寺	鬼無甲町区	平成17年1月1日	
無形文化財	無形文化財	143	大門踊り	大門踊保存会	松代町	昭和44年9月10日
		144	大豆島甚句	大豆島甚句保存会	大豆島	昭和55年6月2日
		145	善光寺木遣り	善光寺木遣り保存会	長野市	平成3年12月20日
		146	八橋流箏曲	八橋流箏曲保存会	松代町	平成15年8月11日
		147	南郷神社の男獅子	南郷神社神楽獅子伝承会	豊野町南郷	平成17年1月1日
		148	浅野神社神楽奉納獅子舞	浅野神社神楽奉納保存会	豊野町浅野	平成17年1月1日
		149	宣澄踊り	宣澄踊り保存会	戸隠	平成17年1月1日
民俗文化財	有形の民俗文化財	150	山車	西町上区	長野市立博物館	昭和42年11月1日
		151	善光寺の正月行事用具	善光寺堂堂了	元善町	昭和42年11月1日
		152	松代焼コレクション	長野市	貞田宝物館	昭和47年3月1日
		153	保科道祖神碑	道祖神口待講中	岩穂保科	昭和47年3月1日
		154	中越庚申講人別帳及び用具一式	中越庚申講中	長野市立博物館	昭和42年11月1日
		155	妻科庚申講人別帳及び用具一式	妻科庚申講中	長野市立博物館	昭和42年12月20日
		156	一里山の石仏群	二ツ石組	豊野町蟹沢	平成17年1月1日
		157	上浅野の疫神除け	上浅野組	豊野町浅野	平成17年1月1日
		158	観音山石造三十三観音像	豊野区	豊野町浅野	平成17年1月1日
		159	北石の石殿型庚申塔①	個人	豊野町石	平成17年1月1日
		160	北石の石殿型庚申塔②	個人	豊野町石	平成17年1月1日
		161	多賀神社の石殿型庚申塔	多賀神社氏子	豊野町豊野	平成17年1月1日
		162	宝蔵院の十王像	宝蔵院	豊野町浅野	平成17年1月1日
		163	小島区の門灯笼及び舞台	小島区	小島	平成17年1月18日

種別	内訳	No	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
民俗文化財	無形の民俗文化財	164	犀川神社太神楽	犀川神社太々神楽保存会	安茂里	昭和44年9月10日
		165	二十三燈籠	二十三燈籠奉賛会	篠ノ井垣崎	昭和44年9月10日
		166	赤野田神社太神楽	赤野田神社太々神楽保存会	若穂保科赤野田	昭和44年9月10日
		167	火石の虫送り行事	火石虫送り保存会	篠ノ井有旅人石区一門	昭和58年3月16日
		168	瓜割煙火	瓜割煙火保存会	西長野	平成10年8月1日
		169	風間神社太々神楽獅子舞	風間太々神楽保存会	風間	平成10年8月1日
		170	大富貴踊り(日本の)	保科高井穂神社氏子総代会	高井穂神社	平成14年2月13日
		171	下依比売命神社の御田祭・児玉石神事・雀判神事	玉依比売命神社	松代町東条	昭和60年2月9日
		172	犀川神社の村煙火	犀川神社の村煙火保存会	安茂里	平成7年1月20日
		173	高井穂神社の赤熊(双巻)	高井穂神社赤熊保存会	高井穂神社元爺宅	平成13年8月15日
		174	芋井甚句	芋井甚句保存会	芋井	平成14年9月11日
		175	高峰寺の種蒔会	高峰寺住職(信徒総代)	大岡中牧	平成17年1月1日
		176	川口太神楽	川口地区(川口神楽保存会)	大岡甲 健大岡神社	平成17年1月1日
		177	勢獅子	権堂お獅子保存会 権堂獅子連	権堂町	平成17年1月18日
		178	勢獅子	伊勢町獅子会	松代町松代	平成17年1月18日
		179	篠ノ井大獅子	篠ノ井大獅子保存会	篠ノ井	平成19年3月15日
		180	信越中原流太々神楽獅子	当信神社	信州新町	平成22年1月1日
		記念物	史跡	181	稻積一甲塚	稲田区
182	中郷神社前方後円墳			中郷神社	篠ノ井垣崎	昭和42年11月1日
183	腰村前方後円墳			個人	篠ノ井小松原	昭和42年11月1日
184	竹原笹塚古墳			個人	松代町東条	昭和42年11月1日
185	花井占成の墓			西念寺	松代町松代	昭和42年11月1日
186	恩田木工兵親の墓			長国寺	松代町松代	昭和42年11月1日
187	貞田信之の墓			大鎌寺	松代町柴	昭和42年11月1日
188	清水寺の仁十門・三重塔・大日堂跡			清水寺	若穂保科	昭和42年11月1日
189	駒沢祭記遺跡			長野県	上駒沢	昭和42年11月1日
190	人塚古墳			個人	信吏町田野口	昭和44年9月10日
191	南向塚古墳			芋井神社	高田	昭和44年9月10日
192	鶴萩古墳			長谷寺	篠ノ井垣崎	昭和44年9月10日
193	池ノ上古墳			個人	篠ノ井垣崎	昭和44年9月10日
194	丸山古墳群第4号墳			長野市	篠ノ井石川	昭和47年3月1日
195	舞鶴山1. 2号墳			間善寺	松代町西条	昭和53年3月25日
196	籠塚古墳			個人	浅川福岡芝沢	昭和53年3月25日
197	越将軍塚古墳			個人	篠ノ井垣崎	昭和53年3月25日
198	葛山城跡			葛山神社	鎌字葛山	昭和56年8月17日
199	横田城跡			横田城跡保存会	篠ノ井会	昭和59年12月14日
200	秋野城跡			個人	七二会丁・中条口下野	平成5年6月10日
201	大室古墳群大室谷支群	長野市	松代町大室	平成7年1月20日		
202	善光寺参道(敷石)	長野市・善光寺	元善町	平成9年4月1日		
203	若槻山城跡	個人	浅川西条・若槻東条	平成14年9月11日		
204	旧山千寺観音堂及び境内	個人	吉	平成16年12月7日		
205	三日城跡	個人	豊野町石	平成17年1月1日		
206	聖林寺跡・同五輪塔群	長野市	豊野町豊野	平成17年1月1日		
207	神護寺跡	栗野神社氏子	栗野町石	平成17年1月1日		
208	八雲台古墳横穴式石室	伊豆毛神社氏子	豊野町豊野	平成17年1月1日		

種別	内訳	No	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日	
記念物	史跡	209	千子塚城跡	千子塚諏訪社氏子	豊野町蟹沢	平成17年1月1日	
		210	大倉城跡	長野市	豊野町大倉、城山	平成17年1月1日	
		211	福平城跡	今木八幡神社ほか	戸隠栃原	平成17年1月1日	
		212	富士塚	個人	戸隠栃原	平成17年1月1日	
		213	戸隠福平の直澄祠	個人	戸隠栃原	平成17年1月1日	
		214	二条の城之内城跡	個人	戸隠豊岡	平成17年1月1日	
		215	戸隠原の大頭庵跡	個人	戸隠豊岡	平成17年1月1日	
		216	門光寺居館跡	門光寺	戸隠栃原	平成17年1月1日	
		217	戸隠尾上の慈伝後の石 ・一実道十の碑	個人	戸隠豊岡	平成17年1月1日	
		218	戸隠奈良尾弘法遺跡	母袋・奈良尾組成年会	戸隠豊岡	平成17年1月1日	
		219	町ね(丁ね)	長野市ほか	戸隠一の鳥居~奥社	平成17年1月1日	
		220	戸隠荒倉山切り通し	長野市	戸隠豊岡	平成17年1月1日	
		221	諸沢橋供養塔	長野市	戸隠豊岡	平成17年1月1日	
		222	一ノ午干橋供養塔	長野市	戸隠	平成17年1月1日	
		223	武富佐古墳	武富佐神社	信州新町竹房	平成22年1月1日	
		224	宮平遺跡	個人	信州新町信級	平成22年1月1日	
		225	相鉢城跡	虫倉神社	中条御山里	平成22年1月1日	
		226	宮遺跡	長野市	中条	平成22年1月1日	
		227	川谷つつじ山公園	長野市	豊野町川谷	平成17年1月1日	
		228	戸隠荒倉山の船岩	長野市	戸隠栃原	平成17年1月1日	
		229	久米路峠	長野市	信州新町水内	平成22年1月1日	
		230	樋知大神社境内の社叢 及び湿生植物群落	樋知大神社保存会	大岡丙	平成20年3月27日	
		231	岩崎のイチヨウ	普法寺	若穂郷内	昭和42年11月1日	
		232	西条のカヤ(八房群)	個人	松代町西条	昭和42年11月1日	
		233	明德寺のヒキガエル産卵池	明德寺	松代町豊栄	昭和42年11月1日	
		234	赤岩のトチ	坪根組	七二会	昭和42年11月1日	
	235	吉田のイチヨウ	皇足穂吉田大御神宮	吉田	昭和42年11月1日		
	236	湯桶神社のケヤキ	湯桶神社	範清水	昭和42年11月1日		
	237	国見のイチイ	国見区	小鍋国見	昭和42年11月1日		
	238	塩生のエドヒガン(巡礼桜)	巡礼桜保存会	塩生甲	昭和42年11月1日		
	239	皆神山のクロサンショウウオの産卵池	皆神社	松代町豊栄	昭和42年11月1日		
	240	皇足穂命神社の大杉	皇足穂命神社	富田向台	昭和47年3月1日		
	241	稲田のエノキ	稲田区	稲田	昭和47年3月1日		
	242	余五郎軍陣つなぎのイチイ	小野平区	山田中	昭和49年7月20日		
	243	性乗寺福荷社のイチイ	性乗寺	七二会丙	昭和53年3月25日		
	244	矢沢家のヒムロ	個人	松代町松代	昭和53年3月25日		
	245	葛山落合神社社叢	葛山落合神社	入山	昭和53年3月25日		
	246	富竹のビャクシン	個人	富竹	昭和55年6月2日		
	247	サワラとヒヨクヒバのキメラ	個人	篠ノ井山布施	昭和55年6月2日		
	248	古沢家のイチイ	個人	上ヶ屋	昭和56年8月17日		
	249	飯綱原のシラタマノキ群生地	長野市	上ヶ屋	昭和58年3月16日		
	250	七二会守田神社の神木	守田神社	七二会乙	昭和60年2月9日		
	251	中郷神社の社叢	中郷神社	篠ノ井塩崎	平成3年2月28日		
	252	百舌原のシナノキ	百舌原区十二社	広瀬字百舌原	平成6年1月20日		
	253	百舌原のカスミザクラ	百舌原区十二社	広瀬字百舌原	平成6年1月20日		
	254	中村のサルズベリ	個人	桜字中村	平成9年4月1日		
	255	七二会諏訪神社の大杉	諏訪神社	七二会甲	平成15年1月14日		
	256	西澤家のミチノクナシ	個人	入山	平成16年8月18日		
		名勝					
		名勝・天然記念物					
		天然記念物					

種別	内訳	No	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
記念物	天然 記念物	257	殿座敷のシダレイチョウ	個人	豊野町石	平成17年1月1日
		258	泉平伊勢社の大ケヤキ	泉平伊勢社氏了	豊野町豊野	平成17年1月1日
		259	荒古のサクラ	個人	豊野町豊野	平成17年1月1日
		260	堤の大コブシ	個人	豊野町豊野	平成17年1月1日
		261	観音山麓豊野層岩山構造	豊野区	豊野町豊野	平成17年1月1日
		262	戸隠田頭の巖窟観音堂の大杉	巖窟観音堂	戸隠杉原	平成17年1月1日
		263	戸隠平出の夫婦榎	平出組	戸隠祖山	平成17年1月1日
		264	戸隠下祖山建代神社のしだれ桜	新建代神社	戸隠祖山	平成17年1月1日
		265	人昌寺鎮守の大杉	人昌寺	戸隠杉原	平成17年1月1日
		266	戸隠中社の二本杉	戸隠神社	戸隠中社	平成17年1月1日
		267	戸隠横沢の化石群		戸隠祖山	平成17年1月1日
		268	戸隠猿丸とどの七本松	長野市	戸隠豊岡	平成17年1月1日
		269	トガクシソウ(トガクシショウマ)		戸隠山一帯	平成17年1月1日
		270	カワシンジュガイ		戸隠	平成17年1月1日
		271	南浦のイチイ	五京区	鬼無里南浦	平成17年1月1日
		272	皇大神社のケヤキ	皇大神社	鬼無里押出	平成17年1月1日
		273	峠のカツラ	峯区	鬼無里峠	平成17年1月1日
		274	加茂神社のスギ	加茂神社	鬼無里東京	平成17年1月1日
		275	釜のヒメコマツ	個人	鬼無里中田	平成17年1月1日
		276	荒倉山神社のトチ	荒倉山神社	鬼無里上新倉	平成17年1月1日
		277	高橋のしだれザクラ	高橋区	鬼無里高橋	平成17年1月1日
		278	今池湿原のミズバショウと 棲息するモリアオガエル、 クロサンショウウオ	長野市	鬼無里日影今池	平成17年1月1日
		279	一ヶ坂魚甲岩	押一区	鬼無里日影押一	平成17年1月1日
		280	奥桜花のブナの原生林	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日
		281	クルフドウ沢入口サンドハイブ	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日
		282	ハチノス状風化石	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日
		283	千畳敷岩	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日
		284	澁痕(リップルマーク)	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日
		285	日影向斜の向斜軸	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日
		286	甌穴(ポットホール)	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日
287	アズメ沢の化石群	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日		
288	クルフドウ沢の団塊	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日		
289	奥桜花のケスタ球形	長野市	鬼無里日影	平成17年1月1日		
290	加茂神社ねずこ	加茂神社	鬼無里東京	平成17年1月1日		
291	金刀比羅神社神代桜	金刀比羅神社	鬼無里下新倉	平成17年1月1日		
292	飯綱神社のイチイ	飯綱神社	鬼無里セツ室	平成17年1月1日		
293	天宗寺の合掌桜	天宗寺	大岡乙	平成17年1月1日		
294	芦ノ尻の大ケヤキ	豊葦原神社	大岡丙	平成19年3月15日		
295	芦ノ尻のエノキ	豊葦原神社	大岡丙	平成19年3月15日		
296	奥桜花自然園の巨木群 (トチ・ブナ・ミズナラ・シナノキ ・ヤチダモ・コハウチワカエデ)	長野市	鬼無里日影	平成20年3月27日		
297	当信神社社叢	当信神社	信州新町	平成22年1月1日		
298	臥雲の二本杉	臥雲院	中条日下野	平成22年1月1日		
299	石俣安山岩(通称カブツラ石)	長野市	中条日高	平成22年1月1日		
文化財の保存技術	選定保存 技術	300	桐原牧神社の藁馬づくり	桐原牧保存会	桐原	平成14年2月13日

【国登録文化財】

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
登録有形文化財	建造物	1	藤屋旅館	株式会社藤屋	大門町	平成9年6月24日
		2	小林家住宅 主屋	個人	福里町田牧	平成11年9月7日
		3	小林家住宅 北蔵	個人	福里町田牧	平成11年9月7日
		4	小林家住宅 正門	個人	福里町田牧	平成11年9月7日
		5	小林家住宅 燻蒸蔵	個人	福里町田牧	平成11年9月7日
		6	利久堂酒井家住宅 主屋	株式会社利久堂	川合新田	平成13年12月4日
		7	利久堂酒井家住宅 長屋門	株式会社利久堂	川合新田	平成13年12月4日
		8	利久堂酒井家住宅 土蔵	株式会社利久堂	川合新田	平成13年12月4日
		9	利久堂酒井家住宅 味噌蔵	株式会社利久堂	川合新田	平成13年12月4日
		10	利久堂酒井家住宅 庭堀	株式会社利久堂	川合新田	平成13年12月4日
		11	中澤時計本店	個人	大門町	平成15年2月26日
		12	金鶏会館	株式会社金鶏会	上松	平成15年4月8日
		13	三原屋商店 店舗	株式会社三原屋	桜枝町	平成15年4月8日
		14	三原屋商店 北蔵	株式会社三原屋	桜枝町	平成15年4月8日
		15	三原屋商店 中蔵	株式会社三原屋	桜枝町	平成15年4月8日
		16	三原屋商店 東蔵	株式会社三原屋	桜枝町	平成15年4月8日
		17	三原屋商店 南蔵	株式会社三原屋	桜枝町	平成15年4月8日
		18	三原屋商店 西蔵	株式会社三原屋	桜枝町	平成15年4月8日
		19	北村家住宅 主屋	個人	若穂川田	平成16年3月29日
		20	北村家住宅 門	個人	若穂川田	平成16年3月29日
		21	北村家住宅 局舎	個人	若穂川田	平成16年3月29日
		22	日本クレーン協会長野支部博物館 (旧池田警察署庁舎)	株式会社日本クレーン協会	篠ノ井布施五明	平成17年2月28日
		23	旧徳善院 本堂(極意家神殿)	個人	戸隠中社	平成17年2月28日
		24	旧徳善院 庫裏(極意家宿坊)	個人	戸隠中社	平成17年2月28日
		25	日暮し庵 店舗	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		26	日暮し庵 鈴守社	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		27	宮澤家住宅主屋	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		28	美濃屋 土蔵	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		29	祝神社 本殿	宗教法人 祝神社	松代町松代	平成17年12月27日
		30	祝神社 拝殿	宗教法人 祝神社	松代町松代	平成17年12月27日
		31	八田家住宅 主屋	株式会社八田金物店	松代町松代	平成17年12月27日
		32	八田家住宅 土蔵	株式会社八田金物店	松代町松代	平成17年12月27日
		33	八田家住宅 土蔵	株式会社八田金物店	松代町松代	平成17年12月27日
		34	八田家住宅 長土蔵	株式会社八田金物店	松代町松代	平成17年12月27日
		35	八田家住宅 塀	株式会社八田金物店	松代町松代	平成17年12月27日
		36	八田家住宅 表門	株式会社八田金物店	松代町松代	平成17年12月27日
		37	かどや商店店舗	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		38	松下家住宅 主屋	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		39	松下家住宅 作業所	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		40	山岸家住宅 長屋門	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		41	山岸家住宅 旧牛乳処理場	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		42	倉澤家住宅長屋門	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		43	象山神社 本殿	象山神社	松代町松代	平成17年12月27日
		44	象山神社 拝殿・祝詞殿	象山神社	松代町松代	平成17年12月27日
		45	象山神社 宝蔵	象山神社	松代町松代	平成17年12月27日
		46	象山神社 絵馬殿	象山神社	松代町松代	平成17年12月27日
		47	象山神社 斎館	象山神社	松代町松代	平成17年12月27日
		48	象山神社 社務所	象山神社	松代町松代	平成17年12月27日
		49	恩田家住宅主屋	個人	松代町松代	平成17年12月27日

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
登録有形文化財	建造物	50	馬場家住宅長屋門	個人	松代町松代	平成17年12月27日
		51	齋藤家住宅 離れ	個人	松代町清野	平成17年12月27日
		52	齋藤家住宅 近土蔵	個人	松代町清野	平成17年12月27日
		53	齋藤家住宅 米蔵及び買蔵	個人	松代町清野	平成17年12月27日
		54	旧三河屋商店 店舗兼住宅	長野市	東町	平成18年11月9日
		55	旧三河屋商店 土蔵	長野市	東町	平成18年11月9日
		56	旧三河屋商店 味噌蔵	長野市	東町	平成18年11月9日
		57	旧二河屋商店 倉庫	長野市	東町	平成18年11月9日
		58	長野聖教士教会	日本聖公会中部教区	西長野	平成18年11月9日
		59	常徳院 庫裏	常徳院	元善町	平成18年11月9日
		60	常徳院 小御堂及び東庫裏	常徳院	元善町	平成18年11月9日
		61	常徳院 茶室	常徳院	元善町	平成18年11月9日
		62	常徳院 門	常徳院	元善町	平成18年11月9日
		63	小山田家住宅 土屋	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		64	小山田家住宅 番所	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		65	旧奥田勘解由家住宅 主屋	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		66	旧奥田勘解由家住宅 鎮守社	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		67	長澤家住宅 土蔵	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		68	机全家住宅 土屋	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		69	机全家住宅 土蔵	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		70	荒神堂	荒神町自治会	松代町松代	平成18年11月9日
		71	大木家住宅旧主屋	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		72	野中家住宅土屋	個人	松代町松代	平成18年11月9日
		73	旧信濃牛車馬合資会社社屋	長野市	大門町	平成19年10月22日
		74	西山家住宅主屋	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		75	赤澤家住宅表門	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		76	藤田家住宅 仲間部屋	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		77	藤田家住宅 土蔵	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		78	藤田家住宅 表門	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		79	井上家住宅 土屋	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		80	井上家住宅 表門	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		81	成澤家住宅土屋	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		82	長谷川家住宅 土屋	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		83	長谷川家住宅 土蔵	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		84	長谷川家住宅 表門	個人	松代町松代	平成19年12月19日
		85	信州大学教育学部書庫 (旧長野県庁書庫)	信州大学	長野市下長野	平成20年7月23日
		86	五明家住宅 離れ座敷	個人	松代町松代	平成22年9月10日
		87	五明家住宅 义庫蔵	個人	松代町松代	平成22年9月10日
		88	原山家住宅 仲間部屋	個人	松代町松代	平成22年9月10日
		89	原山家住宅 表門	個人	松代町松代	平成22年9月10日
		90	原山家住宅 塀	個人	松代町松代	平成22年9月10日
		91	恵明寺 本堂	恵明寺	松代町西条	平成22年9月10日
		92	恵明寺 鐘楼	恵明寺	松代町西条	平成22年9月10日
		93	恵明寺 山門	恵明寺	松代町西条	平成22年9月10日
		94	東飯田酒造店 松の間	株式会社東飯田酒造店	篠ノ井小松原	平成24年2月23日
		95	東飯田酒造店 酒蔵	株式会社東飯田酒造店	篠ノ井小松原	平成24年2月23日
		96	東飯田酒造店 土蔵	株式会社東飯田酒造店	篠ノ井小松原	平成24年2月23日
		97	東飯田酒造店 漬物蔵	株式会社東飯田酒造店	篠ノ井小松原	平成24年2月23日
		98	旧山寺常山家住宅 書院	長野市	松代町松代	平成26年4月25日
99	旧山寺常山家住宅 表門	長野市	松代町松代	平成26年4月25日		

種別	内訳	No.	名称	所有者(管理者)	所在地	指定年月日
登録有形文化財	建造物	100	旧山寺常山家住宅 頌徳門	長野市	松代町松代	平成26年4月25日
		101	旧恩田重信家住宅 主屋	明治薬科大学	松代町松代	平成26年4月25日
		102	旧恩田重信家住宅 十蔵	明治薬科大学	松代町松代	平成26年4月25日
		103	梅翁院 本堂	梅翁院	松代町松代	平成26年4月25日
		104	梅翁院 山門	梅翁院	松代町松代	平成26年4月25日
		105	長明寺 本堂	長明寺	松代町東寺尾	平成26年4月25日
		106	長明寺 経蔵	長明寺	松代町東寺尾	平成26年4月25日
		107	長明寺 二門	長明寺	松代町東寺尾	平成26年4月25日
		108	越志家住宅 主屋(旧廣言院客殿)	個人	戸隠宝光社	平成26年12月19日
		109	越志家住宅 土蔵	個人	戸隠宝光社	平成26年12月19日
		110	玉依比賣命神社 本殿	玉依比賣命神社	松代町松代	平成26年12月19日
		111	玉依比賣命神社 拜殿	玉依比賣命神社	松代町松代	平成26年12月19日
		112	玉依比賣命神社 宗形社本殿	玉依比賣命神社	松代町松代	平成26年12月19日
		113	玉依比賣命神社 宗形社拝殿及び本殿覆屋	玉依比賣命神社	松代町松代	平成26年12月19日
		114	證蓮寺 本堂	證蓮寺	松代町松代	平成27年11月17日
		115	證蓮寺 聖徳太子堂	證蓮寺	松代町松代	平成27年11月17日
		116	證蓮寺 鐘樓	證蓮寺	松代町松代	平成27年11月17日
		117	證蓮寺 山門	證蓮寺	松代町松代	平成27年11月17日
		118	布袋屋小林家住宅 主屋	個人	松代町松代	平成27年11月17日
		119	布袋屋小林家住宅 十蔵	個人	松代町松代	平成27年11月17日
		120	熊野出速雄神社 摂社待留大神社拜殿	熊野出速雄神社	松代町豊栄	平成30年11月2日
		121	熊野出速雄神社 随神門	熊野出速雄神社	松代町豊栄	平成30年11月2日
		122	兵衛寺 開扉堂	兵衛寺	篠ノ井梓瀬	平成30年11月2日
		123	兵衛寺 山門	兵衛寺	篠ノ井梓瀬	平成30年11月2日
		124	小坂家住宅 土庫	個人	村山	令和元年12月5日
		125	小坂家住宅 米蔵	個人	村山	令和元年12月5日
		126	小坂家住宅裏倉庫	個人	村山	令和元年12月5日
		127	小坂家住宅 農機具庫	個人	村山	令和元年12月5日
		128	小坂家住宅 味噌蔵	個人	村山	令和元年12月5日
		129	小坂家住宅 長屋門	個人	村山	令和元年12月5日
		130	小坂家住宅 裏門	個人	村山	令和元年12月5日
		131	小坂家住宅 土庫	個人	村山	令和元年12月5日
		132	光林寺 経蔵	光林寺	篠ノ井小松原	令和元年12月5日
		133	光林寺 鐘樓	光林寺	篠ノ井小松原	令和元年12月5日
		134	光林寺 山門	光林寺	篠ノ井小松原	令和元年12月5日
		135	善光寺 鐘樓	善光寺	元善町	令和2年8月17日
136	善光寺 仁王門	善光寺	元善町	令和2年8月17日		
登録記念物	記念物	99	旧山寺常山氏庭園	長野市	松代町松代	平成20年7月28日
		100	大木氏庭園	個人	松代町松代	平成20年7月28日
		101	象山神社園池	象山神社	松代町松代	平成20年7月28日
		102	野中氏庭園	個人	松代町松代	平成20年7月28日
		103	今井氏庭園	個人	松代町松代	平成26年10月6日
		104	半田氏庭園	個人	松代町松代	平成26年10月6日
		105	宮澤氏庭園	個人	松代町松代	平成26年10月6日
106	長峯氏庭園(旧河原氏庭園)	個人	松代町松代	平成32年3月10日		

課題・方針・措置対照表

※担当欄の略(文=文化財課、埋=埋蔵文化財センター、宝=真田宝物館、博=博物館、まち=まちづくり課、観光=観光振興課、文芸=文化芸術課、支所=戸隠支所(措置4・64)・松代支所(措置59))

(取り組み主体)

(事業の実施期間)

目指すべき将来像	基本方針	基本方針内容	課題	方針	措置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	新規事業	前期(4年間)	後期(4年間)			
「長野らしさ」を伝える文化財を活かした歴史文化都市	1 文化財を掘り起こす	野も地に域の歴史を掘り起こす ・市内の文化財把握が不十分である ・把握調査の対象となる文化財は膨大なため地域の研究団体等と連携して調査を進める必要がある ・各地区で活動している団体の調査実績を把握できていない ・指定等文化財やすでに把握されている文化財について、その価値や実態について不明な点が多い	1-1 文化財を総合的に把握する	1	・市内仏教美術調査	博・文	市内社所に所蔵されている仏教美術品の悉皆調査を行う。	◎										
				2	・近世社寺の調査【新】	文	市内近世社寺の建物についての調査を行う。	◎					■					
				3	・埋蔵文化財分布調査	埋	埋蔵文化財の分布調査を行う。	◎										
				4	・戸隠竹細工調査	文・博・支所	県の伝統工芸品に指定されている戸隠竹細工の歴史民俗的調査を実施する。	◎		○	○							
				5	・文化財総合データベースの充実	文・博・埋	文化財の総合データベースに、把握調査で得られた文化財情報を順次登録していく。	◎			○							
				6	・来訪者アンケート	博・宝	博物館、真田宝物館等文化施設で来訪者へのアンケートを実施する。	◎										
				7	・文化活動団体把握アンケート【新】	文	文化活動団体を対象とした定期的なアンケートを実施する。	◎						■				
				8	・文化財所有者意識調査	文	文化財所有者・管理者研修会でアンケートを行う	◎										
				9	・博物館、宝物館等での展示研究事業	博・宝	文化財の調査研究に基づき、特別展・企画展を実施する	◎										
				10	・関連資料の収集、整理、目録化事業	博・宝	松代文化財ボランティアの会や博物館友の会と協働して収蔵資料の整理及び目録化を行う。	◎			○							
	11	・ながの祇園祭祭礼調査	博・文	ながの祇園祭の歴史民俗的調査を専門家や外部研究機関と連携して実施する。	◎				◎									
	2 掘り起こした文化財を保存する	日経年の劣化や維持管理が少子高齢化等により困難になってきている。 ・文化財を収蔵する博物館等施設の老朽化等により適正な収蔵環境を維持することが困難になってきている ・文化財の日常的な維持管理の担い手を拡大する必要がある ・文化財(建造物)の保存のためには、一定期間の修理修復が不可欠だが、修復に多額の費用がかかることが課題である ・無形文化財や無形民俗文化財の中には担い手不足により継続が危ぶまれているものをどのように残していくのか ・防災に対する意識の啓発や設備の更新、新設などの、実際の災害に際して動ける設備と対策が不足している ・歴史的建造物等の文化財についての防災対策が指定等文化財であっても不十分である	2-1 文化財を適切に維持管理する	12	・文化財所有者管理者研修会	文	文化財所有者管理者を対象とした研修会を毎年開催する。	◎	○									
				13	・文化財パトロール	文	長野市文化財保護協会と連携した文化財パトロールを実施する。	◎	○	◎								
				14	・保存活用計画作成	文	指定文化財の保存活用計画を作成する。	◎		○								
				15	・真田宝物館施設整備【新】	文・宝	真田宝物館の展示室及び収蔵施設の整備を行う。	◎						■				
				16	・博物館収蔵施設再編及び整備に向けての検討【新】	博	適正な収蔵環境が維持できるように、市内各所に散在する博物館の収蔵施設の再編成と施設の整備を検討する。	◎			○				■			
				17	・各団体をまとめる窓口設置の検討【新】	文・博	各自独自で活動している団体の横のつながりを図るために窓口の設置を検討する。	◎			◎				■			
				18	・郷土史研究者等との連携【新】	文・博	郷土史研究者等との連携を進める。	◎			◎				■			
				2-2 文化財を適切に修理する	19	・国史跡大室古墳群の保存整備事業	文・埋	大室古墳群の保存整備を進める。	◎									
					20	・国史跡松代城跡の保存整備事業	文	松代城跡の保存整備を進める。	◎									
					21	・指定等文化財修理補助事業	文	指定等文化財修理事業に補助金を交付する。	◎									
					22	・国登録文化財への支援の検討【新】	文	国登録文化財への支援を検討する。	◎							■		
					23	・文化財の記録保存調査	文・博	滅失が危惧される文化財の記録保存調査を行う。	◎				○					
					24	・無形文化財、無形の民俗文化財の映像記録化及び公開【新】	文・博	無形文化財や無形の民俗文化財の映像記録化を行う。	◎								■	
					25	・埋蔵文化財緊急発掘調査	埋	埋蔵文化財緊急発掘調査を実施する。	◎									
2-3 災害や盗難等に備える				26	・地域の文化財防災マニュアル作成	文	戸隠伝地区の防災マニュアルを作成する。	◎			○							
	27	・文化財防災訓練の実施	文・消防	文化財防火デーほか定期的な防災訓練の実施を促す	○	◎												
	28	・善光寺の防災設備整備	文	善光寺の防災設備の整備を支援する。	○	◎												
	29	・旧横田家住宅の防災施設整備	文	旧横田家住宅の防災施設を整備する。	◎													
	30	・戸隠伝的建造物群保存地区の防災対策	文	戸隠伝的建造物群保存地区の防災対策を行う。	◎			○										
	31	・被災文化財保全活動の支援	博	長野市立博物館での被災文化財保全活動の協力支援を行う。	◎			○										
	32	・災害時文化財レスキュー体制の構築【新】	文・博・宝・埋	長野県文化財レスキューネットやハリテージマネージャー協議会等と連携した協力体制を構築する。	◎			○					■					
3 歴史文化の魅力を伝え活用する	存その内活本の用質多様な価値を文化財を理生解の魅し力を出して市民に活用する ・市有施設や市の所蔵文化財に関する情報を積極的に発信していないため、市民にとって文化財を学ぶ機会が不足している ・学校教育の中で子どもたちが文化財に触れる機会を増やすために地域の文化財の教材化を進める必要がある ・市域の地域団体による文化財に関する活動が広く認知されていない ・博物館等の調査研究に基づく展示公開事業が広く市民に周知されていない	3-1 文化財を学ぶ機会を充実させる	33	・学芸員出前講座	文・博・宝・埋	公民館や各団体へ学芸員を講師として派遣する。	◎											
			34	・出張展示	博・宝	公民館や図書館等への出張展示を行う。	◎											
			35	・小中学校教育との連携推進事業	文・博・宝・埋	学校への講師派遣や、博物館施設等での社会科見学受入れ、教材としての資料貸出などを行う。	◎											
			36	・教員と連携した文化財に関する教材開発【新】	文	教員と連携して授業に使う文化財教材を開発する。	◎			◎				■				
			37	・地域と教員の連携支援【新】	文	地域と教員を結びコーディネーターの設置を検討する。	◎			◎				■				
			38	・博物館等文化施設のボランティア、友の会活動	博・宝	博物館友の会および、松代文化財ボランティアの会の活動の支援を行う。	◎			○								
			39	・文化財保護行政に寄与する団体に対する支援	文・宝	長野市文化財保護協会、松代文化財ボランティアなど文化財保護行政に寄与する団体に対して補助金を交付する。	◎			○								
			3-2 文化財についての情報発信の充実	40	・文化財総合ポータルサイトコンテンツ整備事業	文・博・宝・埋・観光	文化財総合ポータルサイトを開設し、コンテンツを充実させる。	◎										
				41	・地域計画の周知、計画の進捗状況の発信【新】	文	文化財総合ポータルサイト上などで地域計画の概要、事業の進捗状況を発信し、地域計画の周知と計画への参加を促す。	◎								■		

課題・方針・措置対照表

※担当欄の略（文=文化財課、埋=埋蔵文化財センター、宝=真田宝物館、博=博物館、まち=まちづくり課、観光=観光振興課、文芸=文化芸術課、支所=戸隠支所(措置4・64)・松代支所(措置59)）

(取り組み主体)

(事業の実施期間)

目指すべき将来像	基本方針	基本方針内容	課題	方針	措置		担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	新規事業	事業の実施期間		
					前期(4年間)	後期(4年間)											
「長野らしさ」を伝える文化財を活かした歴史文化都市	3 歴史文化の魅力を伝え活用する	<p>「が知ることができ、保」</p> <p>「市内の多様な文化財の魅力を市民や来訪者の誰もが知ることで、その本質的価値を理解し、日常」</p>	<p>・松代、善光寺、戸隠以外の地域では文化財に関する催し物が少ない</p> <p>・個々の文化財をつなげるストーリー作りや、観光客が魅力に感じるコンテンツの作成を事業者と連携しながら進めていく必要がある</p>	3-3 持続可能な文化観光を推進する	4.2	・説明板等の設置、改修	文	指定等文化財所在地に標柱・説明板等を整備するとともに、QRコードを活用して多角的な情報発信を行う。	◎								
				4.3	・博物館等での文化財調査結果の展示【新】	博・宝・埋	地域に根差したテーマに基づき、博物館、宝物館等での展示公開及び公民館等での出張展示を実施する。	◎									
				4.4	・多言語解説拡充整備	博・宝	博物館、宝物館等での多言語解説を拡充させる。	◎									
				4.5	・展示図録等の刊行	博・宝	博物館、宝物館等で一般向け刊行物を発行する。	◎									
				4.6	・地域の文化活動団体刊行物把握【新】	文	地域の文化活動団体がまとめた刊行物情報を把握し、広く広報する。	◎									
				4.7	・文化財ガイド人材の育成及び、プロガイド養成の検討【新】	観光・文	長野市ガイド協会と連携し文化財のガイドを担う人材の育成支援を行う。	○		◎	○	○					
				6	(再掲) 来訪者アンケート	博・宝	博物館、真田宝物館等文化施設で来訪者へのアンケートを実施する。	◎									
				4.8	・文化財を活用した体験型観光コンテンツの開発支援	観光・文	民間が実施しているガイド協会案内と精進料理ツアー、山城ツアー、古戦場クイズ、真田邸でお弁当などのコンテンツを支援する。	◎	○	○		○					
				4.9	・市内文化財周遊促進のための観光ルートやガイドマップ作成支援【新】	観光・博・文	ジオサイト(市内の特異な地形・地質等が観察できるポイント)の周遊コースを観光協会と連携して設定する。	◎				◎					
				5.0	・鬼無里観光協会と連携した鬼無里地区の周遊促進	観光・博	鬼無里地区のフットパスコース、eバイクコースに鬼無里ふるさと資料館を取り入れる。	◎				◎					
			5.1	・歴史文化や景観、伝統工芸の保存に寄与する活動の観光コンテンツ化	観光・文	茅刈り体験など、文化財の保存に必要な材料調達活動を体験型の観光コンテンツとして取り込む。	◎			◎	○						
			5.2	・民間の文化財活用活動支援	文	絵解きの口演や歴史的建造物を舞台とした公演といったコンテンツ開発の支援をする	○	◎	◎		◎						
			3-4 文化財を活かした歴史まちづくりを推進する	5.3	・地域団体等と連携した文化財を軸としたまちづくり【新】	文	文化財に関わるいろいろな立場の人たちが話し合う場を設定し、そこから生まれた様々な事業の支援を通して地域を活性化させる。	◎		○	○	○					
			5.4	・文化財を核にしたまちづくりの推進	文	サービス提供施設として、松代城跡(国史跡)や寺町商家(市指定)など文化財の整備を推進する。	◎	○	◎								
			5.5	・伝統環境保存事業	まち・文	伝統環境保存区域内の景観に資する建築物の修理・修景工事に対し補助を行う。	◎										
			5.6	・景観重要建造物修理助成事業	まち・文	景観法に基づく景観重要建造物の保存修理に要する経費に対し、助成を行う。	◎										
			5.7	・歴史的風致形成建造物修理助成事業	まち・文	歴史的風致維持向上計画で設定した重点区域にある、歴史的風致形成建造物の保存修理に要する経費に対し助成を行う。	◎										
			5.8	・無電柱化、道路美化による歴史的景観整備	まち	歴史的景観整備のため無電柱化、道路美化を行う。	◎										
			3-5 文化施設の持続可能な活用マネジメント	5.9	・真田宝物館建て替えの検討【新】	博・宝・観光・支所	松代の文化拠点となっている真田宝物館のリニューアルを検討する。	◎		○		○					
			5.10	・戸隠地質化石博物館とそば博物館との連携の検討【新】	博・観光	教育委員会所管の化石博物館と観光課所管のそば博物館との連携を検討する。	◎			○							
			5.11	・博物館再編事業【新】	博	長野市立博物館の分館・付属施設の再編について検討する。	◎			○							
			4-1 文化財の担い手を育成	6.2	・団体の活動や用具の修理等に関する補助の支援	文芸	伝統芸能団体の活動や用具の修理等に対し補助金を交付する。	◎		○							
			6.3	・伝統芸能発表の機会の提供	文芸	伝統芸能こどもフェスティバルやながの獅子舞フェスティバルを開催する。	◎			○							
			6.4	・伝統工芸継承支援	文・博・支所	戸隠竹細工の工芸継承を支援する。	◎			○							
			6.5	・文化財の担い手についての把握調査【新】	文	文化財に関わるいろいろな立場の人たち(所有者・参加者・来訪者等)を定量的に把握するための調査を実施する	◎										
			6.6	・文化財の担い手となる市民、団体の育成	博・文	教員向けの地域の歴史や文化財の研修等、文化財の担い手となる市民、団体を育成する	◎			○	○						
			6.7	・文化財に携わる職人の活動支援の検討【新】	文	文化財を支える職人に焦点を当てた、SNS等による情報発信などを検討する。	◎			○							
			4-2 文化財の継承に必要な資金・資材調達の仕組みをつくる	6.8	・ふるさと納税等寄付金による資金調達	文	ふるさと納税活用による史跡整備、竹細工調査事業など、その魅力で資金調達ができるほどに文化財の磨き上げを行う。	◎	○	○							
6.9	・文化財修理に関わる技術者の把握と連携【新】	文	文化財修理に関わる技術者を把握し、連携を図っていく。	◎			○										
6.10	・文化財修理に必要な原材料の確保支援	文	屋根材調達のため、戸隠茅場整備事業を実施する。	◎			○										
4-3 文化財の継承に必要な専門人材との連携を強化する	7.1	・文化財の保存活用に関わる団体との連携強化	文・博・宝	文化財保護協会、ヘリテージマネージャー協議会、信州資料ネット等との連携をこれまで以上に進めていく。	◎		◎	○	○								
7.2	・歴史的建築物の活用ノウハウを有した企業との連携	文	歴史的建築物の活用ノウハウを有した民間企業との連携を進める。	◎					◎								